

授 業 概 要

平成26年度

群馬医療福祉大学 リハビリテーション学部

〒371-0023 群馬県前橋市本町2-12-1

TEL 027-210-1294

FAX 027-260-1294

目 次

理学療法専攻

1. 授業計画 (シラバス)

1) 基礎科目

人間哲学	1
心理学	2
国際文化論	3
美術技法	4
物理学	5
法学	6
情報処理	7
マスメディア論	9
医療英語Ⅰ	10
医療英語Ⅱ	11
スポーツ体育	12
基礎演習Ⅰ	14
基礎演習Ⅱ	15
専門演習Ⅰ	16
専門演習Ⅱ	17
ボランティア活動Ⅰ	18
ボランティア活動Ⅱ	19

2) 専門基礎科目

解剖学Ⅰ	21
解剖学Ⅱ	22
解剖学実習	23
体表解剖・触診演習	24
生理学Ⅰ	25
生理学Ⅱ	26
生理学実習	27
運動生理学演習	28
運動学Ⅰ	29
運動学Ⅱ	30
臨床運動学実習	31
人間発達学	32
病理学概論	33
臨床心理学	34
一般臨床医学	35
リハビリテーション医学	36
内科・老年医学Ⅰ	37
内科・老年医学Ⅱ	38
整形外科Ⅰ	39
整形外科Ⅱ	40
神経内科学Ⅰ	41
神経内科学Ⅱ	42
精神医学	43
小児科学	44

リハビリテーション入門	45
保健医療福祉論	46
公衆衛生学	47
3) 専門科目	
理学療法概論	49
理学療法セミナーⅠ	50
理学療法セミナーⅡ	51
理学療法評価学Ⅰ	52
理学療法評価学Ⅱ	53
理学療法評価学実習Ⅰ	54
理学療法評価学実習Ⅱ	55
運動療法学Ⅰ	56
運動療法学Ⅱ	57
運動療法学Ⅲ	58
運動療法学実習Ⅰ	59
運動療法学実習Ⅱ	60
運動療法学実習Ⅲ	61
物理療法学	62
物理療法学実習	63
義肢装具学	64
義肢装具学実習	65
理学療法技術論Ⅰ	66
理学療法技術論Ⅱ	67
理学療法技術論Ⅲ	68
理学療法技術論実習Ⅰ	69
理学療法技術論実習Ⅱ	70
理学療法技術論実習Ⅲ	71
地域理学療法Ⅰ	72
地域理学療法Ⅱ	73
地域理学療法学実習	74
臨床実習指導Ⅰ	76
臨床実習指導Ⅱ	77
評価実習	78
総合臨床実習Ⅰ	79
総合臨床実習Ⅱ	80
卒業研究	81

目 次

作業療法専攻

1. 授業計画（シラバス）

1) 基礎科目

人間哲学	83
心理学	84
国際文化論	85
美術技法	86
物理学	87
法学	88
情報処理	89
マスメディア論	91
医療英語Ⅰ	92
医療英語Ⅱ	93
スポーツ体育	94
基礎演習Ⅰ	96
基礎演習Ⅱ	97
専門演習Ⅰ	98
専門演習Ⅱ	99
ボランティア活動Ⅰ	100
ボランティア活動Ⅱ	101

2) 専門基礎科目

解剖学Ⅰ	103
解剖学Ⅱ	104
解剖学実習	105
生理学Ⅰ	106
生理学Ⅱ	107
生理学実習	108
運動学Ⅰ	109
運動学Ⅱ	110
運動学実習	111
人間発達学	112
病理学概論	113
臨床心理学	114
一般臨床医学	115
リハビリテーション医学	116
内科・老年医学Ⅰ	117
内科・老年医学Ⅱ	118
整形外科Ⅰ	119
整形外科Ⅱ	120
神経内科学Ⅰ	121
神経内科学Ⅱ	122
精神医学	123
小児科学	124
リハビリテーション入門	125
保健医療福祉論	126
公衆衛生学	127

3) 専門科目

作業療法入門	129
作業療法入門実習	130
作業療法管理論	131
ひとと作業	132
ひとと作業活動Ⅰ	133
ひとと作業活動Ⅱ	135
作業療法研究法	137
作業療法セミナーⅠ	138
作業療法セミナーⅡ	139
作業療法評価法Ⅰ	140
作業療法評価法Ⅱ	141
作業療法評価法Ⅲ	142
作業療法評価法特論Ⅰ	143
作業療法評価法特論Ⅱ	144
身体機能作業療法学Ⅰ	145
身体機能作業療法学Ⅱ	146
精神機能作業療法学Ⅰ	147
精神機能作業療法学Ⅱ	148
発達過程作業療法学Ⅰ	149
発達過程作業療法学Ⅱ	150
高齢期作業療法学Ⅰ	151
高齢期作業療法学Ⅱ	152
ひとと暮らしⅠ	153
ひとと暮らしⅡ	154
義肢装具学	155
作業療法治療学Ⅰ	156
作業療法治療学Ⅱ	157
作業療法治療学Ⅲ	158
作業療法技術論Ⅰ	159
作業療法技術論Ⅱ	160
作業療法技術論Ⅲ	161
作業療法特論Ⅰ	162
作業療法特論Ⅱ	163
作業療法特論Ⅲ	164
作業療法特論Ⅳ	165
地域作業療法入門Ⅰ	166
地域作業療法入門Ⅱ	167
地域作業療法実習Ⅰ	168
地域作業療法実習Ⅱ	169
臨床評価実習指導	170
臨床評価実習Ⅰ	171
臨床評価実習Ⅱ	172
臨床総合実習指導	173
臨床総合実習Ⅰ	174
臨床総合実習Ⅱ	175
卒業研究	176

授業概要の目的とその活用について

「授業概要」とは、皆さんが授業を選択する前に、それぞれの授業科目がどのような目標と内容で、またどのような計画によって行われるかをあらかじめお知らせするものです。具体的には「授業到達目標」、「授業概要」、「授業計画」、「教科書・参考書」、「成績評価の方法と基準」、「履修上の注意」などが記載されており、スムーズに科目選択ができるようになっています。この「授業概要」とは別に「シラバス」が学園ホームページよりダウンロード（PDF）できるようになっています。「シラバス」は専攻ディプロマポリシーと授業の到達目標との関係やより詳細な授業計画、成績評価などが記載されています。こちらは、一回一回の授業の予習復習に役立てる目的で作成されています。

リハビリテーション学部では理学療法士・作業療法士養成施設指定規則に則り、カリキュラム編成されています。そのため必修科目が大半を占めています。つまり、各授業がそのまま国家試験に直結していると言えるでしょう。したがって、国家試験の過去問題や予想問題など、各授業内において国家試験対策を意識した内容も多く含まれます。本授業概要、シラバスを予習・復習に積極的に活用し、全員が国家試験に合格できることを強く望みます。

理学療法専攻

理学療法専攻 科目一覧

◎必修科目 △選択科目

授業科目の名称		配当年次	単位数	1年				2年				3年				4年				備考
				必修	選択	前期	後期	必修	選択	前期	後期	必修	選択	前期	後期	必修	選択	前期	後期	
基礎科目	人文科学	人間哲学	1	2	◎														必修科目10単位のほか、 選択科目から4単位以上履修	
		心理学	1	2	△															
		国際文化論	1	2	△															
		美術技法	1	1	△															
	自然科学	物理学	1	2	△															
		法学	1	2	△															
	社会科学	情報処理	1	2	△															
		マスメディア論	1	2	△															
	外国語科目	医療英語Ⅰ	1	2	◎															
		医療英語Ⅱ	1	2	△															
	保健体育科目	スポーツ体育	1~4	2			△													
	総合科学	基礎演習Ⅰ	1	1	◎															
		基礎演習Ⅱ	2	1			◎													
		専門演習Ⅰ	3	1					◎											
		専門演習Ⅱ	4	1										◎						
		ボランティア活動Ⅰ	1	1	◎															
		ボランティア活動Ⅱ	2	1			◎													
	小計		—	10	17	10	2	1	1											
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	1	2	◎															
		解剖学Ⅱ	1	2		◎														
		解剖学実習	1	1		◎														
		体表解剖・触診演習	2	1			◎													
		生理学Ⅰ	1	2	◎															
		生理学Ⅱ	1	2		◎														
		生理学実習	1	1		◎														
		運動生理学演習	2	1			◎													
		運動学Ⅰ	1	2	◎															
		運動学Ⅱ	1	2		◎														
		臨床運動学実習	2	1			◎													
		人間発達学	1	1		◎														
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学概論	2	2			◎													
		臨床心理学	1	2		◎														
		一般臨床医学	1	2	◎															
		リハビリテーション医学	1	2		◎														
		内科・老年医学Ⅰ	2	2			◎													
		内科・老年医学Ⅱ	2	2				◎												
		整形外科Ⅰ	2	2			◎													
		整形外科Ⅱ	2	2				◎												
		神経内科学Ⅰ	2	2			◎													
		神経内科学Ⅱ	2	2				◎												
	精神医学	2	2			◎														
	小児科学	2	2			◎														
	リハビリテーションの理念	リハビリテーション入門	1	1	◎															
		保健医療福祉論	1	1	△															
		公衆衛生学	1	1		△														
	小計		—	44	1	23	21	0	0											
専門科目	基礎理学療法学	理学療法概論	1	2	◎													必修科目66単位履修		
		理学療法セミナーⅠ	3	1						◎										
		理学療法セミナーⅡ	4	1							◎									
	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	2	2			◎													
		理学療法評価学Ⅱ	2	2				◎												
		理学療法評価学実習Ⅰ	2	1			◎													
	理学療法治療学	理学療法評価学実習Ⅱ	2	1				◎												
		運動療法学Ⅰ	2	2			◎													
		運動療法学Ⅱ	2	2				◎												
		運動療法学Ⅲ	3	2					◎											
運動療法学実習Ⅰ	2	1			◎															

授業科目の名称		配当年次	単位数	1年				2年				3年				4年				備考
				必修	選択	前期	後期	必修	選択	前期	後期	必修	選択	前期	後期	必修	選択	前期	後期	
専門科目	理学療法治療学	運動療法学実習Ⅱ	2	1					◎									必修科目66単位履修		
		運動療法学実習Ⅲ	3	1							◎									
		物理療法学	2	2					◎											
		物理療法学実習	2	1					◎											
		義肢装具学	2	2					◎											
		義肢装具学実習	3	1						◎										
		理学療法技術論Ⅰ	3	2						◎										
		理学療法技術論Ⅱ	3	2							◎									
		理学療法技術論Ⅲ	3	2								◎								
		理学療法技術論実習Ⅰ	3	1							◎									
	理学療法技術論実習Ⅱ	3	1								◎									
	理学療法技術論実習Ⅲ	3	1									◎								
	地域理学療法学	地域理学療法学Ⅰ	3	2							◎									
		地域理学療法学Ⅱ	3	2								◎								
地域理学療法学実習		3	2									◎								
臨床実習		臨床実習指導Ⅰ	3	2									◎							
	臨床実習指導Ⅱ	4	2										◎							
	評価実習	3	4											◎						
	総合臨床実習Ⅰ	4	8												◎					
総合臨床実習Ⅱ	4	8													◎					
卒業研究	4	2													◎					
計		—	66	0	2	17	26	21								総計				
合計		—	120	18	35	40	27	22								124				

卒業要件
基礎教養科目の必修科目 10 単位、選択科目から 4 単位以上、専門基礎科目の必修科目 44 単位、専門科目の必修科目 66 単位を修得し、124 単位以上修得すること。
(履修科目の登録の上限：56 単位 (年間))

群馬医療福祉大学リハビリテーション学部理学療法専攻 カリキュラムマップ

理学療法専攻ディプロマポリシー（理学療法専攻のカリキュラムを履修することにより修得できる能力）
 「知識・理解」(1) 国家試験に合格する理学療法の知識と技術水準を持っている (2) 人間性や倫理感を裏付ける幅広い教養を身につけている
 「思考・判断」(3) 対象となる人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価し、情報の統合と的確な判断を示すことができる
 「技能・表現」(4) 基本的な医療行為を対象者にも自らにも安全に実施することができる (5) 他者の声に耳を傾け、自分の考えを口頭表現や文章表現によって伝えることができる
 「関心・意欲・態度」(6) 科学の進歩及び社会の医療ニーズの変化に対応して、生涯を通して自らを高め、他者と協力して仕事や研究を進める意欲を持つことができる
 (7) 地域や組織の中で医療人としての高い倫理観と責任感を持ち、他者と協力して仕事や研究を進める意欲を持つことができる

教育内容	1		2		3		4	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活	○人間哲学 ○医療英語 I △国際文化論 △心理学 △マスメディア論	△医療英語 II △物理学	○基礎演習 II ○ポランティア活動 II	○基礎演習 I ○ポランティア活動 I	○専門演習 I	○専門演習 II	
		○基礎演習 I ○ポランティア活動 I △情報処理						
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	○解剖学 I ○生理学 I ○運動学 I	○解剖学 II ○生理学 II ○生理学実習 ○運動学 II ○人間発達学	○体表解剖・触診演習 ○臨床運動学実習	○運動生理学演習			
		○一般臨床医学	○病理学概論 ○内科・老年医学 I ○整形外科 I ○神経内科学 I ○精神医学	○内科・老年医学 II ○整形外科 II ○神経内科学 II ○小児科学				
専門分野	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	○リハビリテーション入門 △保健医療福祉論	○公衆衛生学					
		○理学療法概論				○理学療法セミナー I	○理学療法セミナー II	
専門分野	理学療法評価学			○理学療法評価学 I ○理学療法評価学実習 I	○理学療法評価学 II ○理学療法評価学実習 II			
				○運動療法学 I ○運動療法学実習 I	○運動療法学 II ○運動療法学実習 II ○物理療法学 ○義肢装具学	○運動療法学実習 III ○理学療法技術論実習 III		
専門分野	理学療法治療学					○運動療法学実習 I ○理学療法技術論実習 I ○理学療法技術論実習 II		
						○地域理学療法学 I ○地域理学療法学 II	○地域理学療法学実習	
専門分野	地域理学療法学					○臨床実習指導 I ○評価実習	○臨床実習指導 II ○総合臨床実習 I	
		臨床実習						○総合臨床実習 II

○必修科目
△選択科目

1) 基礎科目

科目名	人間哲学	担当教員 (単位認定者)	鈴木 利定	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「人文科学」			
キーワード	人間哲学				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

「人間とは何か」我々はこれまで幾度となくこの問いかけを繰り返してきた。中国の思想家たちは、この問いにどのように解答しているのか。そしてそれぞれの解答に対して自分自身はどう思うのかを自らとてみる学問をねらいとしている。

〔達成目標〕

- ①人間とは何か、中国の思想家たちの解答に対し、自分自身はどう思うのかを問う。
- ②孔子と老子・荘子の思想を比較し、学ぶ。

■授業の概要

孔子は人間にいかにかに生きべきかという問いについて、人間によるべき新しい「道」をどのように考えたか。仁と礼について、特に最近では礼儀をわきまえないという声もある。つまり「形式的な礼など無用だ。真心さえ持っていればそれでよいのでは虚礼廃止だ。」ということもあるが、孔子の説いた礼をもとに現代における礼のあり方を学ぶ。プラトンと同じく孔子は、理想国家を説くことにより政治のあり方を説いた。孔子の説いた政治道徳の現代にあてはまることを学ぶ。老子・荘子は孔子と並ぶ中国の代表的な思想家である。両者は全く相反する傾向すら持っている。この両者の思想を比較し、学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	善く生きるとは
第3回	哲学の語源、世界4大聖人(思想の源)
第4回	プラトン、アリストテレス
第5回	ギリシャの愛(3つ) 仁
第6回	政とは如何なるべきか。志学より従心までの心持。
第7回	教育論
第8回	大学の道
第9回	家を斉へて国を治むるを釈く
第10回	人生いかに生きるか「後世への最大遺物」を通して
第11回	道に対する知者
第12回	世界の四聖人
第13回	孔子の弟子「顔回」
第14回	四端の心
第15回	人生に宗教は必要

■受講生に関わる情報および受講のルール

成績評価は、筆記試験・レポート・出席状況を監視、一度も休みのない者については、成績としては十分な評価を与える。出欠席は重視する。理由なくして欠席、遅刻の多い者(二回以上の者)は成績評価を受ける資格を失う。欠席の虚偽申告(代返等)をした者は単位を認めない。講義中のノート筆記は必ず行い、質問に対して的確な解答ができるよう努める。私語は厳禁。注意を促し、場合によっては退出を命ずる。再試は1回のみ。

■授業時間外学習にかかわる情報

テキストの予習・復習をすること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

評価配分:成績評価は、筆記試験・レポート・出席状況を監視、一度も休みのない者については、成績評価としては十分な評価を与える。

■教科書

鈴木利定著「儒教哲学の研究-修正版」(明治書院) 咸有一徳(中央法規)

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	心理学	担当教員 (単位認定者)	橋本 広信	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻 1 年次選択科目	免許等指定科目	社会福祉主事任用資格指定科目		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「人文科学」			
キーワード	感覚、知覚、認知、欲求、学習、記憶、発達、パーソナリティ、無意識、心理検査、知能検査				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

心の成立を支える機能や心に関連する現象などについて幅広く学び、人間を心理学的な観点から捉える基本的知識を得る。

〔到達目標〕

- ①発達という観点から、人を縦断的に捉えられるようになる。
- ②学習のメカニズムを理解し、人の行動と記憶に関する基礎を理解できる。
- ③感覚や知覚の仕組みや特徴を理解できる。
- ④思考と言語の発達や特徴を理解できる。
- ⑤人が自分の心を守る仕組みを理解し、不適応行動などの基礎を理解できる。
- ⑦パーソナリティとそれを調べる方法の基礎を理解できる。

■授業の概要

広範囲にわたる心理学の研究領域を概観し、人の心理や行動、関係性についての基礎となるトピックを学んでいく。心理学は後期の臨床心理学の基礎となる科目であり、精神医学などその他の科目とも連動する内容となっているので、積極的に学習に臨んでほしい。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	科目オリエンテーション、心理学入門
第 2 回	知覚と認知①
第 3 回	知覚と認知②
第 4 回	欲求と感情
第 5 回	学習・思考・記憶①
第 6 回	学習・思考・記憶②
第 7 回	学習・思考・記憶③
第 8 回	発達と教育①
第 9 回	発達と教育②
第 10 回	性格と異常心理と質問紙法人格検査
第 11 回	無意識の発見 フロイトと防衛機制 ユングの外向・内向理論と 8 タイプ論
第 12 回	投影法人格検査
第 13 回	知能と知能検査、認知症検査
第 14 回	対人関係と社会心理
第 15 回	回復の心理学

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・選択科目ではあるが、国家試験に関連する基礎知識を学ぶので、履修することが望ましい。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用等）は退席を命じます。その場合は欠席扱いとします。
- ・評価にある通り、5 回程度小レポートや感想文を課します。それぞれ評価の対象になりますので、必ず提出してください。

■授業時間外学習にかかわる情報

シラバスで指示する内容について取り組むこと。

■オフィスアワー

基本的に授業後の休憩時間としますので、声をかけてください。

■評価方法

- ・総合評価は、以下の通りの割合で、評価。総合得点 60 ～ 69 点:C 70 ～ 79:B 80 ～ 89:A 90 点以上:S
- ・期末試験 70%、小レポート・感想文等提出物 30% (30 ÷ 提出回 (予定 5 回) = 1 提出物得点 (1 回 6 点) 満点)

■教科書

図説心理学入門 (第 2 版) (2011) 齊藤勇編著 誠心書房

■参考書

適宜指示

科目名	国際文化論	担当教員 (単位認定者)	久山 宗彦	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「人文科学」			
キーワード	人づくり、対話と独語(ひとりごと)、平和				

■授業の目的・到達目標

国際文化論(intercultural studies)では、国際的な相互依存関係の中で生きていく私たちが、自立した個人として生き生きと活躍していくためには、自国の文化に根差した自己の確立や、異なる文化を持った人たちをも受け入れ、かれらと繋がっていきける能力や態度を身につけていくことを主眼としている。

■授業の概要

世界の諸事情と日本との関係を知り、自らの歩む道について考える。更に、日本と世界(諸外国)の関係がどのように発展したらよいかについても考察する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	(オリエンテーション)国際文化論が目指すのは国際平和である
第2回	Martin Buberの「はじめに関係があった」 我一汝 我一それ
第3回	対話と独語、自己を他者に生かすとは
第4回	国際貢献の一例:湾岸戦争とイラクの弱者、取り分け、イラク乳幼児に対する救援活動
第5回	ダブリン(Dublin)の聖母ホスピスを訪ねて
第6回	Our Lady's Hospice(2)とculture-cult
第7回	cureとcareを比較する — M.BuberのIch-Du, Ich-Esを参考に—
第8回	国際社会におけるリハビリテーションの共通概念と方法の違い
第9回	「神の文化」に対する「和の文化」日本人のものの見方や「和の人間関係」の特徴について
第10回	日本人のものの見方(2)「和」と個人化のプロセス(2)
第11回	グローバリゼーションとナショナリゼーション
第12回	真の平和をつくり出すには
第13回	真の平和をつくり出すには
第14回	平和憲法の共有
第15回	原点に立ち戻って考え直す医療

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・授業レジュメは原則として毎回配布する。
- ・授業には積極的な態度で臨むように。

■授業時間外学習にかかわる情報

世界の国々に関わる日本のニュースにも、いつも感心を持っていただきたい。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

最終レポート試験(80%)、授業時等のレポート(20%)

■教科書

教科書は使用しない。授業時に授業レジュメや参考資料を配布する。

■参考書

授業時に随時紹介する。久山宗彦著「神の文化と和の文化」(北樹出版)もそのうちの一つである。

科目名	美術技法	担当教員 (単位認定者)	本田 真芳	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「人文科学」		
キーワード	発想、鑑賞、版画、製版				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

表現及び鑑賞の活動を通して感性を働かせながらつくりだす喜びを味わう。造形的な創造活動の能力を培い、豊かな情操を養う。

[達成目標]

- ①美しいものや、優れたものに接して感動できる豊かな人間性を高める。
- ②発想や構想の能力を高める。
- ③日常での着実な研究心と探究心を培う。
- ④日々の生活の中で何かを表す意識を持った時、それが表現の原点であることを身につける。

■授業の概要

図画工作としての基礎基本、バランスの取れた指導計画などを学ぶ。また、版画の歴史、流れを学び、版画の種類(ドライポイント・エッチング)等の実技制作を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	オリエンテーション、図画工作を考える
第2回	発想、表現、鑑賞について 描き、作ることの意味
第3回	美術の概念
第4回	新しい造形と教育
第5回	版画の歴史について考える
第6回	版画の種類について学ぶ①
第7回	版画の種類について学ぶ②
第8回	基本技法について①
第9回	基本技法について②
第10回	製版の準備①
第11回	製版の準備②
第12回	製版の実践 刷り ①
第13回	製版の実践 刷り ②
第14回	製版の実践 刷り ③
第15回	製版の実践 刷り ④

■受講生に関わる情報および受講のルール

シラバスを確認し、積極的に授業に取り組むこと。

時には服が汚れないためのエプロン、軍手が必要なこともあります。授業中の私語は十分つつしむこと。

工作室などで決められた座席を守ること。

■授業時間外学習にかかわる情報

作業内容を十分に理解し、授業に臨むこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

課題作品 70% 試験(レポート) 30%

■教科書

長谷喜久一:図画工作. 建帛社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	物理学	担当教員 (単位認定者)	栗原 秀司	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「自然科学」			
キーワード	力学、運動、圧力、エネルギー、波、電気、電流、原子				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

物理学を通して自然科学の基本的な考え方を学び、応用できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①力の種類を知り、力のつりあいや運動の法則等を応用して、ヒトの体や骨・筋肉にはたらく力を求めることができる。
- ②運動の表し方を知り、式やグラフを読み取ることや式やグラフで表すことができる。
- ③エネルギー、熱、波、電気、磁気、放射線等について知り、その表し方や法則を理解し説明できる。

■授業の概要

物理学は自然を理解する基本的な考え方であるとともに、多くの場面で利用されている。医療の現場では検査や治療に応用されているだけでなく、ヒトの体の骨格・筋肉等は力学に従っている。本授業では力学を中心に物理学の基本的な考え方を説明し、エネルギー、熱、波、電気、磁気、放射線等について概説する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	単位、有効数字、累乗、三角比、ベクトル
第2回	力学の基本-物体の運動を数式で表わす-
第3回	物体の運動と力の関係-力の表し方と力の種類-
第4回	物体の運動と力の関係-運動方程式-
第5回	圧力のはたらきと物を回転させる力
第6回	エネルギーとその保存則
第7回	運動量と視点の違いにより感じる力
第8回	気体分子の運動と熱エネルギー
第9回	波の性質とその表し方
第10回	波で理解する音と光の現象
第11回	静電気の力とその表し方
第12回	オームの法則から理解する電気回路
第13回	電流と磁場の関係
第14回	電磁誘導と交流
第15回	原子の構造と放射線

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・コメントカードで出席を確認するので、授業終了時に必ず提出すること。
- ・座席は特に指定しないが、できるだけ前に座るようにすること。

〔受講のルール〕

- ・分からないところがあれば、いつ質問をしてもよい。分からないところをそのままにしないようにすること。
- ・授業内容に関係のない私語は慎むこと。他の受講生の迷惑になる行為は禁止する。

■授業時間外学習にかかわる情報

事前に教科書を読み、分からないところを明確にしておくこと。授業終了後は、授業で扱った問題や授業中に扱えなかった教科書の章末問題を解いて理解を深めるようにすること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

時政孝行監修、菓子研著:まるわかり!基礎物理、南山堂、2011

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	法学	担当教員 (単位認定者)	森田 隆夫	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目	社会福祉主事任用資格指定科目		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「社会科学」			
キーワード	市民生活、憲法、民法、				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

社会福祉の法律の実践では、法律関係が随所にあり、基本的知識や法的センスが必要となる。そこで、社会福祉を志す者に必要な基本的法領域として、法学概論・憲法・民法を中心に、実務上の具体例等を通じた学習をしたいと考えている。この学習を通じて、法条の検索、判例等に触れて行きたいと考えている。

〔到達目標〕

- ①六法で条文を調べることができる。
- ②法学概論・憲法・民法につきその重要な概念、制度等を説明することができる。
- ③法を解釈するという思考方法をとることができる。

■授業の概要

法学概論の学習によって、法についての基本的な考えを身につける。その上で、公法の代表としての憲法と私法の代表としての民法を用いて、法解釈学を体験してもらう。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	オリエンテーション/市民生活と社会規範
第2回	市民生活の各領域と主な関係法
第3回	憲法総論、基本的人権総論1
第4回	基本的人権総論2・思想・良心の自由、信教の自由
第5回	表現の自由、経済的自由
第6回	財産権、社会権
第7回	人身の自由、その他の人権、国民の義務
第8回	統治機構の基本原則、国会、内閣、
第9回	裁判所、財政、地方自治
第10回	民法総則
第11回	物権
第12回	契約
第13回	債権
第14回	親族 相続
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。
- ・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・社会福祉を志す者として、出席時間を厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験（60%）、授業時間に行う小テスト（40%）を総合して評価する。

■教科書

宇山勝儀・森長秀 編著「社会福祉を志す人のための法学」光生館、2011年、有斐閣「ポケット六法」

■参考書

宇山勝儀・森長秀 編著「社会福祉を志す人のための法学」光生館、2011年、有斐閣「ポケット六法」

科目名	情報処理	担当教員 (単位認定者)	藤本 壱	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	理学療法専攻 1 年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「社会科学」			
キーワード	word,excel				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

レポート作成等で必要なパソコンの基本操作を身につけること、各種発表のためのパソコンでの資料作りの方法や、よりよい発表の方法を身につけることを目的とする

[到達目標]

- ①パソコンの基本的な操作を理解する
- ②Microsoft Wordでレポート等の文章を作成できる
- ③Microsoft Excelで表やグラフをまとめることができる
- ④PowerPointの基本的な操作を理解する
- ⑤PowerPointでプレゼンテーションを作成できる
- ⑥作成したプレゼンテーションを使って発表できる

■授業の概要

授業を通し、パソコンの基本的な使い方をマスターし、WordとExcelを使って各種の文書を作成することができるようになることを目標とする。他の科目でレポート課題等の文書を作成する際にWordやExcelを使う機会が多いので、他の科目との関わりも多い。

PowerPointでプレゼンテーション用資料を作成することをマスターし、またその資料を使って人前で発表することができるようになることを目標とする。

他の科目での各種発表の際にも、PowerPointを活用できるようにする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	オリエンテーションとキーボード、マウスの操作
第 2 回	[基礎] 日本語の入力とファイルの操作
第 3 回	[基礎] ホームページの利用
第 4 回	[Word] 基本的な書式設定
第 5 回	[Word] 応用的な書式設定
第 6 回	[Word] 表のある文書の作成
第 7 回	[Word] 図や写真を含む文書の作成
第 8 回	[Word] 作業の効率化と複数ページ文書の作成
第 9 回	[Excel] Excel の基本操作
第 10 回	[Excel] セルの書式設定
第 11 回	[Excel] グラフの作成
第 12 回	[Excel] 計算の基本
第 13 回	[Excel] Excel をデータベース的に使う
第 14 回	[Word/Excel] Word/Excel の各種の操作
第 15 回	レポートについて

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

- ・ファイル保存用にUSBメモリを持参すること。
- ・配布資料は当授業のホームページから各自ダウンロードすること。

[受講のルール]

- ・積極的に授業に臨むこと。
- ・実習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。
- ・授業に関係のないこと(例:YouTubeを見る)をしないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書の練習問題等を利用して復習すること。

■オフィスアワー

授業開始前 20 分間

■評価方法

前期: レポート課題による評価 (100%)

後期: レポート課題 (70%)、レポート発表 (30%)

以上から総合的に評価 前期と後期を合計して総合評価とする。

■教科書

今すぐ使えるかんたんWord&Excel&PowerPoint2013、技術評論社、2013年

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	情報処理	担当教員 (単位認定者)	藤本 壱	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	理学療法専攻 1 年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「社会科学」			
キーワード	PowerPoint, Word, Excel, プレゼンテーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

レポート作成等で必要なパソコンの基本操作を身につけること、各種発表のためのパソコンでの資料作りの方法や、よりよい発表の方法を身につけることを目的とする

〔到達目標〕

- ①パソコンの基本的な操作を理解する
- ②Microsoft Wordでレポート等の文章を作成できる
- ③Microsoft Excelで表やグラフをまとめることができる
- ④PowerPointの基本的な操作を理解する
- ⑤PowerPointでプレゼンテーションを作成できる
- ⑥作成したプレゼンテーションを使って発表できる

■授業の概要

授業を通し、パソコンの基本的な使い方をマスターし、WordとExcelを使って各種の文書を作成することができるようになることを目標とする。他の科目でレポート課題等の文書を作成する際にWordやExcelを使う機会は多いので、他の科目との関わりも多い。

PowerPointでプレゼンテーション用資料を作成することをマスターし、またその資料を使って人前で発表することができるようになることを目標とする。

他の科目での各種発表の際にも、PowerPointを活用できるようにする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 16 回	[PowerPoint]Power Pointの基本操作
第 17 回	[PowerPoint]文字と段落の書式設定
第 18 回	[PowerPoint]表と図の操作
第 19 回	[PowerPoint]各種のオブジェクトの操作
第 20 回	[PowerPoint]画面切り替えとアニメーション
第 21 回	[PowerPoint]プレゼンテーションの発表とその関連機能
第 22 回	[Word]長文関連の機能(1)
第 23 回	[Word]長文関連の機能(2)
第 24 回	[Word]差し込み印刷関連の機能
第 25 回	[Excel]複雑な計算
第 26 回	[Excel]各種の便利な機能
第 27 回	課題について
第 28 回	プレゼンテーション実習
第 29 回	プレゼンテーション実習
第 30 回	プレゼンテーション実習

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・ファイル保存用にUSBメモリを持参すること。
- ・配布資料は当授業のホームページから各自ダウンロードすること。

〔受講のルール〕

- ・積極的に授業に臨むこと。
- ・実習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。
- ・授業に関係のないこと(例:YouTubeを見る)をしないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書の練習問題等を利用して復習すること。

■オフィスアワー

授業開始前 20 分間

■評価方法

前期:レポート課題による評価(100%)

後期:レポート課題(70%)、レポート発表(30%)

以上から総合的に評価 前期と後期を合計して総合評価とする。

■教科書

今すぐ使えるかんたんWord&Excel&PowerPoint2013、技術評論社、2013年

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	マスメディア論	担当教員 (単位認定者)	新井 英司	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻 1 年次選択科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「社会科学」		
キーワード	マスメディア、メディア・リテラシー				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

これからの人生で自分を輝かせて行くにはどうしたらよいか。マスメディアの正しい理解や豊かなコミュニケーション力の探求を通して、今日の高度な情報化社会を明るく楽しく生きる実践力を学ぶ。

〔到達目標〕

- ①グローバル化をめぐる世界情勢への関心が高まる
- ②客観的な見方を習得する
- ③マスメディアの現状と課題を把握する
- ④メディア・リテラシーの自覚と実践が可能となる
- ⑤コミュニケーションの起源を知り「ありがとう」を再認識する

■授業の概要

マスメディアの現状と課題を取り上げながら、多様化するメディアをいかに生かすかを考え、情報、ジャーナリズムの特性について具体的に学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	複眼という視点
第 2 回	公正と利他
第 3 回	冷静と時代感覚
第 4 回	マスメディア論に取り組む意義
第 5 回	マスメディアの危機① グローバル化の中で
第 6 回	マスメディアの危機② テレビと新聞のもたれ合い
第 7 回	マスメディアの危機③ マニュアル化で暴走
第 8 回	マスメディアの危機④ 市場原理に埋没
第 9 回	メディア・リテラシー① ニュースとは何か
第 10 回	メディア・リテラシー② 客観報道とは何か
第 11 回	メディア・リテラシー③ ジャーナリズムの特性
第 12 回	メディア・リテラシー④ 批判と疑いの精神
第 13 回	メディア・リテラシー⑤ 自らの感度を磨く
第 14 回	まとめ① たくましく情熱的に生きる
第 15 回	まとめ② メディアの未来と私たち

■受講生に関わる情報および受講のルール

毎日のテレビ、新聞等のニュースを取り上げ、意見や感想を発表し合います。その都度、資料も配付しますので、積極的に授業に参加して下さい。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

内田樹 『街場のメディア論』（光文社新書） 外岡秀俊 『情報のさばき方』（朝日新書）

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	医療英語Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	デビス ウォーレン	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「外国語科目」			
キーワード	日常会話、身体部位、姿勢や動き				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

リハビリテーションの場面の中に基本的なコミュニケーションができるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①日常会話も含め、患者との基本的な会話ができる。
- ②リハビリテーションの専門用語を理解できる。
- ③英語でコミュニケーションをとる自信をつける。

■授業の概要

医療の現場に必要な日常会話や専門的な用語を中心に学びます。単語を学び、それを使って患者さんと会話できるように練習します。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、Getting to Know you 活動、クラスルームイングリッシュ
第2回	自己紹介、個人情報を尋ねる①
第3回	個人情報を尋ねる②
第4回	患者との日常会話①
第5回	患者との日常会話②
第6回	患者との日常会話③
第7回	病院、リハビリテーション科に関する語彙を学ぶ。病院内で使われる会話①
第8回	病院、リハビリテーション科に関する語彙を学ぶ。病院内で使われる会話②
第9回	病院、リハビリテーション科に関する語彙を学ぶ。病院内で使われる会話③
第10回	小テスト
第11回	身体部位、リハビリテーションの姿勢や動き①
第12回	身体部位、リハビリテーションの姿勢や動き②
第13回	身体部位、リハビリテーションの姿勢や動き③
第14回	身体部位、リハビリテーションの姿勢や動き④
第15回	小テスト

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・英和・和英辞書があると授業に役立つでしょう。

〔受講のルール〕

- ・授業をよく聞いて、メモをとる。
- ・ペアワークやグループワークをするときに積極的に参加すること。
- ・英和・和英辞典が入っていても携帯電話を使用しないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

・小テストの時は、指示された範囲を必ず学習すること。 ・分からない単語があれば、調べておくこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(論述・客観)、聞き取りを含む。100%

■教科書

NEW ENGLISH UPGRADE ①

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	医療英語Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	デイビス ウォーレン	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「外国語科目」			
キーワード	会話、医学英語、事例・症例				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

リハビリテーションの場面の中に基本的なコミュニケーションができることと簡単な症例を理解できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①患者との基本的な会話ができる。
- ②リハビリテーションの専門用語を理解できる。
- ③簡単な症例を理解できる。

■授業の概要

医療の現場に必要な会話や専門的な用語を学び、その勉強を生かして簡単な症例を理解する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	Orientation
第2回	Conversation with a client (Life Before a Stroke).
第3回	Hopes and Dreams ①
第4回	Hopes and Dreams ②
第5回	Therapy Positions
第6回	Pain
第7回	Talking to a client about pain.
第8回	Treatment ①
第9回	小テスト①
第10回	Data Presentation ①
第11回	Data Presentation ②
第12回	Data Presentation ③
第13回	Case Study ①
第14回	Case Study ②
第15回	小テスト

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・英和・和英辞書があると授業に役立つ。

〔受講のルール〕

- ・授業をよく聞いて、メモをとる。
- ・ペアワークやグループワークをするときに積極的に参加すること。
- ・英和・和英辞典が入っていても携帯電話を使用しないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

・小テストの時は、指示された範囲を必ず学習すること。 ・症例を理解するため授業時間外学習をすること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(論述・客観) 100%

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	スポーツ体育	担当教員 (単位認定者)	櫻井秀雄・高坂駿	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	理学療法専攻1～4年次選択科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「保健体育科目」		
キーワード	生涯・障害者スポーツ、車いすバスケ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

スポーツ等のプログラム能力の習得や企画・運営、指導技術を身につけることにより、福祉施設、病院等で理学・作業療法士として活躍する人材の育成を目指すことができる。

〔到達目標〕

- ①健康で心豊かな生活を営むための一環として、多くのスポーツ・体育を体験することにより、学生生活の充実を図ることができる。
- ②スポーツ等のプログラム能力の習得や企画・運営、指導技術を身につける。
- ③障害者・高齢者の体力維持や心の安寧を理解することができる。
- ④スポーツ体育の活動を通じて、安全管理の知識と実際の行動を身につけることができる。
- ⑤スポーツを通じて障害者とのコミュニケーションを図れる能力を身につける。
- ⑥スポーツ活動を通じてお互いを理解し、協働する態度を育てることができる。また、コミュニケーション能力を高めることができる。
- ⑦リハビリスポーツの先端技能や最新施設の状況を理解することができる。
- ⑧障害者スポーツを習得することにより障害の理解やリハビリの重要性を認識して意欲を高めることができる。

■授業の概要

スポーツ・体育の楽しさを知り、ニュースポーツやコミュニケーションゲーム等を通じて、スポーツ・レクリエーション支援の技術を習得することができるようになる。そのための指導理論、実技などの学習を通じ、高齢者、障害者スポーツの体験と理解を深めることにより、支援者（指導者）としての実践力を高めることができるようになる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	スポーツ体育オリエンテーション
第2回	体ほぐし運動
第3回	生涯・障害者スポーツ①
第4回	生涯・障害者スポーツ②
第5回	生涯・障害者スポーツ③
第6回	ノーマライゼーションとスポーツ①
第7回	ノーマライゼーションとスポーツ②
第8回	車椅子バスケットボール①
第9回	車椅子バスケットボール②
第10回	車椅子バスケットボール③
第11回	スポーツプログラム企画と運営①バスケットボール
第12回	スポーツプログラム企画と運営②バレーボール
第13回	スポーツプログラム企画と運営③ユニホック
第14回	スポーツ指導と安全管理
第15回	スポーツ体育のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

集中講義として実施するので、体調管理を整えておく。

運動のおこないやすい服装や運動靴を準備する。

実技が中心になるが、いつでもメモができる用意しておく。

前橋キャンパス教室・体育館にて実施するが、車椅子バスケットボールは、群馬県立ふれあいスポーツプラザでおこなう。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

集中講座日程中は随時おこなう。

■評価方法

レポート 50% 実地試験 50%

■教科書

特には指定しないが、リハビリスポーツ関係に目を通しておく。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	スポーツ体育	担当教員 (単位認定者)	櫻井秀雄・高坂駿	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	理学療法1～4年次選択科目。学園スポーツ大会、県民マラソン参加が履修の必須条件。1年次集中講義に出席していない者は受講できない。	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「保健体育科目」			
キーワード	企画運営 トレーニング リスク管理 マラソン				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

PT業務に活用できるよう、スポーツ大会でリーダー的存在として役割を担えることや競技におけるトレーニングについて理解・説明・実践できることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①競技における有効なトレーニング方法を知ることができる。
- ②競技参加における効果的な計画を自ら行うことができる。
- ③競技参加におけるリスク管理を行うことができる。
- ④県民マラソンでの完走を目標とする。
- ⑤①～④を応用しPTの業務に活かすことができる。

■授業の概要

1年後期に学んだスポーツプログラムの企画と運営を活かし、学園スポーツ大会に中心的存在として参加する。また、11月3日に開催される『群馬県民マラソン』へ出場し完走を目指す。それにあたり、事前にトレーニング方法や計画、リスク管理をグループワーク等を通し学び、準備する。これらの経験をPTの業務に活かせるようになることを最終的な目的とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第16回	科目オリエンテーション
第17回	スポーツ大会参加
第18回	スポーツ大会参加
第19回	スポーツ大会参加
第20回	マラソン大会の参加に向けて(目標設定・トレーニング計画作成)
第21回	ランニング
第22回	マラソンに有効なサーキットトレーニングを考える(グループ):レポート
第23回	マラソンに有効なケガの予防・バイタル測定・リスク管理・体調管理について調べる
第24回	マラソンに有効なケガの予防・バイタル測定・リスク管理・体調管理について発表(個別):レポート
第25回	ランニング
第26回	ランニング
第27回	ランニング
第28回	県民マラソン大会 10km 出場:実力によりハーフ(11月3日)
第29回	県民マラソン大会 10km 出場:実力によりハーフ(11月3日)
第30回	完走報告会/学んだことの振り返り:レポート

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・県民マラソンの参加費は自己負担となる。毎年7月初旬から県民マラソンのエントリーが始まる。すぐに定員に達することが多いので、自らエントリー時期を確認し、応募漏れのないよう十分注意する。
- ・マラソンを走る際は睡眠を十分に取り、準備運動や水分補給などの体調管理を十分に行うこと。
- ・屋外トレーニングの際、天候を考慮し屋内トレーニングに切り替える場合がある。掲示板をよく見ておくこと。

〔受講のルール〕

- ・企画運営やグループワークの際は、率先して発言や行動をすること。
- ・授業中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止。
- ・ランニングコースまでは集団で行動し、安全管理、一般の方への迷惑行為に十分注意すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎授業時に配布する、コマ・シラバスを基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。

■オフィスアワー

月曜日 16～17時は随時(変更時は掲示する)。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

- レポート 50% (再提出あり。期限内に提出されないものは総合評価に含めない。)
- 実技 50%

■教科書

特に指定はしないが、自ら情報収集をすること。自分に合った、マラソンに関する参考書を1冊購入すると良い。

■参考書

特に指定はしないが、自ら情報収集をすること。

科目名	基礎演習 I	担当教員 (単位認定者)	担任	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻 1 年次必修科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ	基礎科目「総合科学」			
キーワード	授業の受け方、図書館利用、レポート、グループワーク、発表、礼儀挨拶、環境美化				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

学園の基本である礼儀・挨拶、環境美化を学びの基礎であるレポート、グループワーク、発表といった手法を学びながら身につけていく。

〔到達目標〕

- ①礼儀・挨拶について説明でき、日々の生活の中で実践できる。
- ②環境美化について説明でき、日々の生活の中で実践できる。
- ③レポートを形式に則って作成できる。
- ④グループワークを円滑に実施できる。
- ⑤発表を簡潔にわかりやすく行えるようになる。
- ⑥実際の場面において適切な身だしなみ、見学態度、時間厳守、報告・連絡・相談が実践できる。

■授業の概要

基礎演習 I では、学びの基礎である「授業の受け方」「レポート」「グループワーク」「発表」を身につけ、これらを駆使して学園の基本である「礼儀・挨拶」「環境美化」について理解を深めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	科目オリエンテーション/基礎学士力の育成
第 2 回	大学での学びとは(4年間を通したキャリアデザイン・授業の受け方)
第 3 回	図書館の活用法
第 4 回	礼儀・挨拶の実践、個人情報の取り扱いについて①
第 5 回	礼儀・挨拶の実践、個人情報の取り扱いについて②
第 6 回	グループワーク手法・発表手法、レポートの書き方(グループワーク)
第 7 回	レポートの書き方(グループワーク、まとめ)
第 8 回	レポートの書き方(発表、まとめ)
第 9 回	大学での学びとは(前期を振り返って)
第 10 回	キャリアアップ講座(租税教室)
第 11 回	挨拶・礼儀について(グループワーク)
第 12 回	挨拶・礼儀について(発表)
第 13 回	環境美化について(グループワーク)
第 14 回	環境美化について(発表)
第 15 回	大学での学びとは(1年を振り返って)

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

グループワークや発表は出席が前提となるので、体調管理を怠らないこと。

〔受講のルール〕

- ①シラバスを確認し予習復習を必ず行い積極的に臨むこと
- ②受講態度や身だしなみが整っていない場合受講を認めない
- ③授業の流れや雰囲気を乱したり他の受講生の迷惑となる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。
- ④内容が類似した課題は受け付けられないため自己の努力で作成すること

■授業時間外学習にかかわる情報

話し合いの準備(資料収集)、発表準備をしておくこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

■発表 ■レポート ■出席
発表 20%、レポート 80%

■教科書

基礎演習テキスト

■参考書

授業内で適宜指示する。

科目名	基礎演習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	担任・北爪浩美	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「総合科学」			
キーワード	企画・運営能力、コミュニケーション能力、ケア・コミュニケーション検定				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

社会人・医療人としての基本的能力である「コミュニケーション能力」「企画・運営能力」について学び、実践の場で活用できることを目的とする。

〔到達目標〕

- ① イベントの企画に関わることができる。
- ② イベントの運営に関わることができる。
- ③ コミュニケーションに関する基礎知識を説明することができる。
- ④ 自分のコミュニケーションの特徴を理解することができる。
- ⑤ 医療従事者としての基本的コミュニケーションを実践できる。

■授業の概要

基礎演習Ⅱでは、コミュニケーションと企画・運営に関して、グループワークなどの演習を通して社会人・医療人としての基本的能力を身につけていく。また、授業後半にケア・コミュニケーション検定を受験する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	科目オリエンテーション、建学の精神について
第 2 回	企画/運営力について、問題解決技能について (グループワーク・発表)
第 3 回	チームワークとディスカッションについて
第 4 回	ひととコミュニケーション
第 5 回	言語的コミュニケーションについて
第 6 回	コミュニケーションの発達と自己理解①
第 7 回	コミュニケーションの発達と自己理解②
第 8 回	コミュニケーション・テクニク
第 9 回	コミュニケーションと人間関係
第 10 回	コミュニケーションプロセス、ケア・コミュニケーション
第 11 回	ケア・コミュニケーション演習
第 12 回	ケア・コミュニケーション演習
第 13 回	ケア・コミュニケーション演習
第 14 回	ケア・コミュニケーション検定受験
第 15 回	基礎演習まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

ケア・コミュニケーション検定受験料 4500 円
グループワークが多くなるため欠席しないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

コミュニケーション能力は授業だけでは身に付かないため、積極的にボランティアに参加し、授業で得た知識を実践していくこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

■ケア・コミュニケーション検定 50%、■レポート 50%

■教科書

基礎演習テキスト

■参考書

ケア・コミュニケーション～ あなたの心遣いがみんなの支えになります ～. 株式会社ウイネット http://www.wenet.co.jp/product/html/products/detail.php?product_id=173
山根寛 他著:ひとと集団・場 第2版. 三輪書店,2007
諏訪茂樹著:援助者のためのコミュニケーションと人間関係第2版. 建帛社,1997
辛島千恵子著:広汎性発達障害の作業療法 根拠と実践. 三輪書店,2010

科目名	専門演習 I	担当教員 (単位認定者)	担任・阿部真也	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻 3 年次必修科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「総合科学」			
キーワード	質問力、問題発見能力、問題解決能力				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

社会人・医療人としての基本となる「問題発見能力」「問題解決能力」、それらの基礎となる「質問力」を養い論理的な思考を基に行動できることを目的とする。

■授業の概要

専門演習 I では、論理的思考能力の基礎となる「質問力」「問題発見能力」「問題解決能力」をグループワーク等を通して身につけていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	科目オリエンテーション/学長講話および建学の精神について
第 2 回	論理的思考とは
第 3 回	質問力とは
第 4 回	問題とは、問題発見の 4P
第 5 回	問題解決の思考プロセス:ステップ①何が問題か考える
第 6 回	問題解決の思考プロセス:ステップ①何が問題か考える
第 7 回	問題解決の思考プロセス:ステップ②重要問題を選んで「問い」を立てる
第 8 回	問題解決の思考プロセス:ステップ②重要問題を選んで「問い」を立てる
第 9 回	問題解決の思考プロセス:ステップ③解決アイデアを発想する
第 10 回	問題解決の思考プロセス:ステップ③解決アイデアを発想する
第 11 回	問題解決の思考プロセス:ステップ④解決アイデアを評価する「ものさし」をつくる
第 12 回	問題解決の思考プロセス:ステップ⑤「ものさし」をつかって解決アイデアを評価する
第 13 回	問題解決の思考プロセス:ステップ⑥実行計画を立てる
第 14 回	FPSP 問題解決力検定
第 15 回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

グループワークが多いので休まないこと。

ポートフォリオ作成のため、A4 クリアフォルダー（なるべくいっぱい入るもの）を用意すること。

NP0 法人 日本未来問題解決プログラム FPSP 問題解決力検定 受験料 3000 円

■授業時間外学習にかかわる情報

論理的思考能力を身につけるには、日々の生活を疑問を持って送ることが重要となる。授業で学んだことを生活の中で実践することが大切である。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

■ポートフォリオ 60% ■FPSP 問題解決力検定 40%

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	専門演習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	担任・北爪浩美	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「総合科学」			
キーワード	就職活動、自己分析、将来設計				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

これまで基礎演習・専門演習で身につけてきたことを総合し、専門職として誇りを持って就労できることを目的とする。

[到達目標]

- ①自己を客観的に分析し、他者に対しわかりやすく説明できる。
- ②社会人としてのマナーを身につける。
- ③将来像を描けるようになる。

■授業の概要

専門演習Ⅱでは、目前に迫る就職における基本的な知識を学ぶ。そして、大学4年間を振り返り自分自身を客観的に捉え直す機会とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/学長講話および建学の精神について
第2回	就職活動の流れ・卒業生からのアドバイス
第3回	自己分析
第4回	自己分析
第5回	自己分析発表
第6回	就職活動におけるマナー講座メイクアップ(外部講師)
第7回	就職活動におけるマナー講座身だしなみ・所作
第8回	就職活動を成功させるための情報収集
第9回	将来設計立案
第10回	将来設計発表
第11回	会社の研究方法(会社の見方・選び方)
第12回	自己PR法～履歴書の書き方・面接の受け方・会社訪問法～
第13回	卒業生からのメッセージ(就職編)
第14回	卒業生からのメッセージ(国家試験編)
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

グループワークが多いので休まないこと。ポートフォリオ作成のため、A4クリアフォルダーを用意すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

ポートフォリオ 50%、レポート 50%

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	ボランティア活動I	担当教員 (単位認定者)	担任	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ	基礎科目「総合科学」			
キーワード	汎用的技能、態度・志向性、ボランティア、コミュニケーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

ボランティアへの参加を通し、医療従事者としての基本的態度を学び、汎用的技能や態度・志向性を身につける必要がある。そのため必要なことをボランティア活動などを通して学ぶ。

〔到達目標〕

- ① 本学におけるボランティア活動の位置づけについて理解し、説明することができる。
- ② 依頼ボランティアや学校行事ボランティアへの参加を通して、基本的参加態度やボランティアの必要性を理解することができる。
- ③ ボランティア体験を通して、医療従事者としての基本的態度などの実践を行うことができる。

■授業の概要

医療従事者を目指す者として、専門的な医学知識や技術の習得だけでなく、汎用的技能や態度・志向性を身につける必要がある。そのために必要なことをボランティア活動などを通して学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/本学・本学部におけるボランティアの位置づけと自己目標の設定
第2回	ボランティアに臨むための態度
第3回	車椅子体験
第4回	高齢者体験
第5回	車椅子・高齢者体験まとめ
第6回	ボランティアについての講和
第7回	前期の振り返り
第8回	あそか会 参加準備
第9回	クリスマス会の企画
第10回	クリスマス会予演会
第11回	クリスマス会予演会
第12回	クリスマス会
第13回	クリスマス会
第14回	クリスマス会の振り返り/1年を振り返って
第15回	1年を振り返って/学んだことの振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に係る情報〕

A4 クリアブックを用意。

〔受講のルール〕

この科目は、ボランティア活動を通して自分自身がどの様に成長したか自分でまとめていく作業があります。積極的なボランティア活動の実践が前提となっています。

依頼ボランティア参加方法について十分理解し、先方やボランティアセンターとトラブルのないように配慮してください。

■授業時間外学習にかかわる情報

初回オリエンテーション時に詳細を伝えます。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

ポートフォリオ 70% ボランティア参加状況 15% 授業内発表 15%

■教科書

特になし。適宜紹介する。

■参考書

鈴木敏恵 著：ポートフォリオ評価とコーチング手法-臨床研修・臨床実習の成功戦略！, 医学書院, 2006

科目名	ボランティア活動Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	担任	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ	基礎科目「総合科学」			
キーワード	汎用的技能、態度・志向性、ボランティア、コミュニケーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

医療従事者としての基本的態度を身につけ実践する。自ら企画してボランティアへ参加し、様々な体験を通して自分自身を振り返る。

〔到達目標〕

- ①自ら参加したいボランティアなどについて計画を立てることができる。
- ②ボランティア体験を通して、汎用的技能や医療従事者としての基本的態度を学び、その実践ができる。
- ③ 2 年間のボランティア活動を通して、自分自身の成長点、課題点が認識できる。
- ④③をポートフォリオにまとめることができる。

■授業の概要

医療従事者を目指す者として、専門的な医学知識や技術の習得だけでなく、汎用的技能や態度・志向性を身につける必要がある。そのために必要なことをボランティア活動などを通して学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	科目オリエンテーション・ボランティアの活動計画。グループディスカッション。
第 2 回	ボランティア活動計画の立案、ボランティア参加にあたっての注意事項
第 3 回	自分の態度を振り返る。様々な価値観を知る。
第 4 回	価値観の多様性を知る
第 5 回	企画/運営について(群リハフェスタの企画)
第 6 回	企画/運営について(群リハフェスタの企画/準備)
第 7 回	運営について(群リハフェスタの振り返り)
第 8 回	前期ボランティア活動の振り返り
第 9 回	後期に向けてのボランティア活動計画
第 10 回	講話: 学生ボランティア経験について①
第 11 回	講話: 学生ボランティア経験について②
第 12 回	ボランティア活動のまとめ、発表準備
第 13 回	2 年間のボランティア活動のまとめ・発表①
第 14 回	2 年間のボランティア活動のまとめ・発表②
第 15 回	まとめ、2 年間の振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に係る情報〕

A4 クリアファイルを用意。

〔受講のルール〕

この科目は、ボランティア活動を通して自分自身がどの様に成長したか自分でまとめていく作業があります。積極的なボランティア活動の実践が前提である。

ふざけた態度や礼を欠く態度を取る者は受講を拒否することがある。授業に関係ないものの持ち込みを禁止。携帯電話やスマートフォンは机に出さない。

■授業時間外学習にかかわる情報

初回オリエンテーション時に詳細を伝えます。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

ポートフォリオ 70%、授業内課題発表など 30%

■教科書

特になし。適宜紹介する。

■参考書

鈴木敏恵 著: ポートフォリオ評価とコーチング手法-臨床研修・臨床実習の成功戦略!, 医学書院, 2006

2) 專門基礎科目

科目名	解剖学I	担当教員 (単位認定者)	内田 博之	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係わる必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	骨格系、筋系				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

人体の構造と分類、特に骨格系、筋系および神経系について学び、運動に関係する基本的な解剖学的な構造を習得できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①椎骨の基本型と脊柱および胸郭の構成を説明することができる。
- ②四肢の骨格の構成と各部の名称を説明することができる。
- ③頭蓋骨の構成と各部の特徴を説明することができる。
- ④四肢の筋群の起始停止部、支配神経および作用を説明することができる。
- ⑤体幹および頭頸部の筋群の構成と位置関係を説明することができる。
- ⑥骨の連結の種類と構造を説明することができる。
- ⑦脊柱と胸郭の連結を説明することができる。
- ⑧四肢の骨格の連結と運動を説明することができる。

■授業の概要

生体観察を通して、人体の区分、各部の特徴および骨格系と筋系、骨の連結について知り、理解できるようになることが必要である。また、解剖学実習、生理学実習、生理学、運動学の知識と双方向性の理解が必要となる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	オリエンテーション、人体の各部の名称と方向用語
第2回	骨格系-1 上肢の骨
第3回	骨格系-2 上肢の骨
第4回	骨格系-3 骨盤、下肢の骨
第5回	骨格系-4、-5 椎骨、脊椎と胸郭
第6回	骨格系-5、-6 胸郭と頭部の骨、骨の構成
第7回	筋系-1 頭頸部の筋、頭部の各骨との連結
第8回	筋系-2 体幹の筋、胸部の筋
第9回	筋系-3 脊柱の筋、上肢の筋、肩関節
第10回	筋系-4 上肢の筋、肘関節、前腕の筋、手の筋
第11回	筋系-5 上肢の筋、肘関節、前腕の筋、手の筋
第12回	筋系-6 骨盤の筋、骨盤の連結、下肢の筋
第13回	筋系-7 骨盤の筋、骨盤の連結、下肢の筋
第14回	筋系-8 下肢の筋、下肢の連結と運動について
第15回	筋系-9 まとめ、試験について

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・授業資料を配付しますので、解剖トレーニングノートの該当箇所に貼り付けること。・予習復習に十分な時間を割くこと。

〔受講のルール〕

- ・授業概要を必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。・最前列から着席し、授業を受けやすい環境を作ること。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守および対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合は、受講を認めないことがある。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話やスマートフォンの使用)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時間外には、予習復習に十分に時間を割くこと。特に、復習に重点を置き、授業内容はその日のうちに身につけること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観・論述)100%であり、60%を越えていることが必要である。しかし、総合評価には出席状況および課題提出状況が良好であることが前提となる。

■教科書

- ・標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学 野村巖【編】医学書院
- ・解剖トレーニングノート 竹内 修二(著)医学教育出版社

■参考書

- ・カラー人体解剖学-構造と機能:ミクロからマクロまで F.H. マティーニ(著)西村書店
- ・ネッター解剖学アトラス Frank H. Netter(著)南江堂
- ・プロメテウス解剖学アトラス総論・運動器系 坂井 建雄(著)医学書院
- ・ネッター解剖生理学アトラス John T.Hansen(著)南江堂

科目名	解剖学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	内田 博之	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係わる必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	中枢神経、末梢神経、体性神経、自律神経				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

人体の構造と分類、特に筋系、関節および神経系について学び、運動に関係する基本的な解剖学的な構造を習得できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①中枢神経の構造と機能および伝導路が説明することができる。
- ②末梢神経のうち、体性神経（脳神経、脊髄神経）の構成と分布先が説明することができる。
- ③末梢神経のうち、自律神経（交感神経、副交感神経）の構成と分布先が説明することができる。
- ④骨格系、筋系および神経系の構造を機能と関連づけて説明することができる。

■授業の概要

生体観察を通して、人体の区分、各部の特徴および筋系と神経系、筋の神経支配について知り、理解できるようになることが必要である。また、解剖学実習、生理学実習、生理学、運動学の知識と双方向性の理解が必要となる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、神経系と筋系との関わり
第2回	脳と脊髄 -1 中枢神経系の全体的な構造、大脳と間脳の構造
第3回	脳と脊髄 -2 中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の構造
第4回	脳と脊髄 -3 脳と脊髄のまとめ
第5回	脳と脊髄 -4 中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の伝導路
第6回	脊髄神経 -1 脊髄神経の構造とその枝
第7回	脊髄神経-2、-3 頸神経叢、腕神経叢の構成とその枝
第8回	脊髄神経-4 腕神経叢の枝と支配筋
第9回	脊髄神経-5 腕神経叢のまとめ
第10回	脊髄神経-6 肋間神経の構成とその枝、支配筋
第11回	脊髄神経-7 腰神経叢の構成とその枝、支配筋
第12回	脊髄神経-8 仙骨神経叢の構成とその枝、支配筋
第13回	脊髄神経-9 坐骨神経の枝、支配筋
第14回	脊髄神経-10 腰神経総、仙骨神経叢のまとめ
第15回	脊髄神経-11 脳神経、自律神経、試験勉強

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・授業資料を配付しますので、解剖トレーニングノートの該当箇所に貼り付けること。
- ・予習復習に十分な時間を割くこと。

〔受講のルール〕

- ・授業概要を必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ・最前列から着席し、授業を受けやすい環境を作ること。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守および対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合は、受講を認めないことがある。
- ・授業の流れや雰囲気等を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話やスマートフォンの使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（客観・論述）100%であり、60%を越えていることが必要である。しかし、総合評価には出席状況および課題提出状況が良好であることが前提となる。

■教科書

- ・標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学 野村巖【編】医学書院
- ・解剖トレーニングノート 竹内 修二（著）医学教育出版社

■参考書

- ・カラー人体解剖学-構造と機能:ミクロからマクロまで F.H. マティーニ（著）西村書店
- ・ネッター解剖学アトラス Frank H. Netter（著）南江堂
- ・プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論・運動器系 坂井 建雄（著）医学書院
- ・ネッター解剖生理学アトラス John T.Hansen（著）南江堂

科目名	解剖学実習	担当教員 (単位認定者)	多田真和・栗原卓也	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	脳神経系、呼吸器系、循環器系、消化器系、泌尿器系、内分泌系、平衡聴覚器				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

解剖学は、生理学、運動学、整形外科学および神経内科学等の専門基礎科目、さらに理学療法専門科目および作業療法専門科目等のすべての科目の基礎的知識であり必須のものであるため、しっかりと知識を定着させる。

〔到達目標〕

- ①人体の構造を、器官系別に分類し理解できる。
- ②器官系別に理解した知識を有機的にまとめ、人体全体を立体的、総合的に理解できる。
- ③人体の構造を、自らの手で描き、説明することができる。

■授業の概要

「解剖学 I / II」では「骨格系」、「筋系」および「神経系」を中心に授業が進められる。「解剖学実習」では、人体の他の構成単位である「呼吸器系」、「循環器系」、「消化器系」、「泌尿器系」、「内分泌系」および「平衡聴覚器」について学ぶ。授業では、パワーポイント(ppt)やビデオ画像を多用し、視覚的に理解しやすいように配慮する。また、学年末には、実際の人体の解剖標本を目の当たりにすることで、授業で学んだ知識を立体的かつ総合的に理解を深められるようにする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	脳神経 I (脳室、大脳基底核)
第2回	オリエンテーション、呼吸器系
第3回	循環器系 (1)
第4回	循環器系 (2)
第5回	脳神経 II (脳血管、大脳辺縁系)
第6回	脳神経 III (CT, MRI)
第7回	循環器系 (3)
第8回	消化器系 (1)
第9回	消化器系 (2)
第10回	消化器系 (3)
第11回	泌尿器系
第12回	内分泌系 (1)
第13回	内分泌系 (2)
第14回	平衡聴覚器
第15回	脳神経 IV (脳神経、末梢神経、自律神経)

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

授業に臨むにあたり、必ず該当分野の予習を行うこと。体内の位置と機能については、必須である。

〔受講のルール〕

将来の医療従事者として、相手から信頼感が得られるような態度および姿勢で授業に臨むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書の該当分野は前もって熟読し、自分が理解しにくい部分を明確にして授業に臨むこと。

■オフィスアワー

授業終了後の15分間、また、コメントカードに質問内容を記載すれば次回授業時に解説する。

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第3版 野村巖【編】医学書院
JINブックス 絵で見る脳と神経 しくみと障害のメカニズム 第3版 馬場元毅 著 医学書院

■参考書

授業中に適宜紹介してゆく。

科目名	体表解剖・触診演習	担当教員 (単位認定者)	三浦 雅文	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	体表解剖・触診演習				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

解剖学、運動学で学んだ知識を用いて、実際に人体の観察・触知する技術の基礎を学ぶ。

〔到達目標〕

- ①対象者に不快を与えない手技について説明できる。
- ②対象者に対するあらゆる配慮について述べる事ができる。
- ③解剖学で学んだ主要な部位を体表から観察、触知できる。

■授業の概要

対象者が困難となっている日常生活の様々な活動について改善を促していくために、まず動作がどのように行われているのか(どのようにできていないのか)を観る事ができなければならない。また、これまでに学んだ解剖学や運動学に知識を照らし合わせて、原因となっている身体機能を見抜いていく必要がある。そのような能力を養う授業となる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/触診の意義、心構え、基礎と原理
第2回	ハンドリングの基礎、各論一肩甲帯一
第3回	各論一肩甲帯、肩関節一
第4回	各論一上腕、肘関節一
第5回	各論一前腕、手関節、手指一
第6回	前半まとめ、要点整理
第7回	各論一体幹(脊柱)一
第8回	各論一体幹(背部、胸郭)一
第9回	各論一体幹(骨盤帯)一
第10回	各論一骨盤帯、股関節、大腿一
第11回	各論一大腿、膝関節一
第12回	各論一膝関節、下腿、足関節一
第13回	各論一下腿、足関節、足部一
第14回	まとめ①
第15回	まとめ②

■受講生に関わる情報および受講のルール

各論で取り扱う部位に応じて、短パンや半袖シャツの着用にて出席すること。

解剖学、運動学の知識無しでは履修完了は困難である。十分に復習してから出席すること。

成績評価とは別に技術チェックを行う。まとめの時間を使ってテスト形式で行う。成果が著しく悪い者には、学習を深めること目的に別途課題を提示する。これを回避するためには、技術を習得するように念入りに、繰り返し練習することが必要である。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

木曜日 16:30 ~ 17:30

■評価方法

客観試験 素点 100%で総合評価とする。

■教科書

図解 四肢と脊柱の診かた Stanley Hoppenfeeld 著 野島元雄監訳 医歯薬出版

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	生理学I	担当教員 (単位認定者)	神谷 誠	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	細胞、血液、循環、呼吸、消化器、腎臓、内分泌、生殖				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

内臓器の調節機構の基礎を身につけること、及び、専門科目に応用可能な知識を習得することを目的とする。

〔到達目標〕

- ①内臓器の基礎を解剖図・概念図を用いて簡潔に説明出来るようになる。
- ②生理学全体を鳥瞰的に理解し、基本概念を全体の中での位置づけを意識して説明出来るようになる。
- ③他の基礎科目・専門科目に応用することが出来るようになる。

■授業の概要

生理学はヒトの体の正常の機能を理解することを目的としており、疾病から正常状態への復帰を目指すリハビリテーションには不可欠である。しかし、生理学の領域は膨大で、未だ解明されていないことが多くある。リハビリテーションの実践に、いかに生理学の知識を活用していくのかを常に念頭に置いて、体系的に理解が進められるように授業を進めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	細胞と内部環境①
第2回	細胞と内部環境②
第3回	血液①
第4回	血液②
第5回	循環
第6回	呼吸
第7回	消化器①
第8回	消化器②
第9回	腎臓と排泄
第10回	酸-塩基平衡・ホルモンとは
第11回	内分泌①
第12回	内分泌②
第13回	内分泌③
第14回	性と生殖
第15回	全体の復習・質問

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・予習復習は必ず行うこと。

〔受講のルール〕

- ・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・出席時間厳守・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（客観・論述）100%

総合評価は筆記試験が60%を超えていることが前提となる。

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第3版 医学書院 石澤光郎 富永淳 著

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	生理学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	神谷 誠	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	筋収縮、神経系、感覚、代謝				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

神経・運動・感覚の基礎を身につけること、及び、専門科目に応用可能な知識を習得することを目的とする。

[到達目標]

- ①神経・運動・感覚の基礎を解剖図・概念図を用いて簡潔に説明出来るようになる。
- ②生理学全体を鳥瞰的に理解し、基本概念を全体の中での位置づけを意識して説明出来るようになる。
- ③他の基礎科目・専門科目に応用することが出来るようになる。

■授業の概要

理学はヒトの体の正常の機能を理解することを目的としており、疾病から正常状態への復帰を目指すリハビリテーションには不可欠である。しかし、生理学の領域は膨大で、未だ解明されていないことが多くある。リハビリテーションの実践に、いかに生理学の知識を活用していくのかを常に念頭に置いて、体系的に理解が進められるように授業を進めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	筋の収縮①
第2回	筋の収縮②
第3回	筋の収縮③
第4回	神経系①
第5回	神経系②
第6回	末梢神経系
第7回	中枢神経系①
第8回	中枢神経系②
第9回	中枢神経系③
第10回	感覚①
第11回	感覚②
第12回	感覚③
第13回	代謝と体温①
第14回	代謝と体温②
第15回	運動生理

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・予習復習は必ず行うこと。

[受講のルール]

・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。

・出席時間厳守・授業の流れや雰囲気乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観・論述)100%(詳細な評価基準は授業シラバス参照)

総合評価は筆記試験が60%を超えていることが前提となる。

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第3版 医学書院 石澤光郎 富永淳 著

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	生理学実習	担当教員 (単位認定者)	大竹 一男	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る実習		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	血圧測定、心電図、呼吸、体温、エネルギー、血液、尿、視覚、聴覚				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

生理学の授業で学んだ知識を最大限に活用し、実習を通じて生体の仕組みをより深く理解する。

〔到達目標〕

- ①人体の仕組みについての知識を習得し系統だてて説明できる。
- ②実際に医療現場で使われている器具や装置を適切に扱うことができる。
- ③お互い測定しあうことによって医療人としてのコミュニケーション能力を高めることができる。

■授業の概要

実際の医療の現場で使われている器具や装置を使って、私たちの血圧、呼吸、体温、心電図を実際に測定したり、血液を顕微鏡で観察したり、尿試験紙による尿検査も行います。また私たちが食物を摂取することによってエネルギーを生み出し、消費し、排泄するまでの一連の過程についても学習します。また、PT・OTの領域で重要な視覚や聴覚についての仕組みについても学びます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	血圧測定の意義と方法について学ぶ。
第2回	実際に水銀血圧計で血圧を測定し、その評価ができる。
第3回	心電図の測定の意義と方法について学ぶ。
第4回	実際に心電図計で心電図を測定し、その評価ができる。
第5回	呼吸数及び呼吸機能の測定の意義と方法について学ぶ。
第6回	実際にスパイロメータで呼吸機能を測定し、その評価ができる。
第7回	体温測定の意義と方法について学ぶ。実際に体温を測定し、その評価ができる。
第8回	消化と吸収について学ぶ。消化管の運動(嚥下、蠕動運動、排便)について学ぶ。
第9回	エネルギー産生について学ぶ。十二指腸、肝臓、膵臓、胆のうのネットワークについて学ぶ。
第10回	体組成と腹囲測定の意義と方法について学ぶ。実際に体組成を測定し、その評価ができる。
第11回	エネルギー消費について学ぶ。骨、筋肉、関節のネットワークについての基礎を学ぶ
第12回	血液について学ぶ。実際の血液像を顕微鏡で観察し、その評価ができる。
第13回	尿の生成と排尿のしくみについて学ぶ。実際に尿検査を実施し、その評価ができる。
第14回	視覚についての基礎を学ぶ。盲点、瞳孔の反射の確認、色盲試験を行い、その評価ができる。
第15回	聴覚についての基礎を学ぶ。音の周波数の違い、平衡感覚試験を行い、その評価ができる。

■受講生に関わる情報および受講のルール

実習の実施に当たっては怪我のないように十分に注意し指導教員の指示に従うこと。実習で得られた検査結果を基に報告書(レポート)を作成し期限内に提出すること。その他、自習器具、検査値、感染性一般ゴミの取り扱いに注意し指導教員の指示に従うこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

授業提出レポート 30% レポート試験 70%

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 生理学 第3版

■参考書

その都度指示する。

科目名	運動生理学演習	担当教員 (単位認定者)	小島 俊文	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	運動・呼吸・循環・代謝・体力				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

運動療法は理学療法治療手段の根幹である。運動生理学演習の目的は、運動療法を治療手段として実施または指導するものとして、運動が人体に対し「呼吸」・「循環」・「代謝」の面でどのような影響を与えるか、演習を通して学ぶことにある。

〔到達目標〕

- ①運動に対し循環系がどのように変化するか具体的に述べるができる。
- ②その他循環系に影響を与える因子と、それがどのような変化を起こすのか説明することができる。
- ③運動時の呼吸変化について具体的に述べるができる。
- ④最大酸素摂取量の求め方を述べるができる。
- ⑤体カテストの内容と評価方法について述べるができる。
- ⑥基礎代謝量とMet、消費カロリーの関係について述べるができる。

■授業の概要

演習が中心になるので、その手順について良く理解しておくことが重要である。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション/理学療法と「呼吸」「循環」「代謝」
第2回	運動と循環 血圧とは？ 血圧を規定する因子
第3回	姿勢変化と血圧
第4回	バルサルバ試験および息こらえ中の血圧および心拍数の変化
第5回	安静時呼吸数の測定（背臥位と立位）
第6回	最大酸素摂取量とは何か・最大酸素摂取量を求める
第7回	敏捷性の測定
第8回	体カテストと測定値間相関①
第9回	体カテストと測定値間相関②
第10回	基礎代謝・消費カロリーを求める①
第11回	基礎代謝・消費カロリーを求める②
第12回	重量感覚と温度感覚①
第13回	重量感覚と温度感覚②
第14回	2点識別閾と疲労度測定①
第15回	3点識別閾と疲労度測定②

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生にかかわる情報〕および〔受講のルール〕

- ・授業中の居眠りや、他の学生に迷惑となるような行為は厳に慎むこと。たび重なる注意を与えても改善が見られない場合は、退室してもらおう場合がある。
- ・授業中にとったノートを提出すること。ただしノートはその日のうちに返却する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業中は演習中心となる。ノートの整理をしておくこと。

■オフィスアワー

水曜日 16 時～17 時 その他の曜日時間は要予約

■評価方法

筆記試験（客観・論述）100%

■教科書

教科書の設定なし

■参考書

理学療法概論 奈良 勲編 医歯薬出版理学療法概論 監修 千佳 秀明

科目名	運動学I	担当教員 (単位認定者)	柴 ひとみ	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目 解剖学、生理学、力学の知識を必要とする。	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	関節の形状、運動の名称、筋収縮、上肢の関節運動の主動作筋、重心				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

身体の構造を理解しながら、体や各関節の動きを説明できることを目的とする。また、理学療法の対象となる上肢の骨関節障害の知識を得ることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①身体各部・各関節の名称及び運動の名称・運動面・運動軸を答えることができる。
- ②重心の定義を理解し、重心線が通る指標を列挙できる。
- ③運動時の筋収縮様態を説明することができる。
- ④上肢の各関節の形状分類を理解し関節運動を述べることも、主動作筋を列挙することができる。
- ⑤上肢の関節の主な運動障害を列挙することができる。

■授業の概要

授業を通し、理学療法士として治療の対象となる機能障害を把握するうえで必要な正常なヒトの体のしくみについて学ぶ。自らの体を使って各関節や体の動きを理解し、主に上肢の主動作筋と関節運動の関係を整理しながら運動の特徴を学ぶ。そのうえで、上肢の各関節における運動障害を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/運動の基礎①身体各部位の名称、運動面
第2回	運動の基礎②運動方向の名称と運動軸、姿勢について
第3回	人体における重心について
第4回	関節の構造と運動について
第5回	筋の収縮のメカニズムについて
第6回	肩複合体の運動①
第7回	肩複合体の運動② 肩関節の筋とその作用
第8回	肩関節の筋とその作用
第9回	肩甲骨周囲の筋とその作用
第10回	肩複合体の運動障害、肘 jt の構造
第11回	肘関節の運動、前腕の運動 ①
第12回	前腕の運動 ②、肘の運動障害
第13回	手関節の構造と運動について
第14回	手指の関節の構造と運動について
第15回	手の運動障害

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・解剖学が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず学習すること。

〔受講のルール〕

- ・授業計画を必ず確認し理解を深めるよう積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（携帯電話の使用、私語）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回授業の冒頭で小テストを行うので、前回の講義内容を復習して臨むこと。また、小テストで正答率 60%未満の学生に対しては補講を行うので、小テスト内容を復習したうえで出席すること。

■オフィスアワー

木曜日 16 時～17 時は随時（変更時は掲示する）その他の曜日については要予約

■評価方法

筆記試験（客観）90%、レポート（10%）総合評価は筆記試験が 60%以上であることが前提となる。

■教科書

藤縄理編：シンプル理学療法学シリーズ 運動学テキスト、南江堂、2010

■参考書

野村巖編：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学第 3 版 医学書院
中村隆一：基礎運動学第 6 版 医学書院

科目名	運動学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	柴 ひとみ	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目 解剖学、生理学、力学の知識を必要とする。	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	関節の形状、運動の名称、体幹・下肢の関節運動の主動作筋、呼吸、歩行				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

身体の構造を理解しながら、体や各関節の動きを説明できることを目的とする。また、理学療法の対象となる骨関節障害の知識を得ることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①下肢帯・体幹・頭部の関節運動とその主動作筋を答えることができる。
- ②下肢や体幹の主な運動障害を列挙することができる。
- ③呼吸運動における胸郭の動きを説明することができる。
- ④歩行周期を説明することができる。
- ⑤歩行時の下肢関節の運動や重心の移動を説明することができる。

■授業の概要

授業を通し、理学療法士として治療の対象となる機能障害を把握するうえで必要な正常なヒトの体のしくみについて学ぶ。自らの体を使って各関節や体の動きを理解し、運動の特徴を学ぶ。そのうえで、体幹・下肢の各関節における運動障害を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/骨盤・股関節の運動について
第2回	股関節の運動に作用する筋①
第3回	股関節の運動に作用する筋②
第4回	骨盤・股関節の運動障害
第5回	股関節のバイオメカニクス、膝関節の運動
第6回	膝関節の運動と運動障害
第7回	膝関節の運動、距腿関節の構造
第8回	下腿・足根・足部の運動障害
第9回	足部の運動について
第10回	頭部と頸部、体幹の運動
第11回	体幹の運動、頭部と頸部・胸椎・腰椎の運動障害
第12回	胸郭と呼吸運動について
第13回	正常歩行：歩行周期
第14回	正常歩行：下肢の関節運動と重心の移動
第15回	正常歩行：歩行時の下肢の筋活動について

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・解剖学が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず学習すること。

〔受講のルール〕

- ・授業計画を必ず確認し理解を深めるよう積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（携帯電話の使用、私語）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回授業の冒頭で小テストを行うので、前回の講義内容を復習して臨むこと。また、小テストで正答率60%未満の学生に対しては補講を行うので、小テスト内容を復習したうえで出席すること。

■オフィスアワー

木曜日16時～17時は随時（変更時は掲示する）その他の曜日については要予約

■評価方法

筆記試験（客観）100%

■教科書

藤縄理編：シンプル理学療法学シリーズ 運動学テキスト. 南江堂. 2010

■参考書

野村巖編：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学第3版 医学書院

中村隆一：基礎運動学第6版 医学書院

科目名	臨床運動学実習	担当教員 (単位認定者)	柴 ひとみ	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目 解剖学、生理学、運動学、力学の知識を必要とする。	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	臨床運動学実習				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

身体の構造を理解しながら、健全なヒトの動作を運動学的に説明できることを目的とする。また、理学療法の場面で使用される機器について知識を得ることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①姿勢を体位や構えで説明することができる。
- ②立ち上がり動作を運動学的に説明することができる列挙できる。
- ③腕立て伏せ動作を運動学的に説明し、運動時の筋収縮様態を答えることができる。
- ④起き上がり動作を運動学的に説明することができる。
- ⑤寝返り動作を運動学的に説明することができる。

■授業の概要

授業を通し、理学療法士として治療の対象となる機能障害を把握するうえで必要な正常なヒトの体のしくみについて興味を持つことが重要である。自らの体を使って各動作を理解し、運動の特徴を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、姿勢、座位バランス	
第2回	立位バランス	レポート
第3回	スクワット動作	
第4回	立ち上がり動作①	
第5回	立ち上がり動作②	レポート
第6回	腕立て伏せ動作①	
第7回	腕立て伏せ動作②：筋電図	
第8回	腕立て伏せ動作②：筋電図	レポート
第9回	起き上がり動作①	
第10回	起き上がり動作②	
第11回	寝返り動作	レポート
第12回	正常歩行の観察	
第13回	歩行：三次元動作解析演習①	
第14回	歩行：三次元動作解析演習②	レポート
第15回	階段と踏み台昇降について	

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・運動学が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず学習すること。
- ・実習については学校指定ジャージを着用すること

〔受講のルール〕

- ・授業概要を必ず確認し理解を深めるよう積極的に授業に臨むこと。
- ・類似したレポートは受け付けない。
- ・授業の流れや雰囲気や迷惑行為(携帯電話の使用、私語)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

重心動揺計や筋電図、三次元動作解析装置を用いて実習を行うが、授業内で終わることができない場合、授業時間外で行うこととする。

■オフィスアワー

木曜日 16 時～ 17 時は随時(変更時は掲示する)その他の曜日については要予約

■評価方法

筆記試験(客観)70%、レポート(30%) 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

藤縄理編: シンプル理学療法学シリーズ 運動学テキスト. 南江堂. 2010

■参考書

河元岩男編: シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト 南江堂
高橋正明: 臨床動作分析 医学書院

科目名	人間発達学	担当教員 (単位認定者)	北爪 浩美	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必須		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能および心身の発達」			
キーワード	人間発達				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

ヒトの神経系の発達と運動発達、認知・精神機能及び社会性の発達を学び、リハビリテーションに携わるものとしてQOLの視点から対象者の発達区分や状況に応じた対応ができるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①発達の諸段階と発達課題について説明できる。
- ②ヒトの発達における身体、認知機能の発達について理解し、説明することができる。
- ③心理、社会生活活動の発達について理解し、説明することができる。
- ④育ちを支える社会機構について理解し、説明することができる。

■授業の概要

ヒトの発達は脳を中心とする神経系の発達と外部からの情報を入力することでなされ、様々な機能や行動を学習し成熟する。発達を理解することでリハビリテーションにおける対象者の状況や目標を適切に把握するため、発達過程や発達課題について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	人間発達の理念、胎芽、胎児期の発達
第2回	乳児期の発達、原始反射、姿勢反射
第3回	乳児期の反射、神経系の発達
第4回	乳児期の発達(3～7か月)、原始反射、反応
第5回	乳児期及び幼児期の発達、反射反応と運動発達の関係
第6回	学童期の発達
第7回	青年期、成人樹の発達
第8回	高齢期の発達

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・毎回、講義開始時に小テストを実施する。小テストは評価の対象となるため欠席しないこと。
- ・授業で配布する資料の予備は保管しないため、欠席した場合は出席者からコピーすること。
- ・授業の流れや雰囲気等を乱す行為、常識を欠く行為(私語、携帯電話の使用など)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

火曜日 16:30～17:30 は随時(変更の場合は掲示する)。その他は要相談。

■評価方法

筆記試験 70%、小テスト 30%
総合評価は筆記試験 60%を超えていることが条件となる。

■教科書

福田恵美子編:コメディカルのための専門基礎テキスト 人間発達学 2版. 中外医学社. 2009

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	病理学概論	担当教員 (単位認定者)	前島 俊孝	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係わる必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	病因、病態				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

病理学的な用語の定義、様々な疾患の発生機序や病態について学び、理解することを目的とする。

[到達目標]

- ・病理学関連の用語を理解し、正しく説明できる。
- ・基本的な疾患の病態について説明できる。

■授業の概要

細胞障害、循環障害、先天異常、炎症・免疫・感染症、腫瘍、代謝異常などを学び、様々な疾病の成り立ち・病態が理解できるよう解説する。病理学概論の内容は、将来医療スタッフとして働いていく上で必要不可欠な知識であり、その理解なしには医学書を読むことも不可能である。覚えることが多いが、できるだけ考えることを重視した講義を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	解剖学の復習
第 3 回	病因・細胞傷害
第 4 回	細胞障害
第 5 回	循環障害 I
第 6 回	循環障害 II
第 7 回	炎症
第 8 回	免疫、アレルギー
第 9 回	腫瘍 I
第 10 回	腫瘍 II
第 11 回	腫瘍 III
第 12 回	代謝異常、糖尿病
第 13 回	感染症
第 14 回	先天異常
第 15 回	まとめ・補足

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・春休みに解剖学全般の復習をして、病理学概論の講義に望んで欲しい。
- ・机の隣同士 2 人で相談し、毎時間、病理学と解剖学の教科書を 1 冊ずつ用意すること。
- ・病理学概論の講義では授業中の質問に対して「わからない」は禁句である。試験ではないので、教科書等で調べたり、周り人と相談するなどして何らかの答えを導き出すように。
- ・時間厳守であるが、もし遅刻した場合やトイレ等で退室する際などは、授業の妨げとならないよう静かに行動すること。
- ・新聞やテレビなどのニュース、特に医療・医学に関する内容に興味を持つ。
- ・読書の習慣を身につける。

■授業時間外学習にかかわる情報

特に予習の必要はないが、授業で扱った内容について、必ずその週のうちに教科書を読み復習すること。

■オフィスアワー

講義の前後。それ以外は E-mail (t.maejima@nagano-hosp.go.jp) で。

■評価方法

筆記試験 (客観・論述) 100%

■教科書

新クイックマスター 病理学 (堤 寛 監修、医学芸術社)

■参考書

解剖学の教科書 (病理学概論の講義でも使用する)

科目名	臨床心理学	担当教員 (単位認定者)	橋本 広信	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	精神分析、分析心理学、対象関係論、交流分析、認知行動療法、クライアント中心療法、自律訓練法、芸術療法、森田療法、内観療法、SST他				

■授業の目的・到達目標

臨床心理学領域における国家試験問題に対処できる基礎知識を習得する。また、集団としての人ではなく、独自の存在として生きる一人ひとりの人が、人生の途上で出会う心の問題に対する見方を深め、多面的に理解し、その対処のあり方をイメージできることを目的とする。

■授業の概要

主として心理療法の理論と実際について、その基本を学ぶ。臨床心理学は、様々に異なる考え方にに基づき成立している。それらはすべて個人の心や行動の変容を目指す。それぞれの理論によって、目指すところも、そこに近づくための手段も大きく異なってくる。そうした違いを理解することにより、「人の心が回復する」ということについての考えを深めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション セラピストは何をするのか(心理療法の進め方)
第2回	精神分析の理論と技法① フロイトの無意識の発見、心の局所論
第3回	精神分析の理論と技法② フロイトの心の構造論と防衛機制、精神分析療法の流れ
第4回	心の探求のその後① C.G. ユングと分析心理学
第5回	心の探求のその後② フロイト理論の発展と修正
第6回	人間関係を分析する 交流分析
第7回	クライアントを尊重する クライアント中心療法
第8回	身体をリラックスさせる 自律訓練法他
第9回	適切な行動を再学習する 行動療法
第10回	思いこみを修正する 認知行動療法
第11回	自己を表現して癒す 芸術・表現療法
第12回	日本で生まれた心理療法(1) 森田療法
第13回	日本で生まれた心理療法(2) 内観療法
第14回	モレノの心理劇およびSST(生活技能訓練)
第15回	個人の悩みを家族で解決する 家族療法

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・国家試験に関連する科目である。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用等)は退席を命じます。その場合は欠席扱いとします。
- ・評価方法にある通り、5回程度小レポートや感想文を課します。それぞれ評価の対象になりますので、必ず提出してください。

■授業時間外学習にかかわる情報

シラバスで指示する内容について取り組むこと。

■オフィスアワー

基本的に授業後の休憩時間としますので、声をかけてください。

■評価方法

- ・総合評価は、以下の通りの割合で、評価。総合得点 60～69点:C 70～79:B 80～89:A 90点以上:S
- ・期末試験 70%、小レポート・感想文等提出物 30%(30÷提出回(予定5回)=1提出物得点(1回6点)満点)※提出により加点

■教科書

やさしく学べる心理療法の基礎(2003)窪内節子・吉武光世著 培風館

■参考書

適宜指示

科目名	一般臨床医学	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修 社会福祉主事任用資格指定科目		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	生活習慣病、がん、感染症、生殖、移植				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

その病気がなぜ起こり、体の中でどのような異常が起こっているのか、そしてその状態を改善するためにはどのような方法をとればいいのかを、簡潔かつ的確に述べられることを目標とする。

〔到達目標〕

- ①各種疾患の症状や障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。
- ②疾患診断にあたっての代表的な手法や主要な治療方法、予後について説明できる。

■授業の概要

将来、医療の世界で活躍してゆく者にとって必要な医学の知識を、白紙の状態である君たちに、出来る限りわかりやすく、平易に伝えてゆく。人体を構成する各臓器の単位で、まずは構造(解剖)機能(生理)を学習し、ついでその破綻(病理)とその修復(治療)を、君たちが将来必ず直面する疾患に焦点を絞って解説する。1年次で並行して学習する、解剖学、生理学、生化学に役立ち、2年次で学習する病理学、内科学に直結する内容となるよう配慮している。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	・授業オリエンテーション・医学とは? 医学の歴史、医学の分類、医療の約束事(ルール)、生命の基本構造(細胞、組織、血液)
第2回	生命維持のしくみ I 細胞、組織、血液、心臓、血管
第3回	生活習慣病I 動脈硬化のメカニズム(高血圧症)
第4回	生活習慣病II 動脈硬化のメカニズム(糖尿病、脂質異常症、メタボリック症候群)
第5回	生活習慣病III 動脈硬化の末路(脳血管障害)
第6回	生活習慣病IV 動脈硬化の末路(狭心症・心筋梗塞)
第7回	生命維持のしくみ II 呼吸器(口腔、鼻咽腔、気管、肺)
第8回	小テスト①(第1講から第6講までの範囲)、呼吸器の障害:炎症、閉塞性肺疾患、拘束性肺疾患、たばこの問題
第9回	細胞の暴走=がん:がんとは?がんの問題点、治療方法
第10回	生命維持のしくみ III 消化器(消化管、腹腔内臓器)
第11回	消化器の障害:消化管のがん、潰瘍、肝炎
第12回	生命維持のしくみ IV 生体防御、免疫
第13回	小テスト②(第7講から第11講までの範囲)、感染症
第14回	次世代につなぐ命I:生殖(妊娠、不妊症)
第15回	次世代につなぐ命II:臓器移植、細胞移植

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。

テキストはなく、授業時に配布する資料がテキストとなる。授業はハイスピードで進む。高校の授業とは違うことを認識すること。そのためには、KeyWordsを参照しながら、授業に集中することが要求される。そして、授業終了後にKeyWordsの指示事項を整理記憶することが必須である。この作業ができない者は、将来、患者さんからの情報を収集、分析することはできない。なお配布資料については、朝のホームルーム前に週番が講師室に受け取りに来て、責任を持ってクラスの全員に配布すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

第1回の授業で配布するKeywordに従って、要点を整理してゆくこと。A4のノートの左側にKeywordを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を記載してゆくこと。復習が重要となる。

■オフィスアワー

木曜日の授業終了後

■評価方法

評価配分は、期末試験60%、小テスト①20%、小テスト②20%、とする。但し、期末試験で60%以上の得点を得る事が、成績評価の大前提であり、期末試験で60%の得点を得られない者は、不合格となる。また期末テストで60%の得点を得ても、小テストの結果を加味した総合評価で60%を越えない者は、不合格となる。テストは、すべて文章中の空欄補充形式で行う。

■教科書

広範囲な内容にふさわしい適切なテキストがないため、特に指定しない。授業で配布するプリントの蓄積がテキストとなる。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	リハビリテーション医学	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修 社会福祉主事任用資格指定科目		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	廃用症候群、運動器リハ、脳神経リハ、心臓リハ、呼吸器リハ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

第4の医学といわれるリハビリテーション医学の成り立ち、背景を理解し、対象とする疾患の病態生理ならびに解決方法を、簡潔にかつ的確に述べられること

〔到達目標〕

- ①痛みや機能障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。②診断にあたっての手順とその所見が説明できる。
③治療方法の根拠と手順が説明できる。④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。

■授業の概要

2年次以降に展開される、専門科目や実習で必要となるリハビリテーション医学の内容は、広範囲にわたり、膨大な知識が必要となる。授業では、各項目について要点のみ簡潔に解説し、身についた知識が幹となり、2年次以降に学習する各専門科目に花開き、国家試験ならびに将来の現場で実を結ぶように配慮している。テキストは、基礎医学、臨床医学を学習している事が前提に記載されており、難解であり、予習は不可能である。未学習分野をプリントやビデオで補い、基礎的などころから疾患の病態に入り、その疾患に対するリハビリテーションの実際を重要点に絞って解説する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、リハビリテーション医学総論I(歴史、理念、位置づけ、評価)
第2回	リハビリテーション医学総論II(医療経済学)
第3回	リハビリテーション医学総論III(評価、廃用症候群)
第4回	運動器リハビリテーションI(骨疾患、骨折)
第5回	運動器リハビリテーションII(関節疾患1)
第6回	運動器リハビリテーションIII(関節疾患2)
第7回	小テスト①(第1回から6回までの内容)運動器リハビリテーションIV(腰痛、頸肩腕痛)
第8回	運動器リハビリテーションV(スポーツ外傷障害、複合性局所疼痛症候群)
第9回	脳神経リハビリテーションI(脳血管障害の病態、急性期リハビリテーション)
第10回	脳神経リハビリテーションII(脳血管障害の回復期、維持期のリハビリテーション)
第11回	脳神経リハビリテーションIII(頭部外傷、高次脳機能障害)
第12回	小テスト②(第6回から10回までの内容)、脳神経リハビリテーションIV(認知症)
第13回	脳血管障害V(神経変性疾患)
第14回	内科領域のリハビリテーションI(心臓リハビリテーション、生活習慣病、内部障害のリハビリテーション)
第15回	呼吸器リハビリテーション

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。

Keywordに基づき、集中して授業を聞き取ることが必須となる。自分の授業前の作業が、的確であったか否かの確認となる。さらに派生する重要事項も吸収することが必要で、1時間半の集中を要求する。

■授業時間外学習にかかわる情報

第1回の授業で配布するKeywordに従って、教科書で重要点を予習しておくこと。A4のノートの左側にKeywordを短冊状に切って貼り付け、右側のページに指定内容を記載しておく。授業でその内容を確認して、さらに追加内容を復習すること。

■オフィスアワー

木曜日の授業終了後の休憩時間

■評価方法

評価配分は、期末試験60%、小テスト①20%、小テスト②20%とする。但し、期末試験で60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提であり、期末試験で60%の得点を得られない者は、不合格となる。また期末テストで60%の得点を得ても、小テストの結果を加味した総合評価で60%を越えない者も、不合格となる。なお小テストについては、欠席の場合は0点となるので、日頃の健康管理も重要となることに注意されたい。なお、小テスト、期末テストともに、文章中の空欄補充形式で出題する。

■教科書

最新リハビリテーション医学 米本 恭三 監修 医歯薬出版株式会社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	内科・老年医学Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	内科診断学、症候学、循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

目の前の患者さん、利用者さんの持っている内科的疾患に対して、その病態、治療内容、起こりうる合併症が把握、理解できるようになることである。到達目標は、内科学領域の国家試験問題を、自信をもってその正答と理由を述べられるようになることである。

〔到達目標〕

- ①メカニズムを病態生理学的に説明できる。
- ②診断にあたっての手順とその根拠が説明できる。
- ③治療方法の根拠と手順が説明できる。
- ④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。

■授業の概要

臨床医学の根幹をなす内科学について、各臓器別に、解剖学、生理学的知識を再確認しながら、疾患の病態生理、検査方法、治療方法を学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	科目オリエンテーション、内科学の概念 症候学Ⅰ
第 2 回	症候学Ⅱ
第 3 回	循環器Ⅰ
第 4 回	循環器Ⅱ
第 5 回	循環器Ⅲ
第 6 回	循環器Ⅳ
第 7 回	呼吸器Ⅰ
第 8 回	小テスト①、呼吸器Ⅱ
第 9 回	呼吸器Ⅲ
第 10 回	呼吸器Ⅳ
第 11 回	消化器Ⅰ
第 12 回	小テスト②、消化器Ⅱ
第 13 回	肝 胆 膵 Ⅰ
第 14 回	肝 胆 膵 Ⅱ
第 15 回	肝 胆 膵 Ⅲ

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。

チェックシート以外の重要点も随時強調する。神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1 時間半の集中を要求する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業で配布するチェックシートに従って、学習する。A4 のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、自宅で問題演習と併せ復習を行う。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

前期期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績判定の前提条件である。60%以下であれば不合格である。60%以上を得点した上で、学期中に 2 回行なう小テストの点数を $20\% \times 2 = 40\%$ 、期末テストの点数を 60% に換算した合計点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しないので、欠席のないよう。日頃の健康管理も重要となる。

■教科書

標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 内科学 第 3 版 前田 眞治 他 執筆 医学書院

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	内科・老年医学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	血液疾患、内分泌代謝疾患、腎泌尿器疾患、膠原病、アレルギー疾患、感染症、皮膚科学、老年病				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

目の前の患者さん、利用者さんの持っている内科的疾患に対して、その病態、治療内容、起こりうる合併症が把握、理解できるようになることである。

〔到達目標〕

- ①各種徴候や症状の発生メカニズムを病態生理学的に説明できる。
- ②診断にあたっての手順とその根拠が説明できる。
- ③治療方法の根拠と手順が説明できる。
- ④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。

■授業の概要

臨床医学の根幹をなす内科学を、各臓器別に、解剖学、生理学的知識を再確認しながら、疾患の病態生理、検査方法、治療方法を学習する。後半では、加齢に伴う生体の変化、高齢者特有の疾患の病態生理を重要点に絞り学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	血液 造血器 I
第2回	血液 造血器 II
第3回	代謝
第4回	内分泌 I (総論)
第5回	内分泌 II (各論)
第6回	腎・泌尿器 (I)
第7回	小テスト①、腎、泌尿器 II
第8回	腎、泌尿器 III
第9回	アレルギー疾患
第10回	膠原病
第11回	感染症 I 総論
第12回	感染症 II 各論
第13回	小テスト②、老年学 I (総論)
第14回	老年学 II (高齢者に特徴的な症候と疾患①)
第15回	老年学 III (高齢者に特徴的な症候と疾患②)

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。

チェックシート以外の重要点も随時強調する。神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中を要求する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業で配布するチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、自宅で問題演習と併せ復習を行う。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

後期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績判定の前提条件である。60%以下であれば不合格である。60%以上を得点した上で、学期中に2回行なう小テストの点数を20%×2=40%、期末テストの点数を60%に換算した合計点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しないので、欠席のないよう。日頃の健康管理も重要となる。

■教科書

標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 内科学 第3版 前田 眞治 他 執筆 医学書院
標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 老年学 第3版 大内 尉義 編集 医学書院

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	整形外科学Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	骨疾患、骨折、関節疾患、変形性関節症、関節リウマチ、脊椎疾患、脊髄損傷				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

筋骨格系疾患の痛み、機能障害を訴える患者の体の異常を的確に把握し、その現象（病態生理）をわかりやすく説明できるようになることである。その上で、その異常（痛みや機能障害）を改善するためには、どのような方法をとればよいのか説明できるようになることである。

〔到達目標〕

- ①痛みや機能障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。
- ②診断においての手順とその所見が説明できる。
- ③治療方法の根拠と手順が説明できる。
- ④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。

■授業の概要

運動器（筋、骨格、神経系）の機能障害を対象とする外科学の1分野であるが、外科的手技だけでなく、保存的治療も重要である。理学、作業療法は、保存的治療の主役であり、将来の君たちが治療の主役を担う事となる。リハビリテーション医療においては、必須の科目であり、日常よく遭遇する疾患を重点的に学習し、繰り返し行なう問題演習により、知識の定着を図る。将来君たちが現場に出た時に、迷わず動く事ができる実用的な知識を伝える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、骨Ⅰ：骨の基礎
第2回	骨Ⅱ：骨疾患、骨折総論①
第3回	骨Ⅲ：骨折総論②
第4回	骨Ⅳ：骨折各論① 体幹部の骨折
第5回	骨Ⅴ：骨折各論② 上肢の骨折
第6回	骨Ⅵ：骨折各論③ 下肢の骨折
第7回	関節Ⅰ：関節の基本構造、関節の変形、先天性股関節脱臼
第8回	小テスト①、関節Ⅱ：変形性関節症総論
第9回	関節Ⅲ：変形性関節症各論
第10回	関節Ⅳ：関節リウマチ
第11回	関節Ⅴ：外傷性疾患①
第12回	関節Ⅵ：外傷性疾患②
第13回	小テスト②、脊椎Ⅰ：脊椎の構造、障害部位と神経所見、脊椎疾患①
第14回	脊椎Ⅱ：脊椎疾患②
第15回	脊椎Ⅲ：脊椎疾患③

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。

チェックシート以外の重要点も随時強調する。神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中を要求する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業で配布するチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、自宅で問題演習と併せ復習を行う。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

前期期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績判定の前提条件である。60%以下であれば不合格である。60%以上を得点した上で、学期中に2回行なう小テストの点数を20% X2=40%、期末テストの点数を60%に換算した合計点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しないので、欠席のないよう。日頃の健康管理も重要となる。

■教科書

標準整形外科学 第12版 中村利孝 他編 医学書院
1年次で使用した、リハビリテーション医学（医歯薬出版）も適宜使用する。

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	整形外科学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	末梢神経疾患、神経、筋疾患、骨軟部腫瘍、四肢切断、義肢装具、スポーツ外傷、熱傷				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

筋骨格系疾患の痛み、機能障害を訴える患者の体の異常を的確に把握し、その現象（病態生理）をわかりやすく説明できるようになることである。その上で、その異常（痛みや機能障害）を改善するためには、どのような方法をとればよいのか説明できるようになることである。

〔到達目標〕

- ①痛みや機能障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。
- ②診断にあたっての手順とその所見が説明できる。
- ③治療方法の根拠と手順が説明できる。
- ④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。

■授業の概要

運動器（筋、骨格、神経系）の機能障害を対象とする外科学の1分野であるが、外科の手技だけでなく、保存的治療も重要である。理学、作業療法は、保存的治療の主役であり、将来の君たちが治療の主役を担う事となる。リハビリテーション医療においては、必須の科目であり、日常よく遭遇する疾患を重点的に学習し、繰り返し行なう問題演習により、知識の定着を図る。将来君たちが現場に出た時に、迷わず動く事ができる実用的な知識を伝える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	脊髄損傷 I
第2回	脊髄損傷 II
第3回	脊髄損傷 III
第4回	末梢神経 I
第5回	末梢神経 II
第6回	神経・筋疾患
第7回	小テスト①、骨・軟部腫瘍
第8回	四肢の循環障害と壊死性疾患
第9回	切断および離断と義肢 I
第10回	切断および離断と義肢 II
第11回	切断および離断と義肢 III
第12回	熱傷、手の外科
第13回	小テスト②、スポーツ外傷・障害 I
第14回	スポーツ外傷・障害 II
第15回	整形外科的治療法

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。

チェックシート以外の重要点も随時強調する。神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中を要求する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業で配布するチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、自宅で問題演習と併せ復習を行う。

■オフィスアワー

毎週木曜日、授業終了後

■評価方法

後期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績判定の前提条件である。60%以下であれば不合格である。60%以上を得点した上で、学期中に2回行なう小テストの点数を20% X2=40%、期末テストの点数を60%に換算した合計点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しないので、欠席のないよう。日頃の健康管理も重要となる。

■教科書

標準整形外科学 第12版 中村利孝 他編 医学書院

1年次で使用した、リハビリテーション医学（医歯薬出版）も適宜使用する。

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	神経内科学Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	神宮 俊哉	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾患と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	神経学的診断と評価				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

将来、臨床現場で患者さんを診るときに役立つ知識を身につけるとともに、国家試験に合格するに足る知識を習得すること。

〔到達目標〕

- ①疾患や障害について説明できる。
- ②障害に対してのリハビリテーションを説明できる。
- ③患者・家族の心理を推測できる。
- ④神経学的評価や検査を理解している。

■授業の概要

習得すべき内容を教科書を中心に進める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	障害とリハビリテーションプログラム
第 2 回	中枢神経系の解剖
第 3 回	中枢神経系の機能
第 4 回	神経学的診断と評価Ⅰ
第 5 回	神経学的診断と評価Ⅱ、神経学的検査法Ⅰ
第 6 回	神経学的検査法Ⅱ
第 7 回	意識障害、脳死、植物状態、頭痛、めまい、失神
第 8 回	運動麻痺、錐体路徴候、筋萎縮
第 9 回	錐体外路徴候、不随意運動、運動失調
第 10 回	感覚障害、失語症Ⅰ
第 11 回	失語症Ⅱ
第 12 回	失認
第 13 回	失行
第 14 回	記憶障害、認知症
第 15 回	注意障害、遂行機能障害

■受講生に関わる情報および受講のルール

教科書で十分な内容が網羅されていますので、教科書を忘れないようにしてください。

■授業時間外学習にかかわる情報

医学は進歩します。新聞などのメディアから最新の情報を手に入れて下さい。

■オフィスアワー

授業終了後の 5 分間

■評価方法

期末試験 100%

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学第 3 版 編集川平和美 医学書院

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	神経内科学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	神宮 俊哉	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾患と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	神経学的診断と評価				

■授業の目的・到達目標

将来、臨床現場で患者さんを診るときに役立つ知識を身につけるとともに、国家試験に合格するに足る知識を習得すること。

■授業の概要

習得すべき内容を教科書を中心に進める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	構音障害、嚥下障害
第 2 回	脳神経外科領域の疾患、脳血管障害Ⅰ
第 3 回	脳血管障害Ⅱ
第 4 回	脳血管障害Ⅲ
第 5 回	脳血管障害Ⅳ
第 6 回	脳血管障害Ⅴ
第 7 回	認知症
第 8 回	脳腫瘍、外傷性脳損傷Ⅰ
第 9 回	外傷性脳損傷Ⅱ、脊髄疾患Ⅰ
第 10 回	脊髄疾患Ⅱ
第 11 回	変性疾患、脱髄疾患
第 12 回	錐体外路の変性疾患筋疾患、
第 13 回	末梢神経障害
第 14 回	てんかん、筋疾患
第 15 回	感染性疾患、中毒性疾患、栄養欠乏による疾患、小児疾患、その他

■受講生に関わる情報および受講のルール

教科書で十分な内容が網羅されているので、教科書を忘れないようにすること。

■授業時間外学習にかかわる情報

医学は、進歩する。新聞などのメディアから最新の情報を手に入れること。

■オフィスアワー

授業終了後の 5 分間

■評価方法

期末試験 100%

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学第 3 版 編集川平和美 医学書院

■参考書

なし

科目名	精神医学	担当教員 (単位認定者)	諸川由実代・石関圭	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」			
キーワード	精神障害 ライフサイクル メンタルヘルス 自殺 脆弱性-ストレスモデル ICD-10 DSM-IV-TR インフォームド・コンセント 薬物療法 精神療法 リエゾン精神医学 多職種連携 リハビリテーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

精神障害リハビリテーションに関わる基本的な疾病の知識や評価・診断の方法、治療・援助の方法を理解・説明できることを目的とする。

〔達成目標〕

- ①精神医学の歴史と精神障害者の処遇について理解・説明することができる。
- ②現代社会とストレス・メンタルヘルスの関係性について理解・説明することができる。
- ③“脆弱性-ストレスモデル”に基づいた精神障害の成因について理解・説明することができる。
- ④精神医学において用いられる診断・評価方法の概要について理解・説明することができる。
- ⑤薬物療法や精神療法、リハビリテーションなどの治療法の一般的枠組みについて理解・説明することができる。
- ⑥精神障害リハビリテーションにおける多職種連携の重要性を理解・説明することができる。
- ⑦各疾患における成因や症状、治療を理解・説明することができる。
- ⑧精神障害者が地域生活を送るためのポイントと課題について理解・説明することができる。

■授業の概要

理学・作業療法士は対象者の身体・精神機能を十分把握した上でリハビリテーションを進めなければならない。本授業では、リハビリテーションに必要となる、精神疾患の成因や症状、診断・評価について学ぶ。また、入院から地域生活に移行するためのおおまかな治療・援助の流れと精神障害領域に関わる職種の連携、患者様が地域生活を送るためのポイントや課題を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	オリエンテーション/精神医学とは/精神障害の成因と分類
第2回	精神機能の障害と精神症状
第3回	精神障害の診断と評価
第4回	脳器質性精神障害/てんかん
第5回	症状性精神障害/精神作用物質による精神および行動の障害
第6回	統合失調症およびその関連障害
第7回	気分(感情)障害
第8回	神経症性障害
第9回	生理的障害及び身体的要因に関連した障害
第10回	成人の人格(パーソナリティ)・行動・性の障害
第11回	精神遅滞/心理的発達の障害
第12回	リエゾン精神医学/心身医学
第13回	ライフサイクルにおける精神医学
第14回	精神機能の治療とリハビリテーション
第15回	精神科保健医療と福祉、職業リハビリテーション/社会・文化とメンタルヘルス/授業の振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

極力欠席のないようにし、質問は積極的に授業内で行うようにしてください。

〔受講のルール〕

携帯電話はマナーモードもしくは電源を切り、鞆にしまっておくこと。集中して講義に参加してください。

■授業時間外学習にかかわる情報

より効率的に授業を進めるため、事前に十分予習を行ってこよう。また、授業終了後に復習をすること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

出席率 2/3 以上を試験受験資格とし、筆記試験 100%で判断。

■教科書

上野武治 編:標準理学療法・作業療法学 精神医学(第3版).医学書院,2010

■参考書

上島国利 立山万里 編:精神医学テキスト 改訂第3版.南江堂,2012

科目名	小児科学	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	成長、発育、発達、新生児、未熟児、先天異常、小児の神経筋疾患、				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

出生から成人になるまで、常に成長、発達を遂げる（はずのものが大多数であるが、例外もある）ヒトの、成長、発育、発達の過程をまず理解する。その過程で生じる様々な障害を、リハビリテーション領域に関連の深い、神経、筋骨格系、精神系の疾患を重点的に学習する。そして小児の内科的疾患、外科的疾患、先天異常、遺伝病を学習し、小児におこる様々な問題を理解し、解決できる方法を思考できることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①成長、発育、発達の状態が、正確に評価できる事。
- ②先天異常と遺伝病の概要と各疾患の特徴が説明できること。
- ③神経、筋、骨格系、精神科領域の小児疾患の概要、特徴が説明できること。
- ④小児の内科的疾患の概要が説明できること。

■授業の概要

物言わぬ新生児、乳児、障害を持つ幼児、親の期待に応えようとしてつぶれる学童など、将来の諸君の前には、様々な子供たちが、助けを求めて現われる。そして、その背後には、子供の将来に大いなる不安を抱えた親がいる。目の前の子供に起こっている事を把握し、現状を正確に評価、その子の将来の為に何をなすべきか、さらにはその計画を、子供そして親に、的確に説明し、理解を得る能力が必要とされる。これらのテクニックを中心に、授業を進めてゆく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	科目オリエンテーション、小児科学 概論Ⅰ：小児の成長・発育・発達
第 2 回	小児科学 概論Ⅱ：栄養と摂食、小児保健、小児の診断と治療の概要
第 3 回	新生児・未熟児疾患 Ⅰ
第 4 回	新生児・未熟児疾患 Ⅱ
第 5 回	先天異常と遺伝病
第 6 回	神経・筋・骨系疾患 Ⅰ 中枢神経疾患
第 7 回	神経・筋・骨系疾患 Ⅱ てんかん
第 8 回	神経・筋・骨系疾患 Ⅲ 脳性麻痺
第 9 回	神経・筋・骨系疾患 Ⅳ 知的障害・児童精神障害・脊髄疾患・筋疾患・骨関節疾患
第 10 回	循環器疾患
第 11 回	呼吸器疾患、感染症
第 12 回	消化器疾患、代謝内分泌疾患
第 13 回	血液疾患・免疫・アレルギー・膠原病
第 14 回	腎・泌尿器系、生殖器疾患、腫瘍性疾患
第 15 回	心身医学的疾患・虐待・重症心身障害児・眼科・耳鼻科的疾患

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。

チェックシート以外の重要点も、随時強調するので、神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中！

■授業時間外学習にかかわる情報

授業で配布するチェックシートに従って、要点を整理してゆくこと。A4 のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の作業の妥当性を確認し復習を行う。

■オフィスアワー

木曜日の授業終了後

■評価方法

筆記試験による、期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に 2 回行なう小テストの点数を 40%、期末テストの点数に 60%の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しないので、欠席のないよう。日頃の健康管理も重要となる。

■教科書

標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第 2 版 編集 富田 豊 医学書院

(第 8 および 9 講 神経、筋、骨格系疾患ⅢおよびⅣにおいては、1 年次で使用したリハビリテーション医学のテキストも使用する。)

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	リハビリテーション入門	担当教員 (単位認定者)	三浦 雅文	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	理学療法専攻1年生必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「保健医療とリハビリテーションの理念」			
キーワード	リハビリテーション、ノーマライゼーション、障害受容、インフォームド・コンセント				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

リハビリテーション領域の概要を理解し、基礎的な専門用語がつかえるようになる事を目指す。

〔到達目標〕

- ①リハビリテーションとは何かについて基本的な事がらを説明できる。
- ②各回の講義で学ぶキーワードについて説明でき、実際に使用して論じることができる。
- ③医療従事者としての自分の心構えを述べるができる。
- ④社会人としての常識ある行動をとることができる。

■授業の概要

教科書と必要に応じた教材を用いて医療やリハビリテーション領域の土台となる知識を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	リハビリテーション 理学療法
第2回	信頼について/障害とは
第3回	ノーマライゼーション
第4回	障害受容
第5回	リハビリテーションの諸段階、諸領域
第6回	倫理、功利主義
第7回	インフォームド・コンセント
第8回	リハビリテーションの定義/チームアプローチ

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業で取り扱った内容やそこに出てきたキーワードは漏らさず理解し、今後他の科目で引用する際にわからないことが無いように心がけること。ルールを守るといった社会人としての常識的な考え方も合わせて修得する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

木曜日 16:30 ~ 17:30

■評価方法

客観試験 素点 100%で総合評価とする。

■教科書

入門リハビリテーション概論 中村隆一 編 医歯薬出版

■参考書

リハビリテーション 砂原 茂一 岩波新書

科目名	保健医療福祉論	担当教員 (単位認定者)	大竹 勤	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	理学療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「保健医療とリハビリテーションの理念」			
キーワード	対人援助技術、コミュニケーションスキル、ライフサイクル、社会保障				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

医療福祉従事者に必要なソーシャルワークについて学び、実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①ソーシャルワークの意義と目的について理解する。
- ②援助技術の原理原則について理解する。
- ③基本的な援助技法を身につける

■授業の概要

講義や演習を通して、医療従事者に必要な社会福祉の知識や援助技術の実際について学ぶ。援助技術は「人の生活を支える」重要な技術であり、そのために必要な支援の方法を考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、自己紹介カード
第2回	障害者の理解、ある筋ジス患者の自立
第3回	対人援助技術の原則
第4回	コミュニケーションスキルを磨こう
第5回	合意するということ
第6回	ライフサイクルと社会保障
第7回	ライフサイクルと社会保障②
第8回	援助の基本原則 まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

対人援助サービスに携わる者としての視点で授業に参加すること。

8回の授業なので、欠席が3回以上になると単位認定はできなくなるので注意すること。

演習には積極的に参加すること。授業の流れに反した行動を取る場合には履修しないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

100%筆記試験(レポート試験)による。ただし、宿題や授業中に課すレポートやミニテストの提出状況で加点・減点することがある。

■教科書

授業中に指示する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	公衆衛生学	担当教員 (単位認定者)	大竹 一男	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る選択		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「保健医療とリハビリテーションの理念」			
キーワード	生活単位、家族、ライフスタイル、疫学、母子保健、地球環境				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

公衆衛生の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持・増進し、人々に十分な発育を遂げさせ、肉体的・精神的能力を完全に発揮させることである。臨床医学が病気になる個人を対象にしているのに対し、公衆衛生学は個人、家族、地域社会及び国民の健康の総和を指標として、疾病のみならずすべての健康からの偏りの予防、コントロール、治療のみでなく、積極的な意味での健康の達成を目的としている。従って、単なる治療医学ではなく、予防医学さらには社会における医療制度施設など社会の健康水準を保持・増進するのに必要な社会医学も含まれる。

[到達目標]

- ①人々の基本的生活と人間のあり方、健康と公衆衛生、健康指標と予防、生活環境の保全について学習するとともに、最新データを自らが読み解き、日本が抱える課題・問題等を発見することができる。
- ②専門医療職に従事することを念頭に、クライアントに対して公衆衛生学の領域に関して適切なアドバイスをすることができる。

■授業の概要

人々の基本的生活と人間のあり方、健康と公衆衛生、健康指標と予防、生活環境の保全について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	生活単位、家庭生活の基本機能、生活の場と健康について学ぶ
第2回	家族の機能と役割、ライフスタイルの変化、生活習慣の確立、人間の集団としての働きを学ぶ
第3回	公衆衛生の概念、健康と環境について学ぶ
第4回	疫学的方法による健康の理解について学ぶ
第5回	人口静態と人口動態、疾病統計について学ぶ
第6回	母子保健統計について学ぶ
第7回	地球環境、水・空気・土壌、食品管理及び家庭用品について学ぶ
第8回	ごみ、廃棄物、住環境について学ぶ

■受講生に関わる情報および受講のルール

配布プリントに最新の政府発表のデータのURLを紹介するので、予習・復習に役立ててください。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

みるみるナーシング最新版

■参考書

授業内で適宜紹介する。

3) 專門科目

科目名	理学療法概論	担当教員 (単位認定者)	小島 俊文	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎理学療法学」			
キーワード	理学療法、リハビリテーション、理学療法士法、運動療法、物理療法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

理学療法に関して、歴史・法律・理学療法対象・理学療法手技・倫理・活動分野等、様々な観点より理学療法を捉えることにより、理学療法の概要について知る。

〔到達目標〕

- ①リハビリテーション医療における位置付けおよび理学療法発展の歴史について説明できる。
- ②理学療法士及び作業療法士法について説明できる。
- ③理学療法士の活動分野と概略について説明できる。
- ④理学療法の対象者と疾患について説明できる。
- ⑤理学療法の治療までの流れと理学療法の手段について説明できる。
- ⑥リハビリテーションチームと理学療法部門の管理について説明できる。

■授業の概要

15回に及び講義中心の授業である。毎回ごとに主たるテーマを決め、そのテーマにそって授業を展開する。第2回以降、授業冒頭にミニテストを行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション・理学療法の歴史と法律
第2回	リハビリテーションと理学療法
第3回	理学療法の対象
第4回	理学療法の治療手段
第5回	リハビリテーションチームと理学療法部門
第6回	理学療法士の活動分野
第7回	医療事故と理学療法 感染予防
第8回	理学療法に関連する各法律
第9回	理学療法における障害のとりえ方
第10回	理学療法と評価
第11回	運動療法と関連機器
第12回	物理療法と関連機器
第13回	理学療法と義肢装具
第14回	理学療法と日常生活活動
第15回	理学療法士を目指す学生に求められるもの

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生にかかわる情報〕および〔受講のルール〕

- ・授業中の居眠りや、他の学生に迷惑となるような行為は厳に慎むこと。たび重なる注意を与えても改善が見られない場合は、退室してもらう場合がある。
- ・授業中にとったノートを提出すること。ただしノートはその日のうちに返却する。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回の復習を怠らないこと。

■オフィスアワー

月～金 17:00～

■評価方法

筆記試験(客観・論述)100%

■教科書

教科書の設定なし

■参考書

理学療法概論 奈良 勲編 医歯薬出版
理学療法学概論 監修 千住 秀明

科目名	理学療法セミナーⅠ	担当教員 (単位認定者)	小島・柴・三浦 多田・新谷・浅川	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎理学療法学」			
キーワード	評価プロセス、面接技法、検査技法、観察技法、統合と解釈、問題点の抽出				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

臨床実習開始にあたり、ケーススタディーを中心としたクリニカルリーズニングについて学ぶ。

〔到達目標〕

各ケースにおける必要な理学療法評価項目を選択することができる。

評価結果より障害の構造を明らかにし問題点をICFの基準に従い抽出できる。

問題点に対するプログラムを設定することができる。

各期におけるゴールが設定できる。

■授業の概要

グループワークやケーススタディーを通して各疾患における理学療法全般の流れについて理解を深める授業となる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	グループ学習
第2回	グループ学習
第3回	グループ学習
第4回	グループ学習
第5回	グループ学習
第6回	グループ学習
第7回	グループ学習
第8回	グループ学習
第9回	グループ学習
第10回	グループ学習
第11回	グループ学習
第12回	グループ学習
第13回	グループ学習
第14回	グループ学習
第15回	グループ学習

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・実技を行うときは白衣着用のこと。

〔受講のルール〕

・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたうえで受講すること。また、時間の厳守と、報告・相談・連絡を怠らないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

既に履修した各検査測定項目の意義を復習し、各自で技術のレベルアップを図るために練習するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

レポート 100%

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	理学療法セミナーⅡ	担当教員 (単位認定者)	小島・柴・三浦 多田・新谷・浅川	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎理学療法学」			
キーワード	評価プロセス、面接技法、検査技法、観察技法、統合と解釈、問題点の抽出				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

臨床実習開始にあたり、ケーススタディーを中心としたクリニカルリーズニングについて学ぶ。

〔到達目標〕

各ケースにおける必要な理学療法評価項目を選択することができる。

評価結果より障害の構造を明らかにし問題点をICFの基準に従い抽出できる。

問題点に対するプログラムを設定することができる。

各期におけるゴールが設定できる。

■授業の概要

グループワークやケーススタディーを通して各疾患における理学療法全般の流れについて理解を深める授業となる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	グループ学習
第2回	グループ学習
第3回	グループ学習
第4回	グループ学習
第5回	グループ学習
第6回	グループ学習
第7回	グループ学習
第8回	グループ学習
第9回	グループ学習
第10回	グループ学習
第11回	グループ学習
第12回	グループ学習
第13回	グループ学習
第14回	グループ学習
第15回	グループ学習

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・実技を行うときは白衣着用のこと。

〔受講のルール〕

・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたうえで受講すること。また、時間の厳守と、報告・相談・連絡を怠らないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

既に履修した各検査測定項目の意義を復習し、各自で技術のレベルアップを図るために練習するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

レポート 100%

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	理学療法評価学Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	多田 菊代	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法評価学」			
キーワード	評価プロセス、面接技法、観察技法、検査技法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

理学療法評価の基本的な考え方・枠組み、基本的な検査項目を学び、実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①評価の意味、評価の対象、評価の手段を理解できる。
- ②基本的な面接・観察技法を身につける。
- ③基本的な検査手技を自己学習により正確に行えるようになる。
- ④それぞれの検査の目的や利用法についての基本的知識を得る。

■授業の概要

対象者が持つ身体的機能面から全生活場面までをみて症状や障害を把握し、その回復の方策を探ることが「評価」の目的である。理学療法における評価のプロセス（トップダウンアプローチ、ボトムアップアプローチ）を学び、ついで各検査項目について説明していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	科目オリエンテーション、理学療法評価総論（評価の目的、意義、方法、流れ）
第 2 回	情報収集、面接技法について 全身状態のみかた（観察で何をみるのか、検査で何をみるのか、意識、脈拍、血圧、呼吸）
第 3 回	形態計測：四肢長、周径①
第 4 回	形態計測：四肢長、周径②
第 5 回	関節可動域検査①
第 6 回	関節可動域検査②
第 7 回	関節可動域検査③
第 8 回	反射：腱反射、表在反射、病的反射①
第 9 回	反射：腱反射、表在反射、病的反射②
第 10 回	感覚検査①
第 11 回	感覚検査②
第 12 回	協調性検査①
第 13 回	協調性検査②
第 14 回	筋緊張検査①
第 15 回	筋緊張検査②

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ①白衣着用
- ②予習復習は必ず行うこと。

〔受講のルール〕

- ①授業概要を確認し積極的に臨むこと。
- ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。
- ③授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

実技の見極めテストを実施することがある。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

細田多穂監修：理学療法評価学テキスト シンプル理学療法学シリーズ、南江堂、2010

■参考書

随時紹介する。

科目名	理学療法評価学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	多田 菊代	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法評価学」			
キーワード	評価プロセス, 面接技法, 観察技法, 検査技法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

理学療法評価の基本的な考え方・枠組み、基本的な検査項目を学び、実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①評価の意味、評価の対象、評価の手段を理解できる。
- ②基本的な面接・観察技法を身につける。
- ③基本的な検査手技を自己学習により正確に行えるようになる。
- ④それぞれの検査の目的や利用法についての基本的知識を得る。

■授業の概要

対象者が持つ身体的機能面から全生活場面までをみて症状や障害を把握し、その回復の方策を探ることが「評価」の目的である。理学療法評価学Ⅰで学んだ評価の目的、意義、方法、流れを基軸としつつ、各種検査方法について学んでいく

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	科目オリエンテーション、理学療法評価の組み立て、進め方
第 2 回	徒手筋力検査 (MMT) 上肢
第 3 回	徒手筋力検査 (MMT) 下肢
第 4 回	徒手筋力検査 (MMT) その他の部位
第 5 回	ADL・QOL 評価①
第 6 回	ADL・QOL 評価②
第 7 回	意識障害・高次脳機能・精神機能検査・脳神経検査①
第 8 回	意識障害・高次脳機能・精神機能検査・脳神経検査②
第 9 回	片麻痺機能検査①
第 10 回	片麻痺機能検査②
第 11 回	片麻痺機能検査③
第 12 回	運動失調症の検査方法
第 13 回	バランス検査①
第 14 回	バランス検査②
第 15 回	バランス検査③

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ①白衣着用
- ②予習復習は必ず行うこと。

〔受講のルール〕

- ①授業概要を確認し積極的に臨むこと。
- ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。
- ③授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

実技の見極めテストを実施することがある。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

細田多穂監修：理学療法評価学テキスト シンプル理学療法学シリーズ、南江堂、2010

■参考書

随時紹介する。

科目名	理学療法評価学実習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	多田 菊代	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法評価学」			
キーワード	評価プロセス, 面接技法, 観察技法, 検査技法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

理学療法評価の基本的な考え方・枠組み、基本的な検査項目を学び、実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①評価の意味、評価の対象、評価の手段を理解できる。
- ②基本的な面接・観察技法を身につける。
- ③基本的な検査手技を自己学習により正確に行えるようになる。
- ④それぞれの検査の目的や利用法についての基本的知識を得る。

■授業の概要

対象者が持つ身体的機能面から全生活場面までをみて症状や障害を把握し、その回復の方策を探ることが「評価」の目的である。理学療法における評価のプロセス（トップダウンアプローチ、ボトムアップアプローチ）を学び、ついで各検査項目について説明していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	科目オリエンテーション、理学療法評価総論（評価の目的、意義、方法、流れ）
第 2 回	情報収集、面接技法について 全身状態のみかた（観察で何をみるのか、検査で何をみるのか、意識、脈拍、血圧、呼吸）
第 3 回	形態計測：四肢長、周径①
第 4 回	形態計測：四肢長、周径②
第 5 回	関節可動域検査①
第 6 回	関節可動域検査②
第 7 回	関節可動域検査③
第 8 回	反射：腱反射、表在反射、病的反射①
第 9 回	反射：腱反射、表在反射、病的反射②
第 10 回	感覚検査①
第 11 回	感覚検査②
第 12 回	協調性検査①
第 13 回	協調性検査②
第 14 回	筋緊張検査①
第 15 回	筋緊張検査②

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ①白衣着用
- ②予習復習は必ず行うこと。

〔受講のルール〕

- ①授業概要を確認し積極的に臨むこと。
- ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。
- ③授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

実技の見極めテストを実施することがある。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

実技試験 100%

■教科書

細田多穂監修：理学療法評価学テキスト シンプル理学療法学シリーズ、南江堂、2010

■参考書

随時紹介する。

科目名	理学療法評価学実習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	多田 菊代	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法評価学」			
キーワード	評価プロセス, 面接技法, 観察技法, 検査技法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

理学療法評価の基本的な考え方・枠組み、基本的な検査項目を学び、実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①評価の意味、評価の対象、評価の手段を理解できる。
- ②基本的な面接・観察技法を身につける。
- ③基本的な検査手技を自己学習により正確に行えるようになる。
- ④それぞれの検査の目的や利用法についての基本的知識を得る。

■授業の概要

対象者が持つ身体的機能面から全生活場面までをみて症状や障害を把握し、その回復の方策を探ることが「評価」の目的である。理学療法評価学Ⅰで学んだ評価の目的、意義、方法、流れを基軸をしつつ、各種検査方法について学んでいく

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	科目オリエンテーション、理学療法評価の組み立て、進め方
第 2 回	徒手筋力検査 (MMT) 上肢
第 3 回	徒手筋力検査 (MMT) 下肢
第 4 回	徒手筋力検査 (MMT) その他の部位
第 5 回	ADL・QOL 評価①
第 6 回	ADL・QOL 評価②
第 7 回	意識障害・高次脳機能・精神機能検査・脳神経検査①
第 8 回	意識障害・高次脳機能・精神機能検査・脳神経検査②
第 9 回	片麻痺機能検査①
第 10 回	片麻痺機能検査②
第 11 回	片麻痺機能検査③
第 12 回	運動失調症の検査方法
第 13 回	バランス検査①
第 14 回	バランス検査②
第 15 回	バランス検査③

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ①白衣着用
- ②予習復習は必ず行うこと。

〔受講のルール〕

- ①授業概要を確認し積極的に臨むこと。
- ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。
- ③授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

実技の見極めテストを実施することがある。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

実技試験 100%

■教科書

細田多穂監修：理学療法評価学テキスト シンプル理学療法学シリーズ、南江堂、2010

■参考書

随時紹介する。

科目名	運動療法学Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	新谷 益巳	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻 2 年次必修科目 運動学の知識が必要	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	関節運動、筋運動、持久力、協調運動				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

運動療法の基本的な考え方、様々な手段についての方法を学び、運動療法学実習につながる知識を学ぶことを目的とする。

[到達目標]

- ①運動療法の意味を説明できる。
- ②運動療法の種類について説明できる。
- ③運動療法の効果について説明できる。

■授業の概要

理学療法を実施するにあたり、治療手段の一つに運動療法がある。臨床の場面では、使用頻度が高く、実践的な治療を行う上で基礎となるものである。運動療法Ⅰでは、基本的な考え方を理解する必要がある、Ⅱ・Ⅲまたは運動療法実習の土台となるものである。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	運動療法とは（定義・歴史・目的・対象）
第 2 回	運動療法の必要性と効果、順序、トレーニングの基礎的原理
第 3 回	トレーニングの原理と、関節可動域練習
第 4 回	筋の機能と障害について
第 5 回	筋力増強運動（目的、効果、基本原則について）
第 6 回	筋力増強運動（影響を及ぼす因子、各種方法論）
第 7 回	神経再教育について
第 8 回	筋持久力訓練について
第 9 回	全身調整訓練 -運動と循環-
第 10 回	運動とエネルギー代謝
第 11 回	全身調整訓練 -運動と代謝-
第 12 回	協調性訓練
第 13 回	日常生活活動学：日常生活活動の概念
第 14 回	日常生活活動学：各 ADL 動作の構成要素
第 15 回	日常生活活動学：立ち上がり・移乗動作

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

授業中携帯電話の電源は切り、使用しないこと。各種障がいのために携帯電話が必要な場合は申し出ること。

[受講ルール]

- ・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

基本的に授業前後の休憩時間とする。要予約。

■評価方法

筆記試験（客観）100%とする。60 点未満の場合、総合評価の対象としない。再試験：有

■教科書

シンプル理学療法シリーズ 運動療法学テキスト：南江堂、2010 日常生活活動学テキスト：南江堂

■参考書

授業内で随時紹介する。

科目名	運動療法学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	三浦 雅文	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	クリニカルリーズニング、姿勢調節、運動学習、運動制御				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

運動療法を行うために必要な疼痛、姿勢調節、運動学習、運動制御といった理論の概要を学ぶ。これらの知識を基礎として、対象者の障害理解、評価、治療介入などの考察を自ら展開できる能力を身につける。

〔達成目標〕

- ①各理論の概要を説明できる。
- ②各理論に基づいた運動療法の例を複数挙げる。
- ③各理論が理学療法進行のどの部分に活用できるか論じることができる。

■授業の概要

理学療法における治療手段を実行するために理解が不可欠な事項をオムニバス形式で学習する。専門性の高い理学療法治療を進めるために必要となる知識である。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	科目オリエンテーション/疼痛に対する理学療法の概要
第 2 回	疼痛の概論/クリニカルリーズニング
第 3 回	クリニカルリーズニングの概論
第 4 回	クリニカルリーズニング(マネジメント 症例供覧)
第 5 回	姿勢調節(平衡とバランス)
第 6 回	姿勢調節(評価)
第 7 回	姿勢調節(評価とまとめ)
第 8 回	姿勢調節(総括、復習、演習)
第 9 回	運動学習(学習のプロセス)
第 10 回	運動学習(記憶)
第 11 回	運動制御(スキーマ理論の概要)
第 12 回	運動制御(スキーマ理論まとめ)
第 13 回	ダイナミカルシステムズ理論 認知運動療法
第 14 回	課題志向型アプローチの概要
第 15 回	課題指向型アプローチ(まとめ)/総復習(要点整理)

■受講生に関わる情報および受講のルール

専門性の高い内容を扱うので理解し難く、興味を失うと眠くなりやすいが、専門職になるためには避けられない内容なので、気持ちを引き締めて取り組むこと。一度で理解できない者は質問をしたり、繰り返し学習するなど積極的に工夫した取り組みが望まれる。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

木曜日 16:30 ~ 17:30

■評価方法

記述試験 素点 100%で評価する。

■教科書

配布する資料を参考とすること。スライドの内容は流さずに、まめにメモをとること。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	運動療法学Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	多田 菊代	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻3年次必修科目 解剖学、運動学、生理学、一般臨床医学の知識が必要となる。	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	内部障害、循環器疾患、呼吸器疾患、代謝障害、腎機能障害				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

内部障害の定義が説明できると共に、内部障害に対する基本的理学療法の意義と内容を説明できる

〔到達目標〕

- ①内部障害の定義が説明できる
- ②内部障害に対するフィジカルアセスメントについて説明できる
- ③内部障害に対するリスク管理について説明できる
- ④内部障害に対する一般的理学療法プログラムを説明できる

■授業の概要

呼吸・循環・代謝疾患について、病態に関する知識の確認を行うと共にフィジカルアセスメントを学ぶ。また、呼吸・循環・代謝疾患に対する一般的な運動療法について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、内部障害の定義
第2回	呼吸器系の解剖学・生理学・運動学
第3回	呼吸不全の病態と呼吸器疾患
第4回	呼吸機能評価の意義と方法
第5回	呼吸器疾患のフィジカルアセスメント①
第6回	呼吸器疾患のフィジカルアセスメント②
第7回	呼吸理学療法の基本手技
第8回	呼吸器疾患に対する理学療法の実際
第9回	循環器系の解剖学・生理学・運動学
第10回	虚血性心疾患の病態
第11回	心不全の病態
第12回	循環器疾患に対する理学療法の目的・評価・治療
第13回	循環器疾患に対する運動療法
第14回	生活習慣病と理学療法
第15回	糖尿病の治療と理学療法

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ①予習・復習は必須である。

〔受講のルール〕

- ①授業概要を確認し積極的に臨むこと。
- ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。
- ③授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、スマートフォン等の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

実技の見極めテストを実施することがある。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

標準理学療法学 内部障害理学療法学 シリーズ監修：奈良 勲 医学書院

■参考書

随時紹介する。

科目名	運動療法学実習 I	担当教員 (単位認定者)	新谷 益巳	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻 2 年次必修科目 運動療法学 I の知識が必要。	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	関節運動、筋運動、持久力、協調運動				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

運動療法 I を理解した上で、実習を進める。

[到達目標]

- ①運動療法を理解した上で実施することができる。
- ②運動療法を実施する上で注意点を説明できる。
- ③安全に運動療法を実施することができる。

■授業の概要

運動療法学 I で学んだ内容を基に実技を中心に授業を進めていく。また、臨床での注意点やリスク管理などについて解説を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	リラクゼーションテクニック① (ストレスとリラクゼーション、リラクゼーション評価)
第 2 回	リラクゼーションテクニック② (呼吸法、漸増的弛緩法、自律訓練法、ストレッチング、身体運動)
第 3 回	①実技試験 (リラクゼーションテクニックについて)
第 4 回	運動療法による関節可動域の維持と改善① (上肢)
第 5 回	運動療法による関節可動域の維持と改善② (下肢)
第 6 回	②実技試験 (関節可動域の維持と改善について)
第 7 回	運動療法による筋力の維持と増強① (等尺性・等張性・等速性による筋力増強運動)
第 8 回	運動療法による筋力の維持と増強② (等尺性・等張性・等速性による筋力増強運動)
第 9 回	③実技試験 (筋力の維持と増強について)
第 10 回	筋持久力増強運動
第 11 回	感覚・知覚再教育
第 12 回	④実技試験 (筋力持久力増強について)
第 13 回	協調運動・バランス練習① (神経系の機能と障害)
第 14 回	協調運動・バランス練習② (神経系の機能と障害)
第 15 回	⑤実技試験 (協調運動について)

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・白衣着用

[受講ルール]

・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。

・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為 (私語、携帯電話の使用) は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

基本的に授業前後の休憩時間とする。要予約。

■評価方法

実技試験(客観) ① 20%、② 20%、③ 20%、④ 20%、⑤ 20%の合計 100% (合格基準は各実技試験 60%とする) とする。再試験有り。

■教科書

シンプル理学療法シリーズ 運動療法学テキスト: 南江堂, 2010

■参考書

授業内で随時紹介する。

科目名	運動療法学実習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	三浦 雅文	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	動作観察、解釈、ADL 動作分析、				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

動作を観察する目的や方法学び、実践を通して目を養う。

観察した事象を用いて、解剖学的・運動学的解釈をより妥当なものになるように考えていく能力を養う。

[到達目標]

- ①動作を観察し、要点を述べることができる。
- ②観察によって抽出した点について、運動学的な解説を述べるができる。
- ③観察によって抽出した点について、神経学的な解説を述べるができる。

■授業の概要

対象者が困難となっている日常生活の様々な活動について改善を促していくために、まず動作がどのように行われているのか(どのようにできていないのか)を観る事ができなければならない。また、これまでに学んだ解剖学や運動学に知識を照らし合わせて、原因となっている身体機能を見抜いていく必要がある。そのような能力を養う授業となる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	科目オリエンテーション/ 動作分析の意義・観察の基本
第 2 回	動作観察一起き上がり
第 3 回	動作観察一立ち上がり
第 4 回	動作観察一歩行
第 5 回	実地テスト① 動作の観察
第 6 回	動作の解釈一起き上がり
第 7 回	動作の解釈一立ち上がり
第 8 回	動作の解釈一歩行
第 9 回	実地テスト② 動作の観察から解釈まで
第 10 回	ADL 動作分析一起居
第 11 回	ADL 動作分析一排泄
第 12 回	ADL 動作分析一和式生活
第 13 回	下肢荷重関節障害の動作①
第 14 回	下肢荷重関節障害の動作②
第 15 回	脳血管障害の動作 / 総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・動作分析に正解はない。妥当かの外れかが判断の基準となる。
- ・数多く経験することで能力が芽生えるので積極的に取り組むこと。
- ・自主的に観察力、分析思考を養うことを推奨する。
- ・白紙での提出は実習では最も好ましくないで、間違っている気がしても何かを記入して提出すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

木曜日 16:30 ~ 17:30

■評価方法

客観試験素点 100%を総合評価とする。ただし、客観試験は実地試験得点を合算補正する。回答欄に実地試験得点を記入することで得点とする。未記入や記入ミスは誤答扱いとするので注意すること。詳細は科目オリエンテーションで説明する。

■教科書

高橋正明編集：標準理学療法学専門分野「臨床動作分析」, 医学書院

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	運動療法学実習Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	小島 俊文	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻 3 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格にかかわる必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	理学療法、リハビリテーション、理学療法士法、運動療法、物理療法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

運動療法学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲおよびそれぞれの実習より学んだ各種運動療法の知識と技術を応用し、また人間発達学、老年学などから学んだ高齢者の特徴を考慮しながら、高齢者全般に関わる理学療法（特に運動療法）について学んでいく。

〔到達目標〕

- ①高齢者の精神・心理の一般的な状態について述べるができる。
- ②高齢者の身体機能の特性について述べるができる。
- ③高齢者の運動促進の方法について、対象に応じた運動療法を選択し実施できる。
- ④生活習慣病について、対象に応じた運動療法を選択し実施できる。
- ⑤産業保健分野の理学療法について、具体的な運動療法を説明できる。

■授業の概要

高齢者全般に関わる理学療法（特に運動療法）に関する授業である。各回ごとに主たるテーマを決め、そのテーマにそって授業を展開する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	高齢者の特性～精神機能・心理の特性
第 2 回	高齢者の特性～身体機能の特性①
第 3 回	高齢者の特性～身体機能の特性②
第 4 回	高齢者の特性～高齢者に接する際の注意点
第 5 回	高齢者の特性～特有の障害と理学療法
第 6 回	身体活動・運動の促進～高齢者の活動性を高める
第 7 回	身体活動・運動の促進～高齢者のリスク管理
第 8 回	身体活動・運動の促進～高齢者の体力測定
第 9 回	身体活動・運動の促進～高齢者の筋力増強
第 10 回	身体活動・運動の促進～高齢者の健康増進
第 11 回	生活習慣病と運動療法～生活習慣病とは
第 12 回	生活習慣病と運動療法～動脈硬化・高血圧と運動療法
第 13 回	生活習慣病と運動療法～高脂血症・肥満と運動療法
第 14 回	生活習慣病と運動療法～癌と運動療法
第 15 回	産業保健分野と運動療法

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生にかかわる情報〕および〔受講のルール〕

・授業中の居眠りや、他の学生に迷惑となるような行為は厳に慎むこと。たび重なる注意を与えても改善が見られない場合は、退室してもらう場合がある。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回の復習を怠らないこと。

■オフィスアワー

月～金 17:00 ～

■評価方法

筆記試験（客観・論述）100%

■教科書

教科書の設定なし

■参考書

理学療法MOOK 高齢者の理学療法 シリーズ編集 黒川幸雄・他 三輪書店

科目名	物理療法学	担当教員 (単位認定者)	新谷 益巳	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻 2 年次必修科目 解剖学と生理学の知識が必要。	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	温熱療法・寒冷療法・電気刺激療法・光線療法				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕熱、光、水、電気、超音波などの物理的なエネルギーを生体に加えることによって、生体が有する自然治癒力を賦活させることができる。特に疼痛、創傷、浮腫、組織などの柔軟性を改善することができる物理療法を学ぶ。

〔到達目標〕

- ①理学療法における物理療法の位置づけが説明できる。
- ②物理療法に用いられる各種エネルギーの特性を説明することができる。
- ③各種物理療法の適応と禁忌が説明できる。

■授業の概要

物理療法とは生体に物理的エネルギーを与え、生体反応を引き起こすことにより、疾病治療を行う治療手段である。当科目は理学療法における物理療法の位置づけを理解することから始まり、物理療法に用いられる各種エネルギーの特性と生体反応の物理的機序を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	物理療法の概要について
第 2 回	物理療法学の生理学的基礎について
第 3 回	物理療法の適応と禁忌について
第 4 回	温熱療法の概要について
第 5 回	エネルギー変換療法の概要について
第 6 回	超音波療法の概要について
第 7 回	寒冷療法の概要について
第 8 回	電気刺激療法の概要について
第 9 回	電気生理学的評価法とバイオフィードバックについて
第 10 回	光線療法の概要について
第 11 回	牽引療法の概要について
第 12 回	持続的他動運動装置を用いた治療法の概要
第 13 回	水治療法の概要について
第 14 回	臨床で行う頻度の多い疾患に対する対応について
第 15 回	物理療法学のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・予習復習は必ず行うこと。

〔受講ルール〕

・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。

・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

基本的に授業前後の休憩時間とする。

■評価方法

筆記試験（客観）100%とする。60点未満の場合、総合評価の対象としない。再試験：有

■教科書

シンプル理学療法学シリーズ 物理療法学テキスト 第2版 南江堂

■参考書

授業時に必要に応じて紹介する。

科目名	物理療法学実習	担当教員 (単位認定者)	新谷 益巳	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻 2 年次必修科目 解剖学と生理学の知識が必要。	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	温熱療法・寒冷療法・電気刺激療法・光線療法				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

運動療法によって要素的な運動機能や実際の動作能力を高めていくための前段階として、疼痛や創傷などの機能・構造障害の改善を促進し、動きやすい身体状況を整える必要がある。そのための具体的な治療手段が、熱、光、水、電気、超音波などの物理的なエネルギーを生体に加えることの意味について理解し、各種機器を操作し実践することを目的とする。

〔到達目標〕

- ①各種機器の安全な取扱い及び操作ができる。
- ②対象となる疾患の症状に応じた物理療法機器の選択ができる。
- ③対象となる疾患のリスク管理を行い機器を使用することができる。

■授業の概要

物理療法とは生体に物理的エネルギーを与え、生体反応を引き起こすことにより、疾病治療を行う治療手段である。当科目は各種疾患に対する物理療法の適応を理解し、物理療法に用いられる各種エネルギー特性と疾患特有の症状への生理的機序を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	ホットパックの実際について
第 2 回	パラフィン浴の実際について
第 3 回	極超短波療法の実際について
第 4 回	超短波療法の実際について
第 5 回	赤外線療法の実際について
第 6 回	超音波療法の実際について
第 7 回	伝導冷却法の実際について
第 8 回	対流冷却法の実際について
第 9 回	気化冷却法の実際について
第 10 回	痛みのコントロール：経皮的電気神経刺激の実際について
第 11 回	運動の制御：神経筋電気刺激 (NMES) の実際について
第 12 回	レーザー療法の実際について
第 13 回	紫外線療法の実際について
第 14 回	牽引療法 (頸椎・腰椎) の実際について
第 15 回	過流浴の実際について

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・ふざけた態度や礼を欠く態度を取る者は受講を拒否することがある。
- ・予習復習は必ず行うこと。
- ・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気等を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為 (私語、携帯電話の使用) は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

基本的に授業前後の休憩時間とする。要予約。

■評価方法

筆記試験 (客観) 100%とする。60 点未満の場合、総合評価の対象としない。再試験: 有

■教科書

シンプル理学療法学シリーズ 物理療法学テキスト 第 2 版 南江堂

■参考書

授業時に必要に応じて紹介する。

科目名	義肢装具学	担当教員 (単位認定者)	柴 ひとみ	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	切断、麻痺(中枢性・末梢性)、義足、装具、車椅子、歩行補助具				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

車椅子や歩行補助具、義肢、装具の特徴を理解し、疾患や障害に合わせた車椅子や歩行補助具、義肢、装具を選択できるようにすることを目的とする。

[到達目標]

- ①リハビリテーション医学における義肢・装具の意義を説明できる。
- ②車椅子や歩行補助具、義肢装具の種類と機能を述べるができる。また、義肢装具の構造を説明することができる。
- ③疾患や障害に合った車椅子、歩行補助具、装具を選択することができる。

■授業の概要

臨床で使用されている車椅子、歩行補助具、義肢・装具を、理学療法との結び付きの中で学習し、これまで習った疾患や障害に照らし合わせながら車椅子、歩行補助具、義肢・装具の種類、適応、用法、禁忌、起こりやすいトラブルなどの基礎知識を身に付ける。義肢については、切断部位、ソケットの構造、継手の種類・適応などを学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	科目オリエンテーション/歩行補助具について
第 2 回	歩行補助具、車椅子について
第 3 回	車椅子の採寸、チェックポイント
第 4 回	義肢装具の概念、切断部位と切断術について
第 5 回	切断の分類・原因、切断手段の概略、切断部位と切断術について
第 6 回	大腿義足ソケット(四辺形ソケットとIRCソケットの機能的役割)について
第 7 回	下腿義足ソケット(PTB、PTS、KBM、TSB式下腿義足)について
第 8 回	股義足、膝義足について
第 9 回	サイム義足、足部義足について
第 10 回	義手について
第 11 回	装具学総論、短下肢装具
第 12 回	長下肢装具
第 13 回	靴型装具について
第 14 回	頸部体幹装具について
第 15 回	上肢装具について

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・整形外科学が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず学習すること。積極的に車椅子や歩行補助具、義肢、装具などに触れること。

[受講のルール]

・授業概要を必ず確認し理解を深めるよう積極的に授業に臨むこと。・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(携帯電話の使用、私語)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するように努力すること。

■オフィスアワー

木曜日 16 時～ 17 時は随時(変更時は掲示する)その他の曜日については要予約

■評価方法

筆記試験(客観) 100%

■教科書

細田多穂監:義肢装具学テキスト 南江堂

■参考書

日本義肢装具学会監修:義肢学 医歯薬出版
日本義肢装具学会監修:装具学 第 3 版 医歯薬出版

科目名	義肢装具学実習	担当教員 (単位認定者)	柴 ひとみ	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻 3 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	切断、麻痺(中枢性・末梢性)、義足、装具				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

義肢、装具の特徴を理解し、疾患や障害に合わせた義肢、装具を選択できるようになることを目的とする。

[到達目標]

- ①切断者に対する術直後の断端管理、ADL 動作指導について述べるができる。
- ②切断者に対する義肢適合のチェックポイントを述べるができる。
- ③下肢切断者の異常歩行についてその原因を列挙することができる。
- ④プラスチック製短下肢装具の製作工程を説明することができる。

■授業の概要

「義肢装具学」で学んだことを実際の義肢・装具などを扱いながら知識を深めることを目的とする。切断の断端管理、ソケットの構造や制作方法、懸垂方法、継手の種類・適応、フィッティングの確認方法、義足着用時の動作分析などを学習する。また、短下肢装具の型どりを体験するとともに下肢装具のチェックポイントや歩行への影響を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	科目オリエンテーション/切断者の評価 全身及び断端の評価
第 2 回	断端管理法 立位歩行練習 ADL 指導①
第 3 回	断端管理法 立位歩行練習 ADL 指導②
第 4 回	大腿義足、下腿義足のベンチアライメントと静的アライメント
第 5 回	大腿義足、下腿義足のベンチアライメントと静的アライメント、ダイナミックアライメント①
第 6 回	大腿義足、下腿義足のベンチアライメントと静的アライメント、ダイナミックアライメント②
第 7 回	大腿・下腿切断者の歩行分析 異常歩行とダイナミックアライメント
第 8 回	下肢装具のチェックポイントと歩行への影響①
第 9 回	下肢装具のチェックポイントと歩行への影響②
第 10 回	プラスチック装具の採型①
第 11 回	プラスチック装具の採型②
第 12 回	プラスチック装具の採型 まとめ
第 13 回	上肢装具・体幹装具の実際
第 14 回	義肢製作所の見学①
第 15 回	義肢製作所の見学②

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・整形外科学が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず学習すること。積極的に義肢、装具などに触れること。

[受講のルール]

- ・授業シラバスを必ず確認し理解を深めるよう積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(携帯電話の使用、私語)は厳禁。
- ・採型実習や見学は出席を前提とするため休まないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するように努力すること。

■オフィスアワー

木曜日 16 時～17 時は随時(変更時は掲示する)その他の曜日については要予約

■評価方法

筆記試験(客観) 80%、ポートフォリオ 10%、発表 10% 総合評価は筆記試験が 60%以上であることが前提となる。

■教科書

細田多穂監:義肢装具学テキスト 南江堂

■参考書

日本義肢装具学会監修:義肢学 医歯薬出版
日本義肢装具学会監修:装具学 第3版 医歯薬出版

科目名	理学療法技術論Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	新谷 益巳	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻 3 年次必修科目 「整形外科学」、「理学療法評価法」、「運動療法学」の知識が必要。	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	骨折・変形・脱臼・靭帯損傷				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

各種運動器疾患に対し、理学療法の視点から状態を把握することができる。また、1・2 年次に学んだ解剖学と運動学を理解した上で授業に進んで参加することができる。

〔到達目標〕

- ①運動器疾患の評価項目を挙げることができる。
- ②運動器疾患のリスク管理を理解する。
- ③運動器疾患に対して実際の理学療法プログラムを立案することができる。

■授業の概要

「整形外科学」、「理学療法評価学」、「運動療法学」で学んだ知識を基に、各疾患に対しての治療方法について学ぶ。基礎的な内容に関しては、事前に復習しておく必要がある。授業は各疾患に対してどのような考えを基に治療（プログラムの立案）を進めるかについて学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	スポーツ外傷について①
第 2 回	スポーツ外傷について②
第 3 回	スポーツ障害について①
第 4 回	スポーツ障害について②
第 5 回	腰痛症について①腰椎椎間板ヘルニア・腰部脊柱管狭窄症
第 6 回	腰痛症について②腰椎椎間板ヘルニア・腰部脊柱管狭窄症
第 7 回	靭帯損傷について①膝前十字靭帯損傷・内側側副靭帯損傷
第 8 回	靭帯損傷について②膝前十字靭帯損傷の手術療法と保存療法
第 9 回	半月板損傷について①半月板損傷の受傷機転
第 10 回	半月板損傷について②半月板損傷の手術療法と保存療法
第 11 回	肩関節周囲炎について
第 12 回	腱板損傷について
第 13 回	胸郭出口症候群について①
第 14 回	胸郭出口症候群について②
第 15 回	慢性疼痛疾患について

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講ルール〕

- ・授業計画を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

基本的に授業前後の休憩時間とする。要予約。

■評価方法

筆記試験（客観）100%とする。60 点未満の場合、総合評価の対象としない。再試験：有

■教科書

シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト 2011 南江堂

■参考書

授業時に必要に応じて紹介する。

科目名	理学療法技術論Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	小島 俊文	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻 3 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格にかかわる必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	理学療法、リハビリテーション、理学療法士法、運動療法、物理療法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

前半は脊髄損傷、後半は大腿骨頸部骨折について解説する。この授業において各疾患の概要から理学療法評価、プログラム立案、理学療法の実施に至る過程について理解し、実施できるようにする。

〔到達目標〕

- ①脊髄損傷における評価の意義と必要な評価項目を知り、評価内容を統合解釈し、どのように理学療法プログラムを立案すべきか理解する。
- ②大腿骨頸部骨折における障害と術前・術後のリスクを理解し整形外科的処置に応じた理学療法を理解する。

■授業の概要

15 回に及ぶ講義中心の授業である。毎回ごとに主たるテーマを決め、そのテーマにそって授業を展開する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	オリエンテーション 脊髄損傷の病態を確認する
第 2 回	脊髄損傷の病態を確認する
第 3 回	脊髄損傷に対する理学療法評価
第 4 回	〃
第 5 回	脊髄損傷の理学療法におけるリスク管理
第 6 回	脊髄損傷に対する理学療法
第 7 回	〃
第 8 回	大腿骨頸部骨折の病態を確認する
第 9 回	〃
第 10 回	大腿骨頸部骨折に対する理学療法評価
第 11 回	〃
第 12 回	大腿骨頸部骨折の理学療法におけるリスク管理
第 13 回	〃
第 14 回	大腿骨頸部骨折に対する理学療法
第 15 回	〃

■受講生に関わる情報および受講のルール

・授業中の居眠りや、他の学生に迷惑となるような行為は厳に慎むこと。たび重なる注意を与えても改善が見られない場合は、退室してもらう場合がある。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回の復習を怠らないこと。

■オフィスアワー

月～金 17:00 ～

■評価方法

筆記試験（客観・論述）100%

■教科書

細田多穂 / 監修 運動器障害理学療法学テキスト 南江堂
細田多穂 / 監修 中枢神経障害理学療法学テキスト 南江堂

■参考書

授業内に随時紹介する。

科目名	理学療法技術論Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	三浦 雅文	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻 3 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	評価項目の抽出、統合と解釈、問題点抽出、プログラム立案、理学療法記録				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

中枢神経障害の理学療法の基本的な進め方を、脳血管障害を通して学び、実習ではそれらを実行できる能力を身につける。

〔到達目標〕

- ①実習で対応できるレベルのケースに即した理学療法を論じることができる。
- ②ケースに応じたリスク管理について述べるができる。
- ③実習に対応できるレベルのレポート、サマリーを記録できる。

■授業の概要

疾患概要、評価、治療と個々に学んだものを中枢神経障害の観点から統合して、一連の理学療法プロセスを学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	科目オリエンテーション/ケーススタディの基礎、理学療法のプロセス
第 2 回	脳血管障害の特徴を踏まえたケースマネジメント
第 3 回	評価プラン
第 4 回	統合と解釈、問題点抽出
第 5 回	プログラム立案
第 6 回	リスク管理、記録
第 7 回	カルテ、ケースレポート、サマリー、レジュメの書き方
第 8 回	パーキンソン病の特徴を踏まえたケースマネジメント
第 9 回	評価プラン
第 10 回	統合と解釈、問題点抽出
第 11 回	プログラム立案
第 12 回	リスク管理、記録
第 13 回	頭部外傷
第 14 回	脳腫瘍
第 15 回	要点整理

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

高い思考力が要求される。自力で思考展開ができるように努力すること。

〔受講ルール〕

- ・講義で大枠の流れを学ぶ。後のケース演習に対応できるようにしっかりと学ぶこと。
- ・他者に依存することで実習に対応できる能力が身に付かないので、主体的に関わること。

■授業時間外学習にかかわる情報

難易度は高めであっても臨床では平均的に要求される内容である。理解ができない部分は自己学習で十分に補うこと。レポートの出来栄が悪い場合は、個別に課題提示することがある。

■オフィスアワー

木曜日 16:30 ~ 17:30

■評価方法

客観試験素点 100%で総合評価とする。素点はレポート課題で補正する。Bランクを±0として、Aを+5、Cを-5、Dを-10で補正する。レポート評価の詳細は科目オリエンテーションで説明する。

■教科書

教科書は指定しない。必要な資料はその都度紹介する。

■参考書

必要な資料をその都度紹介する。

科目名	理学療法技術論実習 I	担当教員 (単位認定者)	新谷 益巳	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻 3 年次必修科目 整形外科学、理学療法評価法、運動療法学の知識が必要	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	治療・評価・プログラム				

■授業の目的・到達目標

[目的]

運動器疾患に対して基本的な理学療法の考え方を学び、実習では評価から治療について実行できるの能力を身につける。

[到達目標]

- ①運動器疾患の評価項目を挙げることができる。
- ②運動器疾患のリスク管理を理解する。
- ③運動器疾患に対して実際の理学療法プログラムを立案することができる。
- ④①～③を理解して実際に実施することができる。

■授業の概要

理学療法技術論 I を基に実習を進める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	スポーツ外傷についての実際①
第 2 回	スポーツ外傷についての実際②
第 3 回	スポーツ障害についての実際①
第 4 回	スポーツ障害についての実際②
第 5 回	腰痛症についての実際①腰椎椎間板ヘルニア・腰部脊柱管狭窄症
第 6 回	腰痛症についての実際②腰椎椎間板ヘルニア・腰部脊柱管狭窄症
第 7 回	靭帯損傷について①膝前十字靭帯損傷・内側側副靭帯損傷
第 8 回	靭帯損傷について②膝前十字靭帯損傷の手術療法と保存療法
第 9 回	半月板損傷について①半月板損傷の受傷機転
第 10 回	半月板損傷について②半月板損傷の手術療法と保存療法
第 11 回	肩関節周囲炎についての実際
第 12 回	腱板損傷についての実際
第 13 回	胸郭出口症候群についての実際①
第 14 回	胸郭出口症候群についての実際②
第 15 回	慢性疼痛疾患についての実際

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・白衣着用

[受講ルール]

- ・授業計画を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

基本的に授業前後の休憩時間とする。要予約。

■評価方法

筆記試験（客観）100%とする。60 点未満の場合、総合評価の対象としない。再試験：有

■教科書

シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト 2011 南江堂

■参考書

授業時に必要に応じて随時紹介する。

科目名	理学療法技術論実習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	小島 俊文	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格にかかわる必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	理学療法、リハビリテーション、理学療法士法、運動療法、物理療法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

この授業において各疾患の概要から理学療法評価、プログラム立案、理学療法の実施に至る過程について理解し、実施できるようにする。

〔到達目標〕

変形性膝関節症、関節リウマチの概要を説明する事ができる。

各疾患の評価項目を列挙する事ができる。

評価結果を統合と解釈し問題点を抽出し、それに合わせたプログラムを立案できる。

■授業の概要

15回に及ぶ授業である。毎回ごとに主たるテーマを決め、そのテーマにそって授業を展開する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション／各疾患ごとの理学療法	変形性膝関節症	保存	概要
第2回	各疾患ごとの理学療法	変形性膝関節症	保存	評価と統合と解釈
第3回	各疾患ごとの理学療法	変形性膝関節症	保存	マネジメント
第4回	各疾患ごとの理学療法	変形性膝関節症	保存	マネジメント
第5回	各疾患ごとの理学療法	変形性膝関節症	術後	概要
第6回	各疾患ごとの理学療法	変形性膝関節症	術後	評価と統合と解釈
第7回	各疾患ごとの理学療法	変形性膝関節症	術後	マネジメント
第8回	各疾患ごとの理学療法	変形性膝関節症	術後	マネジメント
第9回	各疾患ごとの理学療法	変形性膝関節症	術後	マネジメント
第10回	各疾患ごとの理学療法	関節リウマチ	術後	概要
第11回	各疾患ごとの理学療法	関節リウマチ	術後	評価
第12回	各疾患ごとの理学療法	関節リウマチ	術後	統合と解釈、問題点
第13回	各疾患ごとの理学療法	関節リウマチ	術後	マネジメント
第14回	各疾患ごとの理学療法	関節リウマチ	術後	マネジメント
第15回	各疾患ごとの理学療法	関節リウマチ	術後	マネジメント

■受講生に関わる情報および受講のルール

・授業中の居眠りや、他の学生に迷惑となるような行為は厳に慎むこと。たび重なる注意を与えても改善が見られない場合は、退室してもらう場合がある。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回の復習を怠らないこと。

■オフィスアワー

月～金 17:00～

■評価方法

筆記試験（客観・論述）100%

■教科書

細田多穂/監修 運動器障害理学療法学テキスト 南江堂

■参考書

授業内に随時紹介する。

科目名	理学療法技術論実習Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	三浦 雅文	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻 3 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	評価項目の抽出、統合と解釈、問題点抽出、プログラム立案、理学療法記録、ケースレポート				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

中枢神経障害の理学療法の基本的な進め方を、脳血管障害を通して学び、実習ではそれらを実行できる能力を身につける。

[到達目標]

- ①実習で対応できるレベルのケースに即した理学療法を具体的に提示し、実行できる。
- ②ケースに応じたリスク管理について意見を述べ、実際に対応できる。
- ③実習に対応できるレベルのレポート、サマリーを記録できる。

■授業の概要

疾患概要、評価、治療と個々に学んだものを中枢神経障害の観点から統合して、一連の理学療法プロセスを実践する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	科目オリエンテーション/ケーススタディ(脳血管障害A)症例提示
第 2 回	ケーススタディ口頭試問 1
第 3 回	ケーススタディ口頭試問 2
第 4 回	レポート提出、口頭試問 3
第 5 回	ケーススタディ(脳血管障害B)症例提示
第 6 回	ケーススタディ口頭試問 1
第 7 回	ケーススタディ口頭試問 2
第 8 回	レポート提出、口頭試問 3
第 9 回	ケーススタディ(パーキンソン病)症例提示
第 10 回	ケーススタディ口頭試問 1
第 11 回	レポート提出、口頭試問 2
第 12 回	ケーススタディ(頭部外傷、脳腫瘍)症例提示
第 13 回	ケーススタディ口頭試問 1
第 14 回	レポート提出、口頭試問 2
第 15 回	要点整理

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

高い思考力と実技能力が要求される。自力で思考展開ができ、かつ実践できるように学習を進めること。

[受講ルール]

- ・グループワークを基本とするが、個々の学習進度が評価に影響するので、他者任せにしないよう注意すること。
- ・他者に依存することで実習に対応できる能力が身に付かないので、主体的に関わること。

■授業時間外学習にかかわる情報

口頭試問の難易度は実習で要求されるレベルを基準としている。時間外でも質問は随時受け付ける。

■オフィスアワー

木曜日 16:30 ~ 17:30

■評価方法

評価はレポート得点を 100%とするが、口頭試問の得点で補正する。口頭試問の問題は事前提示し、毎回ほぼ同一内容となる。ただし、解答はケースのコンディションで変わるため、十分考察の上で解答すること。配点などの詳細はオリエンで説明する。

■教科書

教科書は指定しない。必要な資料はその都度紹介する。

■参考書

必要な資料をその都度紹介する。

科目名	地域理学療法Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	小島 俊文	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻 3 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「地域理学療法学」			
キーワード	介護保険、ケアマネージャー、地域リハビリテーション、関連職種				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

地域リハビリテーションの概念、社会背景、関連制度、施設についての知識を学ぶとともに、地域で生活する対象者を把握するうえで必要な知識を身につける。

〔到達目標〕

- ①介護保険制度の概要について述べるができる。
- ②関連職種について役割が説明できる。
- ③保健、予防分野における理学療法士の関わりを説明できる。

■授業の概要

法学やリハビリテーション入門、理学療法概論が基礎となり、地域で生活する対象者を取り巻く環境について理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	科目オリエンテーション 介護保険制度の目的・理念・仕組みについて①
第 2 回	介護保険制度の目的・理念・仕組みについて②
第 3 回	介護給付サービス
第 4 回	ケアマネージャーの役割とケアマネジメントとは
第 5 回	高齢者の医療確保に関する法律と健康増進法
第 6 回	地域リハビリテーションにおける関連職種との連携
第 7 回	介護保険での理学療法① 地域包括ケア
第 8 回	介護保険での理学療法② 介護予防事業と予防給付
第 9 回	介護保険での理学療法③ 介護給付
第 10 回	介護老人保健施設について①
第 11 回	介護老人保健施設について②
第 12 回	介護老人福祉施設について
第 13 回	訪問リハビリについて
第 14 回	通所リハビリについて
第 15 回	行政で働く理学療法士の仕事について

■受講生に関わる情報および受講のルール

事前に授業計画を確認し、積極的に授業に参加すること
出席時間を守ること
授業の流れや雰囲気を乱したり、他の学生の迷惑になるような行為（私語・携帯電話の使用など）は厳禁

■授業時間外学習にかかわる情報

前回の復習をして授業に望むこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（客観・論述）100%

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	地域理学療法Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	多田 菊代	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻 3 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「地域理学療法学」			
キーワード	廃用症候群、自立支援法、体験学習				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

地域リハビリテーションの思想を理解し、障害者や高齢者が社会の中で生活していくうえで地域が果たす役割が大きいこと、その中でPTに何ができるかを考えながら自ら実践する基本を学ぶ。また体験学習を通して自立支援施設で生活する対象者の全体像を捉える。

〔到達目標〕

- ①地域理学療法を実施する上で必要なリスク管理について列挙することができる
- ②廃用症候群の成り立ち、症状、予防について述べるができる
- ③障害者自立支援法の概要について説明ができる
- ④地域リハビリテーションの対象者に対し、面談から理学療法の一連の流れが安全・効率的に実施できる。

■授業の概要

廃用症候群のリスクやその予防法、在宅酸素について学び、体験学習を通して理学療法士の役割・連携する他職種の役割などを学ぶ。また体験学習では検査測定の実技を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	科目オリエンテーション 地域理学療法場面で起こりうるリスクに対する管理について
第 2 回	活動性の低下から起こるリスクについて - グループワーク① -
第 3 回	活動性の低下から起こるリスクについて - グループワーク② -
第 4 回	活動性の低下から起こるリスクについて - 発表① -
第 5 回	活動性の低下から起こるリスクについて - 発表② -
第 6 回	活動性の低下から起こるリスクについて - まとめ -
第 7 回	障害者自立支援法について①
第 8 回	障害者自立支援法について②
第 9 回	障害者自立支援法について③
第 10 回	体験学習①
第 11 回	体験学習②
第 12 回	体験学習③
第 13 回	体験学習④
第 14 回	人工呼吸療法と酸素療法①
第 15 回	人工呼吸療法と酸素療法②

■受講生に関わる情報および受講のルール

体験学習は出席を前提とするため休まず予習を行った上で臨むこと。
体験学習の実習記録は、別途指示する内容に従い、提出期限を守って提出すること。
内容が類似した実習記録やレポートは受け付けないため、自己の努力により作成すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

体験学習にあたって事前に準備（情報収集や実技練習）をすること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（論述・記述）70% レポート20% 発表10% 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

運動療法学改訂第2版 編集 柳澤健 金原出版株式会社

科目名	地域理学療法学実習	担当教員 (単位認定者)	柴 ひとみ	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	理学療法専攻 3 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法士国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「地域理学療法学」			
キーワード	住環境、福祉用具、疾患別ADL、体験学習				

■授業の目的・到達目標

目的:

地域リハビリテーションの対象となる各疾患の病態や症状について理解し、それぞれに適したADL指導が行えるようになる。地域サービスや自立支援施設における体験学習を通し、理学療法士の役割や他職種との連携を学び、対象となる方の生活上の問題を考える事を目的とする。

目標:

- ①各福祉用具の使用目的について説明を行うとともに処方ができる。
- ②疾患別のADL、住環境について説明ができる。
- ③体験学習を通して理学療法の対象者の生活について説明ができる。
- ④他職種との連携を通し、情報を得ることができる。
- ⑤情報収集や動作観察から対象者の問題点を列挙することができる。

■授業の概要

地域リハビリテーションの思想を理解し、障害者や高齢者が社会の中で生活していくうえで地域が果たす役割が極めて大きいこと、その中でPTに何ができるのかを考えながら自ら実践する基本を学ぶ。地域リハビリテーションの対象となる各疾患の病態・症状について理解し、それぞれに適したADL指導・住環境について学習する。また、体験学習を通して理学療法士の役割・連携する他職種の役割について学び、自立支援施設で生活する対象者の生活を捉える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、ADL指導・住環境整備の考え方
第2回	福祉用具について
第3回	疾患別ADL・住環境について -グループワーク①-
第4回	疾患別ADL・住環境について -グループワーク②-
第5回	疾患別ADL・住環境について -発表①-
第6回	疾患別ADL・住環境について -発表②-
第7回	疾患別ADL・住環境について -発表③-
第8回	疾患別ADL・住環境について -発表④-
第9回	地域理学療法場面におけるケーススタディ -評価から福祉用具選定、住宅改修まで-
第10回	地域理学療法場面におけるケーススタディ -大腿骨頸部骨折① グループワーク-
第11回	地域理学療法場面におけるケーススタディ -大腿骨頸部骨折② グループワーク-
第12回	地域理学療法場面におけるケーススタディ -大腿骨頸部骨折③ グループワーク-
第13回	地域理学療法場面におけるケーススタディ -脳梗塞片麻痺① グループワーク-
第14回	地域理学療法場面におけるケーススタディ -脳梗塞片麻痺② グループワーク-
第15回	地域理学療法場面におけるケーススタディ -脳梗塞片麻痺③ グループワーク-

■受講生に関わる情報および受講のルール

体験学習は出席を前提とするため休まず予習を行った上で臨むこと。

体験学習の実習記録は、翌日の9:00までに提出すること。

内容が類似した実習記録やレポートは受け付けないため、自己の努力により作成すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

体験学習にあたって事前に準備(情報収集や実技練習)をすること。

■オフィスアワー

木曜日 16時～17時は随時(変更時は掲示する)その他の曜日については要予約

■評価方法

筆記試験(客観)60% レポート20% 発表20% 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

細田多穂監修: シンプル理学療法シリーズ 地域リハビリテーション学テキスト/日常生活活動学テキスト 第2版 南江堂

■参考書

内山靖: 標準理学療法学 理学療法評価学 第2版 医学書院

科目名	地域理学療法学実習	担当教員 (単位認定者)	柴 ひとみ	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	理学療法専攻 3 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法士国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「地域理学療法学」			
キーワード	住環境、福祉用具、疾患別ADL、体験学習				

■授業の目的・到達目標

目的:

地域リハビリテーションの対象となる各疾患の病態や症状について理解し、それぞれに適したADL指導が行えるようになる。地域サービスや自立支援施設における体験学習を通し、理学療法士の役割や他職種との連携を学び、対象となる方の生活上の問題を考える事を目的とする。

目標:

- ①各福祉用具の使用目的について説明を行うとともに処方ができる。
- ②疾患別のADL、住環境について説明ができる。
- ③体験学習を通して理学療法の対象者の生活について説明ができる。
- ④他職種との連携を通し、情報を得ることができる。
- ⑤情報収集や動作観察から対象者の問題点を列挙することができる。

■授業の概要

地域リハビリテーションの思想を理解し、障害者や高齢者が社会の中で生活していくうえで地域が果たす役割が極めて大きいこと、その中でPTに何ができるのかを考えながら自ら実践する基本を学ぶ。地域リハビリテーションの対象となる各疾患の病態・症状について理解し、それぞれに適したADL指導・住宅環境について学習する。また、体験学習を通して理学療法士の役割・連携する他職種の役割について学び、自立支援施設で生活する対象者の生活を捉える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 16 回	体験学習オリエンテーション
第 17 回	体験学習 -水浴リハビリの実際-
第 18 回	体験学習 -水浴リハビリの実際-
第 19 回	体験学習 -地域サービスの実際①-
第 20 回	体験学習 -地域サービスの実際①-
第 21 回	体験学習 -地域サービスの実際①-
第 22 回	体験学習 -地域サービスの実際①-
第 23 回	体験学習 -地域サービスの実際①-
第 24 回	体験学習 -地域サービスの実際②-
第 25 回	体験学習 -地域サービスの実際②-
第 26 回	体験学習 -地域サービスの実際②-
第 27 回	体験学習 -地域サービスの実際②-
第 28 回	体験学習 -地域サービスの実際②-
第 29 回	体験学習 発表①
第 30 回	体験学習 発表②

■受講生に関わる情報および受講のルール

体験学習は出席を前提とするため休まず予習を行った上で臨むこと。
体験学習の実習記録は、翌日の 9:00 までに提出すること。
内容が類似した実習記録やレポートは受け付けないため、自己の努力により作成すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

体験学習にあたって事前に準備(情報収集や実技練習)をすること。

■オフィスアワー

木曜日 16 時～17 時は随時(変更時は掲示する)その他の曜日については要予約

■評価方法

筆記試験(客観) 60% レポート 20% 発表 20% 総合評価は筆記試験が 60%以上であることが前提となる。

■教科書

細田多穂監修: シンプル理学療法シリーズ 地域リハビリテーション学テキスト/日常生活活動学テキスト 第 2 版 南江堂

■参考書

内山靖: 標準理学療法学 理学療法評価学 第 2 版 医学書院

科目名	臨床実習指導Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	小島・柴・三浦 多田・新谷他	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻 3 年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	評価プロセス、面接技法、検査技法、観察技法、統合と解釈、問題点の抽出				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

理学療法評価の基本的な進め方を学び、実際の場面で実施できるようになることを目的とする。

[到達目標]

- ①臨床で必要とされるマナー・技術・判断力を身に付けることができる。
- ②実習後、レジュメを作成し、発表することができる。

■授業の概要

これまで学んできたことを整理し、臨床評価実習に向けた準備とする。事前準備の中で、OSCE (Objective Structured Clinical Examination = 客観的臨床能力試験) を行い、判断力・技術・マナーといった基本的な臨床技術を評価し、実際の臨床の場で必要とされる臨床技術を習得する。実習後は担当した症例について整理し、レジュメを作成後に発表・報告会を行い、理学療法評価に対する理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	OSCE①
第 2 回	OSCE②
第 3 回	OSCE③
第 4 回	OSCE④
第 5 回	臨床実習の基本的な流れ、臨床実習の手引き
第 6 回	安全管理・感染症対策、守秘義務と個人情報保護
第 7 回	記録・報告・レポートの書き方、対人関係、ハラスメント
第 8 回	ケース発表①
第 9 回	ケース発表②
第 10 回	ケース発表③
第 11 回	ケース発表④
第 12 回	ケース発表⑤
第 13 回	ケース発表⑥
第 14 回	ケース発表⑦
第 15 回	ケース発表⑧

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・実技を行うときは白衣着用のこと。

[受講のルール]

- ・臨床評価実習を終了することを条件とする。
- ・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたうえで受講すること。また、時間の厳守と、報告・相談・連絡を怠らないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

既に履修した各検査測定項目の意義を復習し、各自で技術のレベルアップを図るために練習するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

OSCEの結果 30%、レジュメ 20%、セミナー発表 50%

■教科書

PT臨床実習ルートマップ 編集 柳沢健 メジカルビュー

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	臨床実習指導Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	小島・柴・三浦 多田・新谷 他	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	評価プロセス、面接技法、検査技法、観察技法、統合と解釈、問題点の抽出、理学療法プログラム				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

理学療法評価からプログラム実施までの基本的な進め方を学び、実際の場面で実施できるようになることを目的とする。

[到達目標]

- ①臨床で必要とされるマナー・知識・技術・判断力を身に付けることができる。
- ②実習後、レジュメを作成し、発表することができる。

■授業の概要

これまで学んできたことを整理し、臨床総合実習に向けた準備とする。実習後は担当した症例について整理し、レジュメを作成後に発表・報告会を行い、理学療法の評価から効果判定に対する理解を深めることを目的とする。また、実習を終えた時点で4年間の学習理解度を図る試験を実施する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	臨床実習の手引きより 実習の心構え・尊守事項
第2回	臨床実習の手引きより 実習の心構え・尊守事項
第3回	臨床実習の手引きより 実習の心構え・尊守事項
第4回	臨床実習の手引きより 実習の心構え・尊守事項
第5回	各種疾患における理学療法評価のまとめと実践(運動器疾患)
第6回	各種疾患における理学療法評価のまとめと実践(中枢神経疾患)
第7回	各種疾患における理学療法評価のまとめと実践(呼吸・循環器疾患)
第8回	各種疾患における理学療法評価のまとめと実践(その他)
第9回	理学療法治療手技の実践(関節可動域練習・筋力トレーニング)
第10回	理学療法治療手技の実践(基本動作練習)
第11回	理学療法治療手技の実践(移乗・歩行練習)
第12回	理学療法治療手技の実践(協調運動・バランス練習・他)
第13回	理学療法知識のまとめ(国家試験問題を用いて)
第14回	理学療法知識のまとめ(国家試験問題を用いて)
第15回	理学療法知識のまとめ(国家試験問題を用いて)

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・実技を行うときは白衣着用のこと。

[受講のルール]

・総合臨床実習Ⅰ・Ⅱを終了することを条件とする。

・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたうえで受講すること。また、時間の厳守と、報告・相談・連絡を怠らないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

既に履修した各検査測定項目の意義を復習し、各自で技術のレベルアップを図るために練習するよう努力すること。また、理学療法関連の文献を積極的に読み、まとめること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験、レジュメ、セミナー発表 100% 総合評価は筆記試験 60%以上が前提となる。

■教科書

授業内で適宜指示する。

■参考書

授業内で適宜指示する。

科目名	評価実習	担当教員 (単位認定者)	小島・柴・三浦 多田・新谷他	単位数 (時間数)	4 (180)
履修要件	理学療法専攻3年次後期	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
	カリキュラム上の位置づけ	専門科目「臨床実習」			
キーワード	評価プロセス、面接技法、検査技法、観察技法、統合と解釈、問題点の抽出				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的と概要〕

臨床の場で各対象者に応じた評価項目を選択、実施し、得られた結果をもとに問題点の抽出を行えるようになることを目的とする。臨床評価実習を医療機関または介護老人保健施設において4週間実施する。これまで学んできた知識・技術を臨床の現場で、臨床実習指導者のもとで実施する。病院・老健という大きな組織の中で理学療法士の位置付け、他部門・他職種とのやり取り、患者様との交流などを学んでいく。クリニカルクラークシップのもとにリハビリテーション業務に実際に関与しながら、その実態を学んでいく。臨床実習指導者から紹介された患者様にインタビュー、評価を実施する。その際は患者様の背景、疾患の知識、初期情報とそこからの評価の戦略、結果の統合と解釈、問題点抽出といった思考過程を、指導者の監視とアドバイスをもとに進めていく。

〔到達目標〕

- ①理学療法の位置づけや役割を説明することができる。
- ②関連職種の仕事について説明することができる。
- ③各対象者に応じた評価項目を選択し、実施することができる。
- ④評価結果をもとに問題点の抽出、ゴールの設定を行うことができる。
- ⑤実習内容を記録し、書面や口頭で実習指導者に報告することができる。

■実習履修資格者

3年次評価実習開始までに1年～3年後期までに開講されるすべての科目（選択科目は選択の範囲において）の単位修得が必要となる。

■実習時期及び実習日数・時間

臨床評価実習を医療機関または介護老人保健施設において4週間実施する。

■実習上の注意

- ・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたうえで実習に臨むこと。
- ・時間の厳守と、報告・相談・連絡を怠らないこと。
- ・体調管理に留意し、実習に対して積極的に行動すること。

臨床実習の手引きを熟読すること。

■評価方法

レポート、臨床評価実習結果 100%

科目名	総合臨床実習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	小島・柴・三浦 多田・新谷 他	単位数 (時間数)	8 (380)
履修要件	理学療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	評価プロセス、面接技法、検査技法、観察技法、統合と解釈、問題点の抽出、理学療法プログラム				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的と概要〕

臨床の場で各対象者に応じた評価を実施し、得られた結果をもとに問題点の抽出、プログラムの実施、効果判定を行えるようになることを目的とする。総合臨床実習を医療機関等において8週間実施する。これまで学んできた知識・技術を臨床の現場で、臨床実習指導者のもとで実施する。病院という大きな組織の中で理学療法士の位置付け、他部門・他職種とのやり取り、患者様との交流などを学んでいく。臨床実習指導者から紹介された患者様にインタビュー、評価、プログラムを実施する。その際は患者様の背景、疾患の知識、初期情報とそこからの評価の戦略、結果の統合と解釈、問題点抽出、ゴールの設定、プログラム立案・実施といった思考過程を、指導者の監視とアドバイスをもとに進めていく。

- ①各対象者に応じた評価項目を選択し、実施することができる。
- ②評価結果をもとに問題点の抽出、ゴールの設定、理学療法プログラムの立案を行うことができる。
- ③理学療法再評価を実施し、理学療法の効果判定を考察することができる。
- ④実習内容を記録し、書面や口頭で実習指導者に報告することができる。

■実習履修資格者

1年～3年次までに開講されるすべての科目（選択科目は選択の範囲において）の単位修得が必要となる。

■実習時期及び実習日数・時間

総合臨床実習を医療機関または介護老人保健施設において8週間実施する。

■実習上の注意

- ・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたうえで実習に臨むこと。
- ・時間の厳守と、報告・相談・連絡を怠らないこと。
- ・体調管理に留意し、実習に対して積極的に行動すること。

臨床実習の手引きを熟読すること。

■評価方法

レポート、総合臨床実習結果 100%

科目名	総合臨床実習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	小島・柴・三浦 多田・新谷 他	単位数 (時間数)	8 (360)
履修要件	理学療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	評価プロセス、面接技法、検査技法、観察技法、統合と解釈、問題点の抽出、理学療法プログラム				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的と概要〕

臨床の場で各対象者に応じた評価を実施し、得られた結果をもとに問題点の抽出、プログラムの実施、効果判定を行えるようになることを目的とする。総合臨床実習を医療機関等において8週間実施する。これまで学んできた知識・技術を臨床の現場で、臨床実習指導者のもとで実施する。病院という大きな組織の中で理学療法士の位置付け、他部門・他職種とのやり取り、患者様との交流などを学んでいく。臨床実習指導者から紹介された患者様にインタビュー、評価、プログラムを実施する。その際は患者様の背景、疾患の知識、初期情報とそこからの評価の戦略、結果の統合と解釈、問題点抽出、ゴールの設定、プログラム立案・実施といった思考過程を、指導者の監視とアドバイスをもとに進めていく。

- ①各対象者に応じた評価項目を選択し、実施することができる。
- ②評価結果をもとに問題点の抽出、ゴールの設定、理学療法プログラムの立案を行うことができる。
- ③理学療法再評価を実施し、理学療法の効果判定を考察することができる。
- ④実習内容を記録し、書面や口頭で実習指導者に報告することができる。

■実習履修資格者

1年～3年次までに開講されるすべての科目（選択科目は選択の範囲において）の単位修得が必要となる。

■実習時期及び実習日数・時間

総合臨床実習を医療機関または介護老人保健施設において8週間実施する。

■実習上の注意

- ・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたうえで実習に臨むこと。
- ・時間の厳守と、報告・相談・連絡を怠らないこと。
- ・体調管理に留意し、実習に対して積極的に行動すること。

臨床実習の手引きを熟読すること。

■評価方法

レポート、総合臨床実習結果 100%

科目名	卒業研究	担当教員 (単位認定者)	小島・柴・三浦・ 多田・新谷 他	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「卒業研究」			
キーワード	理学療法、リハビリテーション、理学療法士、運動療法、物理療法、研究				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

本講義では4年間の講義や実習で学んだ知識の集大成として、1年間をかけ自ら研究を計画・実践し、論文の作成・発表を行う。

[到達目標]

臨床実習で体験した症例などから観察された症状や障害について様々なデータを収集し、その特徴を明らかにし、治療モデルを見つけ出すことができる。

■授業の概要

研究テーマを見つけ、調査・資料収集を行いながら、担当教員の指導を受けながら計画的に研究を進める、その手順について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	研究計画の立案
第3回	〃
第4回	〃
第5回	研究テーマの決定
第6回	調査(調査及び資料の収集)
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	倫理的配慮について(倫理審査書類の作成)
第11回	研究計画書作成及び発表
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	〃

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生にかかわる情報] および [受講のルール]

- ・授業中の居眠りや、他の学生に迷惑となるような行為は厳に慎むこと。たび重なる注意を与えても改善が見られない場合は、退室してもらう場合がある。
- ・この科目は、自ら行動を起こすことを求められる。各担当教員と綿密に連絡を取り合い、計画的に研究を進めること。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・適宜、担当教員と連絡を取り合い、研究を進めること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

研究論文(80%)及び研究発表(20%)

■教科書

教科書の設定なし

■参考書

はじめての研究法 著者:千住秀明・他 SHINRYOUBUNKO

科目名	卒業研究	担当教員 (単位認定者)	小島・柴・三浦・ 多田・新谷 他	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	理学療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「卒業研究」			
キーワード	理学療法、リハビリテーション、理学療法士、運動療法、物理療法、研究				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本講義では4年間の講義や実習で学んだ知識の集大成として、1年間をかけ自ら研究を計画・実践し、論文の作成・発表を行う。

〔到達目標〕

臨床実習で体験した症例などから観察された症状や障害について様々なデータを収集し、その特徴を明らかにし、治療モデルを見つけ出すことができる。

■授業の概要

研究テーマを見つけ、調査・資料収集を行いながら、担当教員の指導を受けながら計画的に研究を進める、その手順について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第16回	研究活動
第17回	〃
第18回	〃
第19回	〃
第20回	〃
第21回	〃
第22回	〃
第23回	卒業研究発表会
第24回	〃
第25回	〃
第26回	〃
第27回	〃
第28回	〃
第29回	〃
第30回	〃

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生にかかわる情報〕および〔受講のルール〕

・授業中の居眠りや、他の学生に迷惑となるような行為は厳に慎むこと。たび重なる注意を与えても改善が見られない場合は、退室してもらう場合がある。

・この科目は、自ら行動を起こすことを求められる。各担当教員と綿密に連絡を取り合い、計画的に研究を進めること。

■授業時間外学習にかかわる情報

・適宜、担当教員と連絡を取り合い、研究を進めること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

「卒業研究に関わる課題探求能力」と「卒業研究に関わる発表能力・質疑応答能力・技術文書作成能力」で評価し、この合計を卒業研究の成績とする。

■教科書

教科書の設定なし

■参考書

はじめての研究法 著者：千住秀明・他 SHINRYOUBUNKO

作業療法専攻

作業療法専攻 科目一覧

◎必修科目 △選択科目

授業科目の名称		配当年次	単位数	1年		2年		3年		4年		備考
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎科目	人文科学	人間哲学	1	2	◎							必修科目10単位のほか、 選択科目から4単位以上履修
		心理学	1	2	△							
		国際文化論	1	2	△							
		美術技法	1	1	△							
	自然科学	物理学	1	2	△							
		法学	1	2	△							
	社会科学	情報処理	1	2	△							
		マスメディア論	1	2	△							
	外国語科目	医療英語Ⅰ	1	2	◎							
		医療英語Ⅱ	1	2	△							
保健体育科目	スポーツ体育	1~4	2			△						
総合科学	基礎演習Ⅰ	1	1	◎								
	基礎演習Ⅱ	2	1		◎							
	専門演習Ⅰ	3	1				◎					
	専門演習Ⅱ	4	1					◎				
	ボランティア活動Ⅰ	1	1	◎								
	ボランティア活動Ⅱ	2	1		◎							
小計		—	10	17	10	2	1	1				
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	1	2	◎							必修科目66単位のほか、 選択科目から2単位以上を履修
		解剖学Ⅱ	1	2		◎						
		解剖学実習	1	1		◎						
		生理学Ⅰ	1	2	◎							
		生理学Ⅱ	1	2		◎						
		生理学実習	1	1		◎						
		運動学Ⅰ	1	2	◎							
		運動学Ⅱ	1	2		◎						
		運動学実習	2	1		◎						
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学概論	2	2			◎					
		臨床心理学	1	2		◎						
		一般臨床医学	1	2	◎							
		リハビリテーション医学	1	2		◎						
		内科・老年医学Ⅰ	2	2			◎					
		内科・老年医学Ⅱ	2	2			◎					
		整形外科Ⅰ	2	2			◎					
		整形外科Ⅱ	2	2			◎					
		神経内科学Ⅰ	2	2			◎					
保健医療と リハビリ の理念	リハビリテーション入門	1	1	◎								
	保健医療福祉論	1	1	△								
	公衆衛生学	1	1		◎							
小計		—	42	1	23	19	0	0				
専門科目	基礎作業療法学	作業療法入門	1	1	◎							必修科目66単位のほか、 選択科目から2単位以上を履修
		作業療法入門実習	2	1			◎					
		作業療法管理論	4	1					◎			
		ひとと作業	1	1	◎							
		ひとと作業活動Ⅰ	1	2		◎						
		ひとと作業活動Ⅱ	2	2			◎					
	作業療法評価学	作業療法研究法	3	1				◎				
		作業療法セミナーⅠ	3	1					◎			
		作業療法セミナーⅡ	4	1						◎		
		作業療法評価法Ⅰ	2	2			◎					
		作業療法評価法Ⅱ	2	2				◎				
		作業療法評価法Ⅲ	3	1					◎			
作業療法評価法特論Ⅰ	3	1						△				
作業療法評価法特論Ⅱ	3	1							△			

授業科目の名称		配当年次	単位数	1年		2年		3年		4年		備考
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門科目	作業療法治療学	身体機能作業療法Ⅰ	2	1			◎					必修科目66単位のほか、 選択科目から2単位以上を履修
		身体機能作業療法Ⅱ	2	2				◎				
		精神機能作業療法Ⅰ	2	1			◎					
		精神機能作業療法Ⅱ	2	2				◎				
		発達過程作業療法Ⅰ	3	2					◎			
		発達過程作業療法Ⅱ	3	1						◎		
		高齢期作業療法Ⅰ	3	2						◎		
		高齢期作業療法Ⅱ	3	1							◎	
		ひとと暮らしⅠ	2	2			◎					
		ひとと暮らしⅡ	2	2				◎				
		義肢装具学	3	1					◎			
		作業療法治療学Ⅰ	2	1			◎					
		作業療法治療学Ⅱ	3	1					◎			
		作業療法技術論Ⅰ	3	1						◎		
	作業療法技術論Ⅱ	3	1							△		
	作業療法技術論Ⅲ	3	1							△		
	作業療法特論Ⅰ	3	1							△		
	作業療法特論Ⅱ	3	1							△		
	作業療法特論Ⅲ	4	1							△		
	作業療法特論Ⅳ	4	1							△		
地域作業療法学	地域作業療法入門Ⅰ	2	1			◎						
	地域作業療法入門Ⅱ	2	1				◎					
	地域作業療法実習Ⅰ	2	1					◎				
	地域作業療法実習Ⅱ	2	1						◎			
臨床実習	臨床評価実習指導	3	1						◎			
	臨床評価実習Ⅰ	3	3						◎			
	臨床評価実習Ⅱ	3	3							◎		
	臨床総合実習指導	4	1							◎		
	臨床総合実習Ⅰ	4	8							◎		
臨床総合実習Ⅱ	4	8							◎			
卒業研究	4	2								◎		
小計			66	9	4	22	22	20			総計	
合計		—	118	27	37	43	23	21			124	

卒業要件

基礎教養科目の必修科目 10 単位、選択科目から 4 単位以上、専門基礎科目の必修科目 42 単位、専門科目の必修科目 66 単位、選択科目から 2 単位を修得し、124 単位以上修得すること。
(履修科目の登録の上限：56 単位(年間))

群馬医療福祉大学リハビリテーション学部作業療法専攻 カリキュラムマップ

作業療法専攻ディプロマポリシー（作業療法専攻のカリキュラムを履修することにより修得できる能力）
 「知識・理解」(1) 国家試験に合格する作業療法の知識と技術水準を持つている (2) 人間性や倫理感を裏付ける幅広い教養を身につけている
 「思考・判断」(3) 対象となる人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価し、情報の統合と的確な判断を示すことができる
 「技能・表現」(4) 基本的な医療行為を対象者にも自らにも安全に実施することができる (5) 他者の声に耳を傾け、自分の考えを口頭表現や文章表現によって伝えることができる
 「関心・意欲・態度」(6) 科学の進歩及び社会の医療ニーズの変化に対応して、生涯を通して自らを高め、他者と協力して仕事や研究を進める意欲を持つことができる
 (7) 地域や組織の中で医療人としての高い倫理観と責任感を持ち、他者と協力して仕事や研究を進める意欲を持つことができる

教育内容	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活	○人間哲学 △医療英語 I △国際文化論 △心理学 △マスメディア論	△医療英語 II △物理学	○基礎演習 II ○ボランティア活動 II	○基礎演習 I ○ボランティア活動 I	○専門演習 I	○専門演習 II	
		○解剖学 II ○解剖学実習 ○生理学 II ○生理学実習 ○運動学 II ○人間発達学	○運動学実習	○病理学概論 ○内科・老年医学 I ○整形外科学 II ○神経内科学 I ○小児医学	○運動学実習			
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	○解剖学 I ○生理学 I ○運動学 I	○臨床心理学 ○リハビリテーション医学					
		○一般臨床医学						
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	○リハビリテーション入門 △保健医療福祉論	○公衆衛生学					
		○作業療法入門 ○ひとと作業	○ひとと作業活動 I	○作業療法入門実習 ○ひとと作業活動 II	○作業療法セミナー I ○作業療法セミナー II	○作業療法セミナー I ○作業療法セミナー II	○作業療法セミナー I ○作業療法セミナー II	
専門分野	基礎作業療法学		○ひとと作業活動 I	○作業療法評価法 I	○作業療法評価法 II	○作業療法評価法 III ○作業療法研究法	○作業療法評価法特論 I △作業療法評価法特論 II	○卒業論文 ○卒業論文管理論
		○作業療法学	○ひとと作業活動 II	○作業療法学 I ○身体機能作業療法学 I ○精神機能作業療法学 I ○ひとと暮らし I ○ひとと暮らし II ○作業療法治療学 I	○作業療法学 II ○身体機能作業療法学 II ○精神機能作業療法学 II ○ひとと暮らし II ○作業療法治療学 II	○作業療法学 I ○高齢期作業療法学 I ○高齢期作業療法学 II ○作業療法治療学 I △作業療法技術論 I △作業療法技術論 II △作業療法技術論 III	○作業療法学 II ○発達過程作業療法学 II ○高齢期作業療法学 II △作業療法特論 I △作業療法特論 II △作業療法特論 III △作業療法特論 IV	卒業研究
専門分野	作業療法治療学		○地域作業療法学入門 I	○地域作業療法学入門 II	○地域作業療法学実習 I ○地域作業療法学実習 II	○臨床評価実習指導 ○臨床評価実習 I ○臨床評価実習 II	○臨床総合実習 I ○臨床総合実習 II	○臨床総合実習 I ○臨床総合実習 II
		○作業療法学	○ひとと暮らし I ○ひとと暮らし II ○作業療法治療学 I	○身体機能作業療法学 I ○精神機能作業療法学 I ○ひとと暮らし I ○ひとと暮らし II ○作業療法治療学 I	○身体機能作業療法学 II ○精神機能作業療法学 II ○ひとと暮らし II ○作業療法治療学 II	○発達過程作業療法学 I ○高齢期作業療法学 I ○高齢期作業療法学 II ○作業療法治療学 II ○作業療法治療学 III △作業療法技術論 I △作業療法技術論 II △作業療法技術論 III	○臨床評価実習指導 ○臨床評価実習 I ○臨床評価実習 II	○臨床総合実習 I ○臨床総合実習 II
専門分野	地域作業療法学		○地域作業療法学入門 I	○地域作業療法学入門 II	○地域作業療法学実習 I ○地域作業療法学実習 II	○臨床評価実習指導 ○臨床評価実習 I ○臨床評価実習 II	○臨床総合実習 I ○臨床総合実習 II	○臨床総合実習 I ○臨床総合実習 II
		○作業療法学	○ひとと暮らし I ○ひとと暮らし II ○作業療法治療学 I	○身体機能作業療法学 I ○精神機能作業療法学 I ○ひとと暮らし I ○ひとと暮らし II ○作業療法治療学 I	○身体機能作業療法学 II ○精神機能作業療法学 II ○ひとと暮らし II ○作業療法治療学 II	○発達過程作業療法学 I ○高齢期作業療法学 I ○高齢期作業療法学 II ○作業療法治療学 II ○作業療法治療学 III △作業療法技術論 I △作業療法技術論 II △作業療法技術論 III	○臨床評価実習指導 ○臨床評価実習 I ○臨床評価実習 II	○臨床総合実習 I ○臨床総合実習 II
専門分野	臨床実習		○地域作業療法学入門 I	○地域作業療法学入門 II	○地域作業療法学実習 I ○地域作業療法学実習 II	○臨床評価実習指導 ○臨床評価実習 I ○臨床評価実習 II	○臨床総合実習 I ○臨床総合実習 II	○臨床総合実習 I ○臨床総合実習 II
		○作業療法学	○ひとと暮らし I ○ひとと暮らし II ○作業療法治療学 I	○身体機能作業療法学 I ○精神機能作業療法学 I ○ひとと暮らし I ○ひとと暮らし II ○作業療法治療学 I	○身体機能作業療法学 II ○精神機能作業療法学 II ○ひとと暮らし II ○作業療法治療学 II	○発達過程作業療法学 I ○高齢期作業療法学 I ○高齢期作業療法学 II ○作業療法治療学 II ○作業療法治療学 III △作業療法技術論 I △作業療法技術論 II △作業療法技術論 III	○臨床評価実習指導 ○臨床評価実習 I ○臨床評価実習 II	○臨床総合実習 I ○臨床総合実習 II

○必修科目
△選択科目

1) 基礎科目

科目名	人間哲学	担当教員 (単位認定者)	鈴木 利定	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「人文科学」			
キーワード	人間哲学				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

「人間とは何か」我々はこれまで幾度となくこの問いかけを繰り返してきた。中国の思想家たちは、この問いにどのように解答しているのか。そしてそれぞれの解答に対して自分自身はどう思うのかを自らとてみる学問をねらいとしている。

〔達成目標〕

- ①人間とは何か、中国の思想家たちの解答に対し、自分自身はどう思うのかを問う。
- ②孔子と老子・荘子の思想を比較し、学ぶ。

■授業の概要

孔子は人間にいかにかに生きべきかという問いについて、人間によるべき新しい「道」をどのように考えたか。仁と礼について、特に最近では礼儀をわきまえないという声もある。つまり「形式的な礼など無用だ。真心さえ持っていればそれでよいのでは虚礼廃止だ。」ということもあるが、孔子の説いた礼をもとに現代における礼のあり方を学ぶ。プラトンと同じく孔子は、理想国家を説くことにより政治のあり方を説いた。孔子の説いた政治道徳の現代にあてはまることを学ぶ。老子・荘子は孔子と並ぶ中国の代表的な思想家である。両者は全く相反する傾向すら持っている。この両者の思想を比較し、学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	善く生きるとは
第3回	哲学の語源、世界4大聖人(思想の源)
第4回	プラトン、アリストテレス
第5回	ギリシャの愛(3つ) 仁
第6回	政とは如何なるべきか。志学より従心までの心持。
第7回	教育論
第8回	大学の道
第9回	家を斉へて国を治むるを釈く
第10回	人生いかに生きるか「後世への最大遺物」を通して
第11回	道に対する知者
第12回	世界の四聖人
第13回	孔子の弟子「顔回」
第14回	四端の心
第15回	人生に宗教は必要

■受講生に関わる情報および受講のルール

成績評価は、筆記試験・レポート・出席状況を監み、一度も休みのない者については、成績としては十分な評価を与える。出欠席は重視する。理由なくして欠席、遅刻の多い者(二回以上の者)は成績評価を受ける資格を失う。欠席の虚偽申告(代返等)をした者は単位を認めない。講義中のノート筆記は必ず行い、質問に対して的確な解答ができるよう努める。私語は厳禁。注意を促し、場合によっては退出を命ずる。再試は1回のみ。

■授業時間外学習にかかわる情報

テキストの予習・復習をすること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

評価配分:成績評価は、筆記試験・レポート・出席状況を鑑み、一度も休みのない者については、成績評価としては十分な評価を与える。

■教科書

鈴木利定著「儒教哲学の研究-修正版」(明治書院) 咸有一徳(中央法規)

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	心理学	担当教員 (単位認定者)	橋本 広信	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻 1 年次選択科目	免許等指定科目	社会福祉主事任用資格指定科目		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「人文科学」			
キーワード	感覚、知覚、認知、欲求、学習、記憶、発達、パーソナリティ、無意識、心理検査、知能検査				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

心の成立を支える機能や心に関連する現象などについて幅広く学び、人間を心理学的な観点から捉える基本的知識を得る。

〔到達目標〕

- ①発達という観点から、人を縦断的に捉えられるようになる。
- ②学習のメカニズムを理解し、人の行動と記憶に関する基礎を理解できる。
- ③感覚や知覚の仕組みや特徴を理解できる。
- ④思考と言語の発達や特徴を理解できる。
- ⑤人が自分の心を守る仕組みを理解し、不適応行動などの基礎を理解できる。
- ⑥知能と知能を調べる方法を理解できる。
- ⑦パーソナリティとそれを調べる方法の基礎を理解できる。

■授業の概要

広範囲にわたる心理学の研究領域を概観し、人の心理や行動、関係性についての基礎となるトピックを学んでいく。心理学は後期の臨床心理学の基礎となる科目であり、精神医学などその他の科目とも連動する内容となっているので、積極的に学習に臨んでほしい。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	科目オリエンテーション、心理学入門
第 2 回	知覚と認知①
第 3 回	知覚と認知②
第 4 回	欲求と感情
第 5 回	学習・思考・記憶①
第 6 回	学習・思考・記憶②
第 7 回	学習・思考・記憶③
第 8 回	発達と教育①
第 9 回	発達と教育②
第 10 回	性格と異常心理と質問紙法人格検査
第 11 回	無意識の発見 フロイトと防衛機制 ユングの外向・内向理論と 8 タイプ論
第 12 回	投影法人格検査
第 13 回	知能と知能検査、認知症検査
第 14 回	対人関係と社会心理
第 15 回	回復の心理学

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・選択科目ではあるが、国家試験に関連する基礎知識を学ぶので、履修することが望ましい。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用等）は退席を命じます。その場合は欠席扱いとします。
- ・評価にある通り、5 回程度小レポートや感想文を課します。それぞれ評価の対象になりますので、必ず提出してください。

■授業時間外学習にかかわる情報

シラバスで指示する内容について取り組むこと。

■オフィスアワー

基本的に授業後の休憩時間としますので、声をかけてください。

■評価方法

- ・総合評価は、以下の通りの割合で、評価。総合得点 60 ～ 69 点:C 70 ～ 79:B 80 ～ 89:A 90 点以上:S
- ・期末試験 70%、小レポート・感想文等提出物 30% (30 ÷ 提出回 (予定 5 回) = 1 提出物得点 (1 回 6 点) 満点)

■教科書

図説心理学入門 (第 2 版) (2011) 齊藤勇編著 誠心書房

■参考書

適宜指示

科目名	国際文化論	担当教員 (単位認定者)	久山 宗彦	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「人文科学」			
キーワード	人づくり、対話と独語(ひとりごと)、平和				

■授業の目的・到達目標

国際文化論(intercultural studies)では、国際的な相互依存関係の中で生きていく私たちが、自立した個人として生き生きと活躍していくためには、自国の文化に根差した自己の確立や、異なる文化を持った人たちをも受け入れ、かれらと繋がっていきける能力や態度を身につけていくことを主眼としている。

■授業の概要

世界の諸事情と日本との関係を知り、自らの歩む道について考える。更に、日本と世界(諸外国)の関係がどのように発展したらよいかについても考察する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	(オリエンテーション)国際文化論が目指すのは国際平和である
第2回	Martin Buberの「はじめに関係があった」 我—汝 我—それ
第3回	対話と独語、自己を他者に生かすとは
第4回	国際貢献の一例:湾岸戦争とイラクの弱者、取り分け、イラク乳幼児に対する救援活動
第5回	ダブリン(Dublin)の聖母ホスピスを訪ねて
第6回	Our Lady's Hospice(2)とculture-cult
第7回	cureとcareを比較する — M.BuberのIch-Du, Ich-Esを参考に—
第8回	国際社会におけるリハビリテーションの共通概念と方法の違い
第9回	「神の文化」に対する「和の文化」日本人のものの見方や「和の人間関係」の特徴について
第10回	日本人のものの見方(2)「和」と個人化のプロセス(2)
第11回	グローバリゼーションとナショナリゼーション
第12回	真の平和をつくり出すには
第13回	真の平和をつくり出すには
第14回	平和憲法の共有
第15回	原点に立ち戻って考え直す医療

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・授業レジュメは原則として毎回配布する。
- ・授業には積極的な態度で臨むように。

■授業時間外学習にかかわる情報

世界の国々に関わる日本のニュースにも、いつも感心を持っていただきたい。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

最終レポート試験(80%)、授業時等のレポート(20%)

■教科書

教科書は使用しない。授業時に授業レジュメや参考資料を配布する。

■参考書

授業時に随時紹介する。久山宗彦著「神の文化と和の文化」(北樹出版)もそのうちの一つである。

科目名	美術技法	担当教員 (単位認定者)	本田 真芳	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「人文科学」			
キーワード	発想、鑑賞、版画、製版				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

表現及び鑑賞の活動を通して感性を働かせながらつくりだす喜びを味わう。造形的な創造活動の能力を培い、豊かな情操を養う。

[達成目標]

- ①美しいものや、優れたものに接して感動できる豊かな人間性を高める。
- ②発想や構想の能力を高める。
- ③日常での着実な研究心と探究心を培う。
- ④日々の生活の中で何かを表す意識を持った時、それが表現の原点であることを身につける。

■授業の概要

図画工作としての基礎基本、バランスの取れた指導計画などを学ぶ。また、版画の歴史、流れを学び、版画の種類(ドライポイント・エッチング)等の実技制作を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	オリエンテーション、図画工作を考える
第2回	発想、表現、鑑賞について 描き、作ることの意味
第3回	美術の概念
第4回	新しい造形と教育
第5回	版画の歴史について考える
第6回	版画の種類について学ぶ①
第7回	版画の種類について学ぶ②
第8回	基本技法について①
第9回	基本技法について②
第10回	製版の準備①
第11回	製版の準備②
第12回	製版の実践 刷り ①
第13回	製版の実践 刷り ②
第14回	製版の実践 刷り ③
第15回	製版の実践 刷り ④

■受講生に関わる情報および受講のルール

シラバスを確認し、積極的に授業に取り組むこと。

時には服が汚れないためのエプロン、軍手が必要なこともあります。授業中の私語は十分つつしむこと。

工作室などで決められた座席を守ること。

■授業時間外学習にかかわる情報

作業内容を十分に理解し、授業に臨むこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

課題作品 70% 試験(レポート) 30%

■教科書

長谷喜久一:図画工作. 建帛社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	物理学	担当教員 (単位認定者)	栗原 秀司	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「自然科学」			
キーワード	力学、運動、圧力、エネルギー、波、電気、電流、原子				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

物理学を通して自然科学の基本的な考え方を学び、応用できるようになることを目的とする。

[到達目標]

- ①力の種類を知り、力のつりあいや運動の法則等を応用して、ヒトの体や骨・筋肉にはたらく力を求めることができる。
- ②運動の表し方を知り、式やグラフを読み取ることや式やグラフで表すことができる。
- ③エネルギー、熱、波、電気、磁気、放射線等について知り、その表し方や法則を理解し説明できる。

■授業の概要

物理学は自然を理解する基本的な考え方であるとともに、多くの場面で利用されている。医療の現場では検査や治療に応用されているだけでなく、ヒトの体の骨格・筋肉等は力学に従っている。本授業では力学を中心に物理学の基本的な考え方を説明し、エネルギー、熱、波、電気、磁気、放射線等について概説する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	単位、有効数字、累乗、三角比、ベクトル
第2回	力学の基本-物体の運動を数式で表わす-
第3回	物体の運動と力の関係-力の表し方と力の種類-
第4回	物体の運動と力の関係-運動方程式-
第5回	圧力のはたらきと物を回転させる力
第6回	エネルギーとその保存則
第7回	運動量と視点の違いにより感じる力
第8回	気体分子の運動と熱エネルギー
第9回	波の性質とその表し方
第10回	波で理解する音と光の現象
第11回	静電気の力とその表し方
第12回	オームの法則から理解する電気回路
第13回	電流と磁場の関係
第14回	電磁誘導と交流
第15回	原子の構造と放射線

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

- ・コメントカードで出席を確認するので、授業終了時に必ず提出すること。
- ・座席は特に指定しないが、できるだけ前に座るようにすること。

[受講のルール]

- ・分からないところがあれば、いつ質問をしてもよい。分からないところをそのままにしないようにすること。
- ・授業内容に関係のない私語は慎むこと。他の受講生の迷惑になる行為は禁止する。

■授業時間外学習にかかわる情報

事前に教科書を読み、分からないところを明確にしておくこと。授業終了後は、授業で扱った問題や授業中に扱えなかった教科書の章末問題を解いて理解を深めるようにすること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

時政孝行監修、菓子研著:まるわかり!基礎物理、南山堂、2011

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	法学	担当教員 (単位認定者)	森田 隆夫	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目	社会福祉主事任用資格指定科目		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「社会科学」			
キーワード	市民生活、憲法、民法、				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

社会福祉の法律の実践では、法律関係が随所にあり、基本的知識や法的センスが必要となる。そこで、社会福祉を志す者に必要な基本的法領域として、法学概論・憲法・民法を中心に、実務上の具体例等を通じた学習をしたいと考えている。この学習を通じて、法条の検索、判例等に触れて行きたいと考えている。

[到達目標]

- ①六法で条文を調べることができる。
- ②法学概論・憲法・民法につきその重要な概念、制度等を説明することができる。
- ③法を解釈するという思考方法をとることができる。

■授業の概要

法学概論の学習によって、法についての基本的な考えを身につける。その上で、公法の代表としての憲法と私法の代表としての民法を用いて、法解釈学を体験してもらう。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	オリエンテーション/市民生活と社会規範
第2回	市民生活の各領域と主な関係法
第3回	憲法総論、基本的人権総論1
第4回	基本的人権総論2・思想・良心の自由、信教の自由
第5回	表現の自由、経済的自由
第6回	財産権、社会権
第7回	人身の自由、その他の人権、国民の義務
第8回	統治機構の基本原則、国会、内閣、
第9回	裁判所、財政、地方自治
第10回	民法総則
第11回	物権
第12回	契約
第13回	債権
第14回	親族 相続
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。
- ・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・社会福祉を志す者として、出席時間を厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。
- ・授業の流れや雰囲気乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験(60%)、授業時間に行う小テスト(40%)を総合して評価する。

■教科書

宇山勝儀・森長秀 編著「社会福祉を志す人のための法学」光生館,2011年、有斐閣「ポケット六法」

■参考書

宇山勝儀・森長秀 編著「社会福祉を志す人のための法学」光生館,2011年、有斐閣「ポケット六法」

科目名	情報処理	担当教員 (単位認定者)	藤本 壱	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	作業療法専攻 1 年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「社会科学」			
キーワード	Word,Excel				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

レポート作成等で必要なパソコンの基本操作を身につけること、各種発表のためのパソコンでの資料作りの方法や、よりよい発表の方法を身につけることを目的とする。

[到達目標]

- ①パソコンの基本的な操作を理解する
- ②Microsoft Wordでレポート等の文章を作成できる
- ③Microsoft Excelで表やグラフをまとめることができる
- ④PowerPointの基本的な操作を理解する
- ⑤PowerPointでプレゼンテーションを作成できる
- ⑥作成したプレゼンテーションを使って発表できる

■授業の概要

授業を通し、パソコンの基本的な使い方をマスターし、WordとExcelを使って各種の文書を作成することができるようになることを目標とする。

他の科目でレポート課題等の文書を作成する際にWordやExcelを使う機会は多いので、他の科目との関わりも多い。

PowerPointでプレゼンテーション用資料を作成することをマスターし、またその資料を使って人前で発表することができるようになることを目標とする。

他の科目での各種発表の際にも、PowerPointを活用できるようにする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	オリエンテーションとキーボード、マウスの操作
第 2 回	[基礎]日本語の入力とファイルの操作
第 3 回	[基礎]ホームページの利用
第 4 回	[Word]基本的な書式設定
第 5 回	[Word]応用的な書式設定
第 6 回	[Word]表のある文書の作成
第 7 回	[Word]図や写真を含む文書の作成
第 8 回	[Word]作業の効率化と複数ページ文書の作成
第 9 回	[Excel]Excelの基本操作
第 10 回	[Excel]セルの書式設定
第 11 回	[Excel]グラフの作成
第 12 回	[Excel]計算の基本
第 13 回	[Excel]Excelをデータベース的に使う
第 14 回	[Word/Excel]Word/Excelの各種の操作
第 15 回	レポートについて

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

- ・ファイル保存用にUSBメモリを持参すること。
- ・配布資料は当授業のホームページから各自ダウンロードすること。

[受講のルール]

- ・積極的に授業に臨むこと。
- ・実習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。
- ・授業に関係のないこと(例:YouTubeを見る)をしないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書の練習問題等を利用して復習すること。

■オフィスアワー

授業開始前 20 分間

■評価方法

前期:レポート課題による評価(100%)

後期:レポート課題(70%)、レポート発表(30%)

以上から総合的に評価

前期と後期を合計して総合評価とする。

■教科書

今すぐ使えるかんたんWord&Excel&PowerPoint2013、技術評論社、2013年

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	情報処理	担当教員 (単位認定者)	藤本 壱	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	作業療法専攻 1 年次選択科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「社会科学」		
キーワード	PowerPoint, Word, Excel, プレゼンテーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

レポート作成等で必要なパソコンの基本操作を身につけること、各種発表のためのパソコンでの資料作りの方法や、よりよい発表の方法を身につけることを目的とする

〔到達目標〕

- ①パソコンの基本的な操作を理解する
- ②Microsoft Wordでレポート等の文章を作成できる
- ③Microsoft Excelで表やグラフをまとめることができる
- ④PowerPointの基本的な操作を理解する
- ⑤PowerPointでプレゼンテーションを作成できる
- ⑥作成したプレゼンテーションを使って発表できる

■授業の概要

授業を通し、パソコンの基本的な使い方をマスターし、WordとExcelを使って各種の文書を作成することができるようになることを目標とする。
他の科目でレポート課題等の文書を作成する際にWordやExcelを使う機会は多いので、他の科目との関わりも多い。
PowerPointでプレゼンテーション用資料を作成することをマスターし、またその資料を使って人前で発表することができるようになることを目標とする。
他の科目での各種発表の際にも、PowerPointを活用できるようにする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 16 回	[PowerPoint]Power Pointの基本操作
第 17 回	[PowerPoint]文字と段落の書式設定
第 18 回	[PowerPoint]表と図の操作
第 19 回	[PowerPoint]各種のオブジェクトの操作
第 20 回	[PowerPoint]画面切り替えとアニメーション
第 21 回	[PowerPoint]プレゼンテーションの発表とその関連機能
第 22 回	[Word]長文関連の機能(1)
第 23 回	[Word]長文関連の機能(2)
第 24 回	[Word]差し込み印刷関連の機能
第 25 回	[Excel]複雑な計算
第 26 回	[Excel]各種の便利な機能
第 27 回	課題について
第 28 回	プレゼンテーション実習
第 29 回	プレゼンテーション実習
第 30 回	プレゼンテーション実習

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・ファイル保存用にUSBメモリを持参すること。
- ・配布資料は当授業のホームページから各自ダウンロードすること。

〔受講のルール〕

- ・積極的に授業に臨むこと。
- ・実習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。
- ・授業に関係のないこと(例:YouTubeを見る)をしないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書の練習問題等を利用して復習すること。

■オフィスアワー

授業開始前 20 分間

■評価方法

前期:レポート課題による評価(100%)
後期:レポート課題(70%)、レポート発表(30%)
以上から総合的に評価
前期と後期を合計して総合評価とする。

■教科書

今すぐ使えるかんたんWord&Excel&PowerPoint2013、技術評論社、2013年

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	マスメディア論	担当教員 (単位認定者)	新井 英司	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「社会科学」			
キーワード	マスメディア、メディア・リテラシー				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

これからの人生で自分を輝かせて行くにはどうしたらよいか。マスメディアの正しい理解や豊かなコミュニケーション力の探求を通して、今日の高度な情報化社会を明るく楽しく生きる実践力を学ぶ。

〔到達目標〕

- ①グローバル化をめぐる世界情勢への関心が高まる。
- ②客観的な見方を習得する。
- ③マスメディアの現状と課題を把握する。
- ④メディア・リテラシーの自覚と実践が可能となる。
- ⑤コミュニケーションの起源を知り「ありがとう」を再認識する。

■授業の概要

マスメディアの現状と課題を取り上げながら、多様化するメディアをいかに生かすかを考え、情報、ジャーナリズムの特性について具体的に学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	複眼という視点
第2回	公正と利他
第3回	冷静と時代感覚
第4回	マスメディア論に取り組む意義
第5回	マスメディアの危機① グローバル化の中で
第6回	マスメディアの危機② テレビと新聞のもたれ合い
第7回	マスメディアの危機③ マニュアル化で暴走
第8回	マスメディアの危機④ 市場原理に埋没
第9回	メディア・リテラシー① ニュースとは何か
第10回	メディア・リテラシー② 客観報道とは何か
第11回	メディア・リテラシー③ ジャーナリズムの特性
第12回	メディア・リテラシー④ 批判と疑いの精神
第13回	メディア・リテラシー⑤ 自らの感度を磨く
第14回	まとめ① たくましく情熱的に生きる
第15回	まとめ② メディアの未来と私たち

■受講生に関わる情報および受講のルール

毎日のテレビ、新聞等のニュースを取り上げ、意見や感想を発表し合います。その都度、資料も配付しますので、積極的に授業に参加して下さい。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

内田樹 『街場のメディア論』（光文社新書） 外岡秀俊 『情報のさばき方』（朝日新書）

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	医療英語Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	デビス ウォーレン	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「外国語科目」			
キーワード	日常会話、身体部位、姿勢や動き				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

リハビリテーションの場面の中に基本的なコミュニケーションができるようになることを目的とする。

[到達目標]

- ①日常会話も含め、患者との基本的な会話ができる。
- ②リハビリテーションの専門用語を理解できる。
- ③英語でコミュニケーションをとる自信をつける。

■授業の概要

医療の現場に必要な日常会話や専門的な用語を中心に学びます。単語を学び、それを使って患者さんと会話できるように練習します。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	Meeting People For the First Time
第2回	Asking Personal Questions
第3回	Numbers, Times, Dates
第4回	Numbers, Times and Dates II
第5回	Personal Details, Times, Family
第6回	Famiyy
第7回	Location
第8回	Directions and Hospita Departments
第9回	At the Hospital / Rehabilitation Equipment
第10回	Test ①
第11回	Body parts
第12回	Body parts / Body movement
第13回	Bones
第14回	Review Lesson
第15回	Review Lesson

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・英和・和英辞書があると授業に役立つでしょう。

[受講のルール]

- ・授業をよく聞いて、メモをとる。
- ・ペアワークやグループワークをするときに積極的に参加すること。
- ・英和・和英辞典が入っていても携帯電話を使用しないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・小テストの時は、指示された範囲を必ず学習すること。
- ・分からない単語があれば、調べておくこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(論述・客観)、聞き取りを含む。100%

■教科書

NEW ENGLISH UPGRADE ①

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	医療英語Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	デイビス ウォーレン	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「外国語科目」			
キーワード	会話、医学英語、事例・症例				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

リハビリテーションの場面の中に基本的なコミュニケーションができることと簡単な症例を理解できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①患者との基本的な会話ができる。
- ②リハビリテーションの専門用語を理解できる。
- ③簡単な症例を理解できる。

■授業の概要

医療の現場に必要な会話や専門的な用語を学び、その勉強を生かして簡単な症例を理解する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	Orientation
第2回	Conversation with a client (Life Before a Stroke).
第3回	Hopes and Dreams ①
第4回	Hopes and Dreams ②
第5回	Therapy Positions
第6回	Pain
第7回	Talking to a client about pain.
第8回	Treatment ①
第9回	小テスト①
第10回	Data Presentation ①
第11回	Data Presentation ②
第12回	Data Presentation ③
第13回	Case Study ①
第14回	Case Study ②
第15回	小テスト

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・英和・和英辞書があると授業に役立つ。

〔受講のルール〕

- ・授業をよく聞いて、メモをとる。
- ・ペアワークやグループワークをするときに積極的に参加すること。
- ・英和・和英辞典が入っていても携帯電話を使用しないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

・小テストの時は、指示された範囲を必ず学習すること。 ・症例を理解するため授業時間外学習をすること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（論述・客観）100%

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	スポーツ体育	担当教員 (単位認定者)	櫻井秀雄・高坂駿	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	作業療法専攻1～4次年選択科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「保健体育科目」		
キーワード	生涯・障害者スポーツ、車いすバスケ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

スポーツ等のプログラム能力の習得や企画・運営、指導技術を身につけることにより、福祉施設、病院等で理学・作業療法士として活躍する人材の育成を目指すことができる。

〔到達目標〕

- ①健康で心豊かな生活を営むための一環として、多くのスポーツ・体育を体験することにより、学生生活の充実を図ることができる。
- ②スポーツ等のプログラム能力の習得や企画・運営、指導技術を身につける。
- ③障害者・高齢者の体力維持や心の安寧を理解することができる。
- ④スポーツ体育の活動を通じて、安全管理の知識と実際の行動を身につけることができる。
- ⑤スポーツを通じて障害者とのコミュニケーションを図れる能力を身につける。
- ⑥スポーツ活動を通じてお互いを理解し、協働する態度を育てることができる。また、コミュニケーション能力を高めることができる。
- ⑦リハビリスポーツの先端技能や最新施設の状況を理解することができる。
- ⑧障害者スポーツを習得することにより障害の理解やリハビリの重要性を認識して意欲を高めることができる。

■授業の概要

スポーツ・体育の楽しさを知り、ニュースポーツやコミュニケーションゲーム等を通じて、スポーツ・レクリエーション支援の技術を習得することができるようになる。そのための指導理論、実技などの学習を通じ、高齢者、障害者スポーツの体験と理解を深めることにより、支援者（指導者）としての実践力を高めることができるようになる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	スポーツ体育オリエンテーション
第2回	体ほぐし運動
第3回	生涯・障害者スポーツ①
第4回	生涯・障害者スポーツ②
第5回	生涯・障害者スポーツ③
第6回	ノーマライゼーションとスポーツ①
第7回	ノーマライゼーションとスポーツ②
第8回	車椅子バスケットボール①
第9回	車椅子バスケットボール②
第10回	車椅子バスケットボール③
第11回	スポーツプログラム企画と運営①バスケットボール
第12回	スポーツプログラム企画と運営②バレーボール
第13回	スポーツプログラム企画と運営③ユニホック
第14回	スポーツ指導と安全管理
第15回	スポーツ体育のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

集中講義として実施するので、体調管理を整えておく。

運動のおこないやすい服装や運動靴を準備する。

実技が中心になるが、いつでもメモができる用意しておく。

前橋キャンパス教室・体育館にて実施するが、車椅子バスケットボールは、群馬県立ふれあいスポーツプラザでおこなう。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

集中講座日程中は随時おこなう。

■評価方法

レポート 50% 実地試験 50%

■教科書

特には指定しないが、リハビリスポーツ関係に目を通しておく。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	スポーツ体育	担当教員 (単位認定者)	櫻井秀雄・高坂駿	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	作業療法専攻1～4年次選択科目。学園スポーツ大会、県民マラソン参加が履修の必須条件。1年次集中講義に出席していない者は受講できない。	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「保健体育科目」			
キーワード	企画運営 トレーニング リスク管理 マラソン				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

OT業務に活用できるよう、スポーツ大会でリーダー的存在として役割を担えることや競技におけるトレーニングについて理解・説明・実践できることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①競技における有効なトレーニング方法を知ることができる。
- ②競技参加における効果的な計画を自ら行うことができる。
- ③競技参加におけるリスク管理を行うことができる。
- ④県民マラソンでの完走を目標とする。
- ⑤①～④を応用しOTの業務に活かすことができる。

■授業の概要

1年後期に学んだスポーツプログラムの企画と運営を活かし、学園スポーツ大会に中心的存在として参加する。また、11月3日に開催される『群馬県民マラソン』へ出場し完走を目指す。それにあたり、事前にトレーニング方法や計画、リスク管理をグループワーク等を通し学び、準備する。これらの経験をOTの業務に活かせるようになることを最終的な目的とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第16回	科目オリエンテーション
第17回	スポーツ大会参加
第18回	スポーツ大会参加
第19回	スポーツ大会参加
第20回	マラソン大会の参加に向けて(目標設定・トレーニング計画作成)
第21回	ランニング
第22回	マラソンに有効なサーキットトレーニングを考える(グループ):レポート
第23回	マラソンに有効なケガの予防・バイタル測定・リスク管理・体調管理について調べる
第24回	マラソンに有効なケガの予防・バイタル測定・リスク管理・体調管理について発表(個別):レポート
第25回	ランニング
第26回	ランニング
第27回	ランニング
第28回	県民マラソン大会 10km 出場:実力によりハーフ(11月3日)
第29回	県民マラソン大会 10km 出場:実力によりハーフ(11月3日)
第30回	完走報告会/学んだことの振り返り:レポート

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・県民マラソンの参加費は自己負担となる。毎年7月初旬から県民マラソンのエントリーが始まる。すぐに定員に達することが多いので、自らエントリー時期を確認し、応募漏れのないよう十分注意する。
- ・マラソンを走る際は睡眠を十分に取し、準備運動や水分補給などの体調管理を十分に行うこと。
- ・屋外トレーニングの際、天候を考慮し屋内トレーニングに切り替える場合がある。掲示板をよく見ておくこと。

〔受講のルール〕

- ・企画運営やグループワークの際は、率先して発言や行動をすること。
- ・授業中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止。
- ・ランニングコースまでは集団で行動し、安全管理、一般の方への迷惑行為に十分注意すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎授業時に配布する、コマ・シラバスを基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。

■オフィスアワー

月曜日 16～17時は随時(変更時は掲示する)。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

レポート 50%(再提出あり。期限内に提出されないものは総合評価に含めない。) 実技 50%

■教科書

特に指定はしないが、自ら情報収集をすること。自分に合った、マラソンに関する参考書を1冊購入すると良い。

■参考書

特に指定はしないが、自ら情報収集をすること。

科目名	基礎演習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	担任	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ	基礎科目「総合科学」			
キーワード	授業の受け方、図書館利用、レポート、グループワーク、発表、礼儀挨拶、環境美化				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

学園の基本である礼儀・挨拶、環境美化を学びの基礎であるレポート、グループワーク、発表といった手法を学びながら身につけていく。

〔到達目標〕

- ①礼儀・挨拶について説明でき、日々の生活の中で実践できる。
- ②環境美化について説明でき、日々の生活の中で実践できる。
- ③レポートを形式に則って作成できる。
- ④グループワークを円滑に実施できる。
- ⑤発表を簡潔にわかりやすく行えるようになる。
- ⑥実際の場面において適切な身だしなみ、見学態度、時間厳守、報告・連絡・相談が実践できる。

■授業の概要

基礎演習Ⅰでは、学びの基礎である「授業の受け方」「レポート」「グループワーク」「発表」を身につけ、これらを駆使して学園の基本である「礼儀・挨拶」「環境美化」について理解を深めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/基礎学士力の育成
第2回	大学での学びとは(4年間を通したキャリアデザイン・授業の受け方)
第3回	図書館の活用法
第4回	礼儀・挨拶の実践、個人情報の取り扱いについて①
第5回	礼儀・挨拶の実践、個人情報の取り扱いについて②
第6回	グループワーク手法・発表手法、レポートの書き方(グループワーク)
第7回	レポートの書き方(グループワーク、まとめ)
第8回	レポートの書き方(発表、まとめ)
第9回	大学での学びとは(前期を振り返って)
第10回	キャリアアップ講座(租税教室)
第11回	挨拶・礼儀について(グループワーク)
第12回	挨拶・礼儀について(発表)
第13回	環境美化について(グループワーク)
第14回	環境美化について(発表)
第15回	大学での学びとは(1年を振り返って)

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

グループワークや発表は出席が前提となるので、体調管理を怠らないこと。

〔受講のルール〕

- ①シラバスを確認し予習復習を必ず行い積極的に臨むこと。
- ②受講態度や身だしなみが整っていない場合受講を認めない。
- ③授業の流れや雰囲気を乱したり他の受講生の迷惑となる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。
- ④内容が類似した課題は受け付けられないため自己の努力で作成すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

話し合いの準備(資料収集)、発表準備をしておくこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

■発表 ■レポート ■出席
発表 20%、レポート 80%

■教科書

基礎演習テキスト 鈴木利定；昌賢学園の全人教育 咸有一徳、中央法規

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	基礎演習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	担任・北爪浩美	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「総合科学」			
キーワード	企画・運営能力、コミュニケーション能力、ケア・コミュニケーション検定				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

社会人・医療人としての基本的能力である「コミュニケーション能力」「企画・運営能力」について学び、実践の場で活用できることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①イベントの企画に関わることができる。
- ②イベントの運営に関わることができる。
- ③コミュニケーションに関する基礎知識を説明することができる。
- ④自分のコミュニケーションの特徴を理解することができる。
- ⑤医療従事者としての基本的コミュニケーションを実践できる。

■授業の概要

基礎演習Ⅱでは、コミュニケーションと企画・運営に関して、グループワークなどの演習を通して社会人・医療人としての基本的能力を身につけていく。また、授業後半にケア・コミュニケーション検定を受験する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、建学の精神について
第2回	企画/運営力について、問題解決技能について(グループワーク・発表)
第3回	チームワークとディスカッションについて
第4回	ひととコミュニケーション
第5回	言語的コミュニケーションについて
第6回	コミュニケーションの発達と自己理解①
第7回	コミュニケーションの発達と自己理解②
第8回	コミュニケーション・テクニック
第9回	コミュニケーションと人間関係
第10回	コミュニケーションプロセス、ケア・コミュニケーション
第11回	ケア・コミュニケーション演習
第12回	ケア・コミュニケーション演習
第13回	ケア・コミュニケーション演習
第14回	ケア・コミュニケーション検定受験
第15回	基礎演習まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

ケア・コミュニケーション検定受験料 4500 円
グループワークが多くなるため欠席しないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

コミュニケーション能力は授業だけでは身に付かないため、積極的にボランティアに参加し、授業で得た知識を実践していくこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

■ケア・コミュニケーション検定 50%、■レポート 50%

■教科書

基礎演習テキスト

■参考書

ケア・コミュニケーション～ あなたの心遣いがみんなの支えになります ～. 株式会社ウイネット
http://www.wenet.co.jp/product/html/products/detail.php?product_id=173
 山根寛 他著:ひとと集団・場 第2版. 三輪書店,2007
 諏訪茂樹著:援助者のためのコミュニケーションと人間関係第2版. 建帛社,1997
 辛島千恵子著:広汎性発達障害の作業療法 根拠と実践. 三輪書店,2010

科目名	専門演習 I	担当教員 (単位認定者)	担任・阿部真也	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻 3 年次必修科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「総合科学」			
キーワード	質問力、問題発見能力、問題解決能力				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

社会人・医療人としての基本となる「問題発見能力」「問題解決能力」、それらの基礎となる「質問力」を養い論理的な思考を基に行動できることを目的とする。

■授業の概要

専門演習 I では、論理的思考能力の基礎となる「質問力」「問題発見能力」「問題解決能力」をグループワーク等を通して身につけていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	科目オリエンテーション/学長講話および建学の精神について
第 2 回	論理的思考とは
第 3 回	質問力とは
第 4 回	問題とは、問題発見の 4P
第 5 回	問題解決の思考プロセス:ステップ①何が問題か考える
第 6 回	問題解決の思考プロセス:ステップ①何が問題か考える
第 7 回	問題解決の思考プロセス:ステップ②重要問題を選んで「問い」を立てる
第 8 回	問題解決の思考プロセス:ステップ②重要問題を選んで「問い」を立てる
第 9 回	問題解決の思考プロセス:ステップ③解決アイデアを発想する
第 10 回	問題解決の思考プロセス:ステップ③解決アイデアを発想する
第 11 回	問題解決の思考プロセス:ステップ④解決アイデアを評価する「ものさし」をつくる
第 12 回	問題解決の思考プロセス:ステップ⑤「ものさし」をつかかって解決アイデアを評価する
第 13 回	問題解決の思考プロセス:ステップ⑥実行計画を立てる
第 14 回	FPSP 問題解決力検定
第 15 回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

グループワークが多いので休まないこと。

ポートフォリオ作成のため、A4 クリアフォルダー（なるべくいっぱい入るもの）を用意すること。

NP0 法人 日本未来問題解決プログラム FPSP 問題解決力検定 受験料 3000 円

■授業時間外学習にかかわる情報

論理的思考能力を身につけるには、日々の生活を疑問を持って送ることが重要となる。授業で学んだことを生活の中で実践することが大切である。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

■ポートフォリオ 60% ■FPSP 問題解決力検定 40%

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	専門演習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	担任・北爪浩美	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「総合科学」			
キーワード	就職活動、自己分析、将来設計				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

これまで基礎演習・専門演習で身につけてきたことを総合し、専門職として誇りを持って就労できることを目的とする。

[到達目標]

- ①自己を客観的に分析し、他者に対しわかりやすく説明できる。
- ②社会人としてのマナーを身につける。
- ③将来像を描けるようになる。

■授業の概要

専門演習Ⅱでは、目前に迫る就職における基本的な知識を学ぶ。そして、大学4年間で振り返り自分自身を客観的に捉え直す機会とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/学長講話および建学の精神について
第2回	就職活動の流れ・卒業生からのアドバイス
第3回	自己分析
第4回	自己分析
第5回	自己分析発表
第6回	就職活動におけるマナー講座メイクアップ(外部講師)
第7回	就職活動におけるマナー講座身だしなみ・所作
第8回	就職活動を成功させるための情報収集
第9回	将来設計立案
第10回	将来設計発表
第11回	会社の研究方法(会社の見方・選び方)
第12回	自己PR法～履歴書の書き方・面接の受け方・会社訪問法～
第13回	卒業生からのメッセージ(就職編)
第14回	卒業生からのメッセージ(国家試験編)
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

グループワークが多いので休まないこと。ポートフォリオ作成のため、A4クリアフォルダーを用意すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

ポートフォリオ 50%、レポート 50%

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	ボランティア活動Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	担任	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ	基礎科目「総合科学」			
キーワード	汎用的技能、態度・志向性、ボランティア、コミュニケーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

ボランティアへの参加を通し、医療従事者としての基本的態度を学び、身につける。幅広い視点・視野、協調性、行動力といった能力を中心に培うことを目的とする。

〔到達目標〕

- ① 本学におけるボランティア活動の位置づけについて理解し、説明することができる。
- ② 依頼ボランティアや学校行事ボランティアへの参加を通して、基本的参加態度やボランティアの必要性を理解することができる。
- ③ ボランティア体験を通して、医療従事者としての基本的態度などの実践を行うことができる。

■授業の概要

医療従事者を目指す者として、専門的な医学知識や技術の習得だけでなく、汎用的技能や態度・志向性を身につける必要がある。そのために必要なことをボランティア活動などを通して学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/本学・本学部におけるボランティアの位置づけと自己目標の設定
第2回	ボランティアに臨むための態度
第3回	車椅子体験
第4回	高齢者体験
第5回	車椅子・高齢者体験まとめ
第6回	ボランティアについての講和
第7回	前期の振り返り
第8回	あそか会 参加準備
第9回	クリスマス会の企画
第10回	クリスマス会予演会
第11回	クリスマス会予演会
第12回	クリスマス会
第13回	クリスマス会
第14回	クリスマス会の振り返り/1年を振り返って
第15回	1年を振り返って/学んだことの振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に係る情報〕

A4クリアブックを用意。

〔受講のルール〕

この科目は、ボランティア活動を通して自分自身がどの様に成長したか自分でまとめていく作業があります。積極的なボランティア活動の実践が前提となっています。

依頼ボランティア参加方法について十分理解し、先方やボランティアセンターとトラブルのないように配慮してください。

■授業時間外学習にかかわる情報

初回オリエンテーション時に詳細を伝えます。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

ポートフォリオ 70%、ボランティア参加状況 15%、授業内発表 15%

■教科書

特になし。適宜紹介する。

■参考書

鈴木敏恵 著：ポートフォリオ評価とコーチング手法-臨床研修・臨床実習の成功戦略！, 医学書院, 2006

科目名	ボランティア活動Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	担任	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目			
	カリキュラム上の位置づけ	基礎科目「総合科学」			
キーワード	汎用的技能、態度・志向性、ボランティア、コミュニケーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

医療従事者としての基本的態度を身につけ実践する。自ら企画してボランティアへ参加し、様々な体験を通して自分自身を振り返る。

〔到達目標〕

- ①自ら参加したいボランティアなどについて計画を立てることができる。
- ②ボランティア体験を通して、汎用的技能や医療従事者としての基本的態度を学び、その実践ができる。
- ③2年間のボランティア活動を通して、自分自身の成長点、課題点が認識できる。
- ④③をポートフォリオにまとめることができる。

■授業の概要

医療従事者を目指す者として、専門的な医学知識や技術の習得だけでなく、汎用的技能や態度・志向性を身につける必要がある。そのために必要なことをボランティア活動などを通して学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション・ボランティアの活動計画。グループディスカッション。
第2回	ボランティア活動計画の立案、ボランティア参加にあたっての注意事項
第3回	自分の態度を振り返る。様々な価値観を知る。
第4回	価値観の多様性を知る
第5回	企画/運営について(群リハフェスタの企画)
第6回	企画/運営について(群リハフェスタの企画/準備)
第7回	運営について(群リハフェスタの振り返り)
第8回	前期ボランティア活動の振り返り
第9回	後期に向けてのボランティア活動計画
第10回	講話: 学生ボランティア経験について①
第11回	講話: 学生ボランティア経験について②
第12回	ボランティア活動のまとめ、発表準備
第13回	2年間のボランティア活動のまとめ・発表①
第14回	2年間のボランティア活動のまとめ・発表②
第15回	まとめ、2年間の振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に係る情報〕

A4 クリアファイルを用意。

〔受講のルール〕

この科目は、ボランティア活動を通して自分自身がどの様に成長したか自分でまとめていく作業があります。積極的なボランティア活動の実践が前提である。

ふざけた態度や礼を欠く態度を取る者は受講を拒否することがある。授業に関係ないものを持ち込みを禁止。携帯電話やスマートフォンは机に出さない。

■授業時間外学習にかかわる情報

初回オリエンテーション時に詳細を伝えます。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

ポートフォリオ 70%、授業内課題発表など 30%

■教科書

特になし。適宜紹介する。

■参考書

鈴木敏恵 著: ポートフォリオ評価とコーチング手法-臨床研修・臨床実習の成功戦略!, 医学書院, 2006

2) 專門基礎科目

科目名	解剖学I	担当教員 (単位認定者)	内田 博之	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係わる必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	骨格系、筋系				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

人体の構造と分類、特に骨格系、筋系および神経系について学び、運動に関係する基本的な解剖学的な構造を習得できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①椎骨の基本型と脊柱および胸郭の構成を説明することができる。
- ②四肢の骨格の構成と各部の名称を説明することができる。
- ③頭蓋骨の構成と各部の特徴を説明することができる。
- ④四肢の筋群の起始停止部、支配神経および作用を説明することができる。
- ⑤体幹および頭頸部の筋群の構成と位置関係を説明することができる。
- ⑥骨の連結の種類と構造を説明することができる。
- ⑦脊柱と胸郭の連結を説明することができる。
- ⑧四肢の骨格の連結と運動を説明することができる。

■授業の概要

生体観察を通して、人体の区分、各部の特徴および骨格系と筋系、骨の連結について知り、理解できるようになることが必要である。また、解剖学実習、生理学実習、生理学、運動学の知識と双方向性の理解が必要となる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	オリエンテーション、人体の各部の名称と方向用語
第2回	骨格系-1 上肢の骨
第3回	骨格系-2 上肢の骨
第4回	骨格系-3 骨盤、下肢の骨
第5回	骨格系-4、-5 椎骨、脊椎と胸郭
第6回	骨格系-5、-6 胸郭と頭部の骨、骨の構成
第7回	筋系-1 頭頸部の筋、頭部の各骨との連結
第8回	筋系-2 体幹の筋、胸部の筋
第9回	筋系-3 脊柱の筋、上肢の筋、肩関節
第10回	筋系-4 上肢の筋、肘関節、前腕の筋、手の筋
第11回	筋系-5 上肢の筋、肘関節、前腕の筋、手の筋
第12回	筋系-6 骨盤の筋、骨盤の連結、下肢の筋
第13回	筋系-7 骨盤の筋、骨盤の連結、下肢の筋
第14回	筋系-8 下肢の筋、下肢の連結と運動について
第15回	筋系-9 まとめ、試験について

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・授業資料を配付しますので、解剖トレーニングノートの該当箇所に貼り付けること。
- ・予習復習に十分な時間を割くこと。

〔受講のルール〕

- ・授業概要を必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ・最前列から着席し、授業を受けやすい環境を作ること。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守および対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合は、受講を認めないことがある。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話やスマートフォンの使用)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時間外には、予習復習に十分に時間を割くこと。特に、復習に重点を置き、授業内容はその日のうちに身につけること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観・論述)100%であり、60%を越えていることが必要である。しかし、総合評価には出席状況および課題提出状況が良好であることが前提となる。

■教科書

- ・標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学 野村巖【編】医学書院
- ・解剖トレーニングノート 竹内 修二(著)医学教育出版社

■参考書

- ・カラー人体解剖学-構造と機能:ミクロからマクロまで F.H. マティーニ(著)西村書店
- ・ネッター解剖学アトラス Frank H. Netter(著)南江堂
- ・プロメテウス解剖学アトラス総論・運動器系 坂井 建雄(著)医学書院
- ・ネッター解剖生理学アトラス John T.Hansen(著)南江堂

科目名	解剖学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	内田 博之	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係わる必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	脳、脊髄				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

人体の構造と分類、特に筋系、関節及び神経系について学び、運動に関係する基本的な解剖学的な構造を習得できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①中枢神経の構造と機能および伝導路が説明することができる。
- ②末梢神経のうち、体性神経（脳神経、脊髄神経）の構成と分布先が説明することができる。
- ③末梢神経のうち、自律神経（交感神経、副交感神経）の構成と分布先が説明することができる。
- ④骨格系、筋系および神経系の構造を機能と関連づけて説明することができる。

■授業の概要

生体観察を通して、人体の区分、各部の特徴および筋系と神経系、筋の神経支配について知り、理解できるようになることが必要である。また、解剖学実習、生理学実習、生理学、運動学の知識と双方向性の理解が必要となる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、神経系と筋系との関わり
第2回	脳と脊髄 -1 中枢神経系の全体的な構造、大脳と間脳の構造
第3回	脳と脊髄 -2 中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の構造
第4回	脳と脊髄 -3 脳と脊髄のまとめ
第5回	脳と脊髄 -4 中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の伝導路
第6回	脊髄神経 -1 脊髄神経の構造とその枝
第7回	脊髄神経 -2、-3 頸神経叢、腕神経叢の構成とその枝
第8回	脊髄神経 -4 腕神経叢の枝と支配筋
第9回	脊髄神経 -5 腕神経叢のまとめ
第10回	脊髄神経 -6 肋間神経の構成とその枝、支配筋
第11回	脊髄神経 -7 腰神経叢の構成とその枝、支配筋
第12回	脊髄神経 -8 仙骨神経叢の構成とその枝、支配筋
第13回	脊髄神経 -9 坐骨神経の枝、支配筋
第14回	脊髄神経 -10 腰神経総、仙骨神経叢のまとめ
第15回	脊髄神経 -11 脳神経、自律神経、試験勉強

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・授業資料を配付しますので、解剖トレーニングノートの該当箇所に貼り付けること。
- ・予習復習に十分な時間を割くこと。

〔受講のルール〕

- ・授業概要を必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ・最前列から着席し、授業を受けやすい環境を作ること。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守および対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合は、受講を認めないことがある。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話やスマートフォンの使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（客観・論述）100%であり、60%を越えていることが必要である。しかし、総合評価には出席状況および課題提出状況が良好であることが前提となる。

■教科書

- ・標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学 野村巖【編】医学書院
- ・解剖トレーニングノート 竹内 修二（著）医学教育出版社

■参考書

- ・カラー人体解剖学-構造と機能:ミクロからマクロまで F.H. マティーニ（著）西村書店
- ・ネッター解剖学アトラス Frank H. Netter（著）南江堂
- ・プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論・運動器系 坂井 建雄（著）医学書院
- ・ネッター解剖生理学アトラス John T.Hansen（著）南江堂

科目名	解剖学実習	担当教員 (単位認定者)	多田真和・栗原卓也	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	脳神経系、呼吸器系、循環器系、消化器系、泌尿器系、内分泌系、平衡聴覚器				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

解剖学は、生理学、運動学、整形外科学および神経内科学等の専門基礎科目、さらに理学療法専門科目および作業療法専門科目等のすべての科目の基礎的知識であり必須のものであるため、しっかりと知識を定着させる。

〔到達目標〕

- ①人体の構造を、器官系別に分類し理解できる。
- ②器官系別に理解した知識を有機的にまとめ、人体全体を立体的、総合的に理解できる。
- ③人体の構造を、自らの手で描き、説明することができる。

■授業の概要

「解剖学Ⅰ/Ⅱ」では「骨格系」、「筋系」および「神経系」を中心に授業が進められる。「解剖学実習」では、人体の他の構成単位である「呼吸器系」、「循環器系」、「消化器系」、「泌尿器系」、「内分泌系」および「平衡聴覚器」について学ぶ。授業では、パワーポイント(ppt)やビデオ画像を多用し、視覚的に理解しやすいように配慮する。また、学年末には、実際の人体の解剖標本を目の当たりにすることで、授業で学んだ知識を立体的かつ総合的に理解を深められるようにする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	脳神経Ⅰ(脳室、大脳基底核)
第2回	オリエンテーション、呼吸器系
第3回	循環器系(1)
第4回	循環器系(2)
第5回	脳神経Ⅱ(脳血管、大脳辺縁系)
第6回	脳神経Ⅲ(CT, MRI)
第7回	循環器系(3)
第8回	消化器系(1)
第9回	消化器系(2)
第10回	消化器系(3)
第11回	泌尿器系
第12回	内分泌系(1)
第13回	内分泌系(2)
第14回	平衡聴覚器
第15回	脳神経Ⅳ(脳神経、末梢神経、自律神経)

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

授業に臨むにあたり、必ず該当分野の予習を行うこと。体内の位置と機能については、必須である。

〔受講のルール〕

将来の医療従事者として、相手から信頼感が得られるような態度および姿勢で授業に臨むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書の該当分野は前もって熟読し、自分が理解しにくい部分を明確にして授業に臨むこと。

■オフィスアワー

授業終了後の15分間、また、コメントカードに質問内容を記載すれば次回授業時に解説する。

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第3版 野村巖【編】医学書院
JINブックス 絵で見る脳と神経 しくみと障害のメカニズム 第3版 馬場元毅 著 医学書院

■参考書

授業中に適宜紹介してゆく。

科目名	生理学I	担当教員 (単位認定者)	神谷 誠	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	細胞、血液、循環、呼吸、消化器、腎臓、内分泌、生殖				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

内臓器の調節機構の基礎を身につけること、及び、専門科目に応用可能な知識を習得することを目的とする。

〔到達目標〕

- ①内臓器の基礎を解剖図・概念図を用いて簡潔に説明出来るようになる。
- ②生理学全体を鳥瞰的に理解し、基本概念を全体の中での位置づけを意識して説明出来るようになる。
- ③他の基礎科目・専門科目に応用することが出来るようになる。

■授業の概要

生理学はヒトの体の正常の機能を理解することを目的としており、疾病から正常状態への復帰を目指すリハビリテーションには不可欠である。しかし、生理学の領域は膨大で、未だ解明されていないことが多い。リハビリテーションの実践に、いかに生理学の知識を活用していくのかを常に念頭に置いて、体系的に理解が進められるように授業を進めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	細胞と内部環境①
第2回	細胞と内部環境②
第3回	血液①
第4回	血液②
第5回	循環
第6回	呼吸
第7回	消化器①
第8回	消化器②
第9回	腎臓と排泄
第10回	酸-塩基平衡・ホルモンとは
第11回	内分泌①
第12回	内分泌②
第13回	内分泌③
第14回	性と生殖
第15回	全体の復習・質問

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・予習復習は必ず行うこと。

〔受講のルール〕

- ・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・出席時間厳守
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（客観・論述）100%

総合評価は筆記試験が60%を超えていることが前提となる。

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第3版 医学書院 石澤光郎 富永淳 著

■参考書

授業内で紹介する。

科目名	生理学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	神谷 誠	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	筋収縮、神経系、感覚、代謝				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

神経・運動・感覚の基礎を身につけること、及び、専門科目に応用可能な知識を習得することを目的とする。

〔到達目標〕

- ①神経・運動・感覚の基礎を解剖図・概念図を用いて簡潔に説明出来るようになる。
- ②生理学全体を鳥瞰的に理解し、基本概念を全体の中での位置づけを意識して説明出来るようになる。
- ③他の基礎科目・専門科目に応用することが出来るようになる。

■授業の概要

理学はヒトの体の正常の機能を理解することを目的としており、疾病から正常状態への復帰を目指すリハビリテーションには不可欠である。しかし、生理学の領域は膨大で、未だ解明されていないことが多くある。リハビリテーションの実践に、いかに生理学の知識を活用していくのかを常に念頭に置いて、体系的に理解が進められるように授業を進めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	筋の収縮①
第2回	筋の収縮②
第3回	筋の収縮③
第4回	神経系①
第5回	神経系②
第6回	末梢神経系
第7回	中枢神経系①
第8回	中枢神経系②
第9回	中枢神経系③
第10回	感覚①
第11回	感覚②
第12回	感覚③
第13回	代謝と体温①
第14回	代謝と体温②
第15回	運動生理

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・予習復習は必ず行うこと。

〔受講のルール〕

- ・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・出席時間厳守
- ・授業の流れや雰囲気かを乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（客観・論述）100%（詳細な評価基準は授業シラバス参照）

総合評価は筆記試験が60%を超えていることが前提となる。

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第3版 医学書院 石澤光郎 富永淳 著

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	生理学実習	担当教員 (単位認定者)	大竹 一男	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る実習		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	血圧測定、心電図、呼吸、体温、エネルギー、血液、尿、視覚、聴覚				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

生理学の授業で学んだ知識を最大限に活用し、実習を通じて生体の仕組みをより深く理解する。

〔到達目標〕

- ①人体の仕組みについての知識を習得し系統だてて説明できる。
- ②実際に医療現場で使われている器具や装置を適切に扱うことができる。
- ③お互い測定しあうことによって医療人としてのコミュニケーション能力を高めることができる。

■授業の概要

実際の医療の現場で使われている器具や装置を使って、私たちの血圧、呼吸、体温、心電図を実際に測定したり、血液を顕微鏡で観察したり、尿試験紙による尿検査も行います。また私たちが食物を摂取することによってエネルギーを生み出し、消費し、排泄するまでの一連の過程についても学習します。また、PT・OTの領域で重要な視覚や聴覚についての仕組みについても学びます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	血圧測定の意義と方法について学ぶ。
第2回	実際に水銀血圧計で血圧を測定し、その評価ができる。
第3回	心電図の測定の意義と方法について学ぶ。
第4回	実際に心電図計で心電図を測定し、その評価ができる。
第5回	呼吸数及び呼吸機能の測定の意義と方法について学ぶ。
第6回	実際にスパイロメータで呼吸機能を測定し、その評価ができる。
第7回	体温測定の意義と方法について学ぶ。実際に体温を測定し、その評価ができる。
第8回	消化と吸収について学ぶ。消化管の運動(嚥下、蠕動運動、排便)について学ぶ。
第9回	エネルギー産生について学ぶ。十二指腸、肝臓、膵臓、胆のうのネットワークについて学ぶ。
第10回	体組成と腹囲測定の意義と方法について学ぶ。実際に体組成を測定し、その評価ができる。
第11回	エネルギー消費について学ぶ。骨、筋肉、関節のネットワークについての基礎を学ぶ
第12回	血液について学ぶ。実際の血液像を顕微鏡で観察し、その評価ができる。
第13回	尿の生成と排尿のしくみについて学ぶ。実際に尿検査を実施し、その評価ができる。
第14回	視覚についての基礎を学ぶ。盲点、瞳孔の反射の確認、色盲試験を行い、その評価ができる。
第15回	聴覚についての基礎を学ぶ。音の周波数の違い、平衡感覚試験を行い、その評価ができる。

■受講生に関わる情報および受講のルール

実習の実施に当たっては怪我のないように十分に注意し指導教員の指示に従うこと。実習で得られた検査結果を基に報告書(レポート)を作成し期限内に提出すること。その他、自習器具、検査値、感染性一般ゴミの取り扱いに注意し指導教員の指示に従うこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

授業提出レポート 30% レポート試験 70%

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 生理学 第3版

■参考書

その都度指示する。

科目名	運動学I	担当教員 (単位認定者)	牛込 祐樹	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	運動学、上肢、骨・関節の構造と運動、筋作用				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法士が対象者の生活に関わる上で必要となる身体運動や様々な動作を構造-機能的な見方で理解し、説明することができる。

〔到達目標〕

- ①運動学の基盤となる生体力学について説明することができる。
- ②運動器の構造と機能について説明することができる。
- ③上肢・上肢帯の各部位の構造と運動、筋作用について説明することができる。

■授業の概要

作業療法士は、対象者の生活をリハビリする仕事といわれている。生活とは、様々な姿勢で行う動作や活動の繰り返しで成り立っている。この授業では、ひとの動作や活動を運動学的観点で分析し、評価・治療に必要な身体構造・機能、身体を動かすための力学、動作の基礎となる姿勢の基礎知識を学ぶ。授業の内容は解剖学・生理学の内容を基礎として、上肢の機能解剖と運動を学ぶことを目的とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/運動学の定義/生体力学の基礎
第2回	身体の肢位・区分・位置・方向/身体運動の面と軸
第3回	運動器の構造と機能:骨の構造と機能について
第4回	運動器の構造と機能:関節の構造と機能について
第5回	運動器の構造と機能:筋の構造と機能について
第6回	上肢の基本構造と機能・役割
第7回	肘関節と前腕の構造と運動
第8回	肘関節と前腕の筋作用
第9回	手関節の構造と運動
第10回	手指・母指の構造と運動
第11回	手関節と手指・母指の筋作用
第12回	上肢帯の構造と運動
第13回	肩関節の構造と運動
第14回	肩関節と上肢帯の筋作用
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業資料の再発行はしない。授業を休んだ場合は、クラスメートからコピーをとること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になるよう行為を行う者は受講を拒否する場合がある。
- ・授業に関係ないものの持ち込みは禁止。
- ・携帯電話、スマートフォン、タブレットなどは机の上に置かない。

■授業時間外学習にかかわる情報

シラバスに示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

水曜日 16時～17時 その他の曜日・時間においては要予約

■評価方法

- 筆記試験 100% 60点未満の場合、総合評価の対象としない。
再試験:有

■教科書

- ①中村隆一・齋藤宏:基礎運動学.第6版,医歯薬出版株式会社
- ②野村巖編:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学.第3版,医学書院,2012

■参考書

伊藤元,高橋正明編:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学.医学書院,2012

科目名	運動学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	牛込 祐樹	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	下肢・体幹・頭部、骨・関節の構造と運動、筋作用、姿勢・歩行、運動学習				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法士が対象者の生活に関わる上で必要となる身体運動や様々な動作を構造-機能的な見方で理解し、説明することができる。

〔到達目標〕

- ①運動学の基盤となる生体力学について説明することができる。
- ②運動器の構造と機能について説明することができる。
- ③下肢・下肢帯の各部位の構造と運動、筋作用について説明することができる。

■授業の概要

作業療法士は、対象者の生活をリハビリする仕事といわれている。生活とは、様々な姿勢で行う動作や活動の繰り返しで成り立っている。この授業では、ひとの動作や活動を運動学的観点で分析し、評価・治療に必要な身体の構造・機能、身体を動かすための力学、動作の基礎となる姿勢の基礎知識を学ぶ。授業の内容は解剖学・生理学の内容を基礎として、下肢・体幹・頭部の機能解剖と運動を学ぶことを目的とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/下肢の構造と役割/骨盤・下肢帯の構造と運動、筋作用
第2回	股関節の構造と運動
第3回	股関節の筋作用
第4回	膝関節の構造と運動
第5回	膝関節の筋作用
第6回	足関節の構造と運動
第7回	足関節の筋作用
第8回	脊柱(頸椎・胸椎・腰椎)の構造と運動
第9回	脊柱(頸椎・胸椎・腰椎)の筋作用
第10回	胸郭の構造と呼吸運動/顔面・頭部の構造と運動
第11回	口腔・咽頭・喉頭の構造と嚥下運動
第12回	姿勢の分類と安定性について
第13回	歩行：歩行周期と運動学分析①
第14回	歩行：歩行周期と運動学分析②
第15回	運動の学習

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業資料の再発行はしない。授業を休んだ場合は、クラスメートからコピーをとること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になるような行為を行う者は受講を拒否する場合がある。
- ・授業に関係ないものの持ち込みは禁止。
- ・携帯電話、スマートフォン、タブレットなどは机の上に置かない。

■授業時間外学習にかかわる情報

シラバスに示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

水曜日 16時～17時 その他の曜日・時間においては要予約

■評価方法

□筆記試験 100% 60点未満の場合、総合評価の対象としない。 再試験：有

■教科書

- ①中村隆一・齋藤宏：基礎運動学、第6版、医歯薬出版株式会社
- ②野村巖編：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学、第3版、医学書院、2012

■参考書

伊藤元、高橋正明編：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学、医学書院、2012

科目名	運動学実習	担当教員 (単位認定者)	悴田 敦子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法士国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	姿勢観察、基本動作、筋電図、歩行				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

姿勢や動作を、作業療法士としての視点から観察・分析する基礎を身につけることを目的とする。

〔達成目標〕

- ①各肢位・姿勢を専門用語で表現することができる。
- ②各肢位の安定性や動作性を比較し表現することができる。
- ③動作における主動作筋、拮抗筋、共同筋、固定筋の活動を筋電図から読み取ることができる。
- ④歩行周期を理解し、歩行の特徴を専門用語で表現することができる。
- ⑤歩行観察から筋活動、床反力を理解し、説明することができる。

■授業の概要

ひとが日々暮らしていく中で行っている様々な行為は、姿勢を保ちながら体の一部を動かして行われている。このひとの動きの基礎となる、姿勢、運動、動作について学び、それらを行うために必要な機能について、動作分析の方法や機器を用いて学んでいく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	科目オリエンテーション、構えと体位について、ランドマークについて
第 2 回	姿勢観察（臥位）
第 3 回	姿勢観察（臥位）
第 4 回	姿勢観察（座位）
第 5 回	姿勢観察（座位）
第 6 回	姿勢観察（立位）、姿勢とADL
第 7 回	基本動作について
第 8 回	寝返り、起き上がり動作
第 9 回	寝返り、起き上がり動作、立ち上がり動作
第 10 回	立ち上がり動作、基本的動作のまとめ
第 11 回	筋電図
第 12 回	筋収縮と筋電図
第 13 回	歩行
第 14 回	歩行分析
第 15 回	歩行分析、まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

実際に体を動かすことが多いため、学校指定のジャージを要しておくこと。

メモがしやすいように筆記用ボードを用意しておくこと。

グループワークは毎回メンバーを変えること。

姿勢や動作を写真・動画に取る必要がある場合は、デジカメ・携帯・スマホ等を持ち込んでよい。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

伊東元, 高橋正明編: 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学. 医学書院, 2012

■参考書

中村隆一・齋藤宏: 基礎運動学 第 6 版 医歯薬出版株式会社

中村 隆一編著: 臨床運動学 第 3 版、医歯薬出版株式会社

科目名	人間発達学	担当教員 (単位認定者)	北爪 浩美	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法士国家試験受験資格に係る必須		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能および心身の発達」			
キーワード	人間発達				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

ヒトの神経系の発達と運動発達、認知・精神機能及び社会性の発達を学び、リハビリテーションに携わるものとしてQOLの視点から対象者の発達区分や状況に応じた対応ができるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①発達の諸段階と発達課題について説明できる。
- ②ヒトの発達における身体、認知機能の発達について理解し、説明することができる。
- ③心理、社会生活活動の発達について理解し、説明することができる。
- ④育ちを支える社会機構について理解し、説明することができる。

■授業の概要

ヒトの発達は脳を中心とする神経系の発達と外部からの情報を入力することでなされ、様々な機能や行動を学習し成熟する。発達を理解することでリハビリテーションにおける対象者の状況や目標を適切に把握するため、発達過程や発達課題について学ぶ

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	人間発達の理念、胎芽、胎児期の発達
第2回	乳児期の発達、原始反射、姿勢反射
第3回	乳児期の反射、神経系の発達
第4回	乳児期の発達(3～7か月)、原始反射、反応
第5回	乳児期及び幼児期の発達、反射反応と運動発達の関係
第6回	学童期の発達
第7回	青年期、成人期の発達
第8回	高齢期の発達

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・毎回、講義開始時に小テストを実施する。小テストは評価の対象となるため欠席しないこと。
- ・授業で配布する資料の予備は保管しないため、欠席した場合は出席者からコピーすること。
- ・授業の流れや雰囲気乱す行為、常識を欠く行為(私語、携帯電話の使用など)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

火曜日 16:30～17:30 は随時(変更の場合は掲示する)。その他は要相談。

■評価方法

筆記試験 70%、小テスト 30%
総合評価は筆記試験 60%を超えていることが条件となる。

■教科書

福田恵美子編: コメディカルのための専門基礎テキスト 人間発達学 2版. 中外医学社. 2009

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	病理学概論	担当教員 (単位認定者)	前島 俊孝	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係わる必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	病因、病態				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

病理学的な用語の定義、様々な疾患の発生機序や病態について学び、理解することを目的とする。

〔到達目標〕

- ・病理学関連の用語を理解し、正しく説明できる。
- ・基本的な疾患の病態について説明できる。

■授業の概要

細胞障害、循環障害、先天異常、炎症・免疫・感染症、腫瘍、代謝異常などを学び、様々な疾病の成り立ち・病態が理解できるよう解説する。病理学概論の内容は、将来医療スタッフとして働いていく上で必要不可欠な知識であり、その理解なしには医学書を読むことも不可能である。覚えることが多いが、できるだけ考えることを重視した講義を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	解剖学の復習
第 3 回	病因・細胞傷害
第 4 回	細胞障害
第 5 回	循環障害 I
第 6 回	循環障害 II
第 7 回	炎症
第 8 回	免疫、アレルギー
第 9 回	腫瘍 I
第 10 回	腫瘍 II
第 11 回	腫瘍 III
第 12 回	代謝異常、糖尿病
第 13 回	感染症
第 14 回	先天異常
第 15 回	まとめ・補足

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・春休みに解剖学全般の復習をして、病理学概論の講義に望んで欲しい。
- ・机の隣同士 2 人で相談し、毎時間、病理学と解剖学の教科書を 1 冊ずつ用意すること。
- ・病理学概論の講義では授業中の質問に対して「わからない」は禁句である。試験ではないので、教科書等で調べたり、周りと相談するなどして何らかの答えを導き出すように。
- ・時間厳守であるが、もし遅刻した場合やトイレ等で退室する際などは、授業の妨げとならないよう静かに行動すること。
- ・新聞やテレビなどのニュース、特に医療・医学に関する内容に興味を持つ。
- ・読書の習慣を身につける。

■授業時間外学習にかかわる情報

特に予習の必要はないが、授業で扱った内容について、必ずその週のうちに教科書を読み復習すること。

■オフィスアワー

講義の前後。それ以外は E-mail (t.maejima@nagano-hosp.go.jp) で。

■評価方法

筆記試験 (客観・論述) 100%

■教科書

新クイックマスター 病理学 (堤 寛 監修、医学芸術社)

■参考書

解剖学の教科書 (病理学概論の講義でも使用する)

科目名	臨床心理学	担当教員 (単位認定者)	橋本 広信	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	精神分析、分析心理学、対象関係論、交流分析、認知行動療法、クライアント中心療法、自律訓練法、芸術療法、森田療法、内観療法、SST他				

■授業の目的・到達目標

臨床心理学領域における国家試験問題に対処できる基礎知識を習得する。また、集団としての人ではなく、独自の存在として生きる一人ひとりの人が、人生の途上で出会う心の問題に対する見方を深め、多面的に理解し、その対処のあり方をイメージできることを目的とする。

■授業の概要

主として心理療法の理論と実際について、その基本を学ぶ。臨床心理学は、様々に異なる考え方にに基づき成立している。それらはすべて個人の心や行動の変容を目指す。それぞれの理論によって、目指すところも、そこに近づくための手段も大きく異なってくる。そうした違いを理解することにより、「人の心が回復する」ということについての考えを深めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション セラピストは何をするのか(心理療法の進め方)
第2回	精神分析の理論と技法① フロイトの無意識の発見、心の局所論
第3回	精神分析の理論と技法② フロイトの心の構造論と防衛機制、精神分析療法の流れ
第4回	心の探求のその後① C.G. ユングと分析心理学
第5回	心の探求のその後② フロイト理論の発展と修正
第6回	人間関係を分析する 交流分析
第7回	クライアントを尊重する クライアント中心療法
第8回	身体をリラックスさせる 自律訓練法他
第9回	適切な行動を再学習する 行動療法
第10回	思いこみを修正する 認知行動療法
第11回	自己を表現して癒す 芸術・表現療法
第12回	日本で生まれた心理療法(1) 森田療法
第13回	日本で生まれた心理療法(2) 内観療法
第14回	モレノの心理劇およびSST(生活技能訓練)
第15回	個人の悩みを家族で解決する 家族療法

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・国家試験に関連する科目である。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用等)は退席を明示します。その場合は欠席扱いとします。
- ・評価方法にある通り、5回程度小レポートや感想文を課します。それぞれ評価の対象になりますので、必ず提出してください。

■授業時間外学習にかかわる情報

シラバスで指示する内容について取り組むこと。

■オフィスアワー

基本的に授業後の休憩時間としますので、声をかけてください。

■評価方法

- ・総合評価は、以下の通りの割合で、評価。総合得点 60～69点 :C 70～79点 :B 80～89点 :A 90点以上 :S
- ・期末試験 70%、小レポート・感想文等提出物 30% (30÷提出回(予定5回)=1提出物得点(1回6点)満点)
- ※提出により加点

■教科書

やさしく学べる心理療法の基礎(2003)窪内節子・吉武光世著 培風館

■参考書

適宜指示

科目名	一般臨床医学	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修 社会福祉主事任用資格指定科目		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	生活習慣病、がん、感染症、生殖、移植				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

その病気がなぜ起こり、体の中でどのような異常が起こっているのか、そしてその状態を改善するためにはどのような方法をとればいいのかを、簡潔かつ的確に述べられることを目標とする。

〔到達目標〕

- ①各種疾患の症状や障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。
- ②疾患診断にあたっての代表的な手法や主要な治療方法、予後について説明できる。

■授業の概要

将来、医療の世界で活躍してゆく者にとって必要な医学の知識を、白紙の状態である君たちに、出来る限りわかりやすく、平易に伝えてゆく。人体を構成する各臓器の単位で、まずは構造(解剖)機能(生理)を学習し、ついでその破綻(病理)とその修復(治療)を、君たちが将来必ず直面する疾患に焦点を絞って解説する。1年次で並行して学習する、解剖学、生理学、生化学に役立ち、2年次で学習する病理学、内科学に直結する内容となるよう配慮している。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	・授業オリエンテーション・医学とは? 医学の歴史、医学の分類、医療の約束事(ルール)、生命の基本構造(細胞、組織、血液)
第2回	生命維持のしくみ I 細胞、組織、血液、心臓、血管
第3回	生活習慣病I 動脈硬化のメカニズム(高血圧症)
第4回	生活習慣病II 動脈硬化のメカニズム(糖尿病、脂質異常症、メタボリック症候群)
第5回	生活習慣病III 動脈硬化の末路(脳血管障害)
第6回	生活習慣病IV 動脈硬化の末路(狭心症・心筋梗塞)
第7回	生命維持のしくみ II 呼吸器(口腔、鼻咽腔、気管、肺)
第8回	小テスト①(第1講から第6講までの範囲)、呼吸器の障害:炎症、閉塞性肺疾患、拘束性肺疾患、たばこの問題
第9回	細胞の暴走=がん:がんとは?がんの問題点、治療方法
第10回	生命維持のしくみ III 消化器(消化管、腹腔内臓器)
第11回	消化器の障害:消化管のがん、潰瘍、肝炎
第12回	生命維持のしくみ IV 生体防御、免疫
第13回	小テスト②(第7講から第11講までの範囲)、感染症
第14回	次世代につなぐ命I:生殖(妊娠、不妊症)
第15回	次世代につなぐ命II:臓器移植、細胞移植

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。

テキストはなく、授業時に配布する資料がテキストとなる。授業はハイスピードで進む。高校の授業とは違うことを認識すること。そのためには、KeyWordsを参照しながら、授業に集中することが要求される。そして、授業終了後にKeyWordsの指示事項を整理記憶することが必須である。この作業ができない者は、将来、患者さんからの情報を収集、分析することはできない。

なお配布資料については、朝のホームルーム前に週番が講師室に受け取りに来て、責任を持ってクラスの全員に配布すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

第1回の授業で配布するKeywordに従って、要点を整理してゆくこと。A4のノートの左側にKeywordを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を記載してゆくこと。復習が重要となる。

■オフィスアワー

木曜日の授業終了後

■評価方法

評価配分は、期末試験60%、小テスト①20%、小テスト②20%とする。但し、期末試験で60%以上の得点を得る事が、成績評価の大前提であり、期末試験で60%の得点を得られない者は、不合格となる。また期末テストで60%の得点を得ても、小テストの結果を加味した総合評価で60%を越えない者は、不合格となる。テストは、すべて文章中の空欄補充形式で行う。

■教科書

広範囲な内容にふさわしい適切なテキストがないため、特に指定しない。授業で配布するプリントの蓄積がテキストとなる。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	リハビリテーション医学	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修 社会福祉主事任用資格指定科目		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	廃用症候群、運動器リハ、脳神経リハ、心臓リハ、呼吸器リハ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

第4の医学といわれるリハビリテーション医学の成り立ち、背景を理解し、対象とする疾患の病態生理ならびに解決方法を、簡潔にかつ的確に述べられること。

〔到達目標〕

- ①痛みや機能障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。
- ②診断にあたっての手順とその所見が説明できる。
- ③治療方法の根拠と手順が説明できる。
- ④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。

■授業の概要

2年次に降に展開される、専門科目や実習で必要となるリハビリテーション医学の内容は、広範囲にわたり、膨大な知識が必要となる。授業では、各項目について要点のみ簡潔に解説し、身についた知識が幹となり、2年次に降に学習する各専門科目に花開き、国家試験ならびに将来の現場で実を結ぶように配慮している。テキストは、基礎医学、臨床医学を学習している事が前提に記載されており、難解であり、予習は不可能である。未学習分野をプリントやビデオで補い、基礎的などころから疾患の病態に入り、その疾患に対するリハビリテーションの実際を重要点に絞って解説する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、リハビリテーション医学総論Ⅰ（歴史、理念、位置づけ、評価）
第2回	リハビリテーション医学総論Ⅱ（医療経済学）
第3回	リハビリテーション医学総論Ⅲ（評価、廃用症候群）
第4回	運動器リハビリテーションⅠ（骨疾患、骨折）
第5回	運動器リハビリテーションⅡ（関節疾患 1）
第6回	運動器リハビリテーションⅢ（関節疾患 2）
第7回	小テスト①（第1回から6回までの内容）運動器リハビリテーションⅣ（腰痛、頸肩腕痛）
第8回	運動器リハビリテーションⅤ（スポーツ外傷障害、複合性局所疼痛症候群）
第9回	脳神経リハビリテーションⅠ（脳血管障害の病態、急性期リハビリテーション）
第10回	脳神経リハビリテーションⅡ（脳血管障害の回復期、維持期のリハビリテーション）
第11回	脳神経リハビリテーションⅢ（頭部外傷、高次脳機能障害）
第12回	小テスト②（第6回から10回までの内容）、脳神経リハビリテーションⅣ（認知症）
第13回	脳血管障害Ⅴ（神経変性疾患）
第14回	内科領域のリハビリテーションⅠ（心臓リハビリテーション、生活習慣病、内部障害のリハビリテーション）
第15回	呼吸器リハビリテーション

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。

Keywordに基づき、集中して授業を聞き取ることが必須となる。自分の授業前の作業が、的確であったか否かの確認となる。さらに派生する重要事項も吸収することが必要で、1時間半の集中を要求する。

■授業時間外学習にかかわる情報

第1回の授業で配布するKeywordに従って、教科書で重要点を予習しておくこと。A4のノートの左側にKeywordを短冊状に切って貼り付け、右側のページに指定内容を記載しておく。授業でその内容を確認して、さらに追加内容を復習すること。

■オフィスアワー

木曜日の授業終了後の休憩時間

■評価方法

評価配分は、期末試験60%、小テスト①20%、小テスト②20%、とする。但し、期末試験で60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提であり、期末試験で60%の得点を得られない者は、不合格となる。また期末テストで60%の得点を得ても、小テストの結果を加味した総合評価で60%を越えない者も、不合格となる。なお小テストについては、欠席の場合は0点となるので、日頃の健康管理も重要となることに注意されたい。なお、小テスト、期末テストともに、文章中の空欄補充形式で出題する。

■教科書

最新リハビリテーション医学 米本 恭三 監修 医歯薬出版株式会社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	内科・老年医学 I	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	内科診断学、症候学、循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

目の前の患者さん、利用者さんの持っている内科的疾患に対して、その病態、治療内容、起こりうる合併症が把握、理解できるようになることである。到達目標は、内科学領域の国家試験問題を、自信をもってその正答と理由を述べられるようになることである。

〔到達目標〕

- ①メカニズムを病態生理学的に説明できる。
- ②診断にあたっての手順とその根拠が説明できる。
- ③治療方法の根拠と手順が説明できる。
- ④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。

■授業の概要

臨床医学の根幹をなす内科学について、各臓器別に、解剖学、生理学的知識を再確認しながら、疾患の病態生理、検査方法、治療方法を学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	科目オリエンテーション、内科学の概念 症候学 I
第 2 回	症候学 II
第 3 回	循環器 I
第 4 回	循環器 II
第 5 回	循環器 III
第 6 回	循環器 IV
第 7 回	呼吸器 I
第 8 回	小テスト①、呼吸器 II
第 9 回	呼吸器 III
第 10 回	呼吸器 IV
第 11 回	消化器 I
第 12 回	小テスト②、消化器 II
第 13 回	肝 胆 膵 I
第 14 回	肝 胆 膵 II
第 15 回	肝 胆 膵 III

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。

チェックシート以外の重要点も随時強調する。神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1 時間半の集中を要求する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業で配布するチェックシートに従って、学習する。A4 のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、自宅で問題演習と併せ復習を行う。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

前期期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績判定の前提条件である。60%以下であれば不合格である。60%以上を得点した上で、学期中に 2 回行なう小テストの点数を $20\% \times 2 = 40\%$ 、期末テストの点数を 60% に換算した合計点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しないので、欠席のないよう。日頃の健康管理も重要となる。

■教科書

標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 内科学 第 3 版 前田 眞治 他 執筆 医学書院

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	内科・老年医学 II	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	血液疾患、内分泌代謝疾患、腎泌尿器疾患、膠原病、アレルギー疾患、感染症、皮膚科学、老年病				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

目の前の患者さん、利用者さんの持っている内科的疾患に対して、その病態、治療内容、起こりうる合併症が把握、理解できるようになることである。

〔到達目標〕

- ①各種徴候や症状の発生メカニズムを病態生理学的に説明できる。
- ②診断にあたっての手順とその根拠が説明できる。
- ③治療方法の根拠と手順が説明できる。
- ④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。

■授業の概要

臨床医学の根幹をなす内科学を、各臓器別に、解剖学、生理学的知識を再確認しながら、疾患の病態生理、検査方法、治療方法を学習する。後半では、加齢に伴う生体の変化、高齢者特有の疾患の病態生理を重要点に絞り学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	血液 造血器 I
第 2 回	血液 造血器 II
第 3 回	代謝
第 4 回	内分泌 I (総論)
第 5 回	内分泌 II (各論)
第 6 回	腎・泌尿器 (I)
第 7 回	小テスト①、腎、泌尿器 II
第 8 回	腎、泌尿器 III
第 9 回	アレルギー疾患
第 10 回	膠原病
第 11 回	感染症 I 総論
第 12 回	感染症 II 各論
第 13 回	小テスト②、老年学 I (総論)
第 14 回	老年学 II (高齢者に特徴的な症候と疾患①)
第 15 回	老年学 III (高齢者に特徴的な症候と疾患②)

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。

チェックシート以外の重要点も随時強調する。神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1 時間半の集中を要求する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業で配布するチェックシートに従って、学習する。A4 のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、自宅で問題演習と併せ復習を行う。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

後期期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績判定の前提条件である。60%以下であれば不合格である。60%以上を得点した上で、学期中に 2 回行なう小テストの点数を $20\% \times 2 = 40\%$ 、期末テストの点数を 60% に換算した合計点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しないので、欠席のないよう。日頃の健康管理も重要となる。

■教科書

標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 内科学 第 3 版 前田 眞治 他 執筆 医学書院
標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 老年学 第 3 版 大内 尉義 編集 医学書院

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	整形外科学Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	骨疾患、骨折、関節疾患、変形性関節症、関節リウマチ、脊椎疾患、脊髄損傷				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

筋骨格系疾患の痛み、機能障害を訴える患者の体の異常を的確に把握し、その現象(病態生理)をわかりやすく説明できるようになることである。その上で、その異常(痛みや機能障害)を改善するためには、どのような方法をとればよいのか説明できるようになることである。

〔到達目標〕

- ①痛みや機能障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。
- ②診断においての手順とその所見が説明できる。
- ③治療方法の根拠と手順が説明できる。
- ④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。

■授業の概要

運動器(筋、骨格、神経系)の機能障害を対象とする外科学の1分野であるが、外科的手技だけでなく、保存的治療も重要である。理学、作業療法は、保存的治療の主役であり、将来の君たちが治療の主役を担う事となる。リハビリテーション医療においては、必須の科目であり、日常よく遭遇する疾患を重点的に学習し、繰り返し行なう問題演習により、知識の定着を図る。将来君たちが現場に出た時に、迷わず動く事ができる実用的な知識を伝える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、骨Ⅰ:骨の基礎
第2回	骨Ⅱ:骨疾患、骨折総論①
第3回	骨Ⅲ:骨折総論②
第4回	骨Ⅳ:骨折各論① 体幹部の骨折
第5回	骨Ⅴ:骨折各論② 上肢の骨折
第6回	骨Ⅵ:骨折各論③ 下肢の骨折
第7回	関節Ⅰ:関節の基本構造、関節の変形、先天性股関節脱臼
第8回	小テスト①、関節Ⅱ:変形性関節症総論
第9回	関節Ⅲ:変形性関節症各論
第10回	関節Ⅳ:関節リウマチ
第11回	関節Ⅴ:外傷性疾患①
第12回	関節Ⅵ:外傷性疾患②
第13回	小テスト②、脊椎Ⅰ:脊椎の構造、障害部位と神経所見、脊椎疾患①
第14回	脊椎Ⅱ:脊椎疾患②
第15回	脊椎Ⅲ:脊椎疾患③

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。

チェックシート以外の重要点も随時強調する。神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中を要求する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業で配布するチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、自宅で問題演習と併せ復習を行う。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

前期期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績判定の前提条件である。60%以下であれば不合格である。60%以上を得点した上で、学期中に2回行なう小テストの点数を20%×2=40%、期末テストの点数を60%に換算した合計点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しないので、欠席のないよう。日頃の健康管理も重要となる。

■教科書

標準整形外科学 第12版 中村利孝 他編 医学書院
1年次で使用した、リハビリテーション医学(医歯薬出版)も適宜使用する。

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	整形外科学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	末梢神経疾患、神経、筋疾患、骨軟部腫瘍、四肢切断、義肢装具、スポーツ外傷、熱傷				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

筋骨格系疾患の痛み、機能障害を訴える患者の体の異常を的確に把握し、その現象（病態生理）をわかりやすく説明できるようになることである。その上で、その異常（痛みや機能障害）を改善するためには、どのような方法をとればよいか説明できるようになることである。

〔到達目標〕

- ①痛みや機能障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。
- ②診断にあたっての手順とその所見が説明できる。
- ③治療方法の根拠と手順が説明できる。
- ④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。

■授業の概要

運動器（筋、骨格、神経系）の機能障害を対象とする外科学の1分野であるが、外科的手技だけでなく、保存的治療も重要である。理学、作業療法は、保存的治療の主役であり、将来の君たちが治療の主役を担う事となる。リハビリテーション医療においては、必須の科目であり、日常よく遭遇する疾患を重点的に学習し、繰り返し行なう問題演習により、知識の定着を図る。将来君たちが現場に出た時に、迷わず動く事ができる実用的な知識を伝える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	脊髄損傷 I
第2回	脊髄損傷 II
第3回	脊髄損傷 III
第4回	末梢神経 I
第5回	末梢神経 II
第6回	神経・筋疾患
第7回	小テスト①、骨・軟部腫瘍
第8回	四肢の循環障害と壊死性疾患
第9回	切断および離断と義肢 I
第10回	切断および離断と義肢 II
第11回	切断および離断と義肢 III
第12回	熱傷、手の外科
第13回	小テスト②、スポーツ外傷・障害 I
第14回	スポーツ外傷・障害 II
第15回	整形外科的治療法

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。

チェックシート以外の重要点も随時強調する。神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中を要求する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業で配布するチェックシートに従って、学習する。A4 のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、自宅で問題演習と併せ復習を行う。

■オフィスアワー

毎週木曜日、授業終了後

■評価方法

後期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績判定の前提条件である。60%以下であれば不合格である。60%以上を得点した上で、学期中に2回行なう小テストの点数を20%×2=40%、期末テストの点数を60%に換算した合計点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しないので、欠席のないよう。日頃の健康管理も重要となる。

■教科書

標準整形外科学 第12版 中村利孝 他編 医学書院
1年次で使用した、リハビリテーション医学（医歯薬出版）も適宜使用する。

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	神経内科学Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	神宮 俊哉	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾患と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	神経学的診断と評価				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

将来、臨床現場で患者さんを診るときに役立つ知識を身につけるとともに、国家試験に合格するに足る知識を習得すること。

[到達目標]

- ①疾患や障害について説明できる。
- ②障害に対してのリハビリテーションを説明できる。
- ③患者・家族の心理を推測できる。
- ④神経学的評価や検査を理解している。

■授業の概要

習得すべき内容を教科書を中心に進める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	障害とリハビリテーションプログラム
第 2 回	中枢神経系の解剖
第 3 回	中枢神経系の機能
第 4 回	神経学的診断と評価Ⅰ
第 5 回	神経学的診断と評価Ⅱ、神経学的検査法Ⅰ
第 6 回	神経学的検査法Ⅱ
第 7 回	意識障害、脳死、植物状態、頭痛、めまい、失神
第 8 回	運動麻痺、錐体路徴候、筋萎縮
第 9 回	錐体外路徴候、不随意運動、運動失調
第 10 回	感覚障害、失語症Ⅰ
第 11 回	失語症Ⅱ
第 12 回	失認
第 13 回	失行
第 14 回	記憶障害、認知症
第 15 回	注意障害、遂行機能障害

■受講生に関わる情報および受講のルール

教科書で十分な内容が網羅されていますので、教科書を忘れないようにしてください。

■授業時間外学習にかかわる情報

医学は進歩します。新聞などのメディアから最新の情報を手に入れて下さい。

■オフィスアワー

授業終了後の 5 分間

■評価方法

期末試験 100%

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学第 3 版 編集川平和美 医学書院

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	神経内科学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	神宮 俊哉	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾患と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	神経学的診断と評価				

■授業の目的・到達目標

将来、臨床現場で患者さんを診るときに役立つ知識を身につけるとともに、国家試験に合格するに足る知識を習得すること。

■授業の概要

習得すべき内容を教科書を中心に進める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	構音障害、嚥下障害
第 2 回	脳神経外科領域の疾患、脳血管障害Ⅰ
第 3 回	脳血管障害Ⅱ
第 4 回	脳血管障害Ⅲ
第 5 回	脳血管障害Ⅳ
第 6 回	脳血管障害Ⅴ
第 7 回	認知症
第 8 回	脳腫瘍、外傷性脳損傷Ⅰ
第 9 回	外傷性脳損傷Ⅱ、脊髄疾患Ⅰ
第 10 回	脊髄疾患Ⅱ
第 11 回	変性疾患、脱髄疾患
第 12 回	錐体外路の変性疾患筋疾患、
第 13 回	末梢神経障害
第 14 回	てんかん、筋疾患
第 15 回	感染性疾患、中毒性疾患、栄養欠乏による疾患、小児疾患、その他

■受講生に関わる情報および受講のルール

教科書で十分な内容が網羅されているので、教科書を忘れないようにすること。

■授業時間外学習にかかわる情報

医学は、進歩する。新聞などのメディアから最新の情報を手に入れること。

■オフィスアワー

授業終了後の 5 分間

■評価方法

期末試験 100%

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学第 3 版 編集川平和美 医学書院

■参考書

なし

科目名	精神医学	担当教員 (単位認定者)	諸川由実代・石関圭	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」			
キーワード	精神障害 ライフサイクル メンタルヘルス 自殺 脆弱性-ストレスモデル ICD-10 DSM-IV-TR インフォームド・コンセント 薬物療法 精神療法 リエゾン精神医学 多職種連携 リハビリテーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

精神障害リハビリテーションに関わる基本的な疾病の知識や評価・診断の方法、治療・援助の方法を理解・説明できることを目的とする。

〔達成目標〕

- ①精神医学の歴史と精神障害者の処遇について理解・説明することができる。
- ②現代社会とストレス・メンタルヘルスの関係性について理解・説明することができる。
- ③“脆弱性-ストレスモデル”に基づいた精神障害の成因について理解・説明することができる。
- ④精神医学において用いられる診断・評価方法の概要について理解・説明することができる。
- ⑤薬物療法や精神療法、リハビリテーションなどの治療法の一般的枠組みについて理解・説明することができる。
- ⑥精神障害リハビリテーションにおける多職種連携の重要性を理解・説明することができる。
- ⑦各疾患における成因や症状、治療を理解・説明することができる。
- ⑧精神障害者が地域生活を送るためのポイントと課題について理解・説明することができる。

■授業の概要

理学・作業療法士は対象者の身体・精神機能を十分把握した上でリハビリテーションを進めなければならない。本授業では、リハビリテーションに必要な、精神疾患の成因や症状、診断・評価について学ぶ。また、入院から地域生活に移行するためのおおまかな治療・援助の流れと精神障害領域に関わる職種の連携、患者様が地域生活を送るためのポイントや課題を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	オリエンテーション/精神医学とは/精神障害の成因と分類
第 2 回	精神機能の障害と精神症状
第 3 回	精神障害の診断と評価
第 4 回	脳器質性精神障害/てんかん
第 5 回	症状性精神障害/精神作用物質による精神および行動の障害
第 6 回	統合失調症およびその関連障害
第 7 回	気分(感情)障害
第 8 回	神経症性障害
第 9 回	生理的障害及び身体的要因に関連した障害
第 10 回	成人の人格(パーソナリティ)・行動・性の障害
第 11 回	精神遅滞/心理的発達の障害
第 12 回	リエゾン精神医学/心身医学
第 13 回	ライフサイクルにおける精神医学
第 14 回	精神機能の治療とリハビリテーション
第 15 回	精神科保健医療と福祉、職業リハビリテーション/社会・文化とメンタルヘルス/授業の振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

極力欠席のないようにし、質問は積極的に授業内で行うようにしてください。

〔受講のルール〕

携帯電話はマナーモードもしくは電源を切り、鞆にしまっておくこと。集中して講義に参加してください。

■授業時間外学習にかかわる情報

より効率的に授業を進めるため、事前に十分予習を行ってこよう。また、授業終了後に復習をすること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

出席率 2/3 以上を試験受験資格とし、筆記試験 100%で判断。

■教科書

上野武治 編:標準理学療法・作業療法学 精神医学(第3版).医学書院,2010

■参考書

上島国利 立山万里 編:精神医学テキスト 改訂第3版.南江堂,2012

科目名	小児科学	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	成長、発育、発達、新生児、未熟児、先天異常、小児の神経筋疾患、				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

出生から成人になるまで、常に成長、発達を遂げる（はずのものが大多数であるが、例外もある）ヒトの、成長、発育、発達の過程をまず理解する。その過程で生じる様々な障害を、リハビリテーション領域に関連の深い、神経、筋骨格系、精神系の疾患を重点的に学習する。そして小児の内科的疾患、外科的疾患、先天異常、遺伝病を学習し、小児におこる様々な問題を理解し、解決できる方法を思考できることを目的とする。

〔到達目標〕

①成長、発育、発達の状態が、正確に評価できる事。②先天異常と遺伝病の概要と各疾患の特徴が説明できること。③神経、筋、骨格系、精神科領域の小児疾患の概要、特徴が説明できること。④小児の内科的疾患の概要が説明できること。

■授業の概要

物言わぬ新生児、乳児、障害を持つ幼児、親の期待に応えようとしてつぶれる学童など、将来の諸君の前には、様々な子供たちが、助けを求めて現われる。そして、その背後には、子供の将来に大いなる不安を抱えた親がいる。目の前の子供に起こっている事を把握し、現状を正確に評価、その子の将来の為に何をなすべきか、さらにはその計画を、子供そして親に、的確に説明し、了解を得る能力が必要とされる。これらのテクニックを中心に、授業を進めてゆく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	科目オリエンテーション、小児科学 概論Ⅰ：小児の成長・発育・発達
第 2 回	小児科学 概論Ⅱ：栄養と摂食、小児保健、小児の診断と治療の概要
第 3 回	新生児・未熟児疾患 Ⅰ
第 4 回	新生児・未熟児疾患 Ⅱ
第 5 回	先天異常と遺伝病
第 6 回	神経・筋・骨系疾患 Ⅰ 中枢神経疾患
第 7 回	神経・筋・骨系疾患 Ⅱ てんかん
第 8 回	神経・筋・骨系疾患 Ⅲ 脳性麻痺
第 9 回	神経・筋・骨系疾患 Ⅳ 知的障害・児童精神障害・脊髄疾患・筋疾患・骨関節疾患
第 10 回	循環器疾患
第 11 回	呼吸器疾患、感染症
第 12 回	消化器疾患、代謝内分泌疾患
第 13 回	血液疾患・免疫・アレルギー・膠原病
第 14 回	腎・泌尿器系、生殖器疾患、腫瘍性疾患
第 15 回	心身医学的疾患・虐待・重症心身障害児・眼科・耳鼻科的疾患

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。

チェックシート以外の重要点も、随時強調するので、神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中!

■授業時間外学習にかかわる情報

授業で配布するチェックシートに従って、要点を整理してゆくこと。A4 のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の作業の妥当性を確認し復習を行う。

■オフィスアワー

木曜日の授業終了後

■評価方法

筆記試験による、期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に 2 回行なう小テストの点数を 40%、期末テストの点数に 60%の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しないので、欠席のないよう。日頃の健康管理も重要となる。

■教科書

標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第 2 版 編集 富田 豊 医学書院
(第 8 および 9 講 神経、筋、骨格系疾患ⅢおよびⅣにおいては、1 年次で使用したリハビリテーション医学のテキストも使用する。)

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	リハビリテーション入門	担当教員 (単位認定者)	北爪 浩美	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「保健医療とリハビリテーションの理念」			
キーワード	リハビリテーション、ICF、ICIDH、QOL、ノーマライゼーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

医療分野でのリハビリテーションの理念を学び、現代社会におけるリハビリテーションのニーズ、WHO分類に基づいた障害の考え方を身につけ、チーム医療の中での作業療法士の役割を理解する。

〔到達目標〕

- ①リハビリテーションについて簡潔に説明することができる。
- ②リハビリテーションの諸段階について説明できる。
- ③リハビリテーションにおけるチーム医療の必要性と概要を説明することができる。
- ④地域リハビリテーション、QOLについて理解し、説明することができる。

■授業の概要

高齢化社会を迎え、地域に根ざしたリハビリテーションは医療と保健、福祉サービスをつなぐ重要な役割を担っている。本講義ではWHO分類に基づく障害の考え方、現代社会におけるリハビリテーション医療の目的と目標を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	リハビリテーションの歴史と理念
第2回	リハビリテーションの理念、定義、目的
第3回	リハビリテーションと障害モデル
第4回	医学的リハビリテーションの段階
第5回	ICFとリハビリテーション、作業療法(発表)
第6回	リハビリテーションの諸段階
第7回	チーム医療とQOL
第8回	リハビリテーションに関連する法律について、まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・毎回、講義開始時に小テストを実施する。小テストは評価の対象となるため欠席しないこと。
- ・授業で配布する資料の予備は保管しないため、欠席した場合は出席者からコピーすること。
- ・授業の流れや雰囲気乱す行為、常識を欠く行為(私語、携帯電話の使用など)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

火曜日 16:30 ~ 17:30 は随時(変更の場合は掲示する)。その他は要相談。

■評価方法

筆記試験 70%、小テスト 30%
総合評価は筆記試験 60%を超えていることが条件となる。

■教科書

中村隆一 編:入門リハビリテーション概論 第7版. 医歯薬出版. 2009
世界保健機関(WHO):ICF 国際生活機能分類. 中央法規. 2002

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	保健医療福祉論	担当教員 (単位認定者)	大竹 勤	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る選択		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「保健医療とリハビリテーションの理念」			
キーワード	対人援助技術、コミュニケーションスキル、ライフサイクル、社会保障				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

医療福祉従事者に必要なソーシャルワークについて学び、実践できるようになることを目的とする。

[到達目標]

- ①ソーシャルワークの意義と目的について理解する。
- ②援助技術の原理原則について理解する。
- ③基本的な援助技法を身につける

■授業の概要

講義や演習を通して、医療従事者に必要な社会福祉の知識や援助技術の実際について学ぶ。援助技術は「人の生活を支える」重要な技術であり、そのために必要な支援の方法を考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、自己紹介カード
第2回	障害者の理解、ある筋ジス患者の自立
第3回	対人援助技術の原則
第4回	コミュニケーションスキルを磨こう
第5回	合意するということ
第6回	ライフサイクルと社会保障①
第7回	ライフサイクルと社会保障②
第8回	援助の基本原則 まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

対人援助サービスに携わる者としての視点で授業に参加すること。

8回の授業なので、欠席が3回以上になると単位認定はできなくなるので注意すること。

演習には積極的に参加すること。授業の流れに反した行動を取る場合には履修しないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

100%筆記試験(レポート試験)による。ただし、宿題や授業中に課すレポートやミニテストの提出状況で加点・減点することがある。

■教科書

授業中に指示する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	公衆衛生学	担当教員 (単位認定者)	大竹 一男	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「保健医療とリハビリテーションの理念」			
キーワード	生活単位、家族、ライフスタイル、疫学、母子保健、地球環境				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

公衆衛生の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持・増進し、人々に十分な発育を遂げさせ、肉体的・精神的能力を完全に発揮させることである。臨床医学が病気になる個人を対象にしているのに対し、公衆衛生学は個人、家族、地域社会及び国民の健康の総和を指標として、疾病のみならずすべての健康からの偏りの予防、コントロール、治療のみでなく、積極的な意味での健康の達成を目的としている。従って、単なる治療医学ではなく、予防医学さらには社会における医療制度施設など社会の健康水準を保持・増進するのに必要な社会医学も含まれる。

[到達目標]

- ①人々の基本的な生活と人間のあり方、健康と公衆衛生、健康指標と予防、生活環境の保全について学習するとともに、最新データを自ら読み解き、日本が抱える課題・問題等を発見することができる。
- ②専門医療職に従事することを念頭に、クライアントに対して公衆衛生学の領域に関して適切なアドバイスをすることができる。

■授業の概要

人々の基本的な生活と人間のあり方、健康と公衆衛生、健康指標と予防、生活環境の保全について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	生活単位、家庭生活の基本機能、生活の場と健康について学ぶ
第2回	家族の機能と役割、ライフスタイルの変化、生活習慣の確立、人間の集団としての働きを学ぶ
第3回	公衆衛生の概念、健康と環境について学ぶ
第4回	疫学的方法による健康の理解について学ぶ
第5回	人口静態と人口動態、疾病統計について学ぶ
第6回	母子保健統計について学ぶ
第7回	地球環境、水・空気・土壌、食品管理及び家庭用品について学ぶ
第8回	ごみ、廃棄物、住環境について学ぶ

■受講生に関わる情報および受講のルール

配布プリントに最新の政府発表のデータのURLを紹介するので、予習・復習に役立ててください。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

みるみるナーシング最新版

■参考書

授業内で適宜紹介する。

3) 專門科目

科目名	作業療法入門	担当教員 (単位認定者)	阿部 真也	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	作業療法、PBL、ポートフォリオ、病院見学				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法を学ぶにあたり、知っておかなければならない基礎知識を自ら調べ、簡潔に説明できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①作業療法について簡潔に説明できる。
- ②作業療法の過程を述べることができる。
- ③作業療法の分野、対象、実施場所について述べるができる。
- ④基本的な発表方法を身につける。
- ⑤レポートをまとめることができる。
- ⑥学習過程をポートフォリオにまとめ、成果を確認することができる。

■授業の概要

PBL学習により、自ら調べ、まとめ、発信する作業を通して作業療法士として知っておかなければならない基礎知識を身につける。また、見学等により作業療法の魅力を感じ、興味を持って学習する態度を養うことを目的とする授業である。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/作業療法の紹介、PBL・ポートフォリオ学習について
第2回	PBL課題1「母校の後輩に作業療法を紹介しよう」
第3回	PBL課題1「母校の後輩に作業療法を紹介しよう」
第4回	PBL課題1「母校の後輩に作業療法を紹介しよう」発表、レポート、ポートフォリオ
第5回	PBL課題2「親が脳梗塞で倒れた!作業療法は何をするの?」
第6回	PBL課題2「親が脳梗塞で倒れた!作業療法は何をするの?」発表、レポート、ポートフォリオ
第7回	病院見学
第8回	病院見学発表(レポート、ポートフォリオ提出)

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・発表や見学は出席が前提となるので、体調管理をしっかりすること。

〔受講のルール〕

- ・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めないことがあるので注意すること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

グループによる発表を行うため、時間外での情報収集や資料作成などの準備に積極的にかかわること。学習内容については科目オリエンテーションにて説明する。

■オフィスアワー

水曜日 16時～17時は随時(変更時は掲示する) その他の曜日においては要予約

■評価方法

■筆記試験(■論述 ■客観) ■レポート □口頭試験 □実地試験 ■その他
評価配分:筆記試験50%、レポート20%、発表10%、ポートフォリオ20% 筆記試験60点以下は再試験。

■教科書

杉原素子編:作業療法学全書 改訂第3版 第1巻 作業療法概論.協同医書出版
大野義一郎:感染症対策マニュアル第2版.医学書院

■参考書

鎌倉矩子:作業療法の世界 第2版.三輪書店

科目名	作業療法入門実習	担当教員 (単位認定者)	山口 智晴	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻 2 年次必修科目 作業療法入門、リハビリテーション医学の知識を必要とする。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	作業療法実践過程、コミュニケーション、医療従事者				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法入門で学んだ作業療法士として必要な知識や技能について、実際の現場を通してそれらを学ぶ。

〔到達目標〕

- ①作業療法士に必要な職業人・医療職としての基本的態度を実践することができる。
- ②見学を通して作業療法に興味を持ち、その実践過程を見学してくる。
- ③実際の臨床現場の見学を通し、作業療法の実践過程、業務内容、対象の特性などをまとめて報告することができる。

■授業の概要

作業療法士が働いている医療機関（身体機能障害領域を中心とした病院）での3日間の見学を通して、作業療法の実践過程や作業療法士の業務内容、作業療法士の対象者などについて学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	事前オリエンテーション、リスク管理（感染予防管理、情報管理など）
第2回	事前オリエンテーション、リスク管理（転倒、コミュニケーション、バイタル確認など）
第3回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3日間の見学実習。
第4回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3日間の見学実習。
第5回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3日間の見学実習。
第6回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3日間の見学実習。
第7回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3日間の見学実習。
第8回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3日間の見学実習。
第9回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3日間の見学実習。
第10回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3日間の見学実習。
第11回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3日間の見学実習。
第12回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3日間の見学実習。
第13回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3日間の見学実習。
第14回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3日間の見学実習。
第15回	実習のまとめ・発表

■受講生に関わる情報および受講のルール

見学先の病院や日時については、決定次第連絡する。OTSとしての立場をよく理解し、それにふさわしい身だしなみや態度で参加すること。実習に不適切な身だしなみや態度で望む場合は、その場で実習を取りやめさせるため、十分注意すること。

見学後、個別にセミナー発表を行う。

■授業時間外学習にかかわる情報

実習前にオリエンテーションを行う。実習の手引きをよく確認しておくこと。見学前に、見学先の病院について十分に事前学習を行っておくこと。また、実習中は日々の見学内容のまとめなども行う。

■オフィスアワー

水曜日 16 時半～ 17 時半は随時 その他、実習期間の前後は随時受け付け

■評価方法

課題レポート 70%、セミナー発表 30%

■教科書

大野義一郎 監修：感染対策マニュアル第2版、医学書院

■参考書

実習の手引きと配付資料

科目名	作業療法管理論	担当教員 (単位認定者)	阿部 真也	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	作業療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	組織、リスク管理、情報管理、教育、倫理				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

組織人として、管理運営の基本的な考え方、組織の在り方、組織の目的、組織としての責任などの基本を身につける。

[到達目標]

- ・作業療法部門の管理運営方法の基本を説明できる。
- ・作業療法部門の役割・機能について説明できる。
- ・地域貢献の必要性について説明できる。
- ・作業療法部門としての質の確保の必要性について説明できる。
- ・組織構成の基本について説明できる。
- ・職業人としての責任について説明できる。
- ・職業人として必要な倫理、責任について説明できる。

■授業の概要

将来作業療法士となり、組織の中で働く場合、所属する部門の管理運営に携わり、責任を委ねられることも生じる。組織人として、管理運営の基本的な考え方、組織の在り方、組織の目的、組織としての責任などの基本を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/組織とは
第2回	部門管理:リスク管理
第3回	部門管理:リスク管理
第4回	部門管理:情報管理
第5回	部門管理:情報管理
第6回	部門管理:教育
第7回	医療倫理
第8回	医療倫理、職業倫理

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講のルール]

- ・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めないことがあるので注意すること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

グループによる発表を行うため、時間外での情報収集や資料作成などの準備に積極的にかかわること。
学習内容については科目オリエンテーションにて説明します。

■オフィスアワー

水曜日 16時～17時は随時(変更時は掲示する) その他の曜日においては要予約

■評価方法

■筆記試験(■論述 ■客観) □レポート □口頭試験 □実地試験 □その他
評価配分:筆記試験 100%

■教科書

杉原素子編:作業療法学全書 改訂第3版 第1巻 作業療法概論.協同医書出版

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	ひとと作業	担当教員 (単位認定者)	高坂 駿	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目 作業療法入門・運動学の知識が必要となる。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	作業 作業活動 作業分析 適応 段階づけ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法の基礎となる「作業」の意味の理解とそれを治療的に用いるための基本的な理論と実践方法を学ぶ。

〔到達目標〕

- ①ひとの生活を構成する「作業」を理解・説明できる。
- ②作業・作業活動の治療的意味を理解・説明できる。
- ③作業分析（一般的分析）の一覧に基づき、体験した作業活動を分析することができる。
- ④適応・段階づけの方法を理解・説明できる。

■授業の概要

「作業」に対する作業療法の基本的視点と理論、作業分析について学ぶ。
また、実際に体験した作業活動を分析することを体験しながら学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/作業の定義(国語辞典、英和辞典を持っていくこと。電子辞書可)
第2回	作業の分類/ライフサイクルと作業
第3回	作業の用い方/健康と作業/環境と作業:レポート
第4回	作業の治療的な意味について学ぶ・考える(理論)
第5回	生活機能とは/作業分析について考える学ぶ・考える(理論)
第6回	作業分析について考える・体験する(マクラメ体験)
第7回	一般的分析についてまとめる・発表する
第8回	学んだことの振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

作業療法の基礎となる授業のため、予習復習をしっかりとすること。授業で作成する作品の材料費は各々の負担となる。

〔受講のルール〕

授業の構成は全ての出席を前提とするため休まないこと。
グループ学習や課題作成があるため、積極的に参加すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎授業配布する、コマ・シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。

■オフィスアワー

金曜日 16～17時は随時(変更時は掲示する)。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

筆記試験 80% (再試験あり)
60点未満の場合、総合評価の対象としない。
レポート 10% (再提出あり。期限内に提出されないものは総合評価に含めない。)
授業内提示課題 10%

■教科書

- ①山根寛(著):ひとと作業・作業活動 第2版.三輪書店,2006
- ②杉原素子(編):作業療法全書 第1巻 作業療法概論 第3版.協同医書,2012

■参考書

- ①吉川ひろみ:「作業」ってなんだろう 作業科学入門.医歯薬出版株式会社,2008
- ②伊東元(編):標準理学療法作業療法学 運動学.医学書院,2012

科目名	ひとと作業活動Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	高坂 駿	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目 ひとと作業、運動学の知識が必要となる。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	作業 作業分析 作業療法 作業活動				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

各種作業を通じて使用物品や作業の特性、作業療法への適応について学び、実践する。

〔到達目標〕

- ①各具体的作業活動についてその工程や使用する道具の正式名称、使用方法などを説明することができる。
- ②各作業活動について、作品の自由度や段階づけについて説明することができる。
- ③各作業活動における治療的適応について理解し、説明することができる。

■授業の概要

作業療法入門やひとと作業で学んだ治療手段としての作業・作業活動の意味を実際の作業体験を通して学ぶ。実際に各自で作業活動を体験し、それぞれの作業活動を分析していくことで理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/革細工
第2回	革細工:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第3回	革細工:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第4回	革細工:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第5回	革細工:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第6回	革細工:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第7回	革細工:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第8回	革細工:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第9回	革細工:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第10回	織物:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第11回	織物:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第12回	織物:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第13回	織物:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第14回	織物:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第15回	織物:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

各種作業における作業工程や特性、治療的適応等について予習復習しておく。授業で作成する作品の材料費は各々の負担となる。

〔受講のルール〕

授業の構成は全ての出席を前提とするため休まないこと。
グループ学習や課題作成があるため、積極的に参加すること。
木工陶芸室を使用し、使用後は掃除・道具の整理・管理を必ず行うこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎授業配布する、コマ・シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。

■オフィスアワー

金曜日16～17時は随時(変更時は掲示する)。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

筆記試験(論述・客観)60%、授業内提示課題20%、レポート20%
総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提。

■教科書

- ①山根寛(著):ひとと作業・作業活動 第2版.三輪書店,2006
- ②伊東元(編):標準理学療法作業療法学 運動学.医学書院,2012

■参考書

岩瀬義昭(編):基礎作業学実習ガイド.協同医書出版,2005

科目名	ひとと作業活動I	担当教員 (単位認定者)	高坂 駿	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目 ひとと作業、運動学の知識が必要となる。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	作業活動 作業分析 作業療法 適応 段階づけ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

各種作業を通じて使用物品や作業の特性、作業療法への適応について学び、実践する。

〔到達目標〕

- ①各具体的作業活動についてその工程や使用する道具の正式名称、使用方法などを説明することができる。
- ②各作業活動について、作品の自由度や段階づけについて説明することができる。
- ③各作業活動における治療的適応について理解し、説明することができる。

■授業の概要

作業療法入門やひとと作業で学んだ治療手段としての作業・作業活動の意味を実際の作業体験を通して学ぶ。実際に各自で作業活動を体験し、それぞれの作業活動を分析していくことで理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第16回	調理:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第17回	調理:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第18回	調理:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第19回	調理:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する:レポート
第20回	エコクラフト:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第21回	エコクラフト:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第22回	エコクラフト:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第23回	エコクラフト:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第24回	エコクラフト:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第25回	モザイク:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第26回	モザイク:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第27回	モザイク:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第28回	モザイク:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第29回	モザイク:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第30回	学んだことの振り返り:各作業活動ごとの治療的適応について復習する

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

各種作業における作業工程や特性、治療的適応等について予習復習しておく。授業で作成する作品の材料費は各々の負担となる。

〔受講のルール〕

授業の構成は全ての出席を前提とするため休まないこと。
グループ学習や課題作成があるため、積極的に参加すること。
木工陶芸室を使用し、使用後は掃除・道具の整理・管理を必ず行うこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎授業配布する、コマ・シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。

■オフィスアワー

金曜日16～17時は随時(変更時は掲示する)。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

筆記試験 60% (再試験あり。)
60点未満の場合、総合評価の対象としない。
レポート 20% (再提出あり。期限内に提出されないものは総合評価に含めない。)
授業内提示課題 20%

■教科書

- ①山根寛(著):ひとと作業・作業活動 第2版.三輪書店,2006
- ②古川宏:つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル.医歯薬出版株式会社,2012

■参考書

- ①伊東元(編):標準理学療法作業療法学 運動学.医学書院,2012

科目名	ひとと作業活動Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	高坂 駿	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目 ひとと作業・運動学の知識が必要となる。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	作業分析 作業療法 適応 段階づけ 集団活動				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

各種作業を通じて使用物品や作業の特性、作業療法への適応について学び、実践する。

〔到達目標〕

- ①各具体的作業活動についてその工程や使用する道具の正式名称、使用方法などを説明することができる。
- ②各作業活動について、作品の自由度や段階づけについて説明することができる。
- ③各作業活動における治療的適応について理解し、説明することができる。
- ④これまで学んだことを活かし、治療的観点から作業計画を練ることができる。
- ⑤計画した作業が適切なものだったかフィードバックし、理解を深めることができる。

■授業の概要

ひとと作業活動Ⅰに引き続き、作業療法の治療的手段となる基礎的な作業・作業活動について学習する。実際に作業・作業活動を体験し、作業工程や作業の持つ特性について理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/木工
第2回	木工：道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第3回	木工：道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第4回	木工：道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第5回	木工：道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第6回	木工：道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第7回	木工：道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第8回	陶芸：道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第9回	陶芸：道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第10回	陶芸：道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第11回	陶芸：道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第12回	陶芸/木工：道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第13回	陶芸：道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第14回	陶芸：道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第15回	陶芸：道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

各種作業における作業工程や特性、治療的適応等について予習復習しておく。授業で作成する作品の材料費は各々の負担となる。

〔受講のルール〕

授業の構成は全ての出席を前提とするため休まないこと。
グループ学習や課題作成があるため、積極的に参加すること。
木工陶芸室を使用し、使用後は掃除・道具の整理・管理を必ず行うこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎授業配布する、コマ・シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。

■オフィスアワー

金曜日 16～17時は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

筆記試験（論述・客観）60%、授業内提示課題 20%、レポート 20%
総合評価は筆記試験が 60%以上であることが前提。

■教科書

- ①山根寛（著）：ひとと作業・作業活動 第2版。三輪書店，2006
- ②伊東元（編）：標準理学療法作業療法学 運動学。医学書院，2012

■参考書

岩瀬義昭（編）：基礎作業学実習ガイド。協同医書出版，2005

科目名	ひとと作業活動Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	高坂 駿	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目 ひとと作業・運動学の知識が必要となる。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	作業分析 作業療法 適応 段階づけ 集団活動				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

各種作業を通じて使用物品や作業の特性、作業療法への適応について学び、実践する。

〔到達目標〕

- ①作業活動の工程や使用する道具の名称、使用方法などを説明することができる。
- ②各作業活動について、作品の自由度や段階づけについて説明することができる。
- ③各作業活動における治療的適応について理解し、説明することができる。
- ④これまで学んだことを活かし、治療的観点から作業計画を練ることができる。
- ⑤計画した作業が適切なものだったかフィードバックし、理解を深めることができる。

■授業の概要

ひとと作業活動Ⅰに引き続き、作業療法の治療的手段となる基礎的な作業・作業活動について学習する。実際に作業・作業活動を体験し、作業工程や作業の持つ特性について理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第16回	個別作業予定表作り
第17回	集団作業
第18回	集団作業
第19回	集団作業
第20回	集団作業
第21回	集団作業
第22回	集団作業
第23回	集団作業：レポート
第24回	個別作業
第25回	個別作業
第26回	個別作業
第27回	個別作業
第28回	個別作業
第29回	個別作業：レポート
第30回	学んだことの振り返り：各作業活動ごとの治療的適応について復習する

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

各種作業における作業工程や特性、治療的適応等について予習復習しておく。授業で作成する作品の材料費は各々の負担となる。

〔受講のルール〕

授業の構成は全ての出席を前提とするため休まないこと。
グループ学習や課題作成があるため、積極的に参加すること。
木工陶芸室を使用し、使用後は掃除・道具の整理・管理を必ず行うこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎授業配布する、コマ・シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。

■オフィスアワー

金曜日16～17時は随時(変更時は掲示する)。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

筆記試験 60% (再試験あり。)60点未満の場合、総合評価の対象としない。
レポート 20% (再提出あり。期限内に提出されないものは総合評価に含めない。)
授業内提示課題 20%

■教科書

- ①山根寛(著)：ひとと作業・作業活動 第2版。三輪書店、2006
- ②古川宏：つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル。医歯薬出版株式会社、2012

■参考書

- ①伊東元(編)：標準理学療法作業療法学 運動学。医学書院、2012

科目名	作業療法研究法	担当教員 (単位認定者)	山口 智晴	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻 3 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目における「基礎作業療法学」			
キーワード	エビデンス、量的研究・質的研究、統計				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

研究に関する基本的な知識を習得し、作業療法における学術研究の必要性を理解する。

[到達目標]

- ①研究の種類（手法や目的）の違いと、それぞれの特性を理解できる。
- ②研究の一連の流れを理解するとともに、文献レビューを行うことができる。
- ③作業療法に関する具体的な研究計画を検討することができる。

■授業の概要

科学的研究の種類、取り組み方、文献検索の講義を通して、研究に必要な基本的知識と態度の習得を図る。研究的思考を持つことは質の高い作業療法の臨床実践を保障する一要素である。研究の必要性、意義、課題や質的研究と量的研究の違いを学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	科目オリエンテーション。「何のために研究をするのか」「作業療法と研究について」
第 2 回	作業療法における研究の種類について学ぶ。 「質的研究と量的研究」「EBPとNBP」について学ぶ。
第 3 回	研究の一連の流れについて学ぶ。 研究の倫理的義務や管理義務について学ぶ。
第 4 回	文献の検索と文献レビュー。 文献を批判的に読む。
第 5 回	総説やメタ・アナリシスについて学ぶ。 サーベイとフィールドワークについて学ぶ。
第 6 回	統計の基本 基本的な統計手法について学ぶ。RCTとエビデンスレベル。
第 7 回	各自興味のある分野で研究計画を立案・プレゼンテーション
第 8 回	各自興味のある分野で研究計画を立案・プレゼンテーション

■受講生に関わる情報および受講のルール

8 回の講義受講だけでなく、次回講義までの予習や課題の実施が必須である。
毎回出席すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

詳細については初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。講義は予習や課題の実施を前提しているため、積極的にそれらに取り組むこと。

■オフィスアワー

水曜日 16 時半～ 17 時半は随時 その他の曜日においては要予約

■評価方法

筆記試験 (論述 客観) レポート 口頭試験 実地試験 その他
評価配分: 期末レポート 40%、授業内発表 60%

■教科書

鎌倉矩子ほか 著 『作業療法士のための研究法入門』 三輪書店 第 1 版

■参考書

渡辺宗孝ほか著 PT・OTのための統計学入門 三輪書店

科目名	作業療法セミナーⅠ	担当教員 (単位認定者)	作業療法専攻教員 分担	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻 3 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	文献講読、ディスカッション、発表、ポートフォリオ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法に関する文献を基に、ディスカッションを重ね理解を深めるとともに、卒業研究における研究テーマ立案のヒントとなることを目的とする。

〔到達目標〕

- ・論文を読むことができるようになる。
- ・自分の意見を論理立てて発言できるようになる。
- ・他人の意見を受け入れ自分の考えを再構築できるようになる。

■授業の概要

A～Fの6班に分かれ、各教員ごとに提示された文献を読みディスカッション(問いと応答)を行う。最後に、班ごとにディスカッションで得られた考え・発見を言語化し発表する。そのため、準備で集めた資料等はすべてポートフォリオ化していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	北爪A班/阿部B班/山口C班/悴田D班/牛込E班/高坂F班
第3回	北爪A班/阿部B班/山口C班/悴田D班/牛込E班/高坂F班
第4回	北爪F班/阿部A班/山口B班/悴田C班/牛込D班/高坂E班
第5回	北爪F班/阿部A班/山口B班/悴田C班/牛込D班/高坂E班
第6回	北爪E班/阿部F班/山口A班/悴田B班/牛込C班/高坂D班
第7回	北爪E班/阿部F班/山口A班/悴田B班/牛込C班/高坂D班
第8回	北爪D班/阿部E班/山口F班/悴田A班/牛込B班/高坂C班
第9回	北爪D班/阿部E班/山口F班/悴田A班/牛込B班/高坂C班
第10回	北爪C班/阿部D班/山口E班/悴田F班/牛込A班/高坂B班
第11回	北爪C班/阿部D班/山口E班/悴田F班/牛込A班/高坂B班
第12回	北爪B班/阿部C班/山口D班/悴田E班/牛込F班/高坂A班
第13回	北爪B班/阿部C班/山口D班/悴田E班/牛込F班/高坂A班
第14回	発表:A・B・C班
第15回	発表:D・E・F班

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

教室指定をするので確認しておくこと。ポートフォリオ作成するためA4クリアファイル(厚めの物)を用意しておくこと。

〔受講のルール〕

間違っている、正しくなくても発言すること。他者の発言を糾弾し否定ことは許されない。

■授業時間外学習にかかわる情報

ディスカッションには十分な準備が必要である。そのため、必ず配布された文献を読み、関連する資料を集めておくこと。それらはすべてポートフォリオに収める。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

■レポート 30% ■ポートフォリオ 70%

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	作業療法セミナーⅡ	担当教員 (単位認定者)	作業療法専攻教員 分担	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻 4 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	文献講読、ディスカッション、発表、ポートフォリオ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法に関する文献を自ら提示し、ディスカッションを重ね理解を深める。

〔到達目標〕

- ・興味ある論文を見つけだすことができるようになる。
- ・自分の意見を論理立てて発言できるようになる。
- ・他人の意見を受け入れ自分の考えを再構築できるようになる。
- ・グループのファシリテーターとしてディスカッションを運営できるようになる。

■授業の概要

A～Fの6班に分かれ、学生により提示された文献を読みディスカッション（問いと応答）を行う。ディスカッションの司会進行は提示者とする。最後に、班ごとにディスカッションで得られた考え・発見を言語化し発表する。そのため、準備で集めた資料等はすべてポートフォリオ化していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	北爪A班 / 阿部B班 / 山口C班 / 悴田D班 / 牛込E班 / 高坂F班
第3回	北爪A班 / 阿部B班 / 山口C班 / 悴田D班 / 牛込E班 / 高坂F班
第4回	北爪F班 / 阿部A班 / 山口B班 / 悴田C班 / 牛込D班 / 高坂E班
第5回	北爪F班 / 阿部A班 / 山口B班 / 悴田C班 / 牛込D班 / 高坂E班
第6回	北爪E班 / 阿部F班 / 山口A班 / 悴田B班 / 牛込C班 / 高坂D班
第7回	北爪E班 / 阿部F班 / 山口A班 / 悴田B班 / 牛込C班 / 高坂D班
第8回	北爪D班 / 阿部E班 / 山口F班 / 悴田A班 / 牛込B班 / 高坂C班
第9回	北爪D班 / 阿部E班 / 山口F班 / 悴田A班 / 牛込B班 / 高坂C班
第10回	北爪C班 / 阿部D班 / 山口E班 / 悴田F班 / 牛込A班 / 高坂B班
第11回	北爪C班 / 阿部D班 / 山口E班 / 悴田F班 / 牛込A班 / 高坂B班
第12回	北爪B班 / 阿部C班 / 山口D班 / 悴田E班 / 牛込F班 / 高坂A班
第13回	北爪B班 / 阿部C班 / 山口D班 / 悴田E班 / 牛込F班 / 高坂A班
第14回	発表:A・B・C班
第15回	発表:D・E・F班

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

教室指定をするので確認しておくこと。ポートフォリオ作成するためA4 クリアファイル（厚めの物）を用意しておくこと。

〔受講のルール〕

間違っている、正しくなくても発言すること。他者の発言を糾弾し否定することは許されない。

■授業時間外学習にかかわる情報

ディスカッションには十分な準備が必要である。そのため、必ず配布された文献を読み、関連する資料を集めておくこと。それらはすべてポートフォリオに収める。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

レポート 30% ポートフォリオ 70%

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	作業療法評価法Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	牛込祐樹・阿部真也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法評価学」			
キーワード	バイタルサイン、形態計測、ROM、MMT、脳神経検査、筋緊張検査、知覚検査、バランス機能検査				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法士として必要な身体機能の評価について各検査項目の意義と目的・基礎知識・方法を学び、実践できる技能を身につけることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①身体機能の評価について検査項目とその意義と目的を挙げることができる。
- ②各検査項目の基礎的な知識と方法について説明することができる。
- ③各検査項目を自己学習により正確に行う事ができる。

■授業の概要

作業療法の実践には、対象者が生活を送るために必要な課題や目標を見出すことが必要となる。その過程が作業療法評価である。本科目では、生活の基盤となる身体機能の評価について各検査項目の意義と目的・基礎知識・方法を学び、実践できる技能を修得する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	科目オリエンテーション/作業療法過程における評価の目的と位置づけ/形態計測
第 2 回	意識の評価/バイタルサインの測定
第 3 回	関節可動域測定①
第 4 回	関節可動域測定②
第 5 回	関節可動域測定③
第 6 回	脳神経検査
第 7 回	関節可動域測定 実技テスト
第 8 回	筋力検査①
第 9 回	筋力検査②
第 10 回	筋力検査③
第 11 回	反射検査/筋緊張検査
第 12 回	徒手筋力検査 (MMT) 実技テスト
第 13 回	知覚検査①
第 14 回	知覚検査②
第 15 回	バランス機能検査/リーチ機能検査

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・実際に身体を動かすことが多いため、学校ジャージを用意しておくこと。
- ・メモがしやすいように筆記用ボードを用意しておくこと。
- ・授業資料の再発行はしない。授業を休んだ場合は、クラスメートからコピーをとること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になるよう行為を行う者は受講を拒否する場合がある。
- ・授業に関係ないものの持ち込みは禁止。
- ・携帯電話、スマートフォン、タブレットなどは机の上に置かない。

■授業時間外学習にかかわる情報

シラバスに示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

水曜日 16 時～17 時 その他の曜日・時間においては要予約

■評価方法

- 筆記試験 70% 60 点未満の場合、総合評価の対象としない。再試験：有
- 関節可動域測定 実技テスト 15% 再試験：有 合格基準を満たすまで実施
- 徒手筋力検査 実技テスト 15% 再試験：有 合格基準を満たすまで実施

■教科書

- ①標準理学療法学・作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第 2 版、医学書院、2011
- ②新・徒手筋力検査法 原著第 8 版、協同医書出版社、2008

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	作業療法評価法Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	山口智晴・阿部真也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目 作業療法入門、解剖学、リハビリテーション医学の知識を必要とする。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法評価学」			
キーワード	トップダウン、ボトムアップ、評価、STEF、MFT、SIAS、TUG、COPM、AMPS、JCS				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法士として必要な、基本的評価技法の知識を習得するとともに、様々な対象者に実践するための基本的技能が修得できる。

〔到達目標〕

- ①作業療法評価の基本的な考え方・枠組み、基本的な検査項目を学ぶ。
- ②各検査法の目的や利用方法についての基本的知識を得る。
- ③各検査手技を自己学習により正確に行うことができるようになる。

■授業の概要

作業療法の実践には、対象者が生活を送るために必要な課題や目標を見いだすことが必要となる。その過程が作業療法評価である。本科目では、その基本的な枠組みや検査項目を学ぶとともに、実践できる技能を修得する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション。作業療法における評価とは何か。
第2回	情報収集、面接
第3回	脳神経、協調性の検査
第4回	脳卒中機能評価法SIAS、脳卒中上肢機能検査MFT
第5回	簡易上肢機能検査:STEF
第6回	脊髄損傷者に対する検査法(ASIA-ISCSCI)
第7回	介護予防:TUG、片脚立位、ファンクショナルリーチなど
第8回	コース立方体組み合わせテスト
第9回	トップダウンアプローチとボトムアップアプローチ
第10回	作業遂行の評価:COPM
第11回	作業遂行技能の評価:AMPS
第12回	COPMやAMPSの活用
第13回	精神機能の評価:意欲、思考、ICFで構造的にとらえる
第14回	うつ、活動性、意欲、セルフエフィカシーの尺度について。意識・覚醒レベルの評価
第15回	作業療法における評価・評価のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

OTSとしてふさわしい受講態度で臨むこと。

実習主体の講義であるため、主体的に参加するとともに、休まずに参加すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

各講義は予習を前提に進める。また、受講だけでは技術の修得は難しい。時間外で学生同士の実技練習を行うこと。詳細については、講義の中で説明を行う。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

■筆記試験(■論述 ■客観) □レポート □口頭試験 □実地試験 □その他

評価配分:筆記試験100%

■教科書

岩崎テル子ほか編:標準作業療法学・専門分野『作業療法評価学』医学書院

澤俊二編:作業療法ケースブック 作業療法評価のエッセンス. 医歯薬出版

■参考書

日本作業療法士協会監修:作業療法学全書改訂第3版 作業療法評価学. 協同医書出版

科目名	作業療法評価法Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	山口 智晴	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目 生理学、解剖学、リハビリテーション医学、内科・ 老年医学、神経内科学の知識を必要とする。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法評価学」			
キーワード	高次脳機能障害、認知機能、認知症				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法士として必要な、認知機能障害に対する評価の基本的な知識や技術について学ぶ。

〔到達目標〕

- ①高次脳機能障害の代表的な各症候の基礎知識を説明できる。
- ②認知機能障害を有する患者の臨床的特徴を理解し、適切な評価方法を説明できる。
- ③認知症について、原因となる代表的な疾患とその評価について理解することができる。

■授業の概要

認知機能障害に伴う生活障害を学ぶ。具体的には高次脳機能障害の各症候や認知症に対する作業療法評価について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	オリエンテーション 認知機能の障害を構造的に捉える。高次脳機能障害：総論
第2回	各論・各症候とその評価：意識障害/注意障害について
第3回	各論・各症候とその評価：半側空間無視について
第4回	各論・各症候とその評価：失認について VPTA：標準高次視知覚検査
第5回	各論・各症候とその評価：失語・失読・失書について SLTA：標準失語症検査
第6回	各論・各症候とその評価：ゲルストマン症候群について、失行症・行為の障害について
第7回	各論・各症候とその評価：記憶について、
第8回	各論・各症候とその評価：前頭葉機能障害、遂行機能障害について BADS、WCST
第9回	各論・各症候とその評価：病識の低下、行動と感情の障害について
第10回	知的機能・全般的認知機能：HDS-R、MMSE、WAIS-III
第11回	認知症とは。認知症の評価、認知症の人に対する評価とは
第12回	アルツハイマー病の特徴と評価
第13回	レビー小体病、前頭側頭葉変性症、正常圧水頭症の評価
第14回	認知症の生活機能障害とその評価、最新の知見について
第15回	まとめ。認知機能低下にともなう生活機能の障害を評価する

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業概要を確認し、講義を受けるにあたり、最低限必要となる知識（2年次までの知識）は、各自復習しておくこと。特に解剖学（脳と神経）や神経内科の知識を前提として講義を進める。
15回を通しての理解が必要である。積極的に授業に臨むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。予習と復習を前提に進める。

■オフィスアワー

水曜日 16時半～17時半は随時 その他の曜日においては要予約

■評価方法

■筆記試験（論述 ■客観）レポート 口頭試験 実地試験 その他
評価配分：筆記試験 50%、授業内提出課題ポートフォリオ 50%

■教科書

瀧雅子 編 作業療法学全書 作業治療学5『高次脳機能障害障害』第3版

■参考書

石合純夫 著『高次脳機能障害』（医歯薬出版株式会社）
本田哲三 編『高次脳機能障害のリハビリテーション -実践的アプローチ-』第2版（医学書院）
鈴木孝治ほか編『高次脳機能障害マエストロシリーズ』①～④（医歯薬出版社）
『高次脳機能障害を有する人の暮らしを支える』作業療法ジャーナル増刊号 Vol.40 No.7 2006（三輪書店）
その他、随時講義の中で紹介する。

科目名	作業療法評価法特論Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	山口 智晴	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次選択科目 リハビリテーション入門、作業療法評価法Ⅰ・Ⅱの知識を必要とする	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る選択		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法評価学」			
キーワード	ケーススタディー、ICF、COPM、AMPS				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

作業療法士として必要となる作業療法評価について、ケーススタディーを通して理解を深めることができる。

[到達目標]

- ① ICFを用いて障害を構造的に捉えることができる。
- ② 作業遂行技能を評価するCOPMやAMPSを通して作業療法独自の視点を学び、理解することができる。
- ③ 作業療法士としての視点で「評価」を捉えることができる。

■授業の概要

作業療法における『作業療法評価』について、視点やその位置づけについてケーススタディーを通して学ぶ。また、ICFを通して障害を構造的に捉える。COPMやAMPSを通して作業の遂行能力について客観的に捉える方法を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション。ICFやCOPM、AMPSについての復習。
第2回	ICFを用いて障害を構造的に捉える。
第3回	作業遂行能力や作業遂行に対する満足度など、作業療法士独自の視点を学ぶ①
第4回	作業遂行能力や作業遂行に対する満足度など、作業療法士独自の視点を学ぶ②
第5回	ケーススタディー：身体機能に問題を抱えた事例
第6回	ケーススタディー：身体機能に問題を抱えた事例
第7回	ケーススタディー：認知面に問題を抱えた事例
第8回	ケーススタディー：認知面に問題を抱えた事例
第9回	ケーススタディー：高齢障害者の事例
第10回	ケーススタディー：高齢障害者の事例
第11回	ケーススタディー：発達・精神機能に問題を抱えた事例
第12回	ケーススタディー：発達・精神機能に問題を抱えた事例
第13回	作業療法過程における作業療法評価の位置づけについて、再度確認をする。
第14回	障害を構造的に捉えるとともに、問題点の抽出と目標や治療計画の立案までのプロセスを理解する。
第15回	本科目のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業概要を確認し、講義を受けるにあたり、最低限必要となる知識(2年次までの知識)は、各自復習しておくこと。積極的に授業に臨むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。予習や課題の実施を前提に講義を進める。

■オフィスアワー

水曜日 16 時半～17 時半は随時 その他の曜日においては要予約

■評価方法

筆記試験(論述 客観) レポート 口頭試験 実地試験 その他
評価配分：期末レポート 50%、授業内提出課題 50%

■教科書

澤俊二編：作業療法ケースブック 作業療法評価のエッセンス. 医歯薬出版
杉原素子 編：作業療法学全書「作業療法概論」第3版
椿原彰夫著：PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論. 診断と治療社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	作業療法評価法特論Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	悴田 敦子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻 3 年次選択科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る選択		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法評価学」			
キーワード	作業療法評価法特論Ⅱ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

対象者の映像をもとに、動作観察、動作分析を行い、問題点を抽出し、記録できるようになることを目的とする。記録に関しては、専門用語を正しく使用し、自らが言いたいことを簡潔に表現できるようになることを目指す。

〔到達目標〕

- ①作業療法の過程を説明することができる
- ②評価に必要な情報を列挙し、収集方法をあげることができる
- ③動作観察から動作手順、動作の特徴を専門用語を使用し記録することができる
- ④ICFを用いて対象者の問題点・利点を列挙し、目標を設定、プログラム立案を指定した形式のレポートにまとめることができる

■授業の概要

ケーススタディーを通して、作業療法評価の流れを確認し、評価項目の選択、評価計画の立案、問題点の抽出、作業療法目標の設定、作業療法プログラムの立案までを学びます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	科目オリエンテーション、作業療法評価の流れについて
第 2 回	記録、情報収集について
第 3 回	ケーススタディー：動作分析
第 4 回	ケーススタディー：動作分析
第 5 回	ケーススタディー：動作分析
第 6 回	ケーススタディー：動作分析
第 7 回	ケーススタディー：動作分析
第 8 回	ケーススタディー：情報収集、動作分析、身体機能評価
第 9 回	ケーススタディー：情報収集、動作分析、身体機能評価
第 10 回	ケーススタディー：情報収集、動作分析、身体機能評価
第 11 回	ケーススタディー：情報収集、動作分析、身体機能評価
第 12 回	ケーススタディー：情報収集、動作分析、身体機能評価
第 13 回	ケーススタディー：情報収集、動作分析、身体機能評価
第 14 回	ケーススタディー：情報収集、動作分析、身体機能評価
第 15 回	ケース発表、まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

ケーススタディーでは各自ケースノートを作成し、授業終了後にまとめること。
問題点抽出はICFを使用するため、復習しておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

レポート 100%

■教科書

岩崎テル子他編：標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学. 第 2 版. 医学書院

岩崎テル子編：標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学. 医学書院

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	身体機能作業療法学Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	山口 智晴	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目 運動学、解剖学、生理学、リハビリテーション医学、神経内科学の知識を必要とする	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	脳血管疾患、片麻痺、痙縮、連合反応、共同運動				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法士として必要な、脳血管疾患・頭部外傷に対する基本的な知識や技術について学ぶ。

〔到達目標〕

- ①脳血管疾患・頭部外傷に伴って生じる様々な臨床症状の知識を習得できる。
- ②脳血管疾患の対象者に対する作業療法の基本的な流れを理解できる。
- ③脳血管疾患の対象者に対する作業療法評価や介入について、モデルケースをもとに立案することができる。

■授業の概要

本科目では、複雑な運動障害、感覚障害、認知障害などの症状を呈する“脳血管疾患”に対する評価や治療方法を中心に、実技も交えながら学習する。また、基本的な作業療法評価から治療計画までの“流れ”と“考え方”についても学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション。学ぶべき事項の確認、学習課題の抽出。脳血管障害について、基本的事項の復習
第2回	脳血管疾患の病態、障害像について学ぶ。リスク管理についても学ぶ。共同運動や連合反応について理解する
第3回	異常筋緊張や共同運動・連合反応について復習し、錐体路障害が日常生活に及ぼす影響について考える
第4回	麻痺の回復過程や、予後について学ぶとともに、片麻痺機能や回復段階を評価する方法を学ぶ
第5回	中枢神経障害による運動麻痺の回復（前回の続き）不随意運動、運動失調について
第6回	不随意運動、失調について、
第7回	具体的介入法・急性期：リスク管理やポジショニングなど
第8回	具体的介入法・亜急性期～回復期：基本動作やADLについて
第9回	具体的介入法・回復期：神経筋促通法、麻痺の回復段階に応じた作業活動について
第10回	具体的介入法・回復期：麻痺の回復段階に応じた作業活動、手指の基本的機能と書字訓練
第11回	具体的介入法・回復期：Activityを用いた運動促通、麻痺の回復段階に応じた作業活動
第12回	脳血管障害の各病期におけるOTの役割
第13回	頭部外傷における作業療法
第14回	OTの流れ（脳血管障害のモデルケースを通して学ぶ）
第15回	病期/重症度/ライフステージなど様々な要素に配慮した治療計画の立案について。本科目のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

OTSとしてふさわしい授業態度で参加すること。
実技も含まれるため、実技の含まれる講義では学校指定ジャージなどを用意しておくこと。
授業概要を確認し、積極的に授業に臨むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。15回の講義で効率的に学習を進めるため、事前学習を前提としている。また、実技に関しては授業外の時間に各自で練習しておくこと。

■オフィスアワー

水曜日 16時半～17時半は随時 その他の曜日においては要予約

■評価方法

■筆記試験（論述 ■客観）レポート 口頭試験 実地試験 その他
評価配分：筆記試験 80%、授業内提出課題・小テスト 20%（総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提）

■教科書

岩崎テル子 編『標準作業療法学 身体機能作業療法学』医学書院

■参考書

菅原洋子 編『作業療法全書 作業療法治療学1 身体障害』協同医書出版社
千田富義 編『リハ実践テクニック 脳卒中』メジカルビュー社
Ortrud Eggers 著『エガース・片麻痺の作業療法』協同医書出版

科目名	身体機能作業療法学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	山口 智晴	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目 運動学Ⅰ/Ⅱ、解剖学Ⅰ/Ⅱ、生理学Ⅰ/Ⅱ、リハビリテーション医学、整形外科学の知識を必要とする	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	骨関節疾患、骨折、ROM、筋力増強練習、クリニカルパス				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法士として必要な、整形外科疾患に対する基本的な知識や技術について学ぶ。

〔到達目標〕

- ①整形外科疾患に伴って生じる臨床症状や、生活上の支障についての知識を習得できる。
- ②治療上使用する物理療法の基本についての知識を習得できる。
- ③関節可動域練習や筋力増強練習などの基本的な手技について、知識と実技を身につけることができる。

■授業の概要

本講義では身体機能に対する作業療法を実施するために必要な知識・技術を学習する。特に、整形外科的疾患の中でも、比較的経験することの多い骨関節疾患を中心として、評価や治療計画立案、実際の介入方法について実技も交えながら概要を学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/骨関節疾患の基本的な知識についての確認
第2回	骨折に対するリハの流れと、OTの役割について学び、各病期の作業療法目標について考える。クリニカルパスも学ぶ
第3回	関節可動域訓練の治療原理
第4回	関節可動域練習の実際、筋力増強訓練の治療原理
第5回	筋力増強練習の治療原理とその実際
第6回	物理療法について①(ホットパック、パラフィン浴、過流浴、極超短波治療器、超音波治療器など)
第7回	物理療法について②(ホットパック、パラフィン浴、過流浴、極超短波治療器、超音波治療器など)
第8回	治療①:上腕骨骨折を中心として治療手技など実践もふまえて学ぶ
第9回	治療①:前腕骨骨折を中心として治療手技など実践もふまえて学ぶ
第10回	治療①:下肢骨折に対するOTについて。人工関節置換術後のADL支援、過重負荷量に応じたADL指導
第11回	末梢神経損傷・腕神経叢損傷に対する作業療法、知覚再教育について
第12回	末梢神経損傷・腕神経叢損傷に対する作業療法、知覚再教育について
第13回	肩関節周囲炎、変形性関節症、腰痛に対する作業療法について
第14回	身体機能に対する作業療法を実践するための基本的知識などのまとめをする
第15回	身体機能に対する作業療法を実践するための基本的手技などのまとめをする。本科目のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

OTSとしてふさわしい授業態度で参加すること。
実技も含まれるため、実技の含まれる講義では学校指定ジャージなどを用意しておくこと。
授業概要を確認し、積極的に授業に臨むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。15回の講義で効率的に学習を進めるため、事前学習を前提としている。また、実技に関しては授業外の時間に各自で練習しておくこと。

■オフィスアワー

水曜日 16時半～17時半は随時 その他の曜日においては要予約

■評価方法

■筆記試験(□論述 ■客観) □レポート □口頭試験 □実地試験 □その他
評価配分:筆記試験 80%、授業内提出課題・小テスト 20% (総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提)

■教科書

岩崎テル子 編『標準作業療法学 身体機能作業療法学』医学書院

■参考書

菅原洋子 編『作業療法全書 作業療法治療学1 身体障害』協同医書出版社 その他は、随時講義中に紹介。

科目名	精神機能作業療法学Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	高坂駿・遠藤真史	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目主に臨床心理学、精神医学の知識が必要となる。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	モラルトリートメント 障害者総合支援法 リハビリー 評価 地域				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

精神障害リハビリテーションおよび作業療法の基本的な考え方や評価・治療・支援・フィードバックに関する基礎的な知識について理解・説明できることを目的とする。

- ①精神医療の歴史・精神保健医療福祉の流れと作業療法の関係について理解・説明することができる。
- ②精神科領域における作業活動の手段・目的としての活用について理解・説明できる。
- ③精神科領域における作業療法評価（観察・面接・集団・検査）やプログラム作成の原則について理解・説明することができる。
- ④精神科作業療法における治療・援助の構造や治療理論の基礎について理解・説明することができる。
- ⑤精神疾患の病期や領域に応じた作業療法の関わりを理解・説明することができる。
- ⑥地域移行、定着支援の概要について理解・説明することができる。

■授業の概要

精神領域におけるリハビリテーションおよび作業療法についての基本的な視点、実際の作業療法評価や治療の原則など、対象者の治療に必要な基礎知識に関して学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/こころの病と精神科
第2回	精神障害リハビリテーション及び作業療法の歴史と現状：レポート
第3回	精神保健/関連法規
第4回	対象理解と評価
第5回	作業療法の基本的な視点と方法（作業・作業活動を介した回復支援・生活支援）
第6回	作業療法の基本的実践論（治療構造と実践形態/実践のプロセス）
第7回	作業療法の基本的実践論（病期に応じた生活支援：急性期～回復期）
第8回	作業療法の基本的実践論（病期に応じた生活支援：生活期・予防期）
第9回	精神機能作業療法評価の基礎（観察法・面接法）
第10回	精神機能作業療法評価の基礎（集団評価法・検査法）
第11回	精神科作業療法における精神障害者地域移行支援・定着支援
第12回	精神科領域における地域生活支援の仕組み
第13回	当事者の具体的な暮らしと苦勞（テーマ）にふれる
第14回	当事者の具体的な暮らしと苦勞（テーマ）にふれる
第15回	学んだことの振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・予習復習をしっかりとる。

〔受講のルール〕

- ・講義は欠席のないようにする。
- ・授業内外問わず、積極的に自ら調べたり、質問をする。
- ・授業中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎授業配布する、コマ・シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。

■オフィスアワー

水曜日16～17時は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

筆記試験 80%（再試験あり。）

60点未満の場合、総合評価の対象としない。

レポート 20%（再提出あり。期限内に提出されないものは総合評価に含めない。）

■教科書

①日本作業療法士協会 監修：作業療法学全書 改訂第3版 作業療法治療学2 精神障害, 2010

②岩崎テル子他 編：作業療法評価学, 医学書院, 2009

■参考書

香山明美他：生活を支援する 精神障害作業療法-急性期から地域実践まで-。医歯薬出版, 2008

科目名	精神機能作業療法学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	高坂駿・遠藤真史	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目 主に臨床心理学、精神医学の知識が必要となる。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	回復過程 作業療法評価 on the jobtraining place-then-train ICF ケアマネジメント				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

精神科作業療法で対象となる各疾患の評価や目標の設定・治療・支援方法等、一般的な枠組みを理解・説明できることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①各疾患や障害のもつ医学的な特徴を理解・説明することができる。
- ②各疾患における精神機能作業療法評価、目標・治療計画の設定を理解・説明・実施できる。
- ③精神疾患を持つ方の生活障害を理解・説明することができる。
- ④精神科病院における長期入院者の現状と退院支援のあり方を理解・説明することができる。
- ⑤演習を通じて精神疾患を持つ方の地域生活支援・就労支援における作業療法の実践および、ケアマネジメントの展開について理解・説明することができる。

■授業の概要

ICFに基づいた精神疾患における評価へ目標設定までを学び、演習を通して実践する。また、幅広いライフステージや回復過程に応じた精神科作業療法の実践および地域生活支援の視点・実践について学習をする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/ICFと精神領域作業療法評価
第2回	精神障害リハビリテーションと作業療法評価の活用
第3回	統合失調症、統合失調症様障害および妄想性障害
第4回	統合失調症、統合失調症様障害および妄想性障害
第5回	統合失調症、統合失調症様障害および妄想性障害
第6回	統合失調症、統合失調症様障害および妄想性障害：レポート
第7回	気分(感情)障害
第8回	精神作用物質使用による精神および行動の障害
第9回	成人の人格(パーソナリティ)及び行動障害/神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害
第10回	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群/てんかん
第11回	事例を通して作業療法評価・目標設定・計画立案に関するまとめ
第12回	事例を通して作業療法評価・目標設定・計画立案に関する発表：レポート
第13回	精神障害のOT評価グループワーク
第14回	精神障害のOT評価(野中式事例検討)
第15回	学んだことの振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・予習復習をしっかりとる。

〔受講のルール〕

- ・講義は欠席のないようにする。
- ・授業内外問わず、積極的に自ら調べたり、質問をする。
- ・授業中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎授業配布する、コマ・シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。

■オフィスアワー

水曜日16～17時は随時(変更時は掲示する)。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

筆記試験 80% (再試験あり)
60点未満の場合、総合評価の対象としない。
レポート 20% (再提出あり。期限内に提出されないものは総合評価に含めない。)

■教科書

- ①小林夏子 編：標準作業療法学 精神機能作業療法学。医学書院，2009
- ②岩崎テル子他 編：作業療法評価学。医学書院，2009

■参考書

- ①香山明美他：生活を支援する 精神障害作業療法-急性期から地域実践まで-。医歯薬出版，2008

科目名	発達過程作業療法学Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	北爪 浩美	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	作業療法士国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	発達過程、特別支援教育、感覚運動、感覚統合、あそび				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

発達過程における作業療法の対象疾患とその症状について学び、作業療法の目的と方法について理解し、実施しうる能力を身につけることを目的とする。

〔到達目標〕

- ① 発達の諸段階を理解し、各発達段階における作業療法の概要について説明できる。
- ② 発達過程作業療法の対象疾患について理解し、臨床像、評価について説明できる。
- ③ 発達過程作業療法について、評価に基づいた治療を説明することができる。

■授業の概要

近年、特別支援教育については、教育あるいは医療、福祉領域において、その取り組みがめざましく発展し、対象児の可能性を広げるために取り組んでいる。本講義では乳児期から青年期でを対象とした作業療法について学び、発達途上にある児についての生物学的視点と心理・社会的視点を身につけ、家庭生活や教育環境などで生かすことの出来る適切な援助方法について考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション。発達障害領域での作業療法の理念と役割
第2回	発達過程における障害の概要
第3回	発達過程における障害の概要評価と援助の実践課程
第4回	発達過程作業療法における評価について
第5回	疾患別作業療法：脳性まひの発達児と障害特性①
第6回	疾患別作業療法：脳性まひの発達児と障害特性②
第7回	疾患別作業療法：脳性まひ児の評価・治療原理①
第8回	疾患別作業療法：脳性まひ児の評価・治療原理②
第9回	疾患別作業療法：重症心身障害児の障害特性と治療原理
第10回	疾患別作業療法：神経筋疾患、骨疾患の障害特性と治療原理
第11回	疾患別作業療法：発達障害児の発達と障害特性①
第12回	疾患別作業療法：発達障害児の発達と障害特性②
第13回	疾患別作業療法：発達障害児の評価、治療原理
第14回	疾患別作業療法：知的障害児の発達と障害特性、治療原理
第15回	地域における発達支援、特別支援教育と作業療法

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・白衣着用が必要な場合には事前に連絡する。
- ・授業で配布する資料の予備は保管しないため、欠席した場合は出席者からコピーすること。
- ・シラバスを確認し授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気等を乱す行為、常識を欠く行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

火曜日 16:30 ～ 17:30 は随時（変更の場合は掲示する）。その他は要相談。

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

日本作業療法協会監修：作業療法学全書改訂第3版 6. 発達障害. 協同医書出版社. 2010

■参考書

シラバス参照のこと。

科目名	発達過程作業療法学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	北爪 浩美	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻 3 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法士国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	発達検査、評価、治療プログラム				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

発達検査について学び、作業療法評価への応用について考察する。また、作業療法で使用する検査について学び、実施と結果についての解釈の方法を学習し、児の全体像の把握および適切な治療目標を立てることが出来るようになる事を目的とする。

〔到達目標〕

- ①発達過程作業療法で使用する検査バッテリーについて理解し、実施することができる。
- ②各検査から得られた結果を評価し、作業療法で取り組む内容を抽出することができる。
- ③作業療法の目的を達成するための治療プログラムを立案することができる。
- ④対象児の将来像までを見据えた生活上の提案をすることができる。

■授業の概要

発達過程の作業療法対象者に対する評価について、検査バッテリーの紹介と実施方法について学び、対象者に対して実施できる力を身につける。また、各疾患への評価の適応や結果の解釈について考察し、治療プログラム立案までの道筋を考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	科目オリエンテーション、発達過程における作業療法評価
第 2 回	発達スクリーニング検査とは
第 3 回	発達スクリーニング検査と作業療法
第 4 回	運動機能の評価①
第 5 回	運動機能の評価②
第 6 回	感覚統合機能の評価①
第 7 回	感覚統合機能の評価②
第 8 回	知覚・認知機能の評価①
第 9 回	知覚・認知機能の評価②
第 10 回	知的機能の評価
第 11 回	心理・社会的機能の評価
第 12 回	こどもの日常生活動作の発達と評価
第 13 回	あそび、学習と作業療法
第 14 回	こどもの発達と環境調整①
第 15 回	こどもの発達と環境調整②

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・白衣着用が必要な場合は事前に連絡する。
- ・検査の予習、復習を十分に行うこと。
- ・授業で配布する資料の予備は保管しません。

〔受講のルール〕

- ・シラバスを必ず確認し授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気等を乱す行為、常識を欠く行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

火曜日 16:30 ～ 17:30 は随時（変更時は掲示します）。その他の曜日については要予約。

■評価方法

筆記試験 50%

環境調整および学用品等の工夫についての発表 50%（評価は作成した資料と発表の合計点とする。配点の詳細は講義内で伝える。）

■教科書

日本作業療法協会監修：作業療法学全書改訂第3版 6. 発達障害. 協同医書出版社. 2010

■参考書

シラバスを参照すること。

科目名	高齢期作業療法学I	担当教員 (単位認定者)	悴田 敦子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	高齢期特徴、生活、役割、作業療法過程、認知症、ターミナル				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

加齢とともに起こる身体的変化、精神的変化、生活の変化などを学び、様々な高齢者に対する作業療法について理解することを目的とする。

〔到達目標〕

- ①高齢者を取り巻く社会の現状を説明することができる。
- ②高齢期の身体的特徴や、特徴的な疾患について説明することができる。
- ③高齢期の作業療法実践の基本的枠組みを説明することができる。
- ④認知症および特徴的疾患の作業療法アプローチを説明することができる。

■授業の概要

高齢者の身体・精神・生活などについて学び、老年期障害領域での作業療法の実際や、作業療法士が果たす役割を理解する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション, 高齢社会について
第2回	高齢期の一般的特徴について
第3回	高齢期の特徴的疾患について
第4回	高齢期作業療法の過程について
第5回	病期・場所に応じた治療・援助の違いについて
第6回	認知症の定義と分類、症状について
第7回	認知症におけるコミュニケーションについて
第8回	認知症の作業療法について
第9回	認知症に関係する社会資源について
第10回	認知症の作業療法の実際
第11回	虚弱高齢者、寝たきり高齢者の作業療法の実際
第12回	整形外科疾患の作業療法の実際
第13回	終末期の作業療法の実際
第14回	健康な高齢者の作業療法
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

グループでの症例検討を予定しています。積極的な意見交換に努めて下さい。
体操を行う時は動きやすい服装で受講して下さい。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

松房利憲, 小川恵子編: 標準作業療法 専門分野 高齢期作業療法学. 第2版, 医学書院
小川敬之編: 認知症の作業療法 エビデンスとナラティブの接点に向けて. 医歯薬出版株式会社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	高齢期作業療法学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	阿部 真也	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	生活行為向上マネジメント、意味ある作業				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

「生活行為向上マネジメント」を活用できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①高齢者について理解を深め、説明することができる。
- ②生活行為の自立に向けたマネジメントについて説明できる。
- ③生活行為向上マネジメントプログラムを立てることができる。

■授業の概要

本講義で取り上げる「生活行為向上マネジメント」を活用することで、利用者本人を中心にご家族や関係職種などと情報を共有し、利用者が医療制度から介護保険へ、より良い生活の獲得・意味ある作業の遂行につなげられるようになることを目的とする。

「生活行為向上マネジメント」は老年期作業療法領域以外においても有効な連携ツールである。よって、他科目（他領域）においても必携となる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、高齢者の生きてきた時代を探る・高齢者の趣味・興味・生きがいを探る①
第2回	高齢者の生きてきた時代を探る・高齢者の趣味・興味・生きがいを探る② レポート
第3回	生活行為の自立に向けたマネジメント：すべての人によい作業を
第4回	生活行為の自立に向けたマネジメント：生活行為向上マネジメントとは
第5回	生活行為の自立に向けたマネジメント：マネジメントツールの使い方①
第6回	生活行為の自立に向けたマネジメント：マネジメントツールの使い方②
第7回	生活行為の自立に向けたマネジメント：case1
第8回	生活行為の自立に向けたマネジメント：case1
第9回	生活行為の自立に向けたマネジメント：case2
第10回	生活行為の自立に向けたマネジメント：case2
第11回	生活行為の自立に向けたマネジメント：case3
第12回	生活行為の自立に向けたマネジメント：case3
第13回	生活行為の自立に向けたマネジメント：case4
第14回	生活行為の自立に向けたマネジメント：case4
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・グループワークが中心となる

〔受講のルール〕

・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。

・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めないことがあるので注意すること。

・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時間外学習の内容については科目オリエンテーションにて説明します。

■オフィスアワー

水曜日 16時～17時は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約

■評価方法

■筆記試験（ 論述 客観） ■レポート 口頭試験 実地試験 その他

評価配分：筆記試験 50%、課題 40%、レポート 10%、筆記試験 60点以下は再試験。

■教科書

社団法人日本作業療法士協会監：“作業”の捉え方と評価・支援技術. 医歯薬出版

■参考書

吉川ひろみ：「作業」ってなんだろう 作業科学入門. 医歯薬出版

科目名	ひとと暮らしⅠ	担当教員 (単位認定者)	阿部 真也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	ADL、IADL、評価、脳血管障害、ADL 練習				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法士として必要なADL・IADLを評価する力と介入する手法を身につけることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①代表的なADL・IADL評価を説明し実施できる。
- ②ADL各項目の観察ポイントを挙げるができる。
- ③脳血管障害における代表的なADL介入を説明することができる。
- ④簡単な動作分析をまとめることができる。

■授業の概要

ひとが暮らしていく上で基礎となる食事動作や排泄動作などのADLはなにも作業療法士だけが関係するものではない。では、作業療法の専門性や役割とは何か?そのことを明らかにするため、評価や介入方法を実際に体験しながら学んでいく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/ADL・IADLとは
第2回	ADLにおける自立について考える
第3回	ADL評価/Barthel Index, FIM
第4回	評価各論:起居・移動動作
第5回	評価各論:更衣動作
第6回	評価各論:食事動作・整容動作
第7回	評価各論:排泄動作
第8回	障害別ADL練習:脳血管障害片麻痺:床上動作
第9回	障害別ADL練習:脳血管障害片麻痺:移乗・移動動作
第10回	障害別ADL練習:脳血管障害片麻痺:移動、更衣動作
第11回	障害別ADL練習:脳血管障害片麻痺:食事動作
第12回	障害別ADL練習:脳血管障害片麻痺:排泄動作
第13回	障害別ADL練習:脳血管障害片麻痺:入浴動作
第14回	障害別ADL練習:脳血管障害片麻痺:整容動作
第15回	障害別ADL練習:脳血管障害片麻痺:IADL動作

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・実際に体を動かすことが多いため、学校ジャージを用意しておくこと。
- ・メモがしやすいように筆記用ボードを用意しておくこと。

〔受講のルール〕

- ・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めないことがあるので注意すること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時間外学習の内容については科目オリエンテーションにて説明する。

■オフィスアワー

水曜日 16 時～17 時は随時(変更時は掲示する) その他の曜日においては要予約

■評価方法

■筆記試験(■論述 ■客観) ■レポート □口頭試験 □実地試験 □その他
評価配分:筆記試験 50% レポート 50% 筆記試験 60 点以下は再試験。

■教科書

伊藤利之編:新版 日常生活活動(ADL)-評価と支援の実際-。医歯薬出版, 2010

■参考書

酒井ひとみ編集:作業療法全書第 11 巻 改訂第 3 版 作業療法技術学 3 日常生活活動。協同医書, 2010

科目名	ひとと暮らしⅡ	担当教員 (単位認定者)	阿部 真也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	住宅改修、福祉用具、自助具、関節リウマチ、脊髄損傷、職業関連活動				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

ADLやIADLを改善・向上するために必要な環境整備（住宅改修・福祉用具・自助具）についての知識を身につける。また、障害別の介入方法を学ぶ。

〔到達目標〕

- ・基本的な住宅の計測ができる。
- ・住宅改修プランを立案できる。
- ・福祉用具の選定に関するポイントを説明できる。
- ・自助具を作成することができる。
- ・障害別ADL練習を説明することができる。

■授業の概要

暮らしを営む上で環境を考慮し、整えることは必要不可欠なことである。障害を持って自分らしい豊かな暮らしを営めるよう作業療法士として行える支援の手法を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	住宅改修①
第2回	住宅改修②
第3回	住宅改修③
第4回	住宅改修④
第5回	福祉用具①
第6回	福祉用具②
第7回	福祉用具③
第8回	自助具①
第9回	障害別ADL練習：関節リウマチ①
第10回	障害別ADL練習：関節リウマチ②
第11回	障害別ADL練習：脊髄損傷①
第12回	障害別ADL練習：脊髄損傷②
第13回	障害別ADL練習：パーキンソン病
第14回	自助具② 自助具作成&ポスター発表
第15回	職業関連活動

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・実際に体を動かすことが多いため、学校ジャージを用意しておくこと。メモがしやすいように筆記用ボードを用意しておくこと。3mくらいの巻尺メジャー、USB。

〔受講のルール〕

- ・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めないことがあるので注意すること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時間外学習の内容については科目オリエンテーションにて説明します。

■オフィスアワー

水曜日 16 時～ 17 時は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約

■評価方法

■筆記試験（■論述 ■客観） ■レポート □口頭試験 □実地試験 ■自助具作成&ポスター発表
 評価配分：筆記試験 60%、住宅改修提案書 20%、自助具作成&ポスター発表 20%
 筆記試験 60 点以下は再試験。

■教科書

伊藤利之編：新版 日常生活活動（ADL）-評価と支援の実際-。医歯薬出版，2010

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	義肢装具学	担当教員 (単位認定者)	悴田 敦子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	義手、義足、スプリント				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

義肢装具の概念、対象となる疾患・障害、処方・製作までの流れを学び、義肢装具の基本的な目的と原理を学ぶ。また、主な義肢装具の分類・名称・構造を知り、対象者にとってどのような義肢装具が必要であるが考える。さらに、作業療法士が良肢位保持や変形防止などのために製作するスプリントについて学び、実際に製作する。

[到達目標]

- ①切断の種類とそれに合わせた技師の種類を言うことができる。
- ②義肢の種類及び各パーツの名称を言うことができる。
- ③上肢・下肢・体幹の装具の種類と対象疾患を言うことができる。
- ④スプリントの種類と対象疾患、治療目的を言うことができる。
- ⑤代表的なスプリントを製作し、対象者に合わせた修正を行うことができる。

■授業の概要

作業療法で対象となる各種装具・スプリントと、国家試験で出題される各種義肢・装具の名称及びその特徴と対象疾患について学ぶ。また、代表的なスプリントの製作から、その特徴や治療目的を理解し、フィッティングなどの技術も学んでいく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、義肢・装具・スプリントについて
第2回	義手の分類・名称・構造・機能について
第3回	義手の操作法、調整法、筋電義手について
第4回	義足の分類・名称・構造・機能について
第5回	装具総論、上肢装具の種類、対象疾患について
第6回	下肢装具、体幹装具の種類、対象疾患について
第7回	義肢・装具のまとめ
第8回	スプリント総論
第9回	スプリント製作① 型紙、リングスプリント
第10回	スプリント製作② レナサームによる短母指対立スプリント①
第11回	スプリント製作③ レナサームによる短母指対立スプリント②
第12回	スプリント製作④ アクアプラストによるカックアップスプリント①
第13回	スプリント製作⑤ アクアプラストによるカックアップスプリント②
第14回	適合評価について
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・各種義肢・装具・スプリントを装着することが多く、また、後半はスプリント製作も行うため、作業のしやすい服装を心がけること。
- ・スプリント製作では各自タオルを用意すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

川村次郎, 陳隆明, 古川宏, 他編: 義肢装具学. 第4版, 医学書院, 2010

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	作業療法治療学Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	北爪 浩美	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法士国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	作業、作業療法原理、EBOT				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

作業療法の原理に基づく治療としての「作業」について学び、実践へ向けての考察ができるようになることを目的とする。

[到達目標]

- ①作業療法の原理について説明できる。
- ②治療としての「作業」の意味について説明できる。
- ③作業療法における理論について説明できる。
- ④領域別作業療法における目的と目標、方法について説明できる。

■授業の概要

作業療法士はその対象となるひとが望む作業に取り組めるように治療、指導、援助する専門職である。そのため、①作業は人間にとって不可欠である②作業は内的外的要請に応じて変化する③作業療法士は健康と幸福増進のために作業を治療の手段として使用できる、という原則に基づく対応が求められる。本講義ではこの原則原理について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	科目オリエンテーション、作業療法の原理と治療
第 2 回	作業療法における治療。文献抄読。
第 3 回	作業療法における治療。文献抄読発表。
第 4 回	作業療法における治療の考え方。
第 5 回	文献抄読。作業療法における治療、身体感覚認知と作業療法。
第 6 回	作業療法の理論
第 7 回	作業療法における治療理論
第 8 回	作業療法における治療理論
第 9 回	作業療法における治療。運動とプロセス技能モデル。
第 10 回	領域別作業療法の実際（医療領域）
第 11 回	領域別作業療法の実際（医療領域）
第 12 回	領域別作業療法の実際（福祉領域）
第 13 回	領域別作業療法の実際（教育支援領域）
第 14 回	領域別作業療法の実際（就労支援領域）
第 15 回	まとめ。チーム医療の中の作業療法士の役割

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・白衣着用が必要な場合には事前に連絡する。
- ・授業で配布する資料の予備は保管しないため、欠席した場合は出席者からコピーすること。
- ・シラバスを確認し授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気乱す行為、常識を欠く行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

火曜日 16:30 ～ 17:30 は随時（変更の場合は掲示する）。その他は要相談。

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

日本作業療法協会監修：作業療法学全書 改訂第 3 版 1. 作業療法概論. 協同医書出版. 2008

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	作業療法治療学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	牛込 祐樹	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻 3 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	脊髄損傷、関節リウマチ、神経変性疾患、神経・筋疾患、がん				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

脊髄損傷や関節リウマチ、神経変性疾患、神経筋疾患、がんに対して病態を理解し、作業療法士として基本的な評価・治療・支援を行えるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①脊髄損傷など各疾患の病態・症状・障害像を理解し、説明することができる。
- ②脊髄損傷など各疾患の検査・評価を理解し、説明することができる。
- ③脊髄損傷など各疾患の特性や障害像、病期などを考慮し、基本的な治療・支援・指導を説明する事ができる。

■授業の概要

作業療法士として必要な知識・技術を有していることに併せて、それを臨床場面で実際の対象者へ活用できる事も重要である。臨床場面を想定して、必要な準備や具体的な方法・手順、それに伴う説明、リスク管理の配慮等について知り、評価、介助を実践的に行えるように学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	科目オリエンテーション/脊髄損傷の病態・神経症状について①
第 2 回	脊髄損傷の病態・神経症状について②
第 3 回	脊髄損傷の随伴症状・合併症について
第 4 回	脊髄損傷障害像について
第 5 回	脊髄損傷における評価
第 6 回	脊髄損傷の病期における目標と基本的対応について
第 7 回	脊髄損傷の損傷レベルに応じた作業療法①
第 8 回	脊髄損傷の損傷レベルに応じた作業療法②
第 9 回	脊髄損傷の損傷レベルに応じた作業療法③
第 10 回	脊髄損傷患者のケーススタディ：作業療法の役割について考える
第 11 回	関節リウマチにおける作業療法
第 12 回	神経変性疾患における作業療法
第 13 回	神経・筋疾患における作業療法
第 14 回	がんに対する作業療法
第 15 回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業資料の再発行はしない。授業を休んだ場合は、クラスメートからコピーをとること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になるよう行為を行う者は受講を拒否する場合がある。
- ・授業に関係ないものの持ち込みは禁止。
- ・携帯電話、スマートフォン、タブレットなどは机の上に置かない。

■授業時間外学習にかかわる情報

シラバスに示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

水曜日 16 時～17 時 その他の曜日・時間においては要予約

■評価方法

筆記試験 100% 60 点未満の場合、総合評価の対象としない。再試験：有

■教科書

標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第 2 版、医学書院、2011

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	作業療法治療学Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	高坂駿・遠藤真史	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目 主に臨床心理学、精神医学の知識が必要となる。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	治療構造論 作業療法 地域生活移行(定着)支援 社会資源				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

これまでに学んだ精神障害リハビリテーションの基礎知識や各疾患の特徴、評価方法等を統合し、応用的に精神障害リハビリテーションを進めるための考え方や具体的方法を学ぶ。

[到達目標]

- ①各疾患における作業療法の課題と目的について理解・説明できる。
- ②各疾患における作業療法の基本的な援助方法を理解・説明できる。
- ③各疾患における作業療法実施上の留意点を理解・説明できる。
- ④治療場での環境設定や適応・段階づけについて説明・実施できる。
- ⑤精神障害者に対する地域生活移行(定着)支援の仕組みと実際を理解・説明することができる。

■授業の概要

ICFに基づいた実践的なリハビリテーションの考え方と治療・支援の実際を学ぶ。その人にとっての生活障害とは何か、地域で生活を続けるための方法を事例をもとに考え、評価、治療・支援計画を立てる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/精神科作業療法に関する理論・モデル・技法
第2回	統合失調症、統合失調症様障害および妄想性障害
第3回	統合失調症、統合失調症様障害および妄想性障害
第4回	統合失調症、統合失調症様障害および妄想性障害:レポート
第5回	気分(感情)障害
第6回	精神作用物質使用による精神および行動の障害
第7回	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害/成人の人格(パーソナリティ)及び行動障害
第8回	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群/てんかん
第9回	実践事例を通じた評価・治療・指導・支援内容のまとめ
第10回	実践事例を通じた評価・治療・指導・支援内容の発表:レポート
第11回	精神障害者の地域生活支援の仕組み
第12回	精神障害者の地域生活支援の実践
第13回	人を応援するという事
第14回	人を応援するという事
第15回	学んだことの振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・予習復習をしっかりとる。

[受講のルール]

- ・講義は欠席のないようにする。
- ・授業内外問わず、積極的に自ら調べたり、質問をする。
- ・授業中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎授業配布する、コマ・シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。

■オフィスアワー

水曜日16～17時は随時(変更時は掲示する)。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

筆記試験 80%(再試験あり)

60点未満の場合、総合評価の対象としない。

レポート 20%(再提出あり。期限内に提出されないものは総合評価に含めない。)

レポート評価基準:①課題に則している(20点)②誤字・脱字がない(20点:誤字脱字・1カ所につき-2点)③内容の流れに一貫性がある(20点)④自分の考えが読み手に伝わるよう考察が書かれている(20点)⑤一つ以上の文献が使用・表記されている(20点)

■教科書

①小林夏子 編:標準作業療法学 精神機能作業療法学.医学書院,2009

②日本作業療法士協会 監修:作業療法学全書 改訂第3版 作業療法治療学2 精神障害.協同医書出版社,2010

③障害者福祉研究会著:ICF 国際生活機能分類-国際障害分類改定版..中央法規出版,2002

■参考書

①香山明美他:生活を支援する 精神障害作業療法-急性期から地域実践まで-.医歯薬出版,2008

科目名	作業療法技術論Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	北爪 浩美	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	作業療法専攻 3 年次選択科目	免許等指定科目	作業療法士国家試験受験資格に係る選択		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法技術論」			
キーワード	動作、行為、作業、動作分析、上肢機能、日常生活動作、ICF				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法士が対象者の行為を理解するために用いる動作分析および作業分析について、行為（作業）工程ごとに実施し、対象者の治療の方向性を説明できるようになることを目的とする。

〔到達目〕

- ①観察から対象者の姿勢や行為について運動学的に分析できる。
- ②分析した内容を他者にわかりやすく説明することができる。
- ③対象者の日常生活動作上の問題点と分析内容を照らし合わせて治療の方向性を説明することができる。

■授業の概要

ひとの意志は動作として表現され、目的に応じた動作の連続が作業となる。作業療法士は作業を実現する専門職であるため、意志の表現としての動作を正確に解釈する必要がある。本講義では、ひとの動作の過程を分析し、対象者の評価および治療に生かす観察力を身につける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	科目オリエンテーション、動作と行為について
第 2 回	動作分析の方法①
第 3 回	動作分析の方法②
第 4 回	動作分析の方法③
第 5 回	動作分析の方法④
第 6 回	上肢機能と知覚①
第 7 回	上肢機能と知覚②
第 8 回	上肢機能と知覚③
第 9 回	ICFに基づく作業分析の解釈と作業療法の目的
第 10 回	ICFに基づく作業分析の解釈と作業療法の目的
第 11 回	作業・動作分析に基づく治療①
第 12 回	作業・動作分析に基づく治療②
第 13 回	作業・動作分析に基づく治療③
第 14 回	作業・動作分析に基づく治療④
第 15 回	まとめ 動作分析と作業療法について

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・授業で配布する資料の予備は保管しません。

〔受講のルール〕

・シラバスを必ず確認し授業に臨むこと。

・授業の流れや雰囲気等を乱す行為、常識を欠く行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

火曜日 16:30 ～ 17:30 は随時（変更時は掲示します）。その他の曜日については要予約。

■評価方法

レポート 100%（詳細についてはシラバス参照）

■教科書

山根寛他著：ひとと集団・場－ひとの集まりと場を利用する－ 第 2 版. 三輪書店. 2007
 吉川ひろみ著：作業療法がわかる COPM・AMPS スターティングガイド. 医学書院. 2008
 世界保健機関：ICF. 中央法規.

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	作業療法技術論Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	牛込 祐樹	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻 3 年次選択科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る選択		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法技術論」			
キーワード	身体機能障害の治療原理、内部障害、ターミナルケア、リスクマネジメント				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

身体障害における機能障害に対しての具体的な治療を選択実施できるようになることを目的とする。
また、内部障害に対する作業療法の役割と基本的な流れを理解する。

〔到達目標〕

- ①機能障害の種類に応じて、適切な治療手段を説明・実施する事ができる。
- ②内部障害を合併する患者の臨床的特徴を理解し、作業療法実施上の注意点・リスク管理について説明することができる。
- ③内部障害を合併する患者への作業療法の役割を知り、基本的な指導・支援について説明することができる。

■授業の概要

身体障害における機能障害に対する治療手段と作業療法応用への考え方・方法について学ぶ。
内部障害について各疾患の障害像を復習し、それらに対する作業療法の流れ、役割について学ぶ。
また、終末期（ターミナル）における作業療法の役割について考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	科目オリエンテーション/身体機能障害の治療原理：関節可動域の維持・拡大
第 2 回	身体機能障害の治療原理：筋力と筋持久力の維持・増強
第 3 回	身体機能障害の治療原理：知覚再教育
第 4 回	身体機能障害の治療原理：筋緊張異常・不随意運動・協調運動障害とその治療
第 5 回	内部疾患：心臓疾患に対する作業療法①
第 6 回	内部疾患：心臓疾患に対する作業療法②
第 7 回	内部疾患：呼吸器疾患に対する作業療法①
第 8 回	内部疾患：呼吸器疾患に対する作業療法②
第 9 回	内部疾患：腎臓疾患・糖尿病に対する作業療法①
第 10 回	内部疾患：腎臓疾患・糖尿病に対する作業療法②
第 11 回	ターミナルケアと作業療法①：ターミナルケアについて
第 12 回	ターミナルケアと作業療法②：ターミナルケアにおける作業療法の役割
第 13 回	ターミナルケアと作業療法③：ケーススタディを通して
第 14 回	身体障害におけるリスクマネジメント
第 15 回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業資料の再発行はしない。授業を休んだ場合は、クラスメートからコピーをとること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になるよう行為を行う者は受講を拒否する場合がある。
- ・授業に関係ないものの持ち込みは禁止。
- ・携帯電話、スマートフォン、タブレットなどは机の上に置かない。

■授業時間外学習にかかわる情報

シラバスに示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

水曜日 16 時～17 時 その他の曜日・時間においては要予約

■評価方法

筆記試験 100% 60 点未満の場合、総合評価の対象としない。再試験：有

■教科書

標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第 2 版、医学書院、2011

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	作業療法技術論Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	牛込 祐樹	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻 3 年次選択科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る選択		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法技術論」			
キーワード	臨床技術、コミュニケーション、リスク管理、評価、介助、OSCE				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

評価、介助の具体的な方法・手順に沿って、適切な準備・説明を行い、リスク管理に配慮しながら適切かつ安全に実施できることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①評価、介助に必要な準備を知り、実際に準備を整えることができる。
- ②評価、介助で起こりうるリスクを把握し、適切に対応することができる。
- ③評価、介助を行うにあたり、適切なオリエンテーション・フィードバック、声かけを実施できる。
- ④臨床場面を想定し、評価、介助をより具体的な方法・手順で実践的に行うことができる。

■授業の概要

作業療法士として必要な知識・技術を有していることに併せて、それを臨床場面で実際の対象者へ活用できる事も重要である。臨床場面を想定して、必要な準備や具体的な方法・手順、それに伴う説明、リスク管理の配慮等について知り、評価、介助を実践的に行えるように学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	科目オリエンテーション
第 2 回	バイタルサイン測定の実践
第 3 回	面接の実践
第 4 回	起居・移乗動作介助の実践
第 5 回	関節可動域測定の実践
第 6 回	徒手筋力測定の実践
第 7 回	評価・介助の一連の流れでの実践（バイタルサイン測定→起居・移乗動作介助→関節可動域測定）
第 8 回	評価・介助の一連の流れでの実践（バイタルサイン測定→起居・移乗動作介助→関節可動域測定）
第 9 回	感覚検査の実践
第 10 回	高次脳検査の実践
第 11 回	車椅子移動・歩行介助の実践
第 12 回	座位・立位バランス、リーチ機能評価の実践
第 13 回	更衣動作評価の実践
第 14 回	評価・介助の一連の流れでの実践（車椅子・歩行介助→座位バランス・リーチ機能評価→更衣動作評価）
第 15 回	評価・介助の一連の流れでの実践（車椅子・歩行介助→座位バランス・リーチ機能評価→更衣動作評価）

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・実際に身体を動かすことが多いため、学校ジャージを用意しておくこと。
- ・メモがしやすいように筆記用ボードを用意しておくこと。
- ・授業資料の再発行はしない。授業を休んだ場合は、クラスメートからコピーをとること。
- ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になるような行為を行う者は受講を拒否する場合がある。
- ・授業に関係ないものの持ち込みは禁止。
- ・携帯電話、スマートフォン、タブレットなどは机の上に置かない。

■授業時間外学習にかかわる情報

シラバスに示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

水曜日 16 時～17 時 その他の曜日・時間においては要予約

■評価方法

□レポート 100%（全 2 回提出：1 回目 50% +2 回目 50%）各レポート点が合計点の 60%未満の場合、総合評価の対象としない。期限内に提出されない場合は、再提出扱いとする。他者の文章・レポートからのコピー・ペーストは認めない。発見された場合は再提出とする。
再提出：有

■教科書

指定しない

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	作業療法特論I	担当教員 (単位認定者)	北爪 浩美	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻 3 年次選択科目	免許等指定科目	作業療法士国家試験受験資格に係る選択		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	ライフサイクル、生活機能、集団、プログラム				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

ひとの集団の構造や機能について学ぶことにより、集団が個人に与える影響について理解する。また、集団が個人に与える影響を知ること、作業療法における集団活用を考え、作業療法プログラムを作成し活用できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①ひとの集まりとしての社会の成り立ちを理解する。
- ②作業療法における集団活用について説明することができる。
- ③集団プログラムについて計画、実施、評価ができる。

■授業の概要

ひとの集まりは個人の成長や生き方に大きな影響を与え、また個人の存在も集団に影響を与える。ひとは集団のなかでひととのかかわりを学び、社会生活を営み、様々な集団が社会を構成する。個人の作業活動が他者にどのように受け止められているのかにより、個人の生活は影響を受けるが、それは作業療法対象者においても同様である。本講義ではひとと集団について学び、作業療法における集団活用について考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	科目オリエンテーション、ひとと集団
第 2 回	ライフサイクルと集団
第 3 回	生活機能、生活技能と集団
第 4 回	作業療法における集団の利用
第 5 回	作業療法における集団の利用
第 6 回	文献抄読、作業療法における集団活用
第 7 回	作業療法における集団活用
第 8 回	作業療法における集団プログラムの実際（領域別集団療法）
第 9 回	作業療法における集団プログラムの実際（領域別集団療法）
第 10 回	作業療法における集団プログラムの実際（領域別集団療法）
第 11 回	作業療法における集団プログラムの実際（領域別集団療法）
第 12 回	集団作業療法プログラム立案
第 13 回	集団作業療法プログラムの活用
第 14 回	集団作業療法プログラム活用の考察
第 15 回	まとめ、作業療法における集団活用とは

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・授業で配布する資料の予備は保管しません。

〔受講のルール〕

- ・シラバスを必ず確認し授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気乱す行為、常識を欠く行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

火曜日 16:30 ～ 17:30 は随時（変更時は掲示します）。その他の曜日については要予約。

■評価方法

レポート 100%（詳細についてはシラバス参照）

■教科書

山根寛他著：ひとと集団・場-ひとの集まりと場を利用する- 第 2 版. 三輪書店. 2007

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	作業療法特論Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	山口 智晴	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次選択科目 リハビリテーション医学、解剖学、生理学、神経科学の知識を必要とする。作業療法評価法Ⅲの授業内容と対応。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る選択		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	高次脳機能障害、認知症、社会資源、成年後見制度				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法士として必要な、認知機能障害に対する基本的な介入手法について学ぶ。

〔到達目標〕

- ①高次脳機能障害の代表的な各症候への基本的な介入手法について説明できる。
- ②認知機能障害を有する患者の臨床的特徴を理解し、適切な対応法について説明できる。
- ③高次脳機能障害をはじめとする認知機能障害患者に対する社会社会復帰支援について、社会資源とともに理解することができる。

■授業の概要

認知機能障害に伴う生活障害を学ぶ。具体的には高次脳機能障害の各症候や認知症に対する作業療法について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション。高次脳機能障害者の暮らしぶり。認知機能障害をどの様に捉えるか(DSM-5など)
第2回	高次脳機能障害に対するリハビリテーションの考え方①：注意・記憶について
第3回	高次脳機能障害に対するリハビリテーションの考え方②：失認・半側空間無視について
第4回	高次脳機能障害に対するリハビリテーションの考え方③：失語・失書など言語障害について
第5回	高次脳機能障害に対するリハビリテーションの考え方④：失行・行為の障害について
第6回	高次脳機能障害に対するリハビリテーションの考え方⑤：前頭葉症状、行動と感情の障害について
第7回	認知症患者の暮らしぶり。認知機能障害のある者が生活する上で抱える困難について考える。
第8回	課題作成について
第9回	認知症に対するリハビリテーション：基本的考え方① 認知症状と認知症の行動・心理症状への介入
第10回	認知症に対するリハビリテーション：基本的考え方② 認知症の行動・心理症状への介入、家族指導
第11回	認知機能障害のある方への社会資源① 基本的な制度 各自調べてまとめる
第12回	認知機能障害のある方への社会資源② 就労関係
第13回	認知機能障害のある方への社会資源③ 成年後見制度 権利擁護に関わる制度
第14回	認知機能障害のある方への社会資源④ 群馬県内の実情 支援拠点機関・認知症疾患医療センターなど
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業概要を確認し、講義を受けるにあたり、最低限必要となる知識(2年次までの知識)は、各自復習しておくこと。特に解剖学(脳と神経)を通しての理解が必要である。積極的に授業に臨むこと。
神経内科学と作業療法評価法Ⅲとを関連づけて学ぶこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。予習と復習を前提に進める。

■オフィスアワー

水曜日 16時半～17時半は随時 その他の曜日においては要予約

■評価方法

筆記試験(論述 客観) レポート 口頭試験 実地試験 その他
評価配分: ポートフォリオ 50%、授業内発表課題 50%

■教科書

- ① 瀧雅子 編 作業療法学全書 作業治療学5『高次脳機能障害障害』第3版. 協同医書出版
- ② 小川敬之編 認知症の作業療法-エビデンスとナラティブの接点に向けて. 医歯薬出版

■参考書

石合純夫 著『高次脳機能障害』(医歯薬出版株式会社)
本田哲三 編『高次脳機能障害のリハビリテーション-実践的アプローチ-』第2版(医学書院)
鈴木孝治ほか編『高次脳機能障害マエストロシリーズ』①～④(医歯薬出版社)
『高次脳機能障害を有する人の暮らしを支える』作業療法ジャーナル増刊号 Vol.40 No.7 2006(三輪書店)
その他、随時講義の中で紹介する。

科目名	作業療法特論Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	悴田 敦子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻 4 年次選択科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る選択		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	パーキンソン、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、ギランバレー、内部障害、関節リウマチ、ケーススタディー				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

神経内科疾患、内部障害の評価と治療を学ぶことを目的とする。また、関節リウマチのケーススタディーにて評価、問題点抽出、目的設定、プログラム立案をレポートにまとめることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①神経内科疾患、内部障害の主な種類と病態像、特徴的症候、禁忌事項をいうことができる。
- ②神経内科疾患、内部障害の評価に必要な検査・観察項目を列挙できる。
- ③関節リウマチの病態像、特徴的症候、禁忌事項をいうことができる。
- ④ケーススタディーより、関節リウマチの評価に必要な検査・観察項目を列挙することができる。
- ⑤ケーススタディーより、問題点抽出、目標設定、プログラム立案をレポートにまとめることができる。

■授業の概要

身体障害領域で対象となる神経内科疾患、内部障害、関節リウマチについて学びます。また、ケーススタディーでは評価から治療プログラム立案までを学び、ケースレポートにまとめます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	科目オリエンテーション、パーキンソン病の病理と評価について
第 2 回	パーキンソン病の評価の実際
第 3 回	パーキンソン病の治療・援助・指導
第 4 回	脊髄小脳変性症の評価と治療・援助・指導
第 5 回	筋萎縮性側索硬化症の評価と治療・援助・指導 ①
第 6 回	筋萎縮性側索硬化症の評価と治療・援助・指導 ②
第 7 回	多発性筋炎、ギランバレー症候群の評価と治療・援助・指導
第 8 回	内部障害の評価と治療・援助・指導
第 9 回	関節リウマチの評価と治療・援助・指導
第 10 回	ケーススタディー：情報収集と評価計画、面接
第 11 回	ケーススタディー：動作分析とADL評価①
第 12 回	ケーススタディー：動作分析とADL評価②
第 13 回	ケーススタディー：動作分析とADL評価③
第 14 回	ケース発表
第 15 回	ケース発表、まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

ケーススタディーでは各自ケースノートを作成し、授業終了後にまとめること。
問題点抽出はICFを使用するため、復習しておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 40% レポート 60%
総合評価は筆記試験が 60%以上であることが前提となる

■教科書

川平和美：標準 理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学. 第 3 版. 医学書院
岩崎テル子他編：標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学. 第 2 版. 医学書院
岩崎テル子編：標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学. 医学書院

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	作業療法特論Ⅳ	担当教員 (単位認定者)	阿部 真也	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻 4 年次選択科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る選択		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	住宅改修、プランニング、パワーポイント				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

住宅改修のプランニングができるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①住宅改修の手順を示すことができる。
- ②家屋を計測し、図示できる。
- ③基本的な改修方法を示すことができる。
- ④基本的な改修プランを立案することができる。

■授業の概要

障害を持っても住み慣れた地域や家で暮らす、ということはノーマライゼーションの観点から言っても実現されなければならない事項である。その具体的施策の一つが「住宅改修」であり、作業療法士にとって極めて重要な事項でもある。その住宅改修において具体的なプランを立案できるようになることを目的とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	科目オリエンテーション/ 環境整備～成功へのアプローチ①
第 2 回	環境整備～成功へのアプローチ②
第 3 回	アプローチ・玄関の改修プランを考えよう
第 4 回	アプローチ・玄関の改修プランを考えよう
第 5 回	ケースから得られるヒント
第 6 回	住宅改修提案書説明
第 7 回	住宅改修提案書作成
第 8 回	住宅改修提案書作成
第 9 回	住宅改修提案書作成
第 10 回	住宅改修提案書作成
第 11 回	住宅改修提案書作成
第 12 回	住宅改修提案書作成
第 13 回	住宅改修提案プレゼンテーション
第 14 回	住宅改修提案プレゼンテーション
第 15 回	住宅改修提案プレゼンテーション

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・専用の USB を用意しておくこと。デジカメよりパソコンにデータを取り込める環境を用意しておくこと。

〔受講のルール〕

- ・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めないことがあるので注意すること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時間外学習の内容については科目オリエンテーションにて説明する。

■オフィスアワー

水曜日 16 時～ 17 時は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約

■評価方法

レポート 100%

■教科書

岡村英樹：OT・PT・ケアマネにおくる建築知識なんかなくても住宅改修を成功させる本。三輪書店

■参考書

木之瀬隆編：作業療法学全書改訂第 3 版 第 10 巻 作業療法技術学 2 福祉用具の使い方・住環境整備

科目名	地域作業療法入門I	担当教員 (単位認定者)	悴田 敦子	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「地域作業療法学」			
キーワード	社会保障制度、医療保険制度、障害者総合支援法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法にかかわる社会保障制度について、各法律の定義、内容を理解することを目的とする。

〔授業の到達目標〕

- ①地域リハビリテーションの定義を説明することができる。
- ②社会保障制度の仕組みについて説明することができる。

■授業の概要

地域リハビリテーションにかかわる様々な制度、支援、他職種との連携についてグループワークを中心に学んでいく。地域作業療法の実践に必要な基礎知識、主に社会保障制度と社会福祉関連を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、地域リハビリテーションとは、日本の社会保障制度について
第2回	医療保険制度について
第3回	診療報酬（リハビリ関連）
第4回	高齢者医療
第5回	身体障害者福祉法について
第6回	知的障害者福祉法、児童福祉法について
第7回	障害者総合支援法と障害者雇用について
第8回	障害者雇用について、まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

関連法規を学ぶため、内容は多岐にわたり、また専門用語も多数覚える必要がある。毎回の授業後、資料の整理を兼ねたまとめをしておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

特に指定しない。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	地域作業療法入門Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	悴田 敦子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「地域作業療法学」			
キーワード	介護保険・連携・介護老人保健施設				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法にかかわる介護保険制度、介護保険サービスについて理解し、介護老人保健施設での作業療法について学ぶことを目的とする。

〔達成目標〕

- ①介護保険制度の概要、対象者、サービス内容を説明することができる。
- ②地域リハビリテーションにかかわる他職種の役割を説明することができる。
- ③介護老人保健施設での作業療法の業務内容をグループでまとめ説明することができる。

■授業の概要

高齢者に対する地域リハビリテーション、地域作業療法にかかわる制度や支援、他職種との連携について学ぶ。介護保険を学び、対象者を取り巻く環境や生活上の不便、援助することについてグループで考えまとめていきます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第 1 回	科目オリエンテーション、介護保険導入の背景、保険者について
第 2 回	介護保険の財源構成について
第 3 回	介護認定について
第 4 回	介護保険サービス利用について
第 5 回	介護保険サービスについて
第 6 回	介護保険サービスについて
第 7 回	介護老人保健施設の作業療法について
第 8 回	介護老人保健施設の作業療法について

■受講生に関わる情報および受講のルール

グループで調べ、発表する課題があるため、提出期限を厳守すること。また、聞く人にわかりやすい発表を心がけ、質問に答えられるよう準備しておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時間外学習の内容については科目オリエンテーションにて説明します。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

特に指定しない

■参考書

長谷憲明：よくわかる 新しい介護保険のしくみ。

科目名	地域作業療法実習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	高坂 駿	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
	カリキュラム上の位置づけ	専門科目「地域作業療法学」			
キーワード	地域移行(定着)支援 就労支援 障害者総合支援法 社会資源 病院-地域の連携				

■授業の目的・到達目標

[目的]精神障害リハビリテーションに関わる病院・施設および業務に見学・参加し、地域における作業療法士の役割、業務内容等について学ぶ。

[到達目標]

- ①病院や施設を利用している患者様とコミュニケーションを取ることができる。
- ②病院や施設的环境等に応じたリスク管理に留意することができる。
- ③病院や施設が地域でどのような役割を担っているか理解・説明できる。
- ④病院や施設が他機関とどのように連携し、患者様の地域生活を支えているかを理解・説明することができる。

■実習履修資格者

特になし。

■実習時期及び実習日数・時間

3日間の実習。実習終了後、実習先で学んだ情報を整理し、発表する。
実習時期・実習先については決定次第連絡する。

■実習上の注意

実習中は動きやすい服装と上履きを用意する(実習先の指定により変更する場合もある)。

実習前・実習中は各自、体調管理をしっかり行い、欠席のないようする。

ご協力いただいている患者様や病院・施設のスタッフに失礼がないよう、一人ひとりが服装・態度などに十分注意を払うこと。

個人情報保護や鍵の管理などリスク管理に十分に配慮すること。

その他、注意事項に関しては随時説明する。

■評価方法

レポート・レジュメ 40% (提出されない場合は総合評価の対象とならない。)

レポート・レジュメ評価基準:①課題に則している(20点) ②誤字・脱字がない(20点;誤字脱字・1カ所につき-2点) ③内容の流れに一貫性がある(20点) ④自分の考えが読み手に伝わるよう考察が書かれている(20点) ⑤一つ以上の文献が使用・表記されている(20点)

デイリーノート 30% (提出されない場合は総合評価の対象とならない。)

デイリーノート評価基準:①規定の書式に沿って書かれている(20点) ②主観的事実と客観的事実を分けて書くことができている(30点) ③事実から自分なりの考察に繋げることができている(30点) ④実習指導者から学んだことが記載できた(10点) ⑤文献を用いて学んだことを考察できた(10点)

授業内発表 30% (参加しなかった場合は総合評価の対象とならない。)

授業内発表評価基準:①発表時間は適切だった(20点) ②発表態度は適切だった(20点) ③グループ発表用資料の内容は適切だった(10点) ④グループ発表用資料は見やすかった(10点) ⑤個人発表時レジュメに沿ってポイントを押さえた発表ができた(20点) ⑥発表時、質問・意見交換ができた(20点)

科目名	地域作業療法実習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	悴田 敦子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻 2 年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「地域作業療法学」			
キーワード	介護老人保健施設、コミュニケーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

介護老人保健施設を見学し、施設・対象者・作業療法士を含む施設職員の役割を学び、病院における対象者、作業療法との違いについて各自考察し、学内発表において理解を深めることを目的とします。また、実習を通して自己のコミュニケーションに対して考えることを目的とします。

〔到達目標〕

- ①介護老人保健施設の概要、リハビリテーションの概要・目的を説明することができる。
- ②作業療法士および施設職員の役割、対象者について説明することができる。
- ③施設職員・対象者と積極的なコミュニケーションをはかり、自己のコミュニケーションについて考えることができる。
- ④実習内容を指定の書式に沿って記録し、報告することができる。

■授業の概要

作業療法士が勤務している介護老人保健施設において、3日間の見学実習を行います。見学、体験を通して介護老人保健施設を理解し、そこを利用する方や作業療法を受けている対象者について学び、介護老人保健施設の作業療法について理解します。また、病院における対象者、作業療法との違いについて各自考察し、学内にて発表を行います。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、実習オリエンテーション、リスク管理、守秘義務
第2回	介護老人保健施設における3日間の実習を行います。
第3回	介護老人保健施設における3日間の実習を行います。
第4回	介護老人保健施設における3日間の実習を行います。
第5回	介護老人保健施設における3日間の実習を行います。
第6回	介護老人保健施設における3日間の実習を行います。
第7回	介護老人保健施設における3日間の実習を行います。
第8回	介護老人保健施設における3日間の実習を行います。
第9回	介護老人保健施設における3日間の実習を行います。
第10回	介護老人保健施設における3日間の実習を行います。
第11回	介護老人保健施設における3日間の実習を行います。
第12回	介護老人保健施設における3日間の実習を行います。
第13回	介護老人保健施設における3日間の実習を行います。
第14回	実習のまとめ、発表
第15回	実習のまとめ、発表

■受講生に関わる情報および受講のルール

実習中は各施設指定の服装をする。
交通手段については決定次第、各自手続きをとること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

実習への参加が評価の前提となる。
実習先評価 60%、実習ノート・レポート等の提出物 30%、学内での発表 10%

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	臨床評価実習指導	担当教員 (単位認定者)	作業療法専攻教員分担	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	守秘義務、リスク管理、感染症対策、実習報告会				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

臨床で必要となる守秘義務・リスク管理の理解の徹底をはかる。実習後担当したケースの発表・報告を行い、疾患・ケースに対する理解を深めることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①守秘義務について説明することができ、実行できる。
- ②リスク管理について説明することができ、実行できる。
- ③実習報告会で使用するレジュメを作成し、発表することができる。
- ④実習報告会で積極的な質問をすることができる。
- ⑤実習報告会で得られた新たな知見を取り入れ、症例報告としてまとめることができる。

■授業の概要

臨床で求められる守秘義務（情報管理）やリスク管理（感染症対策など）について確認し、実行に移せるように知識と技術を体得する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/守秘義務について
第2回	リスク管理（感染症対策など）
第3回	守秘義務、感染症対策に関する小テスト、臨床評価実習について
第4回	実習報告
第5回	実習報告
第6回	実習報告
第7回	実習報告
第8回	実習報告
第9回	実習報告
第10回	実習報告
第11回	実習報告
第12回	実習報告
第13回	実習報告
第14回	実習報告
第15回	実習報告

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

報告では発表用レジュメを用意しておくこと。

〔受講のルール〕

報告では有益なディスカッションが行えるよう発表者・聞き手ともに準備を十分にしておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

■小テスト10% ■発表30% ■レポート60%

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	臨床評価実習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	作業療法専攻教員分担	単位数 (時間数)	3 (135)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	臨床、評価				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法士が関与する医療機関や福祉施設等において、臨床実習指導者のもとでその指導と作業療法対象者の協力を受けながら必要とされる評価を実施し、その結果を整理する一連の技能の習得を目指す。

〔到達目標〕

- ①作業療法士を目指す上で必要な基本的態度を身につける
- ②臨床実習施設職員並びに対象者と良好な関係を築くことができる
- ③臨床実習施設や他部門ならびに作業療法部門の組織を理解する
- ④臨床実習施設における作業療法士と他職種の役割を理解する
- ⑤各種活動に参加し活動の意義を理解する
- ⑥担当事例に必要な基本的評価項目を選択することができる
- ⑦対象者や家族に評価上必要な説明と指導を行うことができる
- ⑧選択した評価を正しい順序で適切に実施できる
- ⑨評価実施の際、安全性を考慮することができる
- ⑩評価結果を整理できる
- ⑪評価結果を統合し作業療法計画を立案できる
- ⑫与えられた課題を責任もって遂行することができる

■実習履修資格者

3年次臨床評価実習Ⅰ開始までに1年～3年後期までに開講されるすべての科目（選択科目は選択の範囲において）の単位修得が必要となる。

■実習時期及び実習日数・時間

12月1日～12月19日

■実習上の注意

臨床実習の手引きを熟読すること

■評価方法

出席（出席時間数要件：4/5以上）

臨床実習内容

臨床実習指導者評価（臨床実習の手引き参照）

※臨床実習指導者評価は①欠席が1/5以上②無断欠席・遅刻③はっきりと注意しても重大なミスを繰り返す④その他、がみられる時、評価対象外となる。

再受験の取り扱い：無

科目名	臨床評価実習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	作業療法専攻教員分担	単位数 (時間数)	3 (135)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	臨床、評価				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法士が関与する医療機関や福祉施設等において、臨床実習指導者のもとでその指導と作業療法対象者の協力を受けながら必要とされる評価を実施し、その結果を整理する一連の技能の習得を目指す。

〔到達目標〕

- ①作業療法士を目指す上で必要な基本的態度を身につける
- ②臨床実習施設職員並びに対象者と良好な関係を築くことができる
- ③臨床実習施設や他部門ならびに作業療法部門の組織を理解する
- ④臨床実習施設における作業療法士と他職種の役割を理解する
- ⑤各種活動に参加し活動の意義を理解する
- ⑥担当事例に必要な基本的評価項目を選択することができる
- ⑦対象者や家族に評価上必要な説明と指導を行うことができる
- ⑧選択した評価を正しい順序で適切に実施できる
- ⑨評価実施の際、安全性を考慮することができる
- ⑩評価結果を整理できる
- ⑪評価結果を統合し作業療法計画を立案できる
- ⑫与えられた課題を責任もって遂行することができる

■実習履修資格者

3年次臨床評価実習Ⅰ開始までに1年～3年後期までに開講されるすべての科目（選択科目は選択の範囲において）の単位修得が必要となる。

■実習時期及び実習日数・時間

1月13日～2月2日

■実習上の注意

臨床実習の手引きを熟読すること

■評価方法

出席（出席時間数要件：4/5以上）

臨床実習内容

臨床実習指導者評価（臨床実習の手引き参照）

※臨床実習指導者評価は①欠席が1/5以上②無断欠席・遅刻③はっきりと注意しても重大なミスを繰り返す④その他、がみられる時、評価対象外となる。

再受験の取り扱い：無

科目名	臨床総合実習指導	担当教員 (単位認定者)	作業療法専攻教員分担	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	臨床総合実習指導				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

臨床で必要となる守秘義務・リスク管理の理解の徹底をはかる。実習後、担当したケースの発表・報告を行い、疾患・ケースに対する理解を深めることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①実習報告会で使用するレジュメを作成し、発表することができる
- ②実習報告会で積極的な質問をすることができる
- ③実習報告会で得られた新たな知見を取り入れ、症例報告としてまとめることができる。

■授業の概要

臨床で求められる守秘義務（情報管理）やリスク管理（感染症対策など）について再確認し、実行に移せるように知識と技術を体得する。臨床総合実習Ⅰ・Ⅱにおいて担当したケースの発表・報告会を行う。報告会は、学生が主体となって運営し、症例報告会や学会等における役割（職務）を疑似体験する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/守秘義務について、リスク管理（感染症対策など）、小テスト
第2回	実習報告
第3回	実習報告
第4回	実習報告
第5回	実習報告
第6回	実習報告
第7回	実習報告
第8回	実習報告
第9回	実習報告
第10回	実習報告
第11回	実習報告
第12回	実習報告
第13回	実習報告
第14回	実習報告
第15回	実習報告

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

報告会では発表用レジュメを用意しておくこと。

〔受講のルール〕

報告会では有益なディスカッションが行えるよう発表者・聞き手ともに準備を十分にしておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

■発表 30% ■レポート 70%

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	臨床総合実習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	作業療法専攻教員分担	単位数 (時間数)	8 (360)
履修要件	作業療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	評価、問題点抽出、目標設定、プログラム立案、実施、再評価				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

実習施設でスーパーバイザーの指導のもと、対象者の評価、問題点抽出、作業療法目標設定、作業療法プログラム立案・実施、再評価まで行う。

[到達目標]

- ①評価計画を立案し、実施することができる
- ②評価結果をまとめ、問題点の抽出、作業療法目標の設定、作業療法プログラムの立案を行うことができる
- ③計画に基づき作業療法プログラムを実施することができる
- ④作業療法再評価を行い、作業療法プログラムの効果・改善点等を考察することができる
- ⑤実習内容を記録し、書面・口頭でスーパーバイザーに報告することができる

■実習履修資格者

1年～3年次までに開講されるすべての科目（選択科目は選択の範囲において）の単位修得が必要となる。

■実習時期及び実習日数・時間

6月初旬～8週間

■実習上の注意

臨床実習手引きを熟読すること

■評価方法

臨床実習手引き参照

科目名	臨床総合実習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	作業療法専攻教員分担	単位数 (時間数)	8 (360)
履修要件	作業療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	評価、問題点抽出、目標設定、プログラム立案、実施、再評価				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

実習施設でスーパーバイザーの指導のもと、対象者の評価、問題点抽出、作業療法目標設定、作業療法プログラム立案・実施、再評価まで行う。

〔到達目標〕

- ①評価計画を立案し、実施することができる
- ②評価結果をまとめ、問題点の抽出、作業療法目標の設定、作業療法プログラムの立案を行うことができる
- ③計画に基づき作業療法プログラムを実施することができる
- ④作業療法再評価を行い、作業療法プログラムの効果・改善点等を考察することができる
- ⑤実習内容を記録し、書面・口頭でスーパーバイザーに報告することができる

■実習履修資格者

1年～3年次までに開講されるすべての科目（選択科目は選択の範囲において）の単位修得が必要となる。

■実習時期及び実習日数・時間

9月末～8週間

■実習上の注意

臨床実習手引きを熟読すること

■評価方法

臨床実習手引き参照

科目名	卒業研究	担当教員 (単位認定者)	作業療法専攻教員分担	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	作業療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「卒業研究」			
キーワード	卒業テーマ、研究計画、研究活動、卒業研究発表				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

さまざまな文献、資料、実践などを手がかりに、自身の研究テーマについて考察を深め、その集大成を図ることを目標とする。

〔到達目標〕

- ①最終的に「卒業論文」として成果発表することができる。
- ②自主的・計画的にものごとを遂行する「段取り力」を習得する。

■授業の概要

臨床実習等をふまえ、興味ある研究テーマを絞り、そのまとめへのアプローチの手法を各自検討する。個々の調査・研究及びディスカッションを通じて考察を深め、卒業研究としてのまとめを図れるよう、各自が取り組む。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	オリエンテーション
第2回	研究テーマの検討
第3回	卒業研究計画の立案
第4回	研究のまとめ方及び論文の書き方指導
第5回	各自の研究テーマに沿った調査・実践などの研究活動（個別指導）
第6回	各自の研究テーマに沿った調査・実践などの研究活動（個別指導）
第7回	各自の研究テーマに沿った調査・実践などの研究活動（個別指導）
第8回	各自の研究テーマに沿った調査・実践などの研究活動（個別指導）
第9回	各自の研究テーマに沿った調査・実践などの研究活動（個別指導）
第10回	各自の研究テーマに沿った調査・実践などの研究活動（個別指導）
第11回	各自の研究テーマに沿った調査・実践などの研究活動（個別指導）
第12回	各自の研究テーマに沿った調査・実践などの研究活動（個別指導）
第13回	各自の研究テーマに沿った調査・実践などの研究活動（個別指導）
第14回	各自の研究テーマに沿った調査・実践などの研究活動（個別指導）
第15回	中間発表

■受講生に関わる情報および受講のルール

卒業研究のテーマ決定、調査・自身の取り組み、論文執筆等、全ての取り組みにおいて、自ら進んで必要な情報を集め、行動し、調整を図り、自主的に取り組むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

各自の研究及び執筆活動は、本時間外での取り組みが基本となることをふまえておくこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

「卒業研究に関わる課題探求能力」と「卒業研究に関わる発表能力・質疑応答能力・技術文書作成能力」で評価し、この合計を卒業研究の成績とする。

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	卒業研究	担当教員 (単位認定者)	作業療法専攻教員分担	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	作業療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目			
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「卒業研究」			
キーワード	卒業テーマ、研究計画、研究活動、卒業研究発表				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

さまざまな文献、資料、実践などを手がかりに、自身の研究テーマについて考察を深め、その集大成を図ることを目標とする。

〔到達目標〕

- ①最終的に「卒業論文」として成果発表することができる。
- ②自主的・計画的なものごとを遂行する「段取り力」を習得する。

■授業の概要

臨床実習等をふまえ、興味ある研究テーマを絞り、そのまとめへのアプローチの手法を各自検討する。個々の調査・研究及びディスカッションを通じて考察を深め、卒業研究としてのまとめを図れるよう、各自が取り組む。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第16回	中間発表
第17回	中間発表
第18回	完成に向けての研究活動の継続と執筆（個別指導）
第19回	完成に向けての研究活動の継続と執筆（個別指導）
第20回	完成に向けての研究活動の継続と執筆（個別指導）
第21回	完成に向けての研究活動の継続と執筆（個別指導）
第22回	完成に向けての研究活動の継続と執筆（個別指導）
第23回	完成に向けての研究活動の継続と執筆（個別指導）
第24回	卒業研究発表会
第25回	卒業研究発表会
第26回	卒業研究発表会
第27回	卒業研究発表会
第28回	卒業研究発表会
第29回	卒業研究発表会
第30回	卒業研究発表会

■受講生に関わる情報および受講のルール

卒業研究のテーマ決定、調査・自身の取り組み、論文執筆等、全ての取り組みにおいて、自ら進んで必要な情報を集め、行動し、調整を図り、自主的に取り組むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

各自の研究及び執筆活動は、本時間外での取り組みが基本となることを踏まえておくこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

「卒業研究に関わる課題探求能力」と「卒業研究に関わる発表能力・質疑応答能力・技術文書作成能力」で評価し、この合計を卒業研究の成績とする。

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

